消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事

2026年9月

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(53)7113

図　面　リ　ス　ト

図面番号	図　面　名　称	縮尺	図面番号	図　面　名　称	縮尺	図面番号	図　面　名　称	縮尺
■建　築						■構　造		
Ａ－０１	図面リスト	－	Ａ－４０	【訓練塔 A塔】展開図１	1:50	Ｓ－０１	新構造設計特記仕様　その１	－
Ａ－０２	建築工事特記仕様書（1）	－	Ａ－４１	【訓練塔 A塔】展開図２	1:50	Ｓ－０２	新構造設計特記仕様　その２	－
Ａ－０３	建築工事特記仕様書（2）	－	Ａ－４２	【補助訓練塔 B塔】展開図	1:50	Ｓ－０３	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	－
Ａ－０４	建築工事特記仕様書（3）	－	Ａ－４３	【訓練塔 A塔】天井伏図１	1:100	Ｓ－０４	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	－
Ａ－０５	建築工事特記仕様書（4）	－	Ａ－４４	【訓練塔 A塔】天井伏図２	1:100	Ｓ－０５	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）	
Ａ－０６	建築工事特記仕様書（5）	－	Ａ－４５	【訓練塔 A塔】天井伏図３	1:100	Ｓ－０６	鉄骨構造標準図（１）	
Ａ－０７	建築工事特記仕様書（6）	－	Ａ－４６	【補助訓練塔 B塔】天井伏図	1:100	Ｓ－０７	鉄骨構造標準図（２）	－
Ａ－０８	建築工事特記仕様書（7）	－	Ａ－４７	建具表１（ｷｰﾌﾟﾗﾝ）	1:100	Ｓ－０８	ハイベースNEO工法設計施工標準	－
Ａ－０９	建築工事特記仕様書（8）	－	Ａ－４８	建具表２（姿図）	1:100	Ｓ－０８ａ	杭工法　施工標準図	－
Ａ－１０	建築工事特記仕様書（9）	－	Ａ－４９	雑詳細図１	図示	Ｓ－０９	ボーリング位置図・柱状図	1:500
Ａ－１１	建築工事特記仕様書（10）、工事区分表	－	Ａ－５０	雑詳細図２	図示	Ｓ－１０	A塔　地盤改良伏図・基礎伏図	1:100
Ａ－１２	案内図、建築概要、使用建築材料表、耐火ﾘｽﾄ	－	Ａ－５１	土砂災害特別警戒区域図（1）	1:700	Ｓ－１１	A塔　１，２階床伏図	1:100
Ａ－１３	外部・内部仕上表	－	Ａ－５２	土砂災害特別警戒区域図（2）	1:500	Ｓ－１２	A塔　３，４階床伏図	1:100
Ａ－１４	敷地求積図	1:300	Ａ－５３	日影図（1）【第1種住居地域】	1:400	Ｓ－１３	A塔　５，Ｒ階床伏図	1:100
Ａ－１５	平均地盤面・各種算定	1:100	Ａ－５４	日影図（2）【市街階調整区域】	1:400	Ｓ－１４	A塔　軸組図１	1:100
Ａ－１６	配置図・建物リスト	1:400	Ａ－５５	日影図（3）【平均地盤面算定】	1:200	Ｓ－１５	A塔　軸組図２	1:100
Ａ－１７	【訓練塔 A塔】1階･2階平面図	1:100	Ａ－５６	訓練金物01	図示	Ｓ－１６	B塔　基礎伏図・１階床伏図	1:100
Ａ－１８	【訓練塔 A塔】3階･4階平面図	1:100	Ａ－５７	訓練金物02	図示	Ｓ－１７	B塔　２，Ｒ階床伏図	1:100
Ａ－１９	【訓練塔 A塔】5階･R階平面図	1:100	Ａ－５８	訓練金物03	図示	Ｓ－１８	B塔　軸組図	1:100
Ａ－２０	【補助訓練塔 B塔】1階･2階平面図	1:100	Ａ－５９	訓練金物04	図示	Ｓ－１９	基礎リスト１	1:40
Ａ－２１	【補助訓練塔 B塔】R階平面図	1:100	Ａ－６０	訓練金物05	図示	Ｓ－１９ａ	杭リスト・基礎リスト２	
Ａ－２２	【訓練塔 A塔】立面図１	1:100	Ａ－６１	訓練金物06	図示	Ｓ－２０	地中梁リスト	1:30
Ａ－２３	【訓練塔 A塔】立面図２	1:100	Ａ－６２	訓練金物07	図示	Ｓ－２１	柱リスト	1:30
Ａ－２４	【補助訓練塔 B塔】立面図	1:100	Ａ－６３	訓練金物08	図示	Ｓ－２２	大梁リスト１	1:30
Ａ－２５	【訓練塔・補助訓練塔】断面図１	1:100	Ａ－６４	訓練金物09	図示	Ｓ－２３	大梁リスト２・小梁リスト・片持ち梁リスト	1:30
Ａ－２６	【訓練塔・補助訓練塔】断面図２	1:100	Ａ－６５	訓練金物10	図示	Ｓ－２４	床板、壁リスト	1:30
Ａ－２７	【訓練塔 A塔】1階平面詳細図	1:50	Ａ－６６	訓練金物11	図示	Ｓ－２５	鉄骨部材断面リスト	1:30
Ａ－２８	【訓練塔 A塔】2階平面詳細図	1:50	Ａ－６７	訓練金物12	図示	Ｓ－２６	柱芯線図	1:100･40
Ａ－２９	【訓練塔 A塔】3階平面詳細図	1:50	Ａ－６８	訓練金物13	図示	Ｓ－２７	AY1　通りラーメン図	1:40
Ａ－３０	【訓練塔 A塔】4階平面詳細図	1:50	Ａ－６９	訓練金物14	図示	Ｓ－２８	BY1　通りラーメン図・鉄骨詳細図	1:30
Ａ－３１	【訓練塔 A塔】5階平面詳細図	1:50	Ａ－７０	訓練金物15	図示	Ｓ－２９	A塔ラーメン図２	1:30
Ａ－３２	【訓練塔 A塔】R階平面詳細図	1:50	Ａ－７１	訓練金物16	図示	Ｓ－３０	配筋詳細図	1:30
Ａ－３３	【補助訓練塔 B塔】1階平面詳細図	1:50				Ｓ－３１	雑詳細図１	1:30
Ａ－３４	【補助訓練塔 B塔】2階平面詳細図	1:50				Ｓ－３２	雑詳細図２	1:30
Ａ－３５	【補助訓練塔 B塔】R階平面詳細図	1:50	Ｇ－０１	外構図1	1:200	Ｓ－３３	RC梁スリーブ補強　標準仕様書（参考）	－
Ａ－３６	【訓練塔 A塔】矩計図	1:50	Ｇ－０２	外構図2	図示	Ｓ－３４	雑詳細図３	1:30
Ａ－３７	【補助訓練塔 B塔】矩計図	1:50						
Ａ－３８	【訓練塔 A塔】階段詳細図	1:50	Ｋ－０１	仮設計画図【参考図】	1:200･300			
Ａ－３９	【補助訓練塔 B塔】階段詳細図	1:50						

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-1-11 KUDO ･BOHUKA 230 TEL.0480(53)7113

一級建築士登録 第842876号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号
鈴木 篤
SIGNE URE BY A.SUZUKI

企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECANICAL ENG　長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER　訓練塔・補助訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING　図面リスト
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE　1 : －
NO　A-01

建 築 工 事 特 記 仕 様 書

Ⅰ 工 事 概 要

1 工 事 名 称　消防総合訓練センター訓練塔・補助訓練塔新築工事（建築）
2 工 事 場 所　神奈川県横須賀市長瀬３丁目４番1号
3 用途地域等
　都市計画区域（⊙ 内 ・ 外）　用途地域（ 第1種住居地域・工業地域 ）
　防火地域等 （・ 防火　⊙ 準防火　⊙ 指定なし（２２条））
　その他の地域・地区
　・第1・2種高度地区
　・宅地造成等工事規制区域
　・くりはま花の国眺望点
　・久里浜港眺望C・D地区
　・土砂災害警戒区域（急傾斜）長瀬3丁目2-2 区域番号；201-H19-7072（警戒区域・急傾斜）
　・土砂災害特別警戒区域（急傾斜）長瀬3丁目2-2
　　区域番号；201-H19-7072-1･2（警戒区域・急傾斜）
　・景観計画区域
　・屋外広告物等規制地域
　・都市計画道路（3.6.1 浦賀野比線）
4 主 要 用 途　消防訓練塔・補助訓練塔
5 敷 地 面 積　9,833.01㎡
6 別 途 工 事　電気設備工事、機械設備工事
7 そ の 他
8 特記仕様書の範囲
　特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印のもので構成する。
　⊙ 構造特記仕様書　・ 外構工事特記仕様書　・ 植栽工事特記仕様書
　・ 解体工事特記仕様書　・ 電気設備工事特記仕様書　・ 機械設備工事特記仕様書
　・　・

Ⅱ 建 築 工 事 仕 様

1．共通仕様
　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(令和7年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。ただし，標準仕様書に記載されていない事項は，「公共建築改修工事標準仕様書（令和7年版）（以下「改修標準仕様書」という。）「公共建築木造工事標準仕様書（令和7年版）」（以下「木造標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」(以下「解体共通仕様書」という。）による。　なお、施工条件明示書は、特記仕様書に含める。
2．特記仕様
　1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
　2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
　3）特記事項に記載の（ ）、＜ ＞及び［ ］内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」、「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	①. 一般事項	⊙ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監督職員に報告の上，指示に従うこと。 ⊙ 受注者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙ 施工体系図を現場に掲示すること。 ・ 工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　※ 図示　・
	②. 適用基準等	⊙ 建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和4年版） ⊙ 工事写真撮影ガイドブック＜建築工事編及び解体工事編＞ ・ ・
	3．概成工期	工事工期より　　日前　(1.2.1)
	④. 工事実績情報(CORINS)の登録	※ 適用する（請負精算額が500万円以上の場合）　(1.1.4) 受注時、変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後及び工事完成後の10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・ 適用しない
	⑤. 発生材の処理等	⊙ 発生材の処理は、現場説明書による　(1.3.11) ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 　受入れ施設名・所在地(km) ・再生資源化を図るもの

種　類	受 入 施 設 名	所 在 地 (Km)	備　考
・ セメント コンクリート塊			
・ アスファルト コンクリート塊			
・ 建設発生木材			
・ 建設汚泥			

・現場において再利用を図るもの（　　）
・その他の廃棄物（安定型）(　　)
　受入れ施設名・所在地(km)
・その他の廃棄物（管理型）(　　)
　受入れ施設名・所在地(km)

　上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。
　また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること。

	⑥. 電気保安技術者	・ 適用する　※ 適用しない　(1.3.3)
	⑦. 事故報告	(1.3.9) 工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，監督職員から指示があった場合は「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。
	⑧. 建築材料等	材料の品質等　(1.4.2) 本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。 特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これらと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。 環境への配慮　(1.4.1) 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「公共建築工事シックハウス対策の手引き（神奈川県）」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ホルムアルデヒド仕様 使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の建築材料 1）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品 2）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 3）次の表示のあるＪＡＳ適合品 a．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b．接着剤等不使用 c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
	9．室内の空気中の化学物質濃度の測定	※ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　(1.5.10) 試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。 測定対象物質　※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値　100μg/m3 ・ 0.08ppm） ※ ｽﾁﾚﾝ（濃度指針値　220μg/m3 ・ 0.05ppm） ※ ﾄﾙｴﾝ（濃度指針値　260μg/m3 ・ 0.07ppm） ※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ（濃度指針値　370μg/m3 ・ 0.085ppm） ※ ｷｼﾚﾝ（濃度指針値　200μg/m3 ・ 0.05ppm） 測定する室等：（　　） 採取方法：吸引方式又は拡散方式とし，拡散方式では８時間採取する。 測定結果等報告書の提出 次の事項を記載した報告書を１部提出する。 a 測定結果 b 試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射進入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数） c 試料採取方法，測定方法，使用した測定機器 測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は，引渡は受けない。 ・ 総揮発性有機化合物の測定 測定方法，測定物質及び測定か所等については，この仕様書の末尾に定める総揮発性有機化合物測定仕様書による。 ※ 室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への掲示については，施設管理者に依頼する。
	⑩. 特別な材料の工法	「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。
	11. 建築基準法による風圧力等の指定	(9.4.4)(10.5.3)(13.2.3、3.3、4.3)(14.7.3)(16.13.2、14.5)(23.5.4)

適　用　工　事	建 築 基 準 法 の 指 定	
・ 合成高分子系ルーフィングシート工法	風速(V0)　※３０	・３６
・ 外壁乾式工法　・ 長尺金属板葺	地表面粗度区分　・Ⅱ	・Ⅲ
・ 折板葺　・ 粘土瓦葺	多雪地域の指定　・有	・無
・ アルミニウム笠木		
・ オーバーヘッドドア		
・ ガラスブロック　・ 屋上緑化		

	⑫. 設計G.L.	※ 図　示　・ 現状平均地盤高
	13. 技 能 士	(1.5.2) ・ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。 ※ 下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。 ※ 下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。

工 事 種 目	技能検定職種（技能検定作業）
仮設工事	・とび（とび作業）
鉄筋工事	・鉄筋施工（鉄筋組立作業）
コンクリート工事	・型枠施工（型枠工事作業）
	・コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業）
鉄骨工事	・とび（とび作業）
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	・ブロック建築（コンクリートブロック工事作業）
	・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
防水工事	・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業　）
石工事	・石材施工（石張り作業）
タイル工事	・タイル張り（タイル張り作業）
木工事	・建築大工（大工工事作業）
屋根及びとい工事	・建築板金（内外装板金作業）
	・スレート施工（スレート工事作業）
金属工事	・内装仕上施工（鋼製下地工事作業）
	・建築板金（内外装板金作業）
	・バルコニー施工（金属バルコニー工事作業）
左官工事	・左官（左官作業）
建具工事	・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業）
	・ガラス施工（ガラス工事作業）
	・自動ドア施工（自動ドア施工作業）
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・カーテンウォール施工（金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業）
	・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業）
	・ガラス施工（ガラス工事作業）
塗装工事	・塗装（建築塗装作業）
内装工事	・内装仕上施工（・プラスチック系床仕上工事作業 ・カーペット系床仕上作業 ・ボード仕上工事作業　）
	・表装（壁装作業）
排水工事	・配管（建築配管作業）
舗装工事	・路面標示施工（・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業　）
植栽工事	・造園（造園工事作業）

	⑭. 完成図等	竣工図は監督員の指示により、下記の書類をA2版・A3版及び電子媒体（CAD、PDFデータ）を竣工時に提出する。 ※ 完成図（A2版･A3版）　２つ折製本（黒表紙金文字入）　各２部 ※ 施工図・製作図　各２部 ※ 保全に関する資料　電子媒体でなく紙で提出　２部 （取扱説明書含む）
	⑮. 完成写真	

分類・規格	撮影箇所数		部数
● アルバム(基本図含)	外部（11）	内部（14）	※ 2 ・ 3
○ カラー　※キャビネ版	外部（ ）	内部（ ）	※ 2 ・ 1
・全紙パネル	外部（ ）	内部（ ）	※ 2 ・ 3
○ カラーポジ	外部（ ）	内部（ ）	※ 1
● デジタルデータ	外部（11）	内部（14）	※ 1

※ 撮影業者は監理者の承認する撮影業者とする。
※ 電子データは、RGB(ﾌﾙｶﾗｰ)、JPEG形式最高画素(200万画素以上)とし、CD-Rにて提出する。
※ 使用する写真は監理者と協議の上決定する。

	⑯. 設備工事との取合い	施工範囲　各工事の区分表による。 施 工 図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。
	⑰. 火災保険等	工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。 保険の種類　※ 火災保険　※ 建設工事保険 保険期間　※ 工事着手から工事目的物引き渡しまで
	18. 住宅瑕疵担保責任	住宅瑕疵担保履行法に基づく保険の加入又は保証金の供託の義務付け ・あり（新築住宅の場合）　・なし（新築住宅以外の場合）
2 仮設工事	①. 仮囲い	※ 設ける　・ 設けない　仮囲いの位置及び延長は図示による。
	②. 危害防止	※ シート張り　・ 金網養生
	③. 交通誘導員	⊙ 配置する　※ 配置しない
	④. 揚重機械器具	・ 図示による ⊙ 施工者の計画による
	⑤. 監督職員事務所	※ 設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する） ・ 設ける（規模　　㎡程度　請負者事務所と同棟　・可　・否） 備品（　　）
	⑥. 工事表示板	※ 設置する　・ 設置しない
	⑦. 事業コスト表示板	⊙ 設置する　・ 設置しない
	⑧. 工事用水	構内既存の施設 ⊙ 利用できる（※有償　・無償）　※ 利用できない
	⑨. 工事用電力	構内既存の施設　・ 利用できる（※有償　・無償）　※ 利用できない
	⑩. 工事用通路	※ 指定しない(任意)　・ 指定する（図示）
	⑪. 足場等	(2.2.4) 足場を設ける場合は、「「手すり先行工法等に関するガイドライン」について」（厚生労働省　令和5年12月26日）の「(別紙)手すり先行工法等」に関するガイドライン」に基づき、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、全ての作業床について手すり、中桟及び幅木の機能を有するものを設置すること。
3 土工事	①. 埋戻し及び盛土の種別	種別　・Ａ種　※B種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)(表3.2.1) Ｃ種の場合　建設発生土受入数量　㎥ 発生場所
	②. 建設発生土の処理	・ 構内指示の場所に敷きならす。 ・ 構内指示の場所にたい積する。　(3.2.5) ・ 構外指示の場所に搬出する。 ⊙ 現場説明書による。
	③. 有害物質含有調査	・ 有害物質の含有を調査する。 調査範囲及び項目　※図示 ・ 現場説明書による。 ⊙ 指定処分先の指示による。
4 地業工事	①. 支持地盤	(4.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.5)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.6) ⊙杭基礎 支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む) ⊙図示による（構造図）　・ ⊙直接基礎 支持層の位置及び土質(基礎底部の位置含む) ⊙図示による（構造図）　・ ・地盤の載荷試験(平板載荷試験) ・行う 試験の方法、位置及び載荷荷重は図示による
	2．既製コンクリート杭地業	(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8) 杭の種類 ・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭） ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭） ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭（HSC杭） SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490 杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種別)、寸法、継手の箇所数等

		種類種別	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本　杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

杭先端部形状
・開放型　・半開放形　・ 閉そく形

工法
・セメントミルク工法
　・図示による
・特定埋込杭工法
　・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
　α＝250を採用できる工法　・図示による
　・上記以外の特定埋込杭工法　・図示による
　工法
　・プレボーリング拡大根固め工法
　・中堀り拡大根固め工法
　・ MAGNAM － BASIC工法
杭の精度
　水平方向の位置ずれ
　・100㎜以下　・評定等の評価内容による
　建込み時の杭の鉛直度
　・1/100以内　・評定等の評価内容による

杭の継手の工法
・アーク溶接継手
　溶接材料
　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・
・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
　工法
　※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
・処理しない
・処理する
　処理方法(切断にともなう補強方法含む)
　・図示による　・

	③. 鋼杭地業	(4.2.2)(4.4.3)～(4.4.6) 鋼杭の材料 ⊙図示による（構造図） 杭の種類、寸法、継手の箇所数等

		種類	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭	上杭	STK490	216.3	12.7	5000	2	1	590	
	中杭			8.2	4000				
	下杭			8.2	4000				
本　杭	上杭	STK490	216.3	12.7	5000	2	7	590	
	中杭			8.2	4000				
	下杭			8.2	4000				

特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
　α＝250を採用できる工法　・図示による
⊙上記以外の特定埋込杭工法　⊙図示による
　工法
　・(　　)
杭の継手の工法
・アーク溶接継手
　形状
　・JIS A 5525による　・
　溶接材料
　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・
⊙機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
　工法
　※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
・処理しない
⊙処理する
　処理方法(切断にともなう補強方法含む)
　⊙図示による　・

発行 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-11-11 KUDO YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113
一級建築士事務所 鎌倉第4287号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号
鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER：訓練塔・補助訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING：建築工事特記仕様書（1）
DRAWING NAMBER　SCALE：縮尺　－
NO：A-02

4 地業工事

4．場所打ちコンクリート杭地業

(4.5.1)
工法
・アースドリル工法(安定液　※使用する　　・使用しない)
・リバース工法
・オールケーシング工法(孔内の水張り　・行う　　・行わない)
併用する工法
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管巻き材料
・SKK400　　・SKK490　　・
・拡底杭工法(安定液　　・使用する　　・使用しない)
・
寸法等
・図示による　　・
孔壁測定 (4.5.5)
・行う
測定方法、測定箇所は図示による
・行わない
材料その他 (4.5.4)
帯筋　・図示による
鉄筋の最小かぶり厚さ　　・図示による
セメントの種類
※高炉セメントB種　　・
コンクリートの種別
・A種　　・B種　　・評定等の評価内容による
スランプ
・18cm　　・21cm
コンクリートの設計基準強度　(　　)N/mm2
構造体強度補正値(S)
・3N/mm2　　・評定等の評価内容による　　・

⑤ 砂利地業

材料 (4.6.2～3)
砂利　※　再生クラッシャラン　　・
範囲
・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下
⊙図示による
厚さ
※60mm　　・

⑥ 捨コンクリート地業

範囲
・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下　　⊙図示による
厚さ
※50mm　　・
呼び強度
※18N/mm2　　・
スランプ
※18cm　　・

7．床下防湿層

材料 (4.6.2)(4.6.5)
※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　　・
範囲
・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)
・

8．地盤改良工法

種類及び施工方法等
・図示による　　・

⑨ 置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状等
⊙図示による（構造図）　　・
支持地盤
⊙図示による（構造図）　　・

5 鉄筋工事

① 鉄筋

(5.2.1)
鉄筋の種類等　⊙ 構造図による

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
※ SD295	D10, 13, 16	
※ SD345	D19, 22, 25	
※ SD390	D29	

② 溶接金網

(5.2.2)
鉄線の形状等

種類	種類の記号	形状、網目寸法、径(mm)	使用部位
⊙溶接金網		異形鉄筋、@100、φ6	
・鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手

(5.3.4)
鉄筋の継手の方法等　⊙ 構造図による

種類　種類の記号	継手の方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋	※ガス圧接　・機械式継手 ・溶接継手　・重ね継手	※D19以上
耐力壁の鉄筋	※重ね継手　・	※D16以下
その他の鉄筋(　　)	・重ね継手　・	

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ
※図示による　　⊙ 構造図による
継手位置
※図示による　　⊙ 構造図による
耐力壁の重ね継手の長さ
※図示による　　⊙ 構造図による

④ 鉄筋の定着

鉄筋の定着長さ (5.3.4)
※図示による　　⊙ 構造図による

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ (5.3.5)
※図示による　　⊙ 構造図による
軽量コンクリートを適用する場合
・有り(※図示による)　適用箇所(　　)
耐久性上不利な箇所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等)
・有り(※図示による)　適用箇所(　　)

6．特殊な鉄筋継手

・機械式継手 (5.5.1～5.5)
適用箇所
※図示による　　・
性能(H12建告第１４６３号に適合するもの)
・A級　　・
機械式継手の種類(　　)
鉄筋相互のあき
※図示による　　・
施工完了後の試験
※図示による　　・

・溶接継手 (5.6.1～6.5)
適用箇所
※図示による　　・
性能(H12建告第１４６３号に適合するもの)
・A級　　・
機械式継手の種類(　　)
鉄筋相互のあき
※図示による　　・
施工完了後の試験
※図示による　　・

⑦ 各部配筋

⊙ 構造図による (5.3.7)

⑧ 柱の帯筋

⊙ 構造図による

⑨ 耐震壁を除く壁の開口部補強

⊙ 構造図による

⑩ はり貫通孔の補強

⊙ 構造図による

⑪ 圧接完了後の圧接部の試験

外観試験 (5.4.10)
※　行う(全数)　（構造図による）
抜取試験
※　超音波探傷試験　　・ 引張試験　（構造図による）

6 コンクリート工事

① コンクリートの種類

種　別　　※　Ⅰ類　　・　Ⅱ類 (6.2.1)(表6.2.1)

② 設計基準強度

普通コンクリート (6.2.2)

Ｆｃ（N/mm2）	適用箇所
⊙ ３０	建物躯体
・ ２４	
⊙ １８(呼び強度)	土間コンクリート

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による

軽量コンクリート

Ｆｃ（N/mm2）	適用箇所

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による

③ スランプ

基礎，基礎梁　　※　１５cm　　⊙　２１cm (6.2.4)(表6.2.2)
柱，梁，スラブ，壁　　※　１８cm　　⊙　２１cm

④ セメントの種類

(6.3.1)

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種	建物躯体
・ 高炉ｾﾒﾝﾄB種	基礎、地中梁
・ ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種	基礎、地中梁

⑤ 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
⊙A　　・B

6．軽量コンクリート

種類 (6.10.1)(表6.10.1)
・1種　　・2種

⑦ 無筋コンクリート

適用箇所 (6.14.1)
⊙標準仕様書6.14.1(4)による箇所
・標準仕様書6.14.1(4)以外の箇所
・図示による　　・
設計基準強度
※18N/mm2　　・
スランプ
※15cm又は18cm　　⊙18cm

⑧ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
※標準仕様書6.6.4(1)による　　・図示による
目地寸法
※標準仕様書9.7.3(1)(ア)による　　・図示による
ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
・図示による

⑨ 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

⊙打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) (6.8.1)
・20mm　　⊙25mm
⊙打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
⊙10mm　　・20mm　　・

⑩ 型枠

せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
⊙合板(※12mm　・　　)
・断熱材を兼用した型枠材
使用箇所　　※図示による　　・
・MCR工法用シート
適用箇所　　※図示による　　・
打増し厚さ　・20mm　　・
打増し範囲　※図示による　　・
スリーブの材種・規格等
・図示による　　・

7 鉄骨工事

① 鉄骨の製作工場

(7.1.3)
※　指定性能評価機関の性能評価を受けて、国土交通大臣の認定を受けた下記のグレード以上の工場
・　S　　・　H　　・　M　　⊙　R　　・　J
・ 本物件と同等規模構造の施工実績を有し、監督職員の承諾する工場

※　施工監理技術者（※配置する　・配置しない) (7.1.4)

② 鋼材の種別

(7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格
SS400	※図示による(　梁　　)	※JISによる　・
BCR295	※図示による(　柱　　)	※JISによる　⊙大臣認定品
SN490C	※図示による(　ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ　)	※JISによる　・

3．高カボルト

高力ボルトの種類 (7.2.2)
※　トルシア形高力ボルト
・　ＪＩＳ形高力ボルト
・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・図示による　　・
すべり試験の実施 (7.4.2)
・行う(試験方法等　・図示による)　　※行わない

4．普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)
・標準仕様書 表7.2.3による　　・
座金
・標準仕様書7.2.3(4)による　　・
ボルトの径
・図示による　　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・図示による　　・

⑤ 溶融亜鉛めっき高力ボルト

溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 (7.2.3)
⊙図示による（構造図）　　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
⊙図示による（構造図）　　・
摩擦面の処理方法 (7.4.2) (7.12.5)
⊙ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
・
・
すべり試験の実施
・行う(試験方法等　・図示による)　　※行わない

⑥ アンカーボルト

構造用アンカーボルト (7.2.4)
種類
・ABR400　　・ABR490　　⊙SS400　　⊙ﾊｲﾍﾞｰｽNEO工法
建方用アンカーボルト
種類
・SS400　　・
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
⊙標準仕様書 表7.2.3による　　・
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
⊙図示による　　・

⑦ 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
⊙標準仕様書7.2.5(1)(2)による
・

⑧ ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックルボルト
※羽子板ボルト　　・
建築用ターンバックル胴
※割枠式　　・

9．床構造用のデッキプレート

材質、形状及び寸法 (7.2.7)(7.7.8)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・デッキプレート単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			
・			

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む)
・図示による　　・
鉄骨部材への溶接方法
・図示による　　・
耐火認定
・あり　　耐火時間　・図示による　　・
・なし

10．スタッド

種類等 (7.2.8)

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

⑪ 柱底均しモルタル

無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 (7.2.9)
※標準仕様書7.2.9(2)(ア)から(エ)による　　・

12．仮組

仮組を行う範囲 (7.3.10)
※図示による　　・

13．溶接技能者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)
・図示による　　・

⑭ 溶接接合

開先の形状　　※図示による　　・ (7.6.4)(7.6.7)
鋼製エンドタブを切断する部分
切断する箇所　　・図示による　　・
切断範囲　　・
スカラップの形状　　※図示による　　・

⑮ 溶接部の試験

溶接部の外観試験 (7.6.12)
平12建告第1464号第二号に関する試験方法等
⊙「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2
受入検査による
・抜き取り検査①　　※抜き取り検査②
JASS 6 付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
・JASS6 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。
ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。
完全溶込溶接部の試験は超音波探傷試験とし、下表による。

溶接の区分	AOQL(%)	検査水準	備考
工場溶接	・2.5　※4.0	※６　・	

⑯ 錆止め塗装

塗料の範囲 (7.8.2)(7.8.4)(18.3.2)
耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
・図示による　　・
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
※標準仕様書7.8.2(1)による　　・図示による
塗料の種別
⊙下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
※As種　　⊙　JIS K 5674
・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別
・

17．耐火被覆

(7.9.2～8)

種別	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	※半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	・		
・耐火塗料	・		

⑱ アンカーボルトの設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)
⊙図示による　　・
構造用アンカーフレームの形状及び寸法
⊙図示による　　・
建方用アンカーボルトの形状及び寸法
⊙図示による　　・
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
種別　　・A種　　⊙B種
構造用アンカーボルトの形状及び寸法
厚さ　　・
種別　　※A種　　・B種

19．軽量形鋼構造

ボルトの接合部 (7.11.2)
・普通ボルト接合　　・

⑳ 溶融亜鉛めっき

溶融亜鉛めっき作業は、JIS H 8641による認証工場で行う。 (7.12.4)
⊙鋼材の板厚に相応　　⊙普通ﾎﾞﾙﾄ、ﾅｯﾄ類及びｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ類；C種

8 押出成型セメント板工事（コンクリートブロック・ALCパネル）

1．補強コンクリートブロック造

ブロックの種類 (8.2.2～5)(表8.2.2～4)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法 長さ	モデュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・						

各部の背筋　　※図示による　　・
目地仕上げ　　・押し目地仕上げ　　・化粧目地仕上げ
まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲
※図示による　　・

2．コンクリートブロック足洗い場

ブロックの種類 (8.3.2～4)(表8.3.1)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法 長さ	モデュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)						
・						

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状
※図示による　　・
各部の配筋
※図示による　　・

3．ALCパネル

(8.4.2～5)(表8.4.2～4)

区分			単位荷重(N/m²) 正荷重	単位荷重(N/m²) 負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火性能(時間)	構法の種別
・外壁用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・なし ・ 1	・A種 ・B種
・間仕切壁用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	—	—	・	図示による	・なし ・ 1	・C種 ・D種 ・E種
・屋根用	—	—	・	・	・	図示による	・0.5	※F種
・床用	—	—	・	—	・	図示による	・ 1 ・ 2	

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材
・
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
・図示による　　・
目地幅　　※20mm　　・
外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填
・適用する　　・適用しない

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUDO, TOKUSHIMA 770 TEL.0886(53)7113
一級建築士事務所登録（神奈川）第2715号
鈴木 篤 SIGNE UKE BY A.SUZUKI
企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECHANICAL ENG　長見　直
設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター　訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING　建築工事特記仕様書（２）
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE　—
NO　A-03

8 押出成形セメント板工事 コンクリートブロック・ALCパネル

4. 押出成形セメント板

ECPの種類等 (8.5.2～5)(表8.5.1～2)

パネルの種類	形状	長さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F ・D ・T	・50・60・ ・50・60 ・60	※600 ・	・A種　・B種	
・間仕切壁パネル	・F ・D ・T	・50・60・ ・50・60 ・60	※600 ・	・A種　・B種	

(注) F:フラットパネル、D:デザインパネル、T:タイルベースパネル

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
・図示による　・
パネル相互の目地幅
・長辺(　　)　短辺(　　)
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)
※15程度　・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理
※パネルの製造所の仕様　・

9 防水工事

1. アスファルト防水

屋根保護防水 (9.2.2～5)(表9.2.3～9)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート
・A-1	屋上		※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/㎡程度 ・
・A-2			
・A-3			
・B-1			
・B-2			
・AI-1		(種類) ※JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き) (厚さ)(mm) ・	※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度 ・
・AI-2			
・AI-3			
・BI-1			
・BI-2			

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・
平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
床タイル張り　※水下　60mm以上　・
立上り部の保護工法
・乾式保護材（品質・性能、試験方法は別表による）
窯業系パネルⅠ類　厚さ(　　)mm　幅(　　)mm
・れんが押え（※JIS R 1250　・　　）
・コンクリート押え
・モルタル押え（屋内）
・砂付ルーフィング増貼り

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
・D-1			・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・	・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様 ・
・D-2				
・DI-1		標準仕様書9.2.2(9) (種類) ・ (厚さ)(mm) ・		
・DI-2				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.8による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.7及び表9.2.8による　・
絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示による　・
絶縁工法及び絶縁断熱工法のだっき装置の種類及び設置数量
種類
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・
設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・(　)個

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層
・設ける(※図示による　・　　)
・設けない
E-1の工程３を行う部位
※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位
・
防水層の下地の立上り
※コンクリート打放し立上り部の保護工法　標準仕様書表6.2.4のB種
・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度
・
防水層の下地のモルタル塗り
・適用する(施工範囲　※図示による　・　　)
・適用しない
屋上排水溝　※図示による　・

2. 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・AS-T1				・改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・	※改質アスファルトシートの製造所の仕様 ・	
・AS-T2						
・AS-T3						
・AS-T4						
・AS-J1						
・ASI-T1		標準仕様書(9.3.2(3)(ｳ)) (種類) ・ (厚さ)(mm) ・	・設ける(改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様) ・設けない			
・ASI-J1						

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による　・
粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度
・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・
設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・(　)個

3. 合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～4)(表9.4.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱性	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・S-F1				※カラー・シルバー		
・S-F2						
・S-M1				※カラー・シルバー		
・S-M2						
・SI-F1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b)	※カラー・シルバー		
・SI-F2						
・SI-M1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a)	※カラー・シルバー		
・SI-M2		※発泡ポリエチレンシート ・				

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
※非歩行仕様　・軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム
・設置する　・設置しない

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場の保護モルタル塗厚	保護層 立上り部の保護モルタル塗厚
・S-C1		・	※7mm以下 ・

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1～表9.4.2による　・
固定金具の材質、形状及び寸法
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の両面に樹脂を積層加工したもの
・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※ルーフィングシートの製造所の仕様
・
設置数量　※ルーフィングシートの製造所の仕様
・(　)個
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
・行う(・図示による　・　　)
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(種別S-F1、SI-F1の場合)
・行う(・図示による　・　　)
・行わない

④ 塗膜防水

(9.5.3)(表9.5.1、2)
防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	備考
⊙X-1	A塔3F、B塔2F	※カラー・シルバー			
⊙X-2 防滑	A塔2・4・5F ﾊﾞﾙｺﾆｰ	※カラー・シルバー			
⊙X-2	庇 庇（縞鋼板）	環境対応型フッ素仕上げ			
・Y-1	※地下外壁防水 ・				
・Y-2	※屋内防水 ・			・適用する ・適用しない	

ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
種類　※主材料の製造所の仕様
・
設置数量　※主材料の製造所の仕様
・(　)個
⊙超速硬化ウレタン塗膜防水　駐車場防水仕様　施工場所；A塔屋上

5. ケイ酸質系塗布防水

(9.6.4)(表9.6.1)
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・C-SUI		・C-SUP	

防水層の下地
壁　※コンクリート打放し仕上げ(表6.2.4 B種)
・
天井部　※コンクリート打放し仕上げ(表6.2.4 B種)
・
下地処理(コンクリートの打継ぎ箇所の処理)
※打継ぎ部分に対し、幅30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ポリマーセメントモルタルを充填する。
・図示による　・

⑥ シーリング

(9.7.2)(9.7.3)(9.7.5)(表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

施工箇所	シーリング材の種類(記号)
立上、打継、伸縮調整目地、建具	PU-2
ﾗｲﾆﾝｸﾞ甲板	SR-2

仕上げを行わない施工箇所(・図示による　・　)
シーリング材の目地寸法
※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
・図示による　・
接着性試験
※簡易接着性試験　・引張接着性試験

⑦ 防水保証

⊙アスファルト防水、改質アスファルトシート防水、合成高分子系ルーフィングシート防水、ウレタン塗膜防水及び超速硬化ウレタン防水の保証期間は、工期末日より10年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書（3部）を提出する。

10 石工事

1. 施工

2. 石材等

石材の割付け (10.1.3)
※図示による　・

天然石 (10.2.1、3)(表 10.2.1、2)

施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石		・図示による			

ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無
・あり　・なし

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・300型 ・400型		

その他の材料
取付け用モルタル
※専門工事業者の指定する製品
・
既調合の目地モルタル
※専門工事業者の指定する製品
・
浸透性吸水防水剤
※専門工事業者の指定する製品
・
石裏面処理材
※専門工事業者の指定する製品
・
裏打ち処理材
※専門工事業者の指定する製品
・
ドレンパイプの材質
・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ
・
金物の固定に使用する充填材料等
※専門工事業者の指定する製品
・

3. 外壁湿式工法

受金物 (10.2.2、3)(10.3.2、3)
材質
※SUS304　・
形状及び寸法
・L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm又は150mm
・
アンカーの材質及び寸法
材質
※SS400　・
寸法
・
あと施工アンカーの材質、寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
ドレンパイプ
・設ける(設置位置：図示による)
・設けない
石裏面処理
・適用する　・適用しない
裏打ち処理
・適用する　・適用しない
下地ごしらえ
※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法
・流し筋工法
目地
一般目地
・目地モルタル　(目地幅　・　　)
・既調合の目地モルタル　(目地幅　・　　)
※シーリング材　(種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　)
(目地幅及び深さ　・　　)
伸縮調整目地
位置
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書表9.7.1による
・
目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

4. 内壁空積工法

受金物 (10.2.2)(10.4.2、3)
材質
※SUS304　・
形状及び寸法
・L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm又は150mm
・
あと施工アンカーの材質、寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
石裏面処理
・適用する　・適用しない
裏打ち処理
・適用する　・適用しない
下地ごしらえ
※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法
一般目地
・目地モルタル　(目地幅　・　　)
・既調合の目地モルタル　(目地幅　・　　)
・シーリング材　(種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　)
(目地幅及び深さ　・　　)
伸縮調整目地
位置
・6m程度
・
シーリング材の種類
※標準仕様書表9.7.1による
・
目地寸法
・

5. 外壁乾式工法

(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
※標準仕様書表10.2.4による
（方式：　・スライド方式　・ロッキング方式）
・図示による
あと施工アンカーの材質、寸法等
種類　・
材質　・
寸法　・
だぼ用の穴の位置
※標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による
・図示による
裏打ち処理
・適用する　・適用しない
シーリング材
種類
※標準仕様書9.7.1による
・
目地幅及び深さ
・

10 石工事

6．床及び階段の石張り

浸透性吸収防水材 (10.6.2、3)
（床石張り） ・適用する ・適用しない
石裏面処理
（床石張り） ・適用する ・適用しない
（階段張り） ・適用する ・適用しない
裏打ち処理
（床石張り） ・適用する ・適用しない
一般目地
・目地モルタル （目地幅 ・ ）
・既調合の目地モルタル （目地幅 ・ ）
・シーリング材 （種類 ※標準仕様書表9.7.1による ・ ）
（目地幅及び深さ ・ ）
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書10.6.2(5)(a)による
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書表9.7.1による
・
目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

7．笠木、甲板等の石張り

取付け工法 (10.2.2) (10.7.2)
・湿式工法
・乾式工法
特殊部位用金物
材質
※SUS304 ・
寸法等
引金物
※標準仕様書表10.2.3による
・
だぼ
※標準仕様書表10.2.3による
・
かすがい
※標準仕様書表10.2.3による
・
受金物
※標準仕様書10.2.2(1)(イ)による
・
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
ファスナー
※標準仕様書表10.2.4に準ずる
（方式：・スライド方式 ・ロッキング方式）
・図示による
あと施工アンカーの材質、寸法
種類 ・
材質 ・
寸法 ・
石裏面処理
・適用する ・適用しない
乾式工法の場合の取付け代
※70mm程度
石材の裏面の補強用モルタル
・適用する ・適用しない
一般目地
・目地モルタル （目地幅 ・ ）
・既調合の目地モルタル （目地幅 ・ ）
・シーリング材 （種類 ※標準仕様書表9.7.1による ・ ）
（目地幅及び深さ ・ ）
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書10.6.2(5)(a)による
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書表9.7.1による
・
目地寸法
・図示による

11 タイル工事

1．伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 (11.1.3)(表11.1.1)
※標準仕様書表11.1.1による
・図示による
目地寸法
・図示による

2．見本焼き試験施工

見本焼き (11.1.4)
・行う(施工箇所：) ※行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ※行わない

③．セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.2.2、6)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	
A塔屋外階段	ノンスリップタイル	150*60	・	・	・	・	⊙	・	・	⊙	・	・	・	⊙
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

既調合目地材

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
・目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法
・
壁タイル張りの工法
内外装タイル
・密着張り
・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り
・モザイクタイル張り

4．有機系接着剤によるタイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.3.2～5)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
目地のシーリング材
打継ぎ目地
※ポリウレタン系シーリング材
・
ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材
・
伸縮調整目地及びその他の目地
※変成シリコーン系シーリング材
・
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法
・
外装タイルの目地詰め
・行う ・行わない

12 木工事

1．施工一般

材料のホルムアルデヒド放散量 (12.2.1)
※F☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ウ)(b)による
・

2．製材

(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)

・JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率			保存処理
		※2級・	※A種	・B種	・	
		※2級・	※A種	・B種	・	

・JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率			保存処理
見え掛り面		※上小節・	※A種	・B種	・	
見え掛り面以外		※小節以上・	※A種	・B種	・	

・JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※1等	※10%以下 ・A種 ・B種	
		※1等・	※10%以下 ・A種 ・B種	

・JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率
		（ ）造作材の場合（※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・
		（ ）造作材の場合（※A種 ・B種）	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種 ・

3．造作用集成材

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 (12.2.1)

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
					※1等 ・2等
					※1等 ・2等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
		化粧薄板： 芯材：			※1等 ・2等	
		化粧薄板： 芯材：			※1等 ・2等	

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率
				※15%以下・
				※15%以下・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下・

4．造作用単板積層材

・JAS 0701 に基づく造作用単板積層材 (12.2.1)

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	防虫処理
				・適用する ・適用しない
				・適用する ・適用しない

・JAS 0701 以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理
			※14%以下・	・適用する ・適用しない
			※14%以下・	・適用する ・適用しない

・JAS 3079 に基づく直交集成板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法(mm)

5．合板等

・「合板の日本農林規格」による普通合板 (12.2.1)

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
	※5.5 ・12+12 ・12 ・15		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	防虫処理	強度等級
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上 ・	※12 ・	・適用する ・適用しない	・適用する（ ） ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
			・1類 ・特類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
			・1類 ・2類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類 ・2類			・適用する ・適用しない

・パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ・	※P又はM・		※15・

・JAS 0360 に基づく構造用パネル

施工箇所	寸法（mm）

・MDF

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

6．接合具等

造作材の化粧面の釘打ち (12.2.2)
※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し
諸金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（標準仕様書表12.2.3～5に示す程度の市販品 表14.2.2のF種程度）
・ （形状： 寸法： 材質： ）

7．接着剤

接着剤のホルムアルデヒドの放散量 (12.2.2、3)
※F☆☆☆☆ ・

8．防腐・防蟻処理

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材 (12.3.1、2)
適用部位：（ ）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分		
	・K2	・K3	・K4
	・K2	・K3	・K4
	・K2	・K3	・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による・	※JIS K 1571に適合又は同等品
	・	

・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（ ）
・合板等の加圧注入処理の適用
適用部位（ ）

9．内部間仕切軸組及び床組み

・間仕切軸組に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） (12.4.1)
※杉又は松 ・
・床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松 ・

10．窓、出入口その他

・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） (12.5.1)
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉

11．床板張り

(12.6.1)
・縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ひのき ・

12．壁及び天井下地

(12.7.1)
・壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松 ・

13 屋根及びとい工事

1．長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322 の屋根用 （着色　・有）	・5類（AZ150） ・	※0.4 ・0.5 ・	※心木なし 瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ・	

下葺材料
　・アスファルトルーフィング 940
　・改質アスファルトルーフィング下葺材
　（・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）
横葺きの場合のけらば納め
　・つかみ込み納め　・けらば包み納め
雪止め
　・設置する　（形状及び施工箇所　・図示による　・　　）
　・設置しない

2．折板葺

(13.2.2)(13.3.2)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かな合形			（　　）種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料
　折板の材質の種類（※JIS G 3302の屋根用（着色　・有）　・　　）
　塗膜の耐久性の種類、めっき付着量（・5類(AZ150)　・　　）
断熱材張り
　・行う　（断熱材の種別：　　厚さ(mm)：　　防火性能：　　）
　・行わない
耐雪性能に対応した工法の適用
　・適用する　・適用しない
折板のけらば納め
　※けらば包みによる方法
雪止め
　・設置する　（形状及び施工箇所　・図示による　・　　）
　・設置しない

3．粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
						・適用する ・適用しない
						・適用する ・適用しない

桟瓦の防災瓦の使用　・適用する　・適用しない
JIS A5208に基づく凍害試験等
　・行う　・行わない
瓦桟木
　材質
　　※杉　・
　寸法
　　※幅21×高さ15(mm)以上
　　・
棟補強用心材
　材質
　　※杉　・
　寸法
　　※幅40×高さ30(mm)
　　・
瓦緊結用釘及びねじ
　種類（　　）　径（　　）　長さ（　　）
棟補強等に使用する金物等
　材質
　　・ステンレス製
　　・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
　形状、寸法及び留付け方法
　　※図示による　・
工法
　風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等
　　※図示による　・
瓦桟木の留付け工法
　※図示による　・
棟の工法
　・7寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟
　・のし積み棟
　・
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
　・モルタル　・瓦葺き用しっくい

④ とい

(13.5.2、3)(表13.5.4)

といその他の材種
　・配管用鋼管
　⊙硬質ポリ塩化ビニル管（カラー）
　⊙ルーフドレン
　・表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類　・　　）
　・
とい受金物
　材種
　　※標準仕様書13.5.2による　（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
　　⊙SUS製
　形状
　　※市販品（とい径 100 以下）
　　⊙25×4.5(mm)以上（とい径 100 を超えるもの）
　　・
　取付け間隔
　　※標準仕様書13.5.2による
　　・
足金物
　材種
　　※標準仕様書13.5.2による　（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
　　⊙SUS製
　形状
　　※市販品　・
　取付け間隔
　　※標準仕様書13.5.2による
　　・
多雪地域
　・適用する　・適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
　・F☆☆☆☆　・
鋼管製といの防露巻き
　・標準仕様書13.5.4による
　・
ルーフドレンの種類及び呼び

種別		呼び	施工箇所
・ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100 ・125　・150	
⊙ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　⊙100 ・125　・150	B塔 2階 A塔 各階
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	
⊙バルコニー用	⊙ねじ込み式	・50　⊙80　・100	A塔2・4・5Fﾊﾞﾙｺﾆｰ
	・差し込み式	・50　・75　・100	

14 金属工事

1．アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1)(表 14.2.1)

種類	色合い等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
・AB-1種		
・AB-2種	・標準色 ・特注色	
・AC-1種		
・AC-2種	・標準色 ・特注色	
・BA-1種		
・BA-2種	・標準色 ・特注色	
・BB-1種		
・BB-2種	・標準色 ・特注色	
・BC-1種		
・BC-2種	・標準色 ・特注色	
・C種	・標準色 ・特注色	

陽極酸化皮膜の着色方法
　※二次電解着色
　・三次電解着色

2．鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表 14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
・ 溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
・ 電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

3．軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　(14.4.2～4)(表14.4.1)
　屋外
　　※25形　・19形
　屋内
　　※19形　・25形
屋外の形式及び寸法
　野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　・図示による　・
　周辺部の端からの間隔　・図示による　・
　野縁の間隔　・図示による　・
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
　(補強方法　※図示による　・　　)
・天井のふところが3.0mを超える場合
　(補強方法　※図示による　・　　)
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
　(補強箇所　※図示による　・　　)
　(補強方法　※図示による　・　　)
・屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強
　(補強箇所　※図示による　・　　)
　(補強方法　※図示による　・　　)

4．軽量鉄骨壁下地

(14.5.3、4)(表14.5.1)

スタッド、ランナの種類
　※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
　・図示による
　・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
　※図示による　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
　※標準仕様書14.5.4.(5)による
　・

5．金属成形板張り

(14.6.2、3)(表14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理 種別	色合い等
・アルミニウム	・押出し ・ロール	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形				
	・プレス ・	パネル形				

取付け用下地
　※標準仕様書14.4による
　・図示による
伸縮調整継手
　・設ける
　　（施工箇所　・図示による　・　　）
　・設けない

6．アルミニウム製笠木

種類　(14.7.2、3)(表14.2.1)(表14.7.1)
　・250形　・300形　・350形
表面処理
　種別（　　）種
　色合等　・標準色（　　）　・特注色（　　）

15 左官工事

① モルタル塗り

モルタル　(15.3.2、5)
　・現場調合材料
　⊙既調合材料
既製目地材
　・設ける
　　施工箇所（　　）　形状（※図示による　・　　）
　⊙設けない
床の目地
　・設ける　施工場所（　　）
　　目地割り
　　※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）
　　・
　　目地の種類
　　※押し目地
　　・
　⊙設けない
屋外のタイル張り下地及び屋内の吹抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
　・適用する　・適用しない

2．ラス系下地

ラス系下地　(15.2.4)
　・二層下地通気構法
　・単層下地通気構法
　　換気口部の措置　（※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3.(2)(ｳ)　・　）
　・直張りラスモルタル下地
　・直張りラスシートモルタル下地
ラスの材料
　種類及び記号　（　　）
　単位面積当たりの質量（　　）
ラスシートの材料
　ラス目による区分（※M　・　　）
　山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分
　　（・LS4(建築基準法に基づく耐力壁)　・　　）
　ステープルの形状及び寸法（　　）
　直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシートの施工

3．せっこうボード その他のボード下地

せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ　(15.2.5)
　種類（・GB-R　・GB-L　・　　）　厚さ（　　mm）
木質系セメント板の種類及び厚さ
　種類（・　　）　厚さ（　　mm）

4．こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定（・あり　・なし）　(15.2.6)

5．木ずり下地

木ずり用小幅板の種類（※すぎ(心去り材)　・　　）　(15.2.7)

6．仕上塗材 仕上げ

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　(15.6.2)
　※F☆☆☆☆
　・

仕上塗材の種類
　・薄付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装薄塗材Si	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り		
・可とう形外装塗材Si	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り		
・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
	・着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて塗り		
・可とう形外装塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り	・適用する	・
	・凹凸状	・吹付け		
・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け	・適用する	・
・内装薄塗材C ・内装薄塗材L	・凹凸状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・内装薄塗材Si ・内装薄塗材E	・砂壁状じゅらく ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・内装薄塗材W	・京壁状じゅらく ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		

・厚付け仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り	防火材料
・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り			
・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り			
・内装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り			
・内装厚塗材L	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材G	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材Si ・内装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り			

・複層仕上塗材

種類（呼び名）	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材Si ・複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	※ゆず肌状	※ローラー塗り			
・可とう形複層塗材CE	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			
・防水形複層塗材CE ・防水型複層塗材RE ・防水形複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ｼﾘｺﾝ系溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			

15 左官工事

・軽量骨材仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料
・吹付用軽量塗材	・
・こて塗用軽量塗材	・

7．マスチック塗材塗り

種別 (15.7.2)
・A種　・B種

8．ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放散量 (15.12.2、3)
※F☆☆☆☆
・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・
仕上げ吹付け厚さ
※図示による
・25mm
・

9．しっくい塗り

しっくい (15.10.2～4)
・既調合材料
色しっくい　・適用する　・適用しない
・現場調合材料
下地
・せっこうボード　・せっこうラスボード　・モルタル塗り　・木ずり
・こまい　・下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合
・
既調合しっくいの調合
・せっこうボード下地　※標準仕様書表15.10.1　・
・モルタル塗り下地　※標準仕様書表15.10.2　・
・せっこうラスボード下地　※製造所の仕様による　・
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・木ずり下地　※標準仕様書表15.10.3　・
・せっこうプラスター下地、こまい下地　※標準仕様書表15.10.4　・
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・なで切り仕上　・パターン仕上げ

10．こまい壁塗り

のり (15.11.2～5、7、8)
・土壁用ののり
※つのまた
・ふのり
・ぎんなんそう
・粉末海藻
・
・砂壁用ののり
※ふのり
・つのまた
・こんにゃくのり
・にかわ
・合成高分子系混和剤
・
色土
・土物仕上げに用いる色土の種類（　　）
・大津仕上げに用いる色土の種類（　　）
色砂の種類
・天然砂と岩石の砕砂
・人工的に着色・製造したもの
下塗りの調合
※標準仕様書表15.11.2
・
塗厚
※標準仕様書表15.11.8による
・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（　　）
・
こまい壁の工程
※A種　・B種

こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・土物仕上げ工法
・水ごね土物1工法
・水ごね土物2工法
・のりさし土物工法
・のりごね土物工法
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類
・普通大津仕上げ工法
・大津みがき仕上げ工法
ちりじゃくり
・図示による　・

16 建具工事

1．防火戸

※建具表による (16.1.3)
・

2．見本の製作等

建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）　※行わない (16.1.4)
建具見本製作の目的等　・
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）　※行わない

3．防犯建物部品

・適用する（・建具表による　・　　） (16.1.6)
※適用しない

④ アルミニウム製建具

性能値等 (16.2.2、4、5)（表14.2.1）（表16.2.1、2）
耐風圧性の等級（⊙ S-5 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
気密性の等級（⊙ A-4 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
水密性の等級（⊙ W-5 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　　）
⊙B種（建具符号　・建具表による　・　　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　　）
・D種（建具符号　・建具表による　・　　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　　）
枠の見込み寸法（※建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（　　）
（建具符号：・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別
※BB-1　・BB-2　（標準仕様書表14.2.1）
着色
※標準色　・特注色
屋内の建具
種別
※BC-1　・BC-2　（標準仕様書表14.2.1）
着色
※標準色　・特注色
結露水の処理方法
・水貯め式　・排水式
工法
水切り板、ぜん板
・図示による
木下地の場合の内付け建具
・適用しない　・適用する

5．網戸等

(16.2.3)

種類	材質	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

6．樹脂製建具

性能値等 (16.2.5)（16.3.2～5）（表16.3.1～3）
耐風圧性の等級（　　）
気密性の等級　（　　）
水密性の等級　（　　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　　）
・D種（建具符号　・建具表による　・　　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・T-1　・T-2 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級　・
枠の見込み寸法　※建具表による　・
材料
ガラス
※複層ガラス（組合せは建具表による）
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面色　・標準色　・特注色
工法
水切り板、ぜん板　※図示による　・
木下地の場合の内付け建具　・適用しない　・適用する

⑦ 鋼製建具

性能値等 (16.2.2)（16.4.2～4）（16.4.6）（表16.4.2）
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
⊙適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　（⊙ S-5 相当 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※標準仕様書表16.4.2による
・　使用箇所（　　）
標準型鋼製建具の形式及び寸法
・建具表による　・

8．鋼製軽量建具

性能値等 (16.2.2)（16.5.2～4）(16.5.6)（表16.5.1）
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）

材料
鋼板
・亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
召合わせ、縦小口包み板の性質
※鋼板　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ（mm）
※標準仕様書表16.5.1による
・
使用箇所（　　）
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
※建具表による　・

9．ステンレス製建具

性能値等 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級　（・ S-5 相当 ）
（建具符号　・建具表による　・　　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面仕上げ
※HL　・鏡面仕上げ
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ
・角出し曲げ（b角（切込み後の残り板厚0.75mm、裏板補強有り））
・角出し曲げ（c角（切込み後の残り板厚1.0mm））

10．木製建具

建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2～4)
※A種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

・フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書16.7.2(2)(イ)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板	表面の樹種 ・ 板面の品質（※広葉樹1等　・　　） 接着の程度（・1類　・2類 ）	
・天然木 化粧合板	樹種名（　　） 接着の程度（・1類　・2類 ）	
・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度（・1類　・2類 ）	
・MDF		

表面板の厚さ
※表16.7.6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・適用しない　・適用する
・かまち戸
かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）
・鳥の子
※新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・塗り縁
・生地縁（素地）
・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
表面板の仕上　・建具表による
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・

枠、くつずりの材料
・建具表による　・

⑪. 建具用金物

金物の種類及び見え掛り部の材質等 (16.8.2、3)(表16.8.1～5)
※標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による
・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.2による
・建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
・標準仕様書表16.8.3による
・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
・標準仕様書表16.8.4による
・建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
・標準仕様書表16.8.5による
・建具表による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
・建具表による
・

⑫ 鍵

マスターキー (16.8.4)
・製作する　⊙製作しない
鍵の製作本数
※同一キー①（シャッター以外:18本）、同一キー②（シャッター錠:6本）　・
鍵箱
※有り　・無し

13. 自動ドア開閉装置

戸の開閉方式 (16.9.2、3)
・建具表による　・
・引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書表16.9.1（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
種類・開閉方式　（　　）
耐電圧　（　　）
温度上昇　（　　）
耐久性（サイクル）　（　　）
防錆　（　　）
電源　（　　）
・車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書表16.9.2（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
耐電圧　（　　）
温度上昇　（　　）
耐久性（サイクル）　（　　）
防錆　（　　）
電源　（　　）
・引き戸用検出装置
性能値
※標準仕様書表16.9.3（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
耐電圧　（　　）
防錆　（　　）
防滴　（　　）
電源　（　　）
引き戸用検出装置の種類　標準仕様書表16.9.4
・建具表による　・
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ　・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房スイッチの種類
・大形押しボタンスイッチ　・非接触スイッチ
凍結防止措置
・行う　※行わない

14. 自閉式上吊り引戸装置

性能値等 (16.10.3)（表16.10.1）
※標準仕様書表16.10.1
・以下による
手動開き力　（　　）
手動閉じ力　（　　）
閉じ速度の調整　（　　）
制動区間　（　　）
開閉繰返し　（　　）
耐衝撃性　（　　）

16 建具工事

15. 重量シャッター

シャッターの種類 (16.11.2、3)
・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（　　）pa
開閉方式の種類
※電動式（手動併用）　・手動式
安全装置
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
電動式シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
管理用シャッターのシャッターケース
※設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類
※JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯）
めっきの付着量
※Z12又はF12
・
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・

⑯. 軽量シャッター

開閉方式の種類 (16.12.2～4)
※手動式
・電動式（手動併用）
耐風圧強度（　392　）pa
安全装置
電動シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
スラットの材質の種類
※JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）　スチール
めっきの付着量（※Z06又はF06　・　　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※AZ90　・　　）
⊙JIS G 4303～4305（ステンレス鋼板）
スラットの形状
⊙インターロッキング形
・オーバーラッピング形
フック棒
⊙有　・無

17. オーバーヘッドドア (16.13.2、3)

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・50 ・75 ・100 ・125	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	※スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置　・スチール
（設置箇所　※建具表による　・　　）

⑱. ガラス (9.7)(16.14.2～4)(図16.14.1)
・フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
・建具表による
・

・型板ガラスの厚さによる種類
・建具表による
・

⊙網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
・

・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
・建具表による
・
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類　・Ⅲ類

⊙強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
※建具表による
・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
・建具表による
・
性能による種類
・1種　・2種

・複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
・建具表による
・
断熱性による区分
・T1　・T2　・T3　・T4　・T5　・T6
日射取得性及び日射遮蔽性による区分
・G　・S
乾燥気体の種類
・空気　・アルゴン

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による
・
日射熱遮へい性による区分
・1種　・2種　・3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・A類　・B類

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による
・

ガラスの留め材及び溝の大きさ (16.14.2)(9.7)

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※シーリング材 ・グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
ステンレス製	・シーリング材 ・	・建具製造所の仕様による ・図示による ・
樹脂製	・グレイジングガスケット ・	・建具製造所の仕様による ・図示による ・

(16.14.5)

呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	目地幅（mm）	伸縮調整目地位置（mm）	防火性能
・160×160	・95 ・				
・200×200	・95 ・				

壁用金属枠及び補強材
※図示による　・
力骨
材質
※ステンレス鋼(SUS304)　・
寸法
※径5.5mm　・
形状
※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（・白　・グレー）
シーリングの種類　（・SR-1　・PS-1）
金属製化粧カバー
材質 (17.3.2～6)(表17.3.1、2)
・ステンレス製　・アルミニウム製　・
寸法
※図示による　・
形状
※図示による　・
木下地の場合のアンカー等の取付け間隔
・図示による　・
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による
・図示による
・

19. ガラスブロック積み

17 カーテンウォール工事

1. 取付け形態、性能等

取付け形態による分類 (17.1.3)
・層間方式
・柱・梁方式
・方立方式
・スパンドレル方式
・

性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(℃)
W-5	A-4			・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ・
4mを超える	・

性能の確認方法及び判定方法
※性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

2. メタルカーテンウォール

金属系材料の種類 (17.2.2、3、5、6)
・アルミニウム材
・鋼材
・ステンレス鋼材
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　※図示による　・
ガラスの取付け材料
・シーリング
種類（・SR-2　・SR-1）
・構造ガスケット
形状、寸法等　※図示による
断熱材
種類及び範囲　※図示による
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差
※標準仕様書表17.2.1による
・
見え掛かり部の仕上げ
（アルミニウム材の場合）
規格等　標準仕様書16.2.3による
種別　・　（標準仕様書表14.2.1）
着色　・標準色　・特注色
（鋼材及びステンレス鋼材の場合）
・
ガラス溝の寸法、形状等
※カーテンウォールの製造所の仕様
・
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向
※±10mm　・
水平方向
※±25mm　・
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅
※±3mm　・
目地の心の通り
※0～2mm　・
目地両側の段差
※0～2mm　・
各階の基準墨から各部位までの距離
※±3mm　・
耐火処理
適用部位、材料等　※図示による
ガラスの取付け材料
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法
※4辺支持　・

3. PCカーテンウォール

材料
コンクリート
種類（・普通コンクリート　・軽量コンクリート1種　・　　）
品質
設計基準強度(Fc)　※30N/mm2　・
スランプ　※12cm　・
気乾単位容積質量
・普通コンクリートの場合　2.1t/m3を超え2.5t/m3以下
・軽量コンクリートの場合　1.8t/m3～2.1t/m3
・
単位水量の最大値
※185kg/m3　・
鉄筋
種類の記号　※SD295　・
補強鉄線
径(mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
網目寸法　・
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　※図示による　・
ガラスの取付け材料
・構造ガスケット
形状、寸法等　・図示による
耐火処理
適用部位、材料等　※図示による
断熱材　種類（　）
種類及び範囲　※図示による
先付けの材料
・表面仕上材
・セラミックタイル
・石材
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール
形状及び仕上げ
製品の見え掛り部の寸法許容差
辺長
※±3mm　・
対角線長の差
※0～5mm　・
版厚
※±2mm　・
開口部内法寸法
※±2mm　・
ねじれ、反り
※0～5mm　・
曲がり
※0～3mm　・
面の凸凹
※0～3mm　・
先付け金物の位置
※0～5mm　・
PCカーテンウォールの仕上げ
・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
※図示による　・

製作
PC版の配筋　※図示による
取付け
躯体付け金物の取付位置の寸法許容差
鉛直方向
※±10mm　・
水平方向
※±25mm　・
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅
※±5mm　・
目地の心の通り
※0～3mm　・
目地両側の段差
※0～4mm　・
各階の基準墨から各部位までの距離
※±5mm　・
ガラスの取付け方法
・ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

18 塗装工事

①. 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (18.1.3)
※F☆☆☆☆　・
防火材料
・屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・以下の箇所を除き防火材料とする。
（箇所：　　）

②. 素地ごしらえ (18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面（DP以外 ）		※C種　・A種　・B種
鉄鋼面（DPのみ）		※B種　・A種　・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面		※B種　・A種
コンクリート面（DPのみ）		※A種　・B種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※A種　・B種
	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

③. 錆止め塗料塗り (18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP ⊙錆止め塗装のまま	As種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	Cs種及びDs種	表18.3.4
	EP-G	※Bs種　・As種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※Az種　・Bz種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種
	DP	Bz種	表18.3.6
	EP-G	Cz種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種

④. 塗装 (18.4.1～18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	―
	木部屋内	※B種　・A種	
	鉄鋼面	※B種　・A種	
	亜鉛めっき鋼面	―	
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	―
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	―
⊙耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗り塗料の等級(　)級
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り塗料の等級(　)級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種 ・C種	―
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ﾓﾙﾀﾙ面 ﾌﾟﾗｽﾀｰ面 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	※B種　・A種	―
	屋内の鉄鋼面 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	※B種　・A種	―
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	―
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	―
・ステイン塗り		・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	―
・木材保護塗料塗り(WP)		※B種　・A種	―

クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用
・適用しない
・適用する(着色剤：・溶剤形着色剤　・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する
・適用しない
オイルステイン塗りの工程等
着色撥水材
⊙水性塗料（フッ素仕上、撥水性）

19 内装工事

1．接着剤 (19.2.2)

ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤の
ホルムアルデヒド放散量
　※F☆☆☆☆　・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
　・図示による　・

2．下地の工法

標準仕様書19.2.3(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法 (19.2.3)
　・図示による　・

3．ビニル床シート (19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ（mm）	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ) ・	※無地 ・マーブル柄 ・柄物	※2.0 ・2.5	

接合部の処理
　※熱溶接工法　・

4．ビニル床タイル (19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	備考
※KT（ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・TT（単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FT（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FOA（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FOB（薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	※300×300 ・450×450 ・500×500 ・	※2.0 ・2.5 ・3.0 ・	防汚 耐摩耗

5．特殊機能床材 (19.2.2)

・帯電防止床シート
　種類　（　　）
　性能　（　　）
　厚さ(mm)（　　）

・帯電防止床タイル
　種類　（　　）
　性能　（　　）
　寸法(mm)（　　×　　）
　厚さ(mm)（　　）

・視覚障害者用床タイル
　視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は
　JIS T 9251による。
　種類　（　　）
　形状　（　　）

・耐動荷重性床シート
　種類　（　　）
　厚さ(mm)（　　）

・防滑性床シート
　種類　（　　）
　厚さ(mm)（　　）

・防滑性床タイル
　種類　（　　）
　寸法(mm)（　　×　　）
　厚さ(mm)（　　）

6．ビニル幅木

材質の種類 (19.2.2)
　・軟質　・硬質
高さ(mm)
　※60　・75　・100　・150　・300
厚さ(mm)
　※1.5以上　・

7．ゴム床タイル

種類 (19.2.2)
　・単層品　・積層品
色柄（　　）
厚さ(mm)
　・3.0　・4.5　・6.0　・9.0
寸法(mm)（　　×　　）

8．カーペット敷き

・織じゅうたん (19.3.2、3)(表19.3.1)(表19.3.2)

織り方	パイル形状
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル

色柄
　※模様のない無地
　・
パイル糸の種類等
　※無地の織りじゅうたんの種別（・A種　・B種　・C種）
　・
帯電性
　・適用する　・適用しない
織じゅうたんの接合方法
　※ヒートボンド工法
　・つづり縫い
下敷き材
　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm
　・

・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ（mm）	工法	帯電性
・カットパイル	・5～7　・	※全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用する ・適用しない
・ループパイル	・4～6　・		
・カット、ループ併用	・		

下敷き材(グリッパー工法の場合)
　※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm
　・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※F☆☆☆☆　・

・タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・
・カット・ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※F☆☆☆☆　・
タイルカーペットの敷き方
　平場
　　※市松敷き
　　・模様流し
　　・
　階段部分
　　※模様流し
　　・市松敷き
　　・
見切り、押え金物
　材質（　　）
　種類（　　）
　形状等
　　※図示による　・

9．合成樹脂塗床

(19.4.2、3)(表19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床			・平滑仕上げ ・防滑仕上げ

塗床材のホルムルデヒド放散量
　※F☆☆☆☆　・

10．フローリング張り

フローリングのホルムアルデヒドの放散量等 (19.5.2～5)(表19.5.1～6)
　※標準仕様書19.5.2(2)による
　・
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
　※F☆☆☆☆　・

・単層フローリング　（フローリングボード1等）
　工法
　　・釘留め工法（・根太張り　・直張り　）
　　・接着工法
　樹種
　　※なら　・
　厚さ（mm）
　　・ 15（直貼用ｸｯｼｮﾝ付・塗装品）

・単層フローリング　（フローリングブロック1等）
　樹種
　　・
　厚さ（mm）
　　・
　大きさ
　　・

・複合フローリング
　工法
　　・釘留め工法（・根太張り　・直張り　）
　　・接着工法
　樹種
　　※なら　・
　種別
　　・A種　・B種　・C種

接着工法の場合の不陸緩和材
　※合成樹脂発泡シート
　・

11．畳敷き

種別 (19.6.2)(表 19.6.1)
　・A種　・B種
　※C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N）

衝撃緩和型畳（畳表：・C1　・C2）

12．せっこうボード、その他のボード及び合板張り

(19.7.2、3)(表 19.7.1)
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
　※F☆☆☆☆　・
合板のホルムアルデヒド放散量
　※標準仕様書19.7.2(3)(ｲ)の(a)～(d)のいずれか　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※F☆☆☆☆　・

種類等	厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板	
・木毛セメント板 　・硬質(HW)・中質(MW)・普通(NW)	※図示による　・15　・20　・25
・木片セメント板 　・硬質(HF)　・普通(NF)	※図示による　・12　・15　・18 ・21　・30
繊維強化セメント板	
・けい酸カルシウム板(タイプ2) 　普通ボード 0.8FK	※図示による　・6　・8
火山性ガラス質複層板	
・火山性ガラス質複層板 　種類　※図示による　・	※図示による　・
繊維板	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF)	※図示による　・3　・7　・9 ・12　・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ 　・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（無処理） 　　・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ 　　・未研磨板（RN） 　　・研磨板（RS） 　・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DI） 　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（処理） 　　・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ 　　・未研磨板（RN） 　　・研磨板（RS） 　・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DE）	※図示による　・2.5　・3.5　・5 ・7　・
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ 　・A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ（A-IB） 　　・天井仕上げ材 　　・内装仕上げ材	※図示による　・9　・12　・15 ・18　・
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ 　・無研磨板（VN） 　・研磨板（VS）	※図示による　・10　・12　・15 ・18　・
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ 　・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DV） 　・ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DO） 　・塗装（DC）	※図示による　・10（難燃） ・12（難燃） ・
吸音材料	
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板（DR） 　・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ 　・凹凸ﾀｲﾌﾟ	・9　（不燃）　・12（不燃） ・12（不燃）　・15（不燃）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（1号）	※図示による　・25
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（32K）	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み）　・
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-R）	※12.5（不燃）・15（不燃）・
・ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-S）	・12.5（・不燃　・準不燃）
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-F）	・12.5（不燃）・15（不燃）
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ（GB-L）	・9.5
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-NC） 　・化粧無し（下地張り用） 　・化粧有り（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	・9.5（不燃）　・9.5（準不燃）
合板類	
・普通合板 　表板の樹種名： 　板面品質： 　防虫処理 　・行う　・行わない	※図示による ・
・天然木化粧合板 　化粧板の樹種名： 　防虫処理 　・行う　・行わない	※図示による ・
・特殊加工化粧合板 　化粧加工の方法 　・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装 　表面性能 　・ 　防虫処理 　・行う　・行わない	※図示による ・

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
　※図示による　・
合板類の張付け
　・A種　・B種
せっこうボードの目地工法等
　目地工法の種類
　　※仕上表による
　突付け工法及び目透し工法のエッジの種類
　　・ベベルエッジ　・スクェアエッジ

13．壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量 (19.8.2、3)
　※F☆☆☆☆　・

施工箇所	壁紙の種類						防火性能
	紙	繊維	塩化ビニルチック	プラス	無機質	その他	
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃
	・	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃

14．断熱材

モルタル及びプラスター面の素地ごしらえの種別
　※B種　・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別
　※B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえの種別
　※B種　・A種

(19.9.2～4)
フェノールフォーム断熱材、保温材又は接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※F☆☆☆☆　・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※F☆☆☆☆　・
・断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 （・　　）	・	
※押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし） （・2種bA　・3種bA　・3種bC　・3種bD ）	※25	
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・30	2F･最上階ｽﾗﾌﾞ下（天井内）
・フェノールフォーム断熱材	・	
・不燃断熱材	・30	2F･最上階ｽﾗﾌﾞ下（露出）

・断熱材現場発泡工法
　断熱材の種類
　　・A種1　・A種1H　・
　吹付け厚さ（mm）
　　・ 25
　施工箇所
　　・図示による　・　2･3F外壁面（　　）

20 ユニット及びその他の工事

1．フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	寸法（mm）	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上材
・置敷式	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・	・100	・1.0G ※0.6G	・3,000N ・5,000N ・	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ 500*500 厚5.0

寸法精度
　※標準仕様書20.2.2(2)(オ)(a)～(c)による
　・以下による
　　パネルの長さの寸法精度
　　（　　）
　　パネルの平面形状（角度）の寸法精度
　　（　　）
　　フリーアクセスフロアの高さの寸法精度
　　（　　）
帯電防止性能
　・評価値（U）≧0.6以上
　・評価値（U）≧1.2以上

2．可動間仕切

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性(dB/500Hz)	防火性能
	ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ			
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ※36	※不燃

パネル内に取付ける建具
　・有り（※図示による　・　　）
　・無し
パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、
標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
パネル材料のホルムアルデヒド放出量
　※F☆☆☆☆　・

3．移動間仕切

(20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面材		遮音性(dB/500Hz)
				材質	仕上げ	
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ※36以上

パネル表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ハンガーレールの取付け下地の補強
　※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び
　　変形量となるように補強する
　・図示による
パネルをランナーに取り付ける部品
　※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
　・
ハンガーレール及びランナー
　※パネル重量の5倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した
　　値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
　・

20 ユニット及びその他の工事

4．トイレブース (20.2.5)

表面材の材料	脚部 種類	ドアエッジ 材質
※メラミン樹脂系化粧板（標準色） ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	※製造所の仕様による ・アルミニウム製 ・ステンレス製

5．手すり (20.2.6)

材料の種類及び仕上げ
・SUS304　表面処理　※HL程度　　・直径 35程度（屋外階段）
・鋼製　　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（　　）種）
・アルミニウム 表面処理
（※標準仕様書表14.2.1による種別（　　）種）
色合い　・標準色（　　）　・特注色（　　）

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材 （材種：　　）	・クリアラッカー ・	・35程度 ・45程度 ・		
・ビニル製		・35程度 ・45程度 ・	屋内階段	

⑥．階段滑り止め (20.2.7)

材種
※ステンレス製　　※ｿﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ（屋外階段）
・黄銅製押出型材　　150×60
・アルミニウム製押出型材

形状
※タイヤ型(タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等)
・タイヤレス型
寸法(幅)
・35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法
※接着工法
・埋込み工法

7．黒板及び ホワイトボード (20.2.9)

・黒板
区分
※焼き付け　・
種類
※鋼製黒板
・ほうろう黒板
・
色
※緑　・
・ホワイトボード

8．鏡 (20.2.10)

取付け箇所（　　）
寸法（mm）
・図示による　・
厚さ（mm）
※5　・

9．表示 (20.2.11)

衝突防止表示
・設置する　（設置場所：※図示による　・　　）
形状・寸法（ ※30φ　　・　　）
材質　　（ ※ステンレス製　・　　）
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示
※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

⑩．タラップ (20.2.12)

材質及び仕上げ
・SUS304（スリップ止め加工　※あり　・なし　）
・鋼製　　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（※C種　・　　種））

11．煙突ﾗｲﾆﾝｸﾞ (20.2.13)

適用安全使用温度
・
工法
※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)
・

12．ブラインド (20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	幅・高さ取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示による ・
	・電動	―				
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・図示による ・
	・電動	―				

縦型ブラインドのスラットの材質
・アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
・クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

13．ロール スクリーン (20.2.15)

操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ取付箇所	品質等
・スプリング式 ・コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製	※製造所の仕様	・図示による ・	・

スクリーンの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの

14．カーテン (20.2.16)

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所
・ｼﾝｸﾞﾙ・片引き ・ﾀﾞﾌﾞﾙ・引分け	※手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		・図示による ・

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
※300mm以上
・

15．カーテンレール (20.2.16)

材料による区分
・アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
※ステンレス製　ダブル
強さによる区分
※10-90　・
仕上げ
※アルマイト　・
形状
※角形　・

16．ブラインド ボックス 及びカーテン ボックス

材種
・集成材（仕上げ：　　）
※アルミニウム製　押出し型材（市販品）
標準仕様書表14.2.1による種別
※BC-1種　・BC-2種
色合い
・標準色（　　）　・特注色（　　）
・鋼製（仕上げ：　　）

17．天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	※450×450 ・600×600 ・	・一般形	・屋内外用 ・屋内用	・額縁タイプ ※目地タイプ	・額縁タイプ ※目地タイプ
		・気密形			

18．床点検口

材種	寸法	形式		備考
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼鈑製	・450×450 ※600×600 ・	※一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

19．耐震スリット

方向	幅(mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直	・ ・	・完全（全貫通型） ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	
・水平	・ ・				

・構造図による
目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材(見え掛かり部のみ) ・	・シーリング材(見え掛かり部のみ) ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	・スリット幅×深さ10 ・	・スリット幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による

20．止水板

形式
・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所
・地下ピット外周、消火水槽周り及び外壁（GL+180まで）の打継部

21．くつふきマット

材種	受け枠	備考
※塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304)製 ・	※ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金 ・	

㉑．鋼製床

施工場所；A塔3階 ﾌﾞﾘｯｼﾞ救助訓練ｽﾍﾟｰｽ、B塔2階 安全ﾈｯﾄ収納ｽﾍﾟｰｽ、庇
塩害仕様鋼製床
・支持脚、受け金具、根太鋼（全て塩害仕様）
・仕上材；縞鋼板t=6.0（端部折下40･100、溶融亜鉛メッキ仕上）

㉒．避難ハッチ

施工場所；A塔5階 バルコニー
塩害仕様（SUS304(2B)）

22．流し台ユニット

材種	寸法（mm） W	D	H	備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	―	―	市販品 ステンレス製 ※1段式　・

形状
※図示による　・

23．旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
※アルミニウム合金製 ・	※テーパー式 ・同一断面式		※ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

24．旗竿受金物

材種
※ステンレス製（SUS 304）
・

25．車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・
・				

26．フェンス

フェンスの種類
・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ
・図示による　・

27．プレキャスト コンクリート

コンクリートの設計基準強度 (20.3.3、4)
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m2を満足する調合強度
・図示による
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
・図示による
取付け方法
※図示による　・

28．間知石及び コンクリート 間知ブロック 積み (20.4.2、3)

	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	―	―	
・コンクリート 間知ブロック	―		・A ・B	

積み方
※谷積み　・布積み
目塗り
・図示による
伸縮調整目地
材種
・図示による　・
厚さ
・図示による　・

29．鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
・鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種

・図示による

30．屋内掲示板

枠の材質
※アルミニウム製
・
表面の材質
※塩ビ発泡シート張り
・

31．洗面カウンター

材種
・メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）
・人工大理石
奥行き(mm)
・約450　・約600
・図示による
・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※ 網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構
煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

32．防煙垂れ壁

33．屋外掲示板

照明器具
・有り　・無し
施錠
・有り　・無し
製造所
・

34．収納家具

合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・
材質、形状、寸法
※図示による　・

21 排水工事

1．屋外雨水排水 (21.2.1、2)(表 21.2.1、2)

・外構図参照
材料

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管（1種）	・B形管 ・	・図示による ・	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・RS-VU		・図示による ・	
	・VP		・図示による ・	
	・VU		・図示による ・	

基床の厚さ及び種類
・図示による　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
※接着剤　・
側塊の形状及び寸法
・図示による　・
排水桝の種類
・図示による　・
砂地業に用いる材料
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャラン
・切込砂利又は切込砕石
・現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度(N/mm2)
※18　・
スランプ(cm)
※15又は18　・
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※SD295　・
・排水枡が現場打ちの場合の足掛け金物
※標準仕様書21.2.2(6)(ｵ)
材質
・ステンレス製
・鋼製
・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料
・
（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う　・行わない

2．鋳鉄製ふた (21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた（車庫内）	・水封形 ・簡易密閉形（ﾊﾟｯｷﾝ式） ・密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・中ふた付き密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

3．グレーチング (21.2.1)

・外構図参照

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ
※鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・ ・枠なし	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目
・ｽﾃﾝﾚｽ製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・

4．街きょ、縁石 及び側溝 (21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状・寸法
・縁石	・図示による　・
・L形側溝	・図示による　・
・U形側溝	・図示による　・
・U形側溝ふた	・図示による　・
・	・図示による　・

砂地業に用いる材料
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
※再生クラッシャラン　・切込砂利又は切込砕石
砂利地業の厚さ（mm）
※100　・図示による

21 排水工事

・現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度（N/mm2）
※18
スランプ（cm）
※15又は18
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※SD295
凍上抑制層に用いる材料
・
（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う　・行わない

5．埋戻し土

※B種　・　(21.2.1)

22 舗装工事

1．路床

路床の材料　(22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　※B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示による ・
・凍上抑制層	※再生クラッシャラン ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書21.2.2による）	・図示による ・
・フィルター層	標準仕様書22.2.3.(3)による	・図示による ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 ）
・行う
※行わない
・路床安定処理
安定処理の方法
・置き換え工法
・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類
※普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（・特号　・1号）
・消石灰（・特号　・1号）
添加量
・　kg/m3（CBR　・3以上　・　）
・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)
・0.5～1.0　・
引張強さ
・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数
・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

試験
路床土の支持力比（CBR）試験
※行う　・行わない
路床締固め度の試験
※行う　・行わない
現場CBR試験
※行う　・行わない

2．路盤

(22.3.2、3)(表 22.3.1)
路盤の厚さ
・図示による　・
路盤材料（標準仕様書表22.3.1による種別）
・クラッシャラン
・粒度調整砕石
※再生クラッシャラン
・再生粒度調整砕石
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・粒度調整鉄鋼スラグ
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

③ アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　(22.4.2～6)(表 22.4.4)
※図示による　・
材料
アスファルト
⊙再生アスファルト
（標準仕様書表22.4.1による種類：　・60～80　⊙80～100）
・ストレートアスファルト
骨材
・道路用砕石
⊙アスファルトコンクリート再生骨材
加熱アスファルト混合物等の種類
⊙密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13)
・密粒度アスファルト混合物(13F)
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・
試験
アスファルト混合物等の切抜試験及び抽出試験
※行う
・行わない

4．コンクリート舗装

コンクリート舗装の構成及び厚さ(C-7-10)　(22.5.2～4、6)(表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装		・図示による	・図示による　・
		・図示による	※70

材料
コンクリート
※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による
・以下による
コンクリートの種類　（　）
設計基準強度（N/mm2）　（　）
所定のスランプ（cm）　（※12　・　）
粗骨材の最大寸法（mm）　（　）
早強ポルトランドセメント
・使用する　※使用しない
注入目地材料
※低弾性タイプ
・高弾性タイプ
目地
・標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
・以下による
種類　・
間隔　・（　）m程度ごと
構造　・図示による
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

5．カラー舗装

・加熱系カラー舗装　(22.6.2～4)
構成・厚さ
・図示による　・
加熱系混合物の結合材
※アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　%）
添加材
着色骨材（　）
自然石　（　）
・常温系カラー舗装
工法
・ニート工法（配合その他：　）
・塗布工法　（配合その他：　）
着色部の下部
・アスファルト舗装
・コンクリート舗装
・
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

6．透水性アスファルト舗装

舗装の構成　(22.7.2、3、6)
・図示による　・
材料
骨材
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材
（標準仕様書表22.4.1による種類：　・60～80　・80～100）
舗装の平たん性
※著しい不陸がないもの
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
・行う
・行わない

7．ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装　(22.8.2、3)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60 ・	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材
※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
・

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	車路	・図示による ・	※80 ・	※5.0 ・	表面加工 ・
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	歩行者用通路	・図示による ・	※60 ・	※3.0 ・	

クッション材
※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ間の段差は3mm以内とする。
・

・舗石舗装

種類	形状・寸法（mm）	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ（mm）
・花こう岩 ・	・割石 ・図示による ・	・	・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版	※70 ・
				・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※70 ・

クッション材
※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。
・

・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)
・0.5～1.0　・
引張強さ
・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数
・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

8．砂利敷き

種別　(22.9.2)
※A種（施工範囲：　・図示による　※通路　・　）
※B種（施工範囲：　・図示による　※建物周囲その他　・　）

23 植栽及び屋上緑化工事

1．植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験　(23.1.3)
・行う　・行わない
電気伝導度（EC）の試験
・行う　・行わない

2．植栽基盤の整備

樹木の植栽基盤の整備　(23.2.2、4)
・適用する　・適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ（mm）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示による ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示による ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備
・設ける（※図示による　・　）
・設けない

3．植込み用土

※現場発生土の良質土　(23.2.3)
・客土

4．土壌改良材

種類及び指定量等　(23.2.3)
・バーク堆肥
施工箇所
※植栽範囲　・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・50L　・　）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
施工箇所
※植栽範囲　・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・10L　・　）

5．樹木

樹種、寸法、株立数等　(23.3.2)
※図示による

6．支柱

支柱材　(23.3.2、3)
※丸太（間伐材）　・真竹
防腐処理方法
※加圧式防腐処理丸太材
形式
・図示による　・

7．幹巻き用材料

材料　(23.3.2)
※幹巻き用テープ　・わら及びこも

8．芝

種類　(23.4.2、3)
※コウライシバ　・ノシバ
芝張りの工法
平地
※目地張り　・べた張り
法面
※べた張り法面　・目地張り

9．吹付けは種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

10．地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

11．新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処置

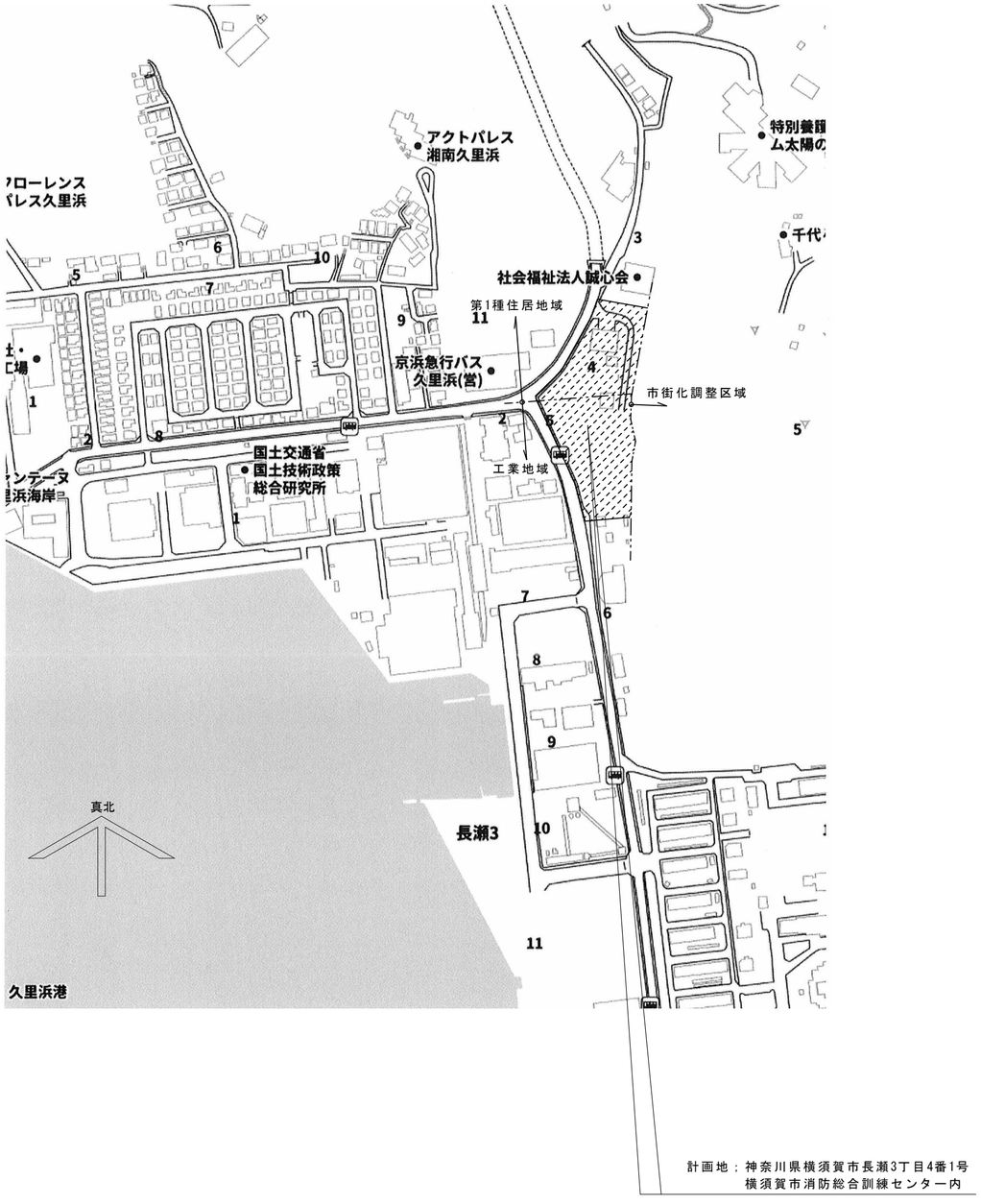
(23.3.4、6)（23.4.7)(23.5.5)
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の
枯補償の期間
※引渡しの日から1年　・無し　・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から1年　・無し　・

12．屋上緑化

植栽基盤及び材料　(23.5.2～4)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ
・図示による　・
排水層
・軽量骨材（層の厚さ：　）
・板状成形品
植込み用土
※改良土
・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等
※図示による　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
※図示による
支柱
・設置する
・設置しない
形式
・図示による
・
かん水装置
・設置する
・設置しない
種類
・図示による
・

工事区分表

工事内訳		建築	電気	機械	別途
開口補強					
1	梁、床、壁貫通部の設備用ｽﾘｰﾌﾞ	○	○	○	
2	同上補強鉄筋	○			
3	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ、ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ等の開口部		○		
4	同上補強鉄筋及び取付	○			
電気設備関係					
1	照明機器		○		
2	同上スイッチ		○		
3	主任技術者立会費用		○		
機械設備関係					
1	雨水竪樋、側溝及び雨水ｺﾝｸﾘｰﾄ桝	○			
2	埋設雨水配管			○	
3	ﾄﾞﾚﾝﾊﾞﾗﾘ	○			
4	屋外足洗い場共栓			○	
5	屋外足洗い場自立ｼｬﾜｰ			○	
外周り					
1	外壁ｽﾘｰﾌﾞ廻りのｼｰﾘﾝｸﾞ	○	○	○	
2	外部足洗い改修	○		○	
3	同上止水栓及び排水管取付			○	
4	ﾎｰｽﾘﾌﾀｰ本体及び支柱鉄骨柱、基礎	○			
5	ﾎｰｽﾘﾌﾀｰまでの配線引込		○		
その他					
1	一次電源供給及び設置線の配管、配線		○		
2	配管支持金物類のｲﾝｻｰﾄ取付		○	○	
3	消火器（スタンド・ボックス共）	○			



計画地；神奈川県横須賀市長瀬3丁目4番1号
横須賀市消防総合訓練センター内

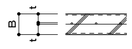
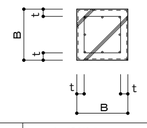
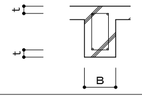
案　内　図

建　築　概　要

工事名称	消防総合訓練センター訓練塔・補助訓練塔新築工事	
建設地	神奈川県横須賀市長瀬3丁目4番1号（地名地番；横須賀市長瀬3-280-1ほか1筆）	
主要用途	【全体】消防訓練場	
工事種別	新　築	
用途地域	工業地域（容積率；200%、建ぺい率；60%）	第１種住居地域（容積率；200%、建ぺい率；60%）
防火地域	指定なし（法22条区域）	準防火地域
その他	第2種高度地区（建築物の高さの最高限度20m）	第1種高度地区（建築物の高さの最高限度15m）
	くりはま花の国眺望点、久里浜港眺望点　C･D地区（建築等の高さの最高限度30.0m）	くりはま花の国眺望点、久里浜港眺望点　C地区（建築等の高さの最高限度22.5m）
	屋外広告物等規制地域（第2種許可）	屋外広告物等規制地域（第1種許可）
	宅地造成等工事規制区域	同　左
	土砂災害警戒区域(急傾斜)長瀬3丁目2-2 区域番号:201-H19-7072(警戒区域･急傾斜)	同　左
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜)長瀬3丁目2-2 区域番号:201-H19-7072-1(警戒区域･急傾斜)	同　左
	公共下水道排水区域	同　左
	都市計画区域・景観計画区域	同　左
	都市機能誘導区域外	同　左
	居住誘導区域外	居住誘導区域内
	【訓練塔Ａ塔】	【補助訓練塔Ｂ塔】
構造	鉄筋コンクリート造 5階建て	鉄筋コンクリート造+鉄骨造 2階建て
基礎	直接基礎	杭基礎
最高高さ	17,434	7,099
最高軒高	16,134	7,009
敷地面積	9,833.01㎡（2,968.54坪）	
建築面積	700.66㎡（211.53坪）建ぺい率；7.13% ＜ 60%　【既存建物；屋内訓練棟　517.02㎡、ﾎﾞﾝﾌﾞ室 11.40㎡、高圧ｶﾞｽ製造施設21.00㎡】	
	Ａ塔建築面積；102.71㎡、Ｂ塔建築面積；69.53㎡　計；172.24㎡	
延床面積	1,915.70㎡（578.34坪）容積率　；19.48% ＜ 200%　【既存建物；屋内訓練棟 1385.91㎡、ﾎﾞﾝﾌﾞ室 11.40㎡、高圧ｶﾞｽ製造施設21.00㎡】	
	■訓練塔【Ａ塔】 各階床面積	■訓練補助塔【Ｂ塔】 各階床面積
	１階；92.98㎡	１階；63.00㎡
	２階；81.55㎡	２階；53.86㎡
	３階；72.00㎡	計　；116.86㎡
	４階；62.00㎡	
	５階；72.00㎡	
	計　；380.53㎡	

法第28条の2第1号及び第2号	建築材料に石綿等の使用なし。
法第28条の2第3号	居室内装の仕上げ及び天井裏等の建材は、規制対象外（F☆☆☆☆）とする。

【Ａ塔】耐火構造

認定番号	H12告示第1399号	1･2時間耐火	認定番号	H12告示第1399号	30分耐火
A塔	■ 壁【間仕切壁(耐力壁)、外壁(耐力壁)・RC造】		A塔	■ 屋根【RC造】	
	■1階（2時間） B:100以上、t:30以上 ■2～5階（1時間） B:70以上、t:30以上		鉄筋コンクリート造（かぶり厚さ20以上）		
A塔	■ 柱【RC造】		A塔	■ 階段【RC造】	
	■1階（2時間） B:250以上、t:30以上 ■2～5階（1時間） B:ー、t:30以上		鉄筋コンクリート造		
A塔	■ 床【RC造】				
	■1階（2時間） B:100以上、t:20以上 ■2～5階（1時間） B:70以上、t:20以上				
A塔	■ 梁【RC造】				
	■各階（1･2時間） B:ー、t:30以上				

B:構造体厚さ、t:かぶり厚さ

【Ｂ塔】準耐火構造と同等の準耐火性能を有する構造（ロ-2）

認定番号	法2条 9-3 他	認定番号	法2条 9-3 他
B塔	■ 壁【間仕切壁(耐力壁)､外壁(耐力壁)；RC造】	B塔	■ 屋根
RC造；不燃材料で造る		鉄骨造；不燃材料で葺く	
B塔	■ 柱【1F:RC造、2F；S造】	B塔	■ 階段
鉄骨造；不燃材料で造る		鉄骨造；不燃材料で造る	
B塔	■ 床【2F；RC造】		
RC造；不燃材料で造る			
B塔	■ 梁【1F:RC造、2F；S造】		
鉄骨造；不燃材料で造る			

外部仕上表	訓練塔【Ａ塔】	補助訓練塔【Ｂ塔】
屋根	ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞt=150【告示1400号；不燃材】+ﾓﾙﾀﾙの上、超速硬化ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(駐車場防水用)、排水溝W100、 水勾配1/100（SGP製ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ×２）、ﾊﾞﾗﾍﾟｯﾄH=200	鉄骨下地の上、縞鋼板t=6.0【告示1400号；不燃材(金属板)】(端部折下100、溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上)。ライン引（要救助者待機円×２）。床着色(赤)W500･1000
	落下防止手摺；(手摺･横桟･手摺子)FB-6×50､(支柱)FB-12×50 溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上、防護柵H-1100	落下防止手摺；(手摺･横桟･手摺子)FB-6×50､(支柱)FB-12×50 溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上
	ロープ応用登はん板上部支点、登はん梯子上部支点、想定立ち木、門型支柱　他訓練用金物	引揚救助施設(やぐら)、訓練用ﾛｰﾌﾟ設備一式
外壁	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修+着色撥水材、外壁出隅部；目地棒(25*25)、伸縮調整目地(25*25)	1階（RC部）；ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修+着色撥水材、外壁出隅部；目地棒(25*25)、伸縮調整目地(25*25)
	山岳救助訓練壁+疑似崖（鉄骨下地）、ロープ応用登はん板(ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt=16.5、寸法付)、登はん梯子、塔名表示；SUS箱文字 450*450*H30「Ａ」	2階（S部）；鉄骨造表し（溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上）
		引揚救助降下板(ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt=16.5、訓練用ライン引)、塔名表示；SUS箱文字　450*450*H30「Ｂ」
庇	ｺﾝｸﾘｰﾄ製　上面･側面；ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)、裏面；着色撥水材(外壁同仕様)	ｺﾝｸﾘｰﾄ製　上面･側面；ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)、裏面；着色撥水材(外壁同仕様)
庇（縞鋼板）	ｺﾝｸﾘｰﾄ(ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2))の上、塩害仕様鋼製床H-60+縞鋼板t=6.0（端部折下40、溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上）。手摺付き	鉄骨下地の上、縞鋼板t=6.0（端部折下40、溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上）。手摺付き
樋	ｶﾗｰVP 100･75φ(SUS製取付金物)、横引き用ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ100、ﾊﾞﾙﾆｰ中継ﾄﾞﾚﾝφ80	2階床面より下部；ｶﾗｰVP 75φ(SUS製取付金物)、横引き用ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ80
開口部	ｽﾃﾝﾚｽ製ｼｬｯﾀｰ､ｶﾗｰｱﾙﾐｻｯｼｭ、鋼製建具	鋼製建具
そ の 他	屋外階段　RC造 外壁；角部目地棒(25*25)、 床(排水溝W100*D25)；防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ仕上+垂付ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟﾀｲﾙ	屋外階段(手摺付)；鉄骨造（床；縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上)
	内壁；着色撥水材(外壁同仕様)+SUS製手摺34φ､上裏；着色撥水材(外壁同仕様)	手摺･横桟･手摺子；FB-6×50､支柱；FB-12×50 溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上＋手摺；SUS製φ34
	【機械設備工事】2～5階；連結送水管	
	2･4･5F訓練用ﾊﾞﾙｺﾆｰ　RC造 床(側溝W100*D10)；ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2 防滑･立上共)､ﾊﾞﾙｺﾆｰ用ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ(ｶﾗｰVP75φ)､天井･内壁；着色撥水材(外壁同仕様)､手摺	
	ﾍﾞﾗﾝﾀﾞ蹴破り想定戸、各種訓練用金物、5F；避難ﾊｯﾁ(開口寸法:520*600)	
	ホースリフター　10本×2列　計20本用	
	外　構　ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（密粒型）、地上支点（MHﾌｯｸ）×2、ｽﾀｰﾄﾗｲﾝ(W50)、確保ﾗｲﾝ(φ1500 W50)引	外　構　ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（密粒型）、地上支点（MHﾌｯｸ）×2、検索通路ﾗｲﾝ(W50)引（ﾎﾟｰﾙ用埋設金物×14）
	既存足洗い場　ｺﾝｸﾘｰﾄ製劣化部改修後、着色撥水材（下地調整共）。【機械設備工事】自立式ｼｬﾜｰ	

内部仕上表

	室名	床	巾木		壁	天井	天井高	備考
訓練塔 Ａ塔	【1F】倉庫（煙道）	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上	―		ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修	ｽﾗﾌﾞ･梁表し（ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修）	3,260・3,310	横坑(RC造)+竪坑(ｽﾃﾝﾚｽ製)、煙道
							0～3,310	消火器（ABC10型･ｽﾀﾝﾄﾞ共）
	【2F】放水･濃煙･検索室①	無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	300	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修+着色撥水材	ｽﾗﾌﾞ･梁表し(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修)+着色撥水材	3,180	放水排水用FRPﾄﾞﾚﾝφ80×2カ所（ﾊﾞﾙｺﾆｰ面）
		水勾配1/100、排水溝W100*D25			ﾃﾞﾝﾊﾞｰﾄﾞﾘﾙ用脱出開口、ｽﾓｰｸ投入口×1		～3,200	SGPﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ
	【2F】安全ﾈｯﾄ収納ｽﾍﾟｰｽ	無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	500	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修+着色撥水材（梁共）	同　上	2,750	落下防止手摺；(手摺･横桟･手摺子)FB-6×50､(支柱)FB-12×50 溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上
		ﾊﾞﾗﾍﾟｯﾄ(北面)H=500､排水溝W100*D25､ﾏﾝﾎｰﾙ(竪坑)					～2,840	水平ﾈｯﾄ(ﾜｲﾔｰ固定金物)一式、各種訓練用金物
	【2F】倉庫	無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	300	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修（梁共）	ｽﾗﾌﾞ･梁表し（ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修）	0	
		EXP.J（床-床、床ｺｰﾅｰ）					～2,025	
	【3F】ﾌﾞﾘｯｼﾞ救助訓練ｽﾍﾟｰｽ	【AX2～3】無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	300	柱は外壁と同仕様	ｽﾗﾌﾞ･梁表し(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修)+着色撥水材	2,800	落下防止手摺；(手摺･横桟･手摺子)FB-6×50､(支柱)FB-12×50 溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上。
		【AX1～2】塩害仕様鋼製床H-300+縞鋼板t=6.0(端部折下100、					～2,840	防護柵H-1100（支柱；φ60.5*3.2*1130、ﾊﾟｲﾌﾟ；φ42.7*1.6×4段､ﾍﾟｰｽﾌﾟﾚｰﾄ用）、訓練ﾛｰﾌﾟ金物一式
		溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上）、ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ塗膜防水(X-1)						各種訓練用金物、ﾗｲﾝ引き（けん引円､要救助者待機円）、SGPﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ、消火器（ABC10型･BOX共）
		ﾊﾞﾗﾍﾟｯﾄH=200､ﾗｲﾝ引、床着色(赤)W1000						
	【4F】放水･濃煙･検索室②	無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	300	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修+着色撥水材（梁共）	同　上	2,720	放水排水用FRPﾄﾞﾚﾝφ80×2カ所（ﾊﾞﾙｺﾆｰ面）
		水勾配1/100、排水溝W100*D25			ﾃﾞﾝﾊﾞｰﾄﾞﾘﾙ用脱出開口、ｽﾓｰｸ投入口×1		～2,740	
	【4F】訓練ｽﾍﾟｰｽ①	無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	300	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修+着色撥水材（梁共）	同　上	2,800	落下防止手摺；(手摺･横桟･手摺子)FB-6×50､(支柱)FB-12×50 溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上。消火器（ABC10型･BOX共）
		床開口（吹抜；2500*4000）、排水溝W100*D25				鉄骨；H-200*200×2本(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上)	～2,840	防護柵H-1100(支柱；60.5*3.2*1130、ﾊﾟｲﾌﾟ；φ42.7*1.6×4段､ﾍﾟｰｽﾌﾟﾚｰﾄ用）、各種訓練金物、SGPﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ
	【5F】放水･濃煙･検索室③	無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	300	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修+着色撥水材（梁共）	ｽﾗﾌﾞ･梁表し(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修)+着色撥水材	2,720	放水排水用FRPﾄﾞﾚﾝφ80×2カ所（ﾊﾞﾙｺﾆｰ面）
		水勾配1/100、排水溝W100*D25			ﾃﾞﾝﾊﾞｰﾄﾞﾘﾙ用脱出開口、ｽﾓｰｸ投入口×1		～2,740	迷路訓練施設（脱着支柱、ﾊﾟﾈﾙ）
		迷路訓練施設用金物						
	【5F】訓練ｽﾍﾟｰｽ②	無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	300	柱は外壁と同仕様	同　上	2,800	落下防止手摺；(手摺･横桟･手摺子)FB-6×50､(支柱)FB-12×50 溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上。消火器（ABC10型･BOX共）
		水勾配1/100、排水溝W100*D25					～2,840	
	【共通】廊下	無機系塗床(合成骨材配合散布型耐久床仕上)	同左	300	内壁(柱)；外壁と同仕様	同　上	4･5F；2,830～2,850	落下防止手摺；(手摺･横桟･手摺子)FB-6×50､(支柱)FB-12×50 溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上。消火器（ABC10型･BOX共）
		排水溝W100*D25					2F；3,280～3,300	防護柵H-1100(支柱；60.5*3.2*1130、ﾊﾟｲﾌﾟ；φ42.7*1.6×4段､ﾍﾟｰｽﾌﾟﾚｰﾄ用）、各種訓練金物、SGPﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ
補助訓練塔 Ｂ塔	【1F】倉庫	ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し仕上	―		ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修	ｽﾗﾌﾞ･梁表し（ｺﾝｸﾘｰﾄ打放補修）	2,850	消火器（ABC10型･ｽﾀﾝﾄﾞ共）
	【2F】安全ﾈｯﾄ収納ｽﾍﾟｰｽ	塩害仕様鋼製床+縞鋼板t=6.0(端部折下100、溶融			鉄骨柱（溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上）	縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上) 表し	3,494	防護柵H-1100（支柱；φ60.5*3.2*1130、ﾊﾟｲﾌﾟ；φ42.7*1.6×4段､ﾍﾟｰｽﾌﾟﾚｰﾄ用）
		亜鉛ﾒｯｷ仕上）、ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ塗膜防水(X-1)				鉄骨(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上)表し		水平ﾈｯﾄ（ﾜｲﾔｰ固定金物）一式、SGPﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ×2
		ﾊﾞﾗﾍﾟｯﾄSL+340						消火器（ABC10型･BOX共）

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUDO FUKUOKA 238 TEL.0468(53)7113

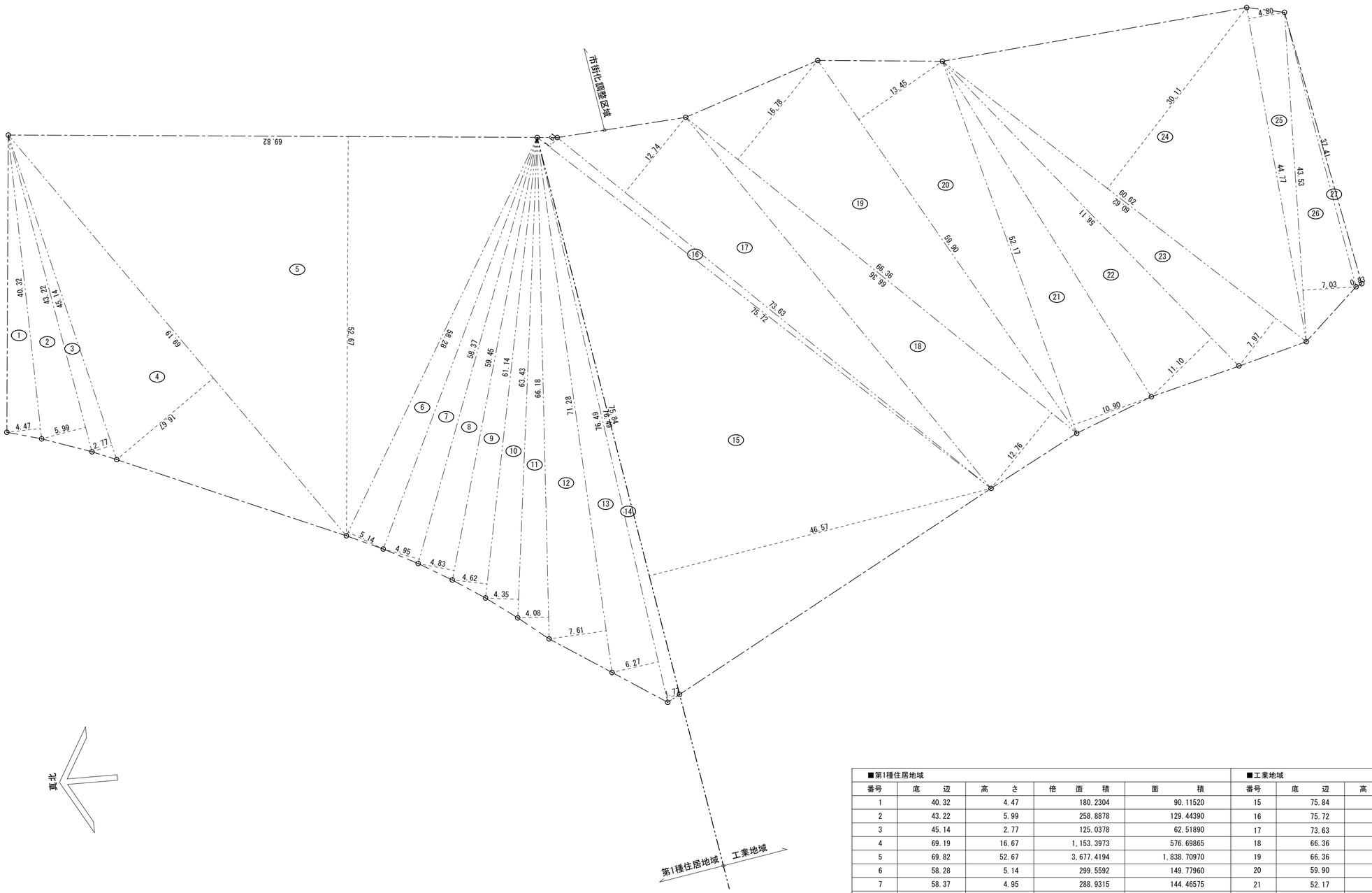
一級建築士事務所 第842876号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2171号
鈴木 篤
SIGNE UKE BY A.SUZUKI

企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木 篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　一級建築士登録 第338259号 鈴木 玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡 正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見 直
空調設備担当 MECANICAL ENG　長見 直

設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING　外部・内部仕上表
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE　1：－

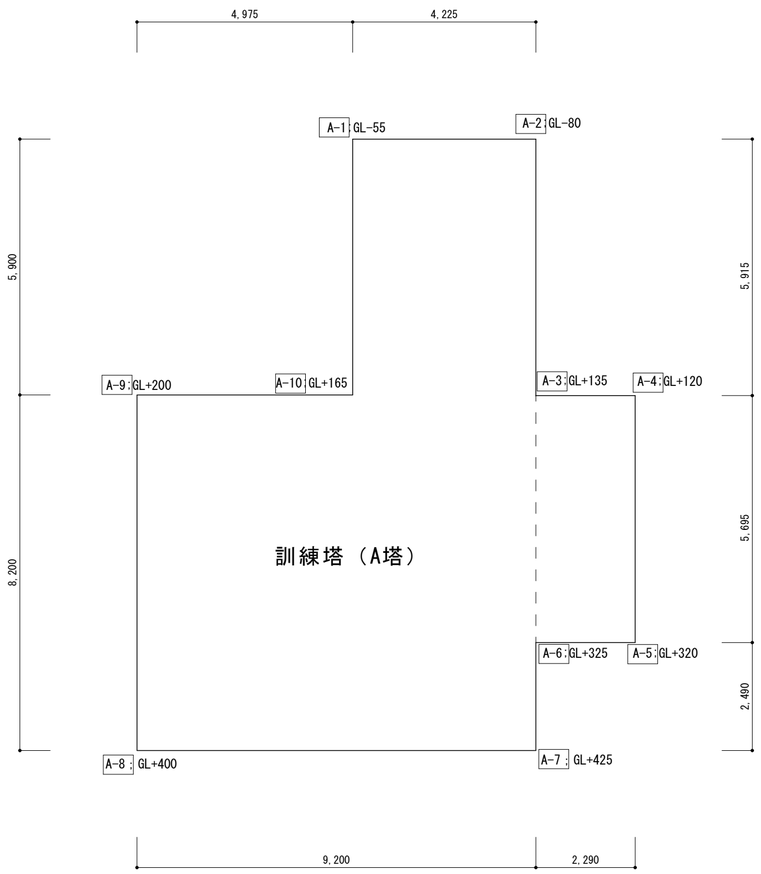
NO　A-13

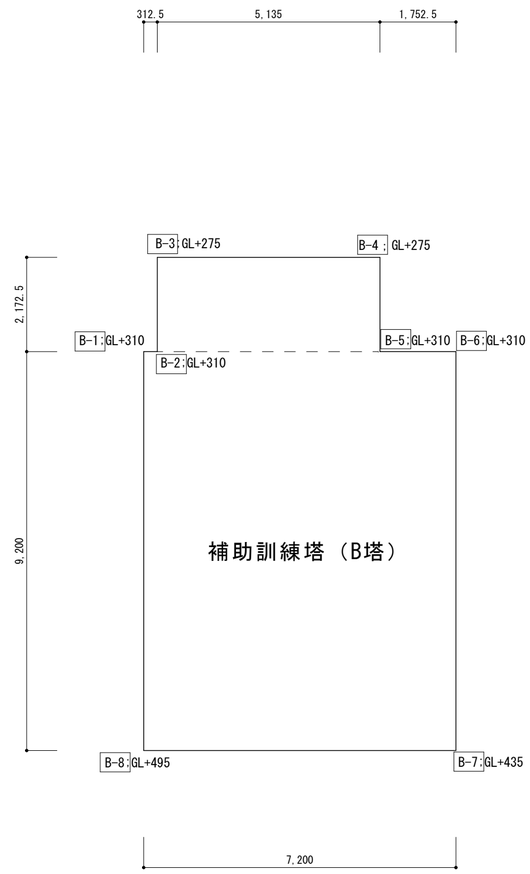


■第1種住居地域					■工業地域				
番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　積	番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　積
1	40.32	4.47	180.2304	90.11520	15	75.84	46.57	3,531.8688	1,765.93440
2	43.22	5.99	258.8878	129.44390	16	75.72	1.61	121.9092	60.95460
3	45.14	2.77	125.0378	62.51890	17	73.63	12.74	938.0462	469.02310
4	69.19	16.67	1,153.3973	576.69865	18	66.36	12.76	846.7536	423.37680
5	69.82	52.67	3,677.4194	1,838.70970	19	66.36	16.78	1,113.5208	556.76040
6	58.28	5.14	299.5592	149.77960	20	59.90	13.45	805.6550	402.82750
7	58.37	4.95	288.9315	144.46575	21	52.17	10.90	568.6530	284.32650
8	59.45	4.83	287.1435	143.57175	22	56.11	11.10	622.8210	311.41050
9	61.14	4.62	282.4668	141.23340	23	60.62	7.97	483.1414	241.57070
10	63.43	4.35	275.9205	137.96025	24	60.62	30.11	1,825.2682	912.63410
11	66.18	4.08	270.0144	135.00720	25	44.77	4.80	214.8960	107.44800
12	71.28	7.61	542.4408	271.22040	26	43.53	7.03	306.0159	153.00795
13	76.49	6.27	479.5923	239.79615	27	37.41	0.83	31.0503	15.52515
14	76.49	1.77	135.3873	67.69365					
第1種住居地域計				4,128.21450	工業地域計				5,704.79970
					合　計				9,833.01420
					敷地面積				9,833.01 m²

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(53)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2引5号 鈴木 篤 SIGNE UME BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 一級建築士登録 第338259号 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECHANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事 PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING	敷地求積図	A-14
DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE A2=1:300-A3=1:423	NO





■ 訓練塔（A塔）平均地盤面算定

A-1～A-2；（-55-80）×4225÷2＝-285187.5
A-2～A-3；（-80+135）×5915÷2＝+162662.5
A-3～A-4；（+135+120）×2290÷2＝+291975.0
A-4～A-5；（+120+320）×5695÷2＝+1252900.0
A-5～A-6；（+320+325）×2290÷2＝+738525.0
A-6～A-7；（+325+425）×2490÷2＝+933750.0
A-7～A-8；（+425+400）×9200÷2＝+3795000.0
A-8～A-9；（+400+200）×8200÷2＝+2460000.0
A-9～A-10；（+200+165）×4975÷2＝+907937.5
A-10～A-1；（+165-55）×5900÷2＝+324500.0
計　51180　+10582062.5

平均地盤面＝A-1～A-10/周長
＝+10,580,062.5÷51,180
＝+206.76167　→　GL+206mm

■ 訓練塔（B塔）平均地盤面算定

B-1～B-2；（+310+310）×312.5÷2＝+96875.0
B-2～B-3；（+310+275）×2172.5÷2＝+635459.3
B-3～B-4；（+275+275）×5135÷2＝+1412125.0
B-4～B-5；（+275+310）×2172.5÷2＝+635456.3
B-5～B-6；（+310+310）×1752.5÷2＝+543275.0
B-6～B-7；（+310+435）×9200÷2＝+3427000.0
B-7～B-8；（+435+495）×7200÷2＝+3348000.0
B-8～B-1；（+495+310）×9200÷2＝+3703000.0
計　37145　+13801187.5

平均地盤面＝B-1～B-8/周長
＝13,801,187.5÷37,145
＝+371.549　→　GL+371mm

■採光計算表（令111条、令116条の2）

階	室名	床面積	係数	必要開口面積	建具	W	H	個数	採光補正係数（A）	有効開口面積	判定
2	放水・濃煙・検索室①	17.25	1/20	0.87	AA塔AW-1	1.70	1.90	1	1.00	3.23	OK
4・5	放水・濃煙・検索室②③	20.70		1.04	AA塔AW-1	1.70	1.90	1	1.00	3.23	

※補正係数は、境界まで十分な距離があるため1.0として計算。

■換気計算表（法28条2項）

階	室名	床面積	係数	必要開口面積	建具	W	H	個数	有効開口面積	判定
2	放水・濃煙・検索室①	17.25	1/20	0.87	AA塔AW-1	1.70/2	1.90	1	1.61	OK
4・5	放水・濃煙・検索室②③	20.70		1.04	AA塔AW-1	1.70/2	1.90	1	1.61	

■排煙計算表（令116条の2第1項第2号、令126条の2第1項）

階	室名	床面積	係数	必要開口面積	建具	W	H	個数	有効開口面積	判定
2	放水・濃煙・検索室①	17.25	告示第1436号3号へ（5）							
4・5	放水・濃煙・検索室②③	20.70	床面積：100㎡以下　内装制限：壁・天井下地、仕上不燃　防煙垂壁にて区画；建具上部50cm以上							

■24時間換気【シックハウス】

換気扇設置免除；適用除外（H15告示第273号）
常時外気に開放された開口部と隙間の面積の合計が床面積1㎡あたり15cm2以上の居室
・放水・濃煙・検索室①　床面積17.25㎡、258.75cm2以上開口　⇒　デンパードリル用脱出開口900×900 OK
・放水・濃煙・検索室②③　床面積20.70㎡、310.50cm2以上開口　⇒　デンパードリル用脱出開口900×900 OK

■消防無窓階チェック

階	床面積	係数	必要開口面積	建具	W	H	個数	有効開口面積	判定
1	92.98	1/30	3.10	ASD-1	2.00	2.00	1	4.00	有窓
				ASD-2	0.90	2.00	2	3.60	
2	77.22		2.58	AAW-1	1.80/2	2.00	1	1.80	有窓
				北面	6.50	1.79	3	11.63	
3	72.00		2.40		北・西・東面全開口				有窓
4	56.60		1.89		北・西・東面全開口				有窓
5	66.60		2.22		北・西・東面全開口				有窓

■消防収容人員リスト

階	人数（人）
1	0
2	5
3	0
4	6
5	6
計	17

■非常用照明

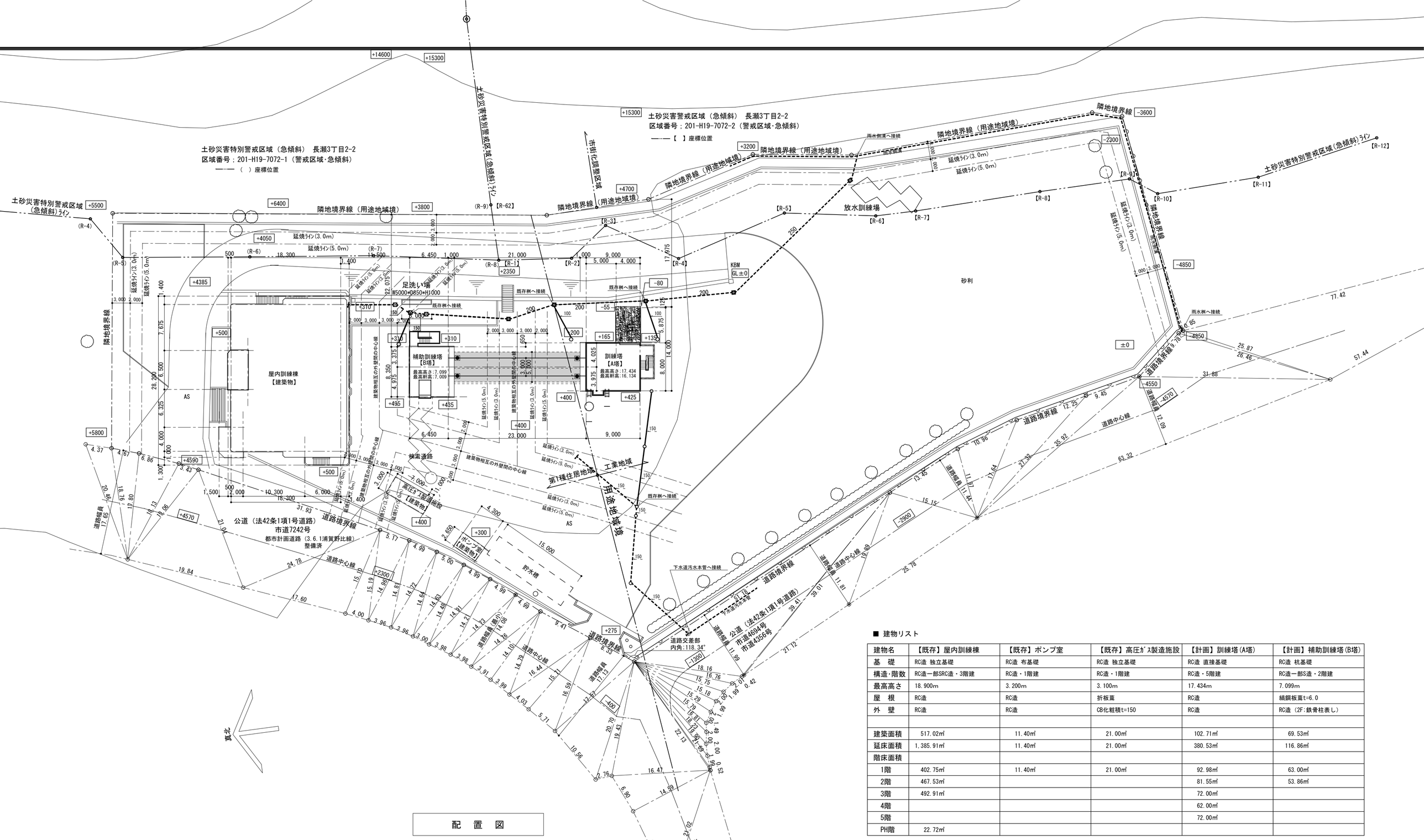
規制適用外
・特殊建築物（不特定多数の利用）ではない。
・階数3以上かつ500㎡超ではない。
・採光上有効な開口部 床面積1/20以上。
・1000㎡超の建築物の居室ではない。
・30㎡以下の居室で採光上有に直接外気に開放。

■消防無窓階チェック

階	床面積	係数	必要開口面積	建具	W	H	個数	有効開口面積	判定
1	63.00	1/30	2.10	BSD-1	2.00	2.00	1	4.00	無窓
2	53.86		1.80		北・西・南面全開口				有窓

■消防収容人員リスト

階	人数（人）
1	0
2	0
計	0



配　置　図

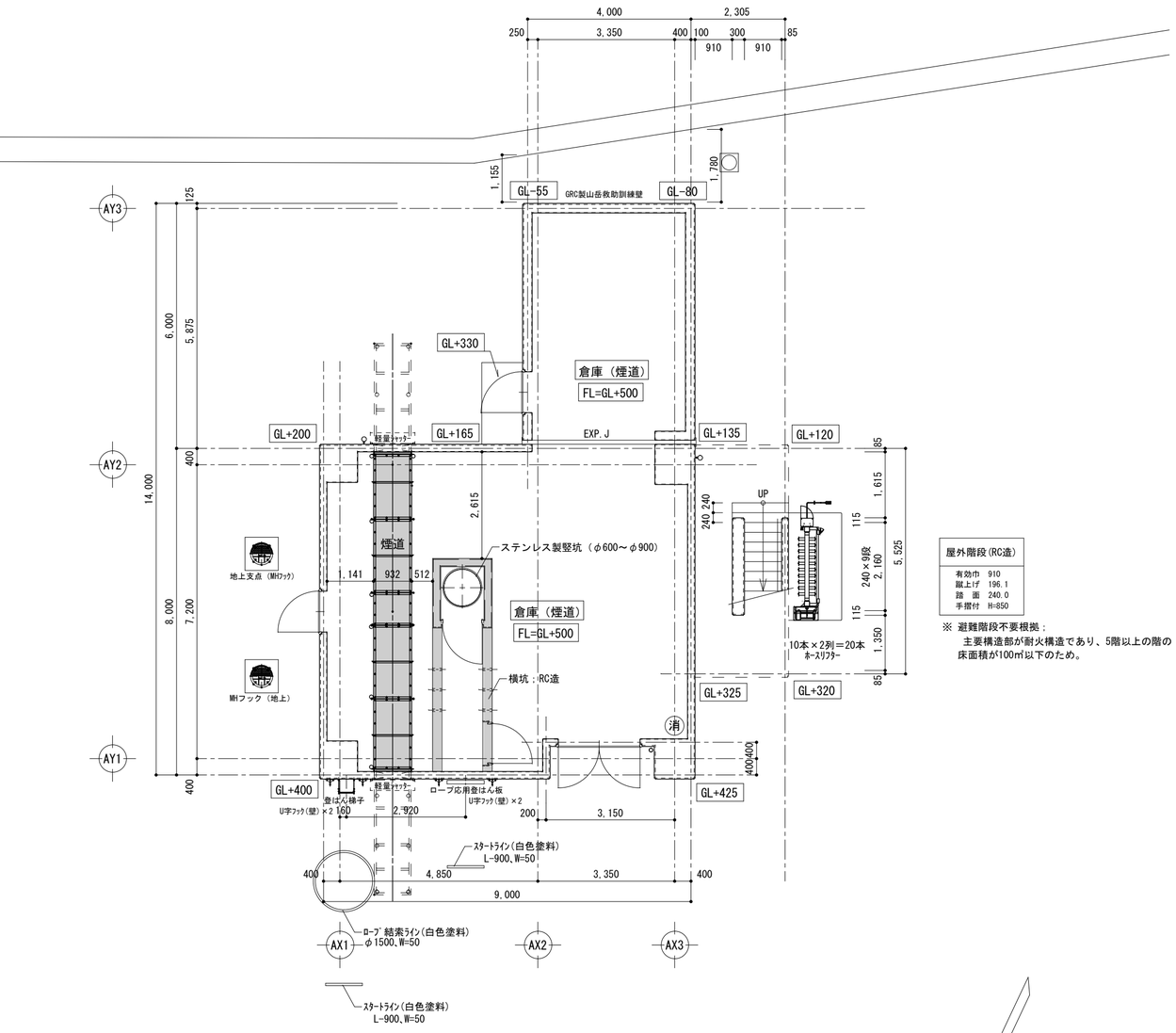
■ 建物リスト

建物名	【既存】屋内訓練棟	【既存】ポンプ室	【既存】高圧ガス製造施設	【計画】訓練塔(A塔)	【計画】補助訓練塔(B塔)
基　礎	RC造 独立基礎	RC造 布基礎	RC造 独立基礎	RC造 直接基礎	RC造 杭基礎
構造・階数	RC造一部SRC造・3階建	RC造・1階建	RC造・1階建	RC造・5階建	RC造一部S造・2階建
最高高さ	18.900m	3.200m	3.100m	17.434m	7.099m
屋　根	RC造	RC造	折板葺	RC造	縞鋼板葺t=6.0
外　壁	RC造	RC造	CB化粧積t=150	RC造	RC造（2F:鉄骨柱表し）
建築面積	517.02㎡	11.40㎡	21.00㎡	102.71㎡	69.53㎡
延床面積	1,385.91㎡	11.40㎡	21.00㎡	380.53㎡	116.86㎡
階床面積					
1階	402.75㎡	11.40㎡	21.00㎡	92.98㎡	63.00㎡
2階	467.53㎡			81.55㎡	53.86㎡
3階	492.91㎡			72.00㎡	
4階				62.00㎡	
5階				72.00㎡	
PH階	22.72㎡				

※ 盛土規制法の宅地造成等に関する工事はなし。
※ 横須賀市 土地利用行為承認及び特定建築行為の届出は対象除外。
※ がけ条例；等高線及び東側隣地高低は、国土地理院資料による。
横須賀市建築基準条例第5条検討済。
計画建物(A･B塔)は、崖の高さの2倍以上の離隔あり。
※ 土砂災害特別警戒区域線；出典は、神奈川県横須賀土木事務所から区域指定図入手による。
箇所番号；201-H19-7072（横須賀市長瀬3丁目、長瀬2丁目及び西浦賀6丁目）

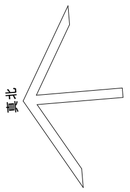
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113	一級建築士事務所 第842876号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 STONE UME BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤	設計担当 CHIEF DESIGNER 一級建築士登録 第338259号 鈴木 玲成	構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩	衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直	空調設備担当 MECHANICAL ENG 長見 直

設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター	図面名称 ITEM OF DRAWING	配置図・建物リスト
PROJECT NAMBER	訓練塔・補助訓練塔新築工事	DRAWING NAMBER	縮尺 A2=1:400-A3=1:564 SCALE
		NO	A-16



屋外階段(RC造)	
有効巾	910
蹴上げ	196.1
踏　面	240.0
手摺付	H=850

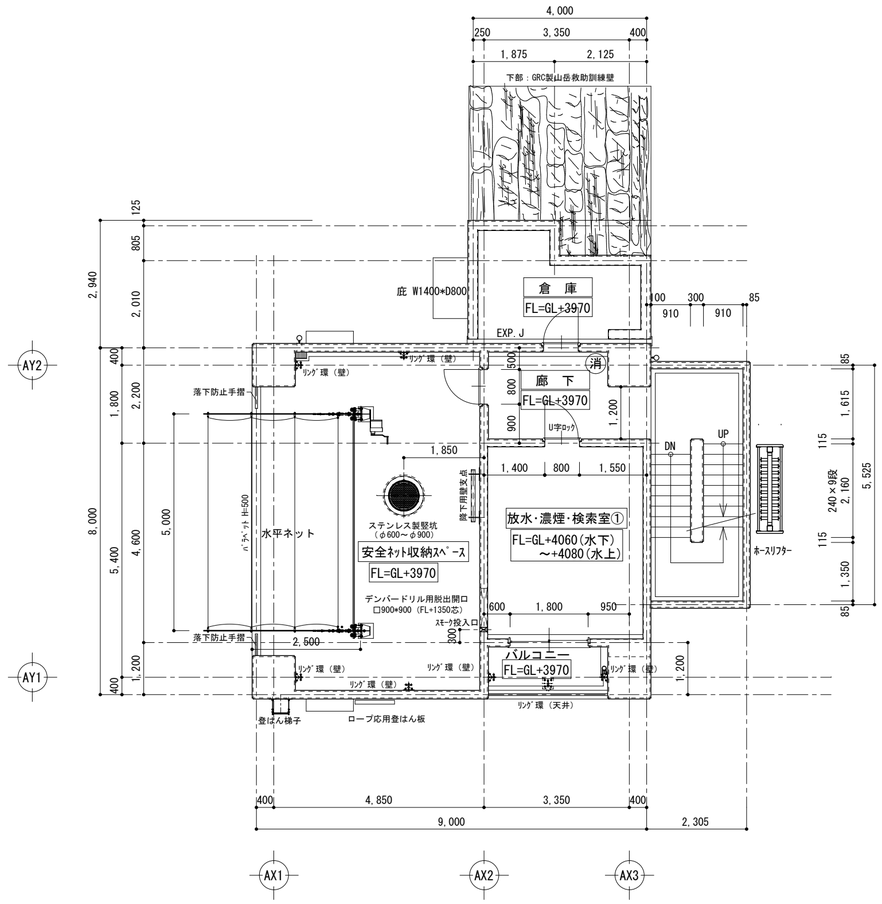
※ 避難階段不要根拠；
主要構造部が耐火構造であり、5階以上の階の床面積が100㎡以下のため。



【訓練塔 A塔】1階平面図

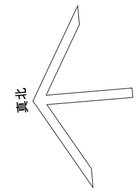
建築面積計算；8.0×9.0+5.875×4.0+5.525×1.305＝102.71㎡
1階床面積計算；8.0×9.0−0.8×3.15+5.875×4.0＝92.98㎡

凡例
消 消火器（ABC10型・ｽﾀﾝﾄﾞ付）



屋外階段(RC造)	
有効巾	910
蹴上げ	194.4
踏　面	240.0
手摺付	H=850

※ 避難階段不要根拠；
主要構造部が耐火構造であり、5階以上の階の床面積が100㎡以下のため。



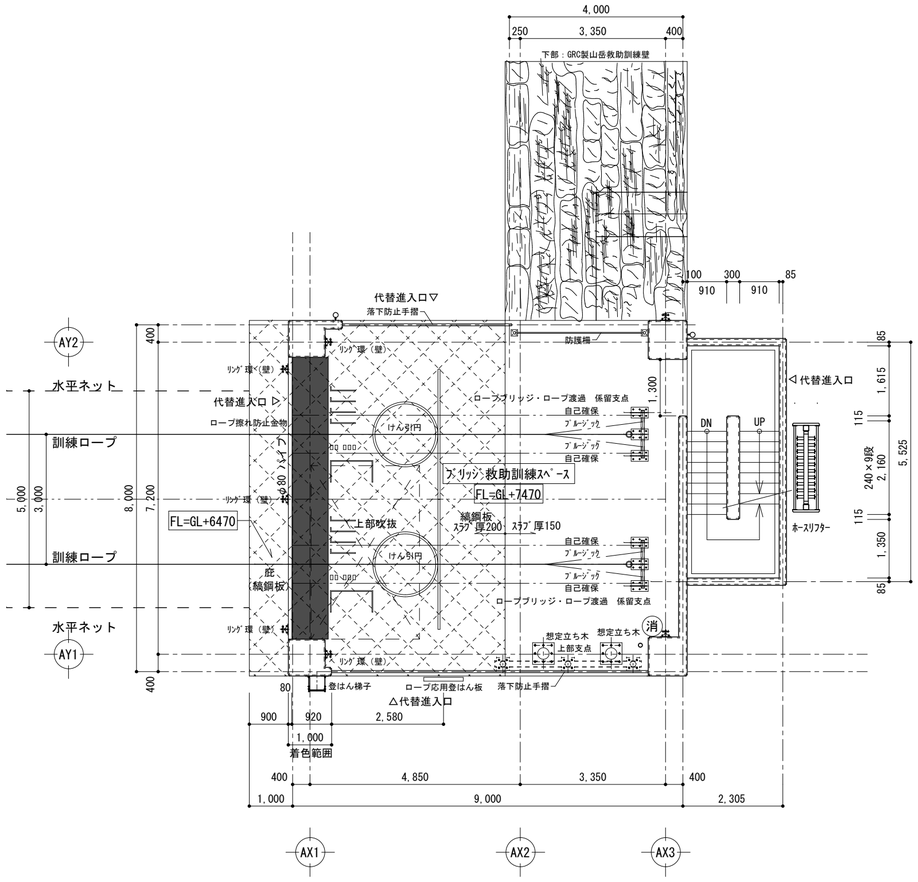
【訓練塔 A塔】2階平面図

2階床面積計算；8.0×9.0+2.815×1.875+2.010×2.125＝81.55㎡
（倉庫）

収容人員算定；放水・濃煙・検索室① 4.6×3.75＝17.25（㎡）÷3（㎡）＝5.75 ⇒ 5人

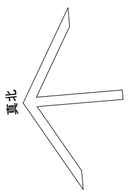
凡例
消 消火器（ABC10型・BOX付）

公開 PUBLISHED	2026年 9 月 18 日		
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-1-11 KUDO 1BOKUA 238 TEL.048(833)7113	一級建築士登録 第8428?号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2715号 鈴木 篤 SUZUKI AKIRA	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤
		設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成
		構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二
		電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
		衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
		空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見　直
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター	図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A塔】1階・2階平面図
PROJECT NAMBER	訓練塔・補助訓練塔新築工事	DRAWING NAMBER	A-17
		SCALE	縮尺 A2=1:100-A3=1:141
		NO	



屋外階段(RC造)
有効巾　910
蹴上げ　200.0
踏　面　240.0
手摺付　H=850

※ 避難階段不要根拠；
主要構造部が耐火構造であり、5階以上の階の床面積が100㎡以下のため。

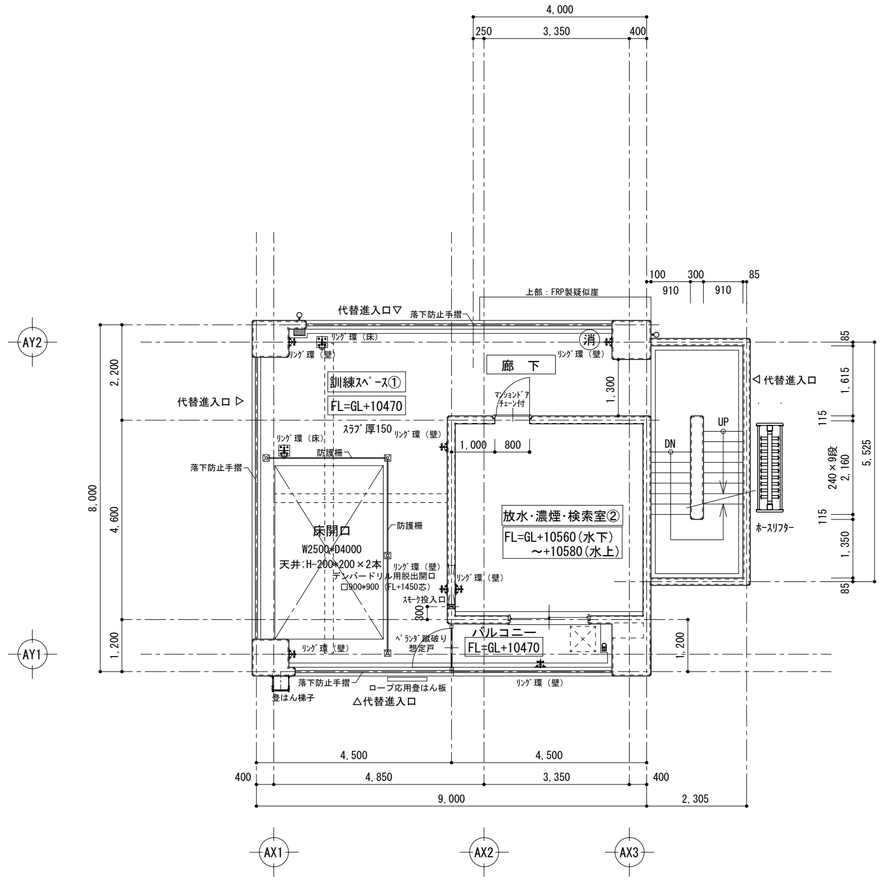


【訓練塔 A塔】3階平面図

3階床面積計算；8.0×9.0＝72.00㎡

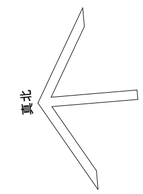
凡例

消 消火器（ABC10型・BOX付）



屋外階段(RC造)
有効巾　910
蹴上げ　200.0
踏　面　240.0
手摺付　H=850

※ 避難階段不要根拠；
主要構造部が耐火構造であり、5階以上の階の床面積が100㎡以下のため。



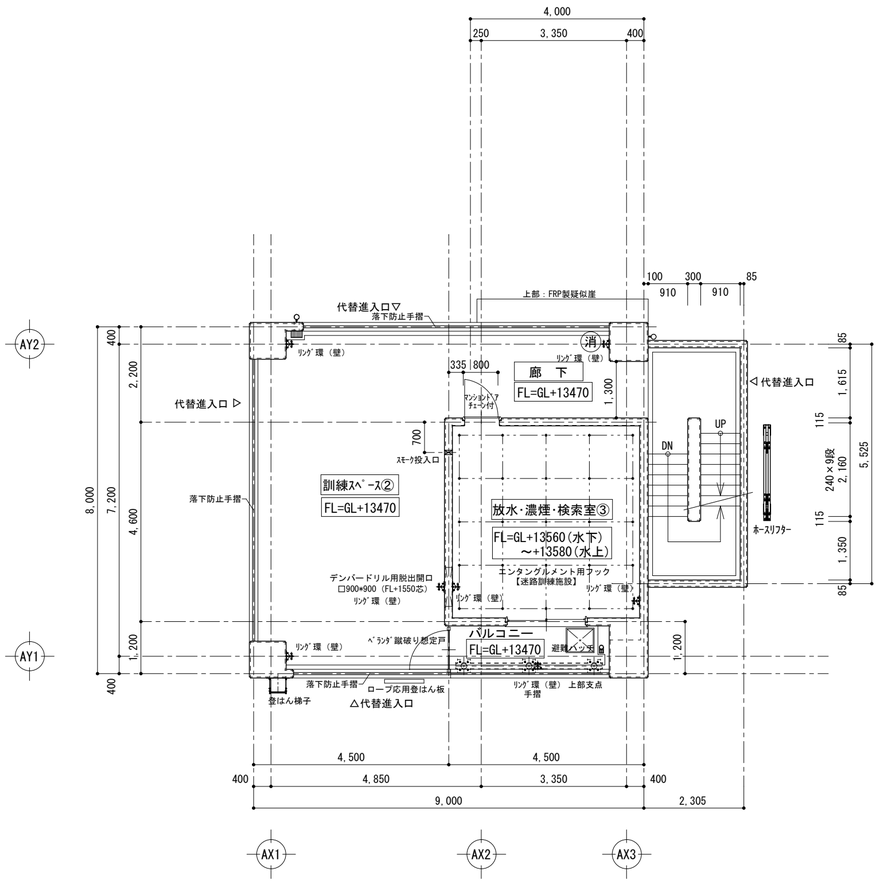
【訓練塔 A塔】4階平面図

4階床面積計算；8.0×9.0−4.0×2.5＝62.00㎡
（床開口）
収容人員算定；放水・濃煙・検索室② 4.6×4.5＝20.70（㎡）÷3（㎡）＝6.90 ⇒ 6人

凡例

消 消火器（ABC10型・BOX付）

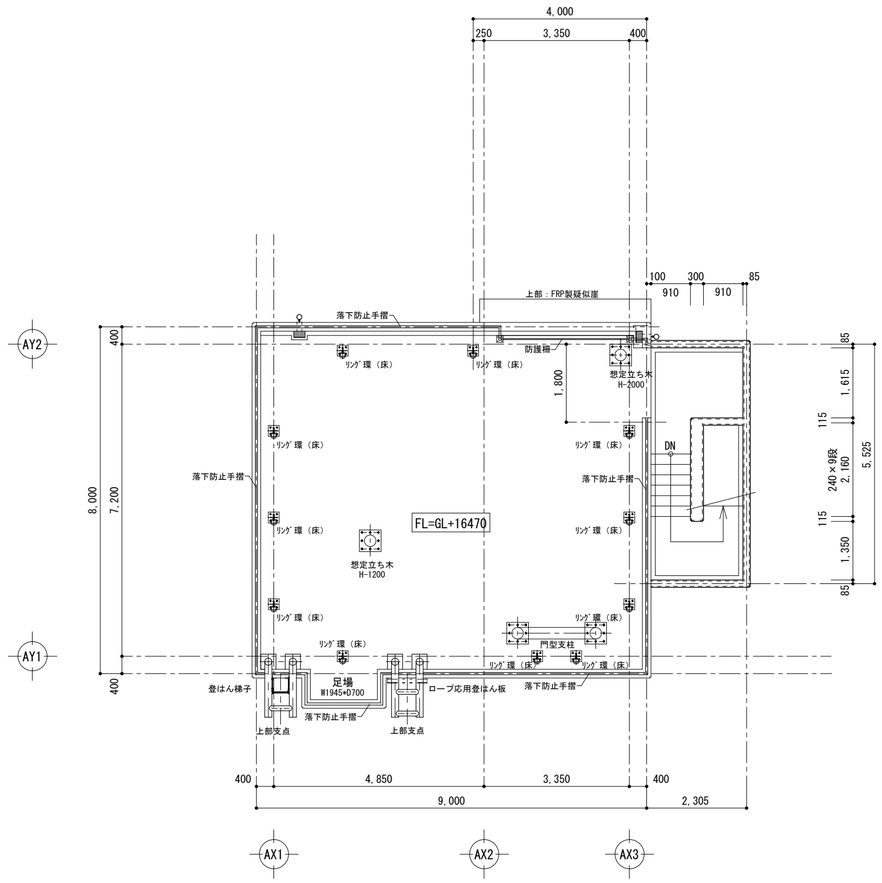
発行 PUBLISHED	2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDOU 1-CHOME FUKUOKA 238 TEL.0468(53)7113	一級建築士登録 第82287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SIGNE URE BY A.SUZUKI
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	一級建築士登録 第338359号 鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター	図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A塔】3階・4階平面図
PROJECT NAMBER	訓練塔・補助訓練塔新築工事	DRAWING NAMBER	A-18
		SCALE	縮尺 A2=1:100・A3=1:141



屋外階段(RC造)

有効巾	910
蹴上げ	200.0
踏　面	240.0
手摺付	H=850

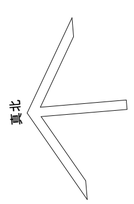
※ 避難階段不要根拠；
主要構造部が耐火構造であり、5階以上の階の床面積が100㎡以下のため。



屋外階段(RC造)

有効巾	910
蹴上げ	200.0
踏　面	240.0
手摺付	H=850

※ 避難階段不要根拠；
主要構造部が耐火構造であり、5階以上の階の床面積が100㎡以下のため。



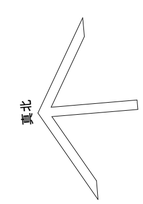
【訓練塔 A塔】5階平面図

5階床面積計算；8.0×9.0＝72.00㎡

収容人員算定；放水・濃煙・検索室③ 4.6×4.5＝20.70（㎡）÷3（㎡）＝6.90 ⇒ 6人

凡例

消 消火器（ABC10型・BOX付）

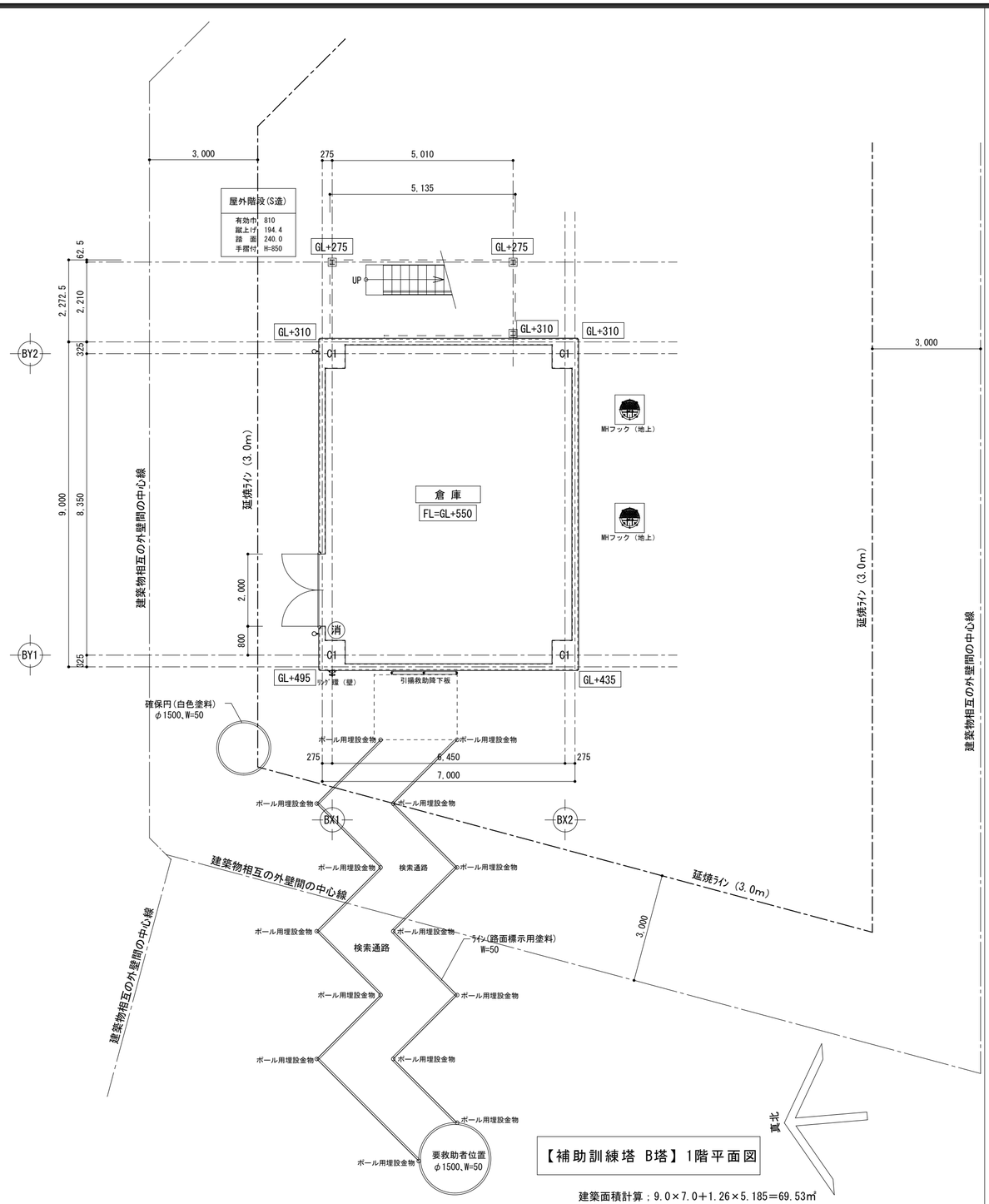


【訓練塔 A塔】R階平面図

発行 PUBLISHED	2026年 9 月 18 日	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN-MINAMI CHIYODA-KU TOKYO 102-0074 TEL.0468(53)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI SHIGEKI	設計担当 CHIEF DESIGNER	一級建築士登録 第338359号 鈴木　玲成
		構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二

電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩	設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直		訓練塔・訓練訓練塔新築工事
空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見　直	PROJECT NAMBER	

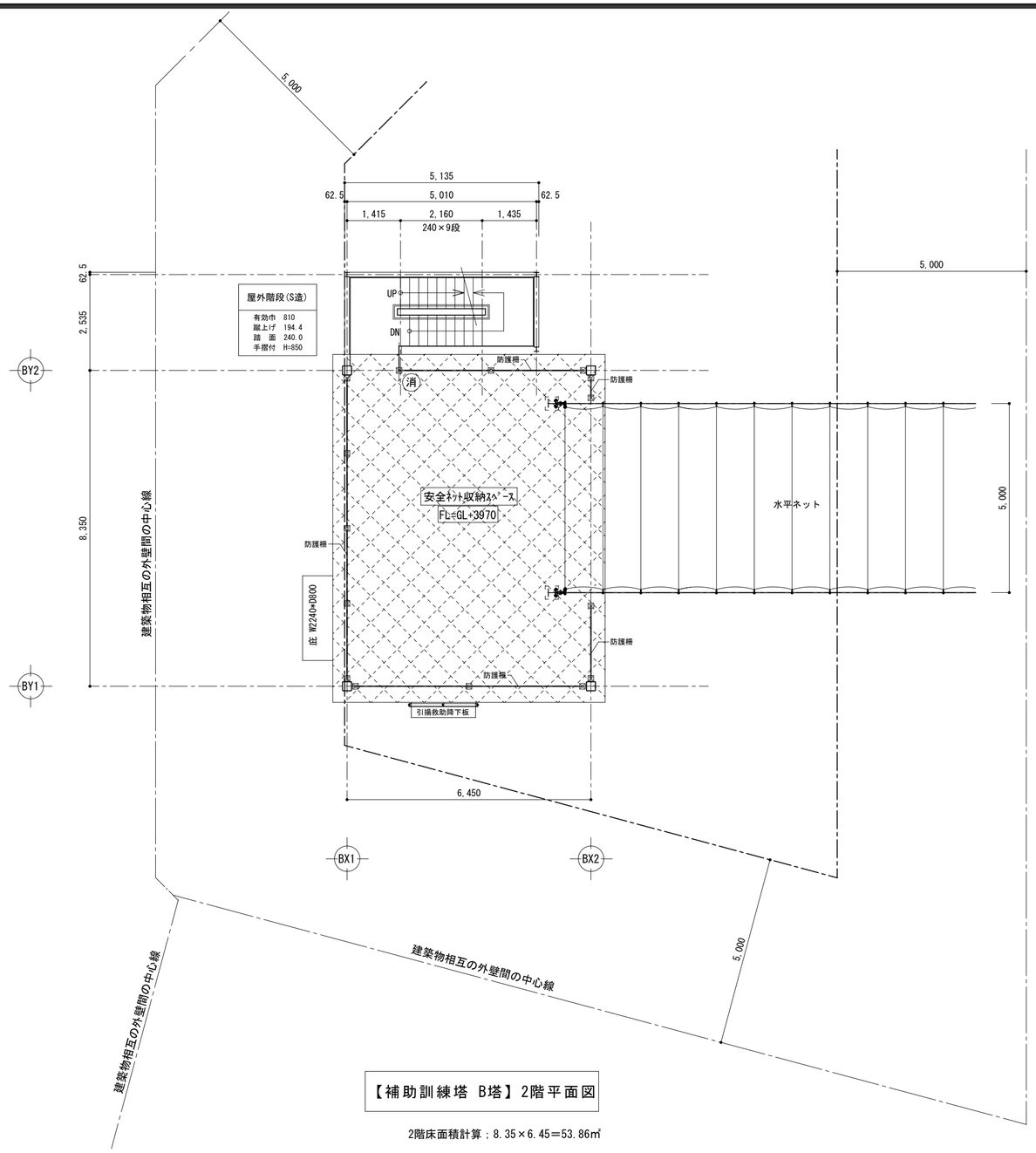
図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A塔】5階・R階平面図	A-19
DRAWING NUMBER	縮尺 SCALE A2=1:100・A3=1:141	NO



【補助訓練塔 B塔】1階平面図

建築面積計算；9.0×7.0+1.26×5.185＝69.53㎡
1階床面積計算；9.0×7.0＝63.00㎡

凡例
消 消火器（ABC10型・ｽﾀﾝﾄﾞ付）

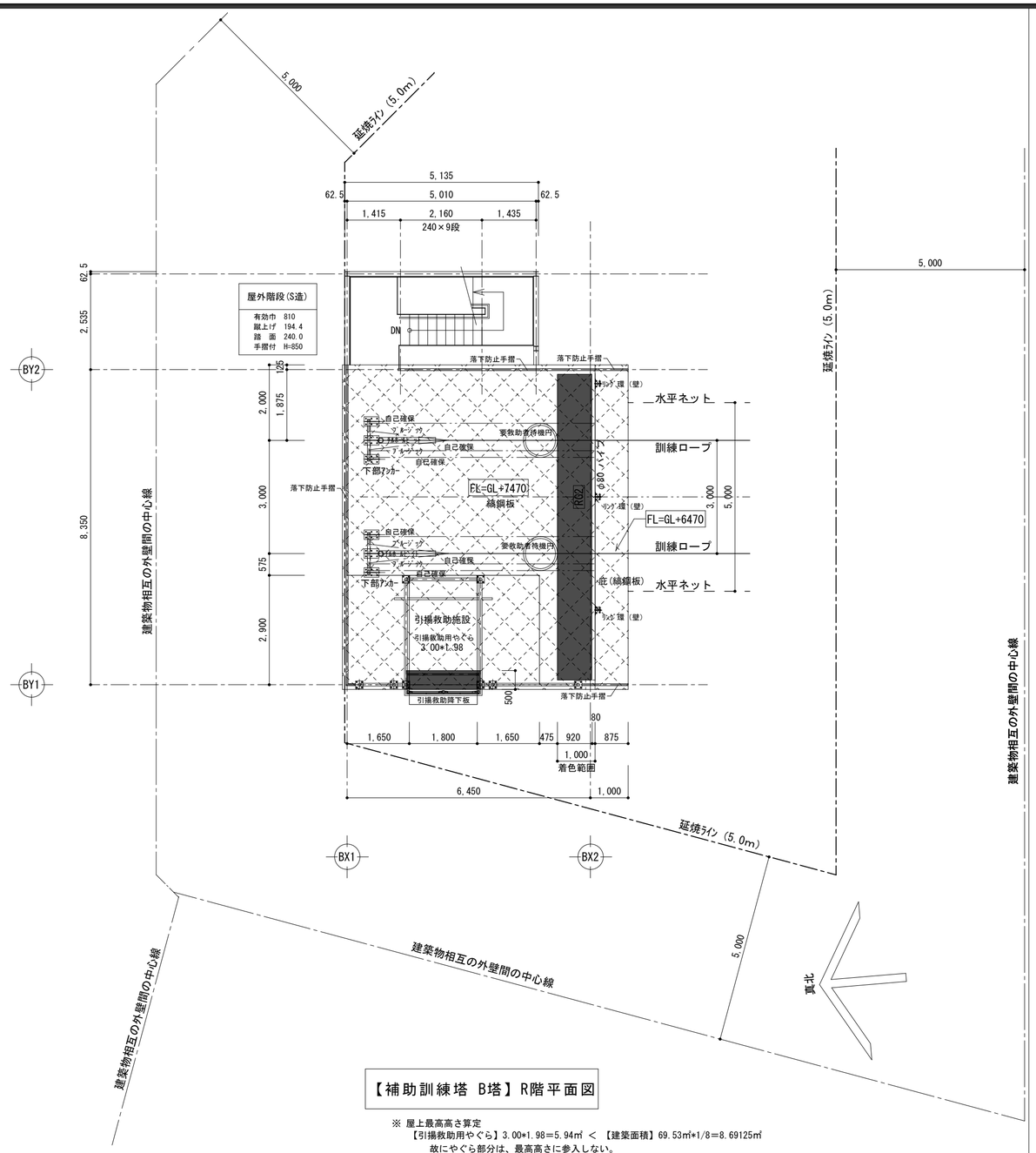


【補助訓練塔 B塔】2階平面図

2階床面積計算；8.35×6.45＝53.86㎡

凡例
消 消火器（ABC10型・BOX付）

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-1-11 KUDO-BOKUHA 230 TEL.0480(53)7113	一級建築士登録 第842876号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2575号 鈴木 篤 SIGNE UME BY A.SUZUKI	
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	一級建築士登録 第338259号 鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター	訓練塔・訓練補助塔新築工事	PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING	【補助訓練塔 B塔】1階・2階平面図	縮尺 SCALE A2=1:100・A3=1:141	DRAWING NAMBER
NO	A-20		

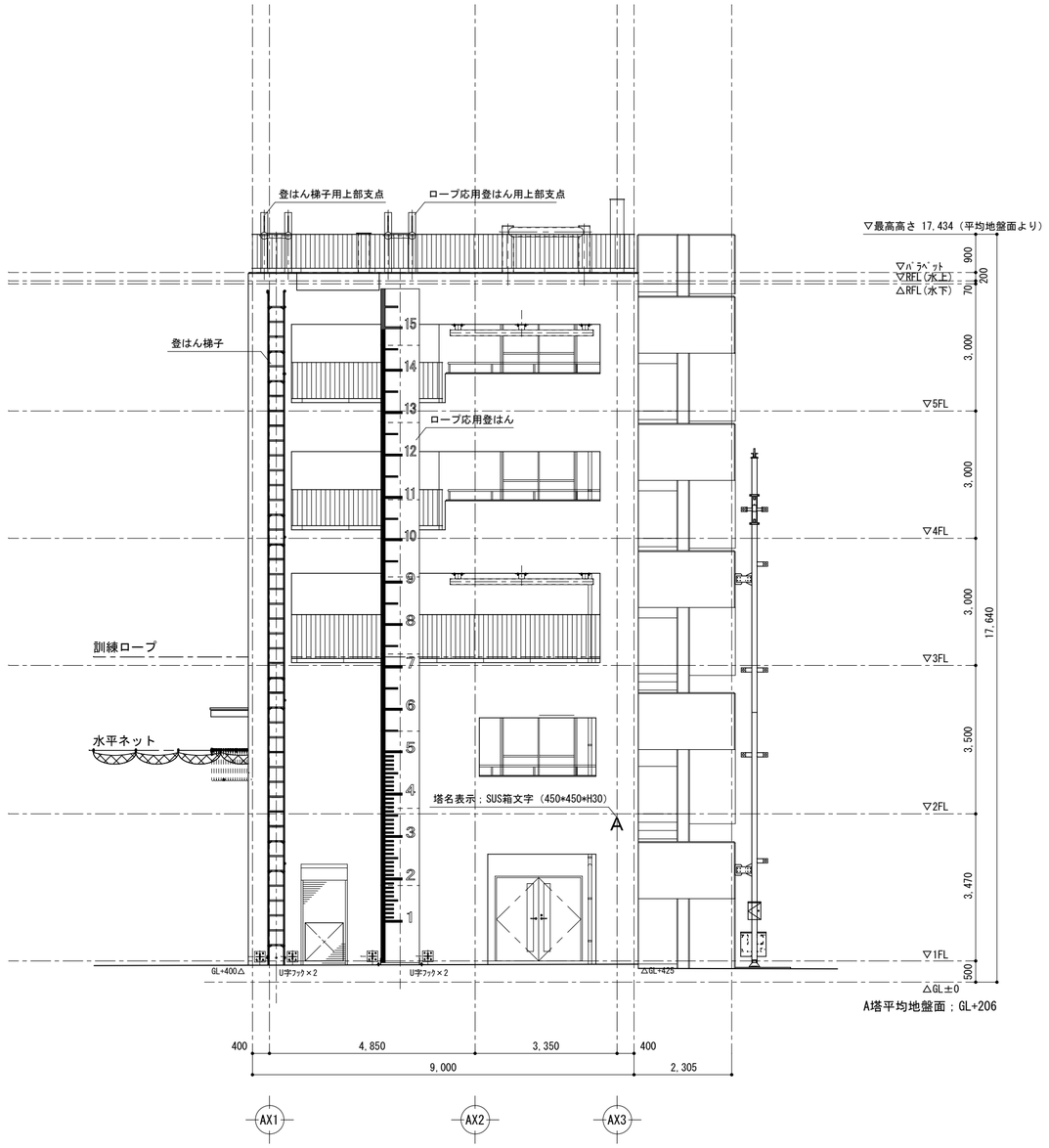


【補助訓練塔 B塔】R階平面図

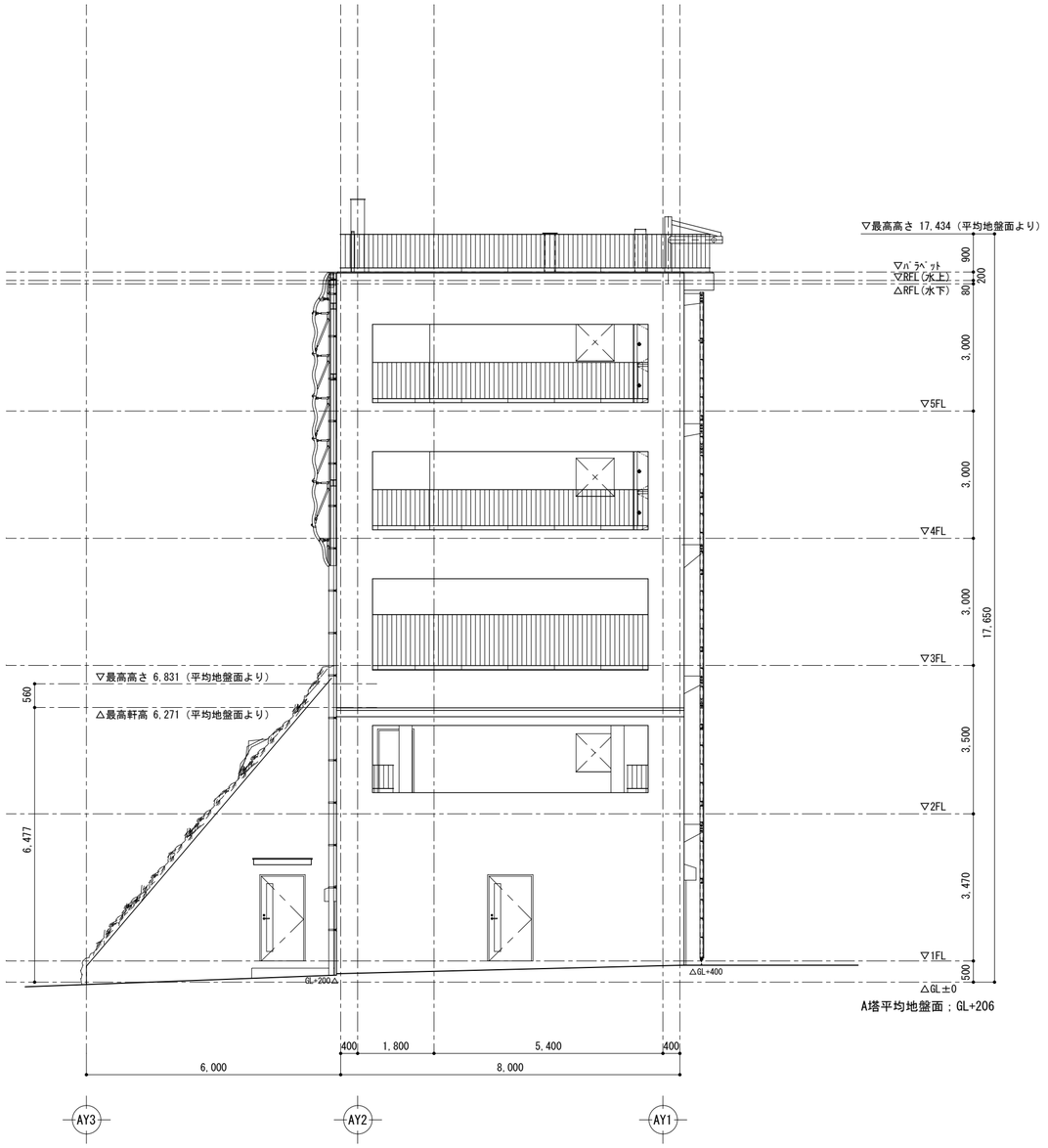
※ 屋上最高高さ算定
【引揚救助用やぐら】3.00*1.98＝5.94㎡ ＜ 【建築面積】69.53㎡*1/8＝8.69125㎡
故にやぐら部分は、最高高さに参入しない。

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN MINAMI CHIYODA-KU TOKYO 102-0074 TEL.03-6811-5337-7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター
			設計担当 CHIEF DESIGNER	一級建築士登録 第338259号 鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	訓練塔・訓練補助塔新築工事
			構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見 直	PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING	【補助訓練塔 B塔】R階平面図	A-21
DRAWING NAMBER	縮尺 A2=1:100・A3=1:141 SCALE	NO

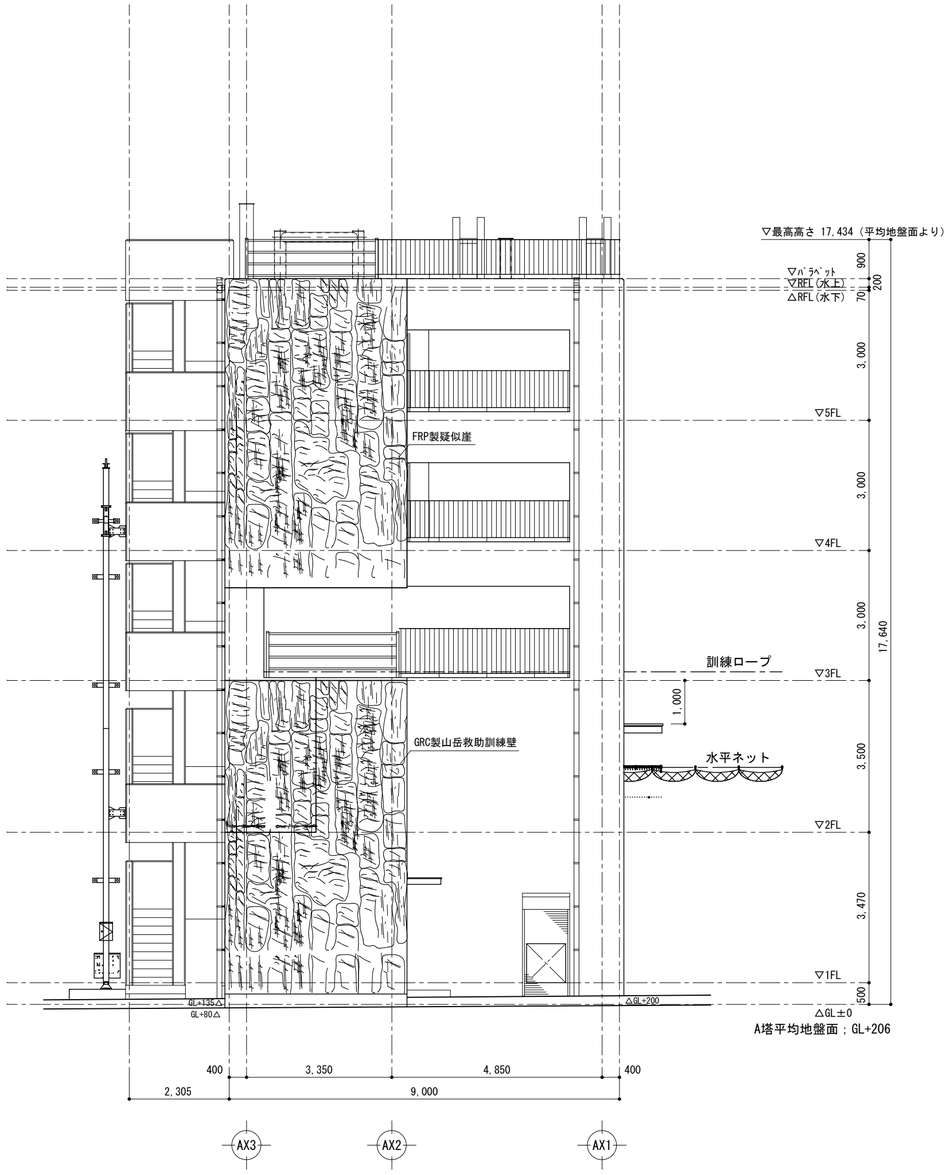


【訓練塔 A塔】西側立面図

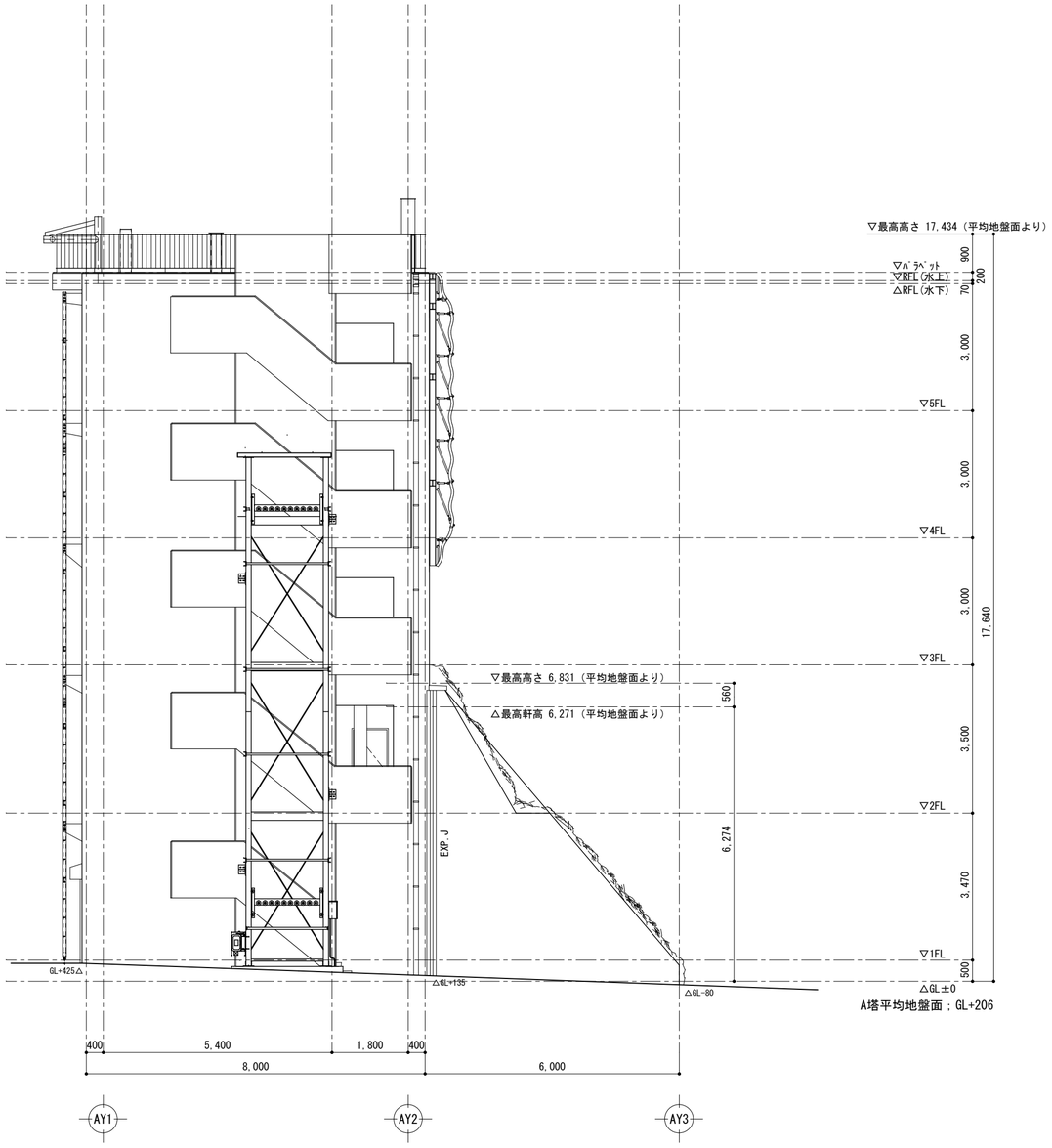


【訓練塔 A塔】北側立面図

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN-MINAMI CHIYODA-KU TEL.0468(53)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2175号 鈴木 篤 SIGNE UNE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 一級建築士登録 第338259号 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECANITCAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER 訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING 【訓練塔 A塔】立面図 1 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE A2=1:100-A3=1:141	NO A-22

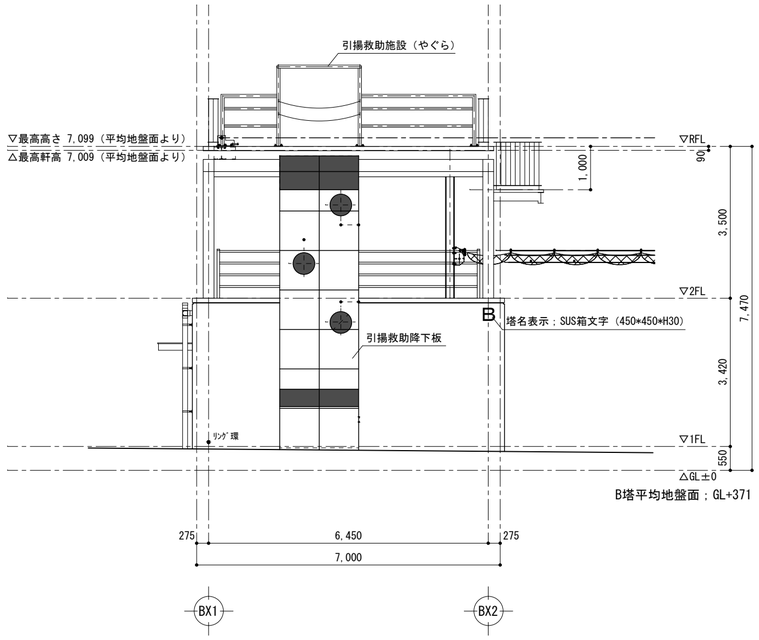


【訓練塔 A塔】東側立面図

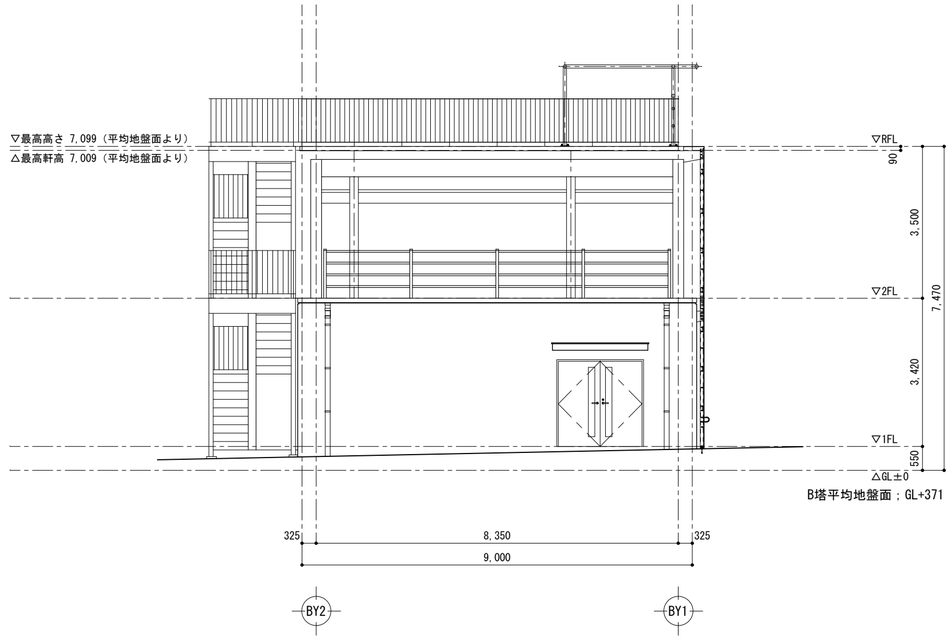


【訓練塔 A塔】南側立面図

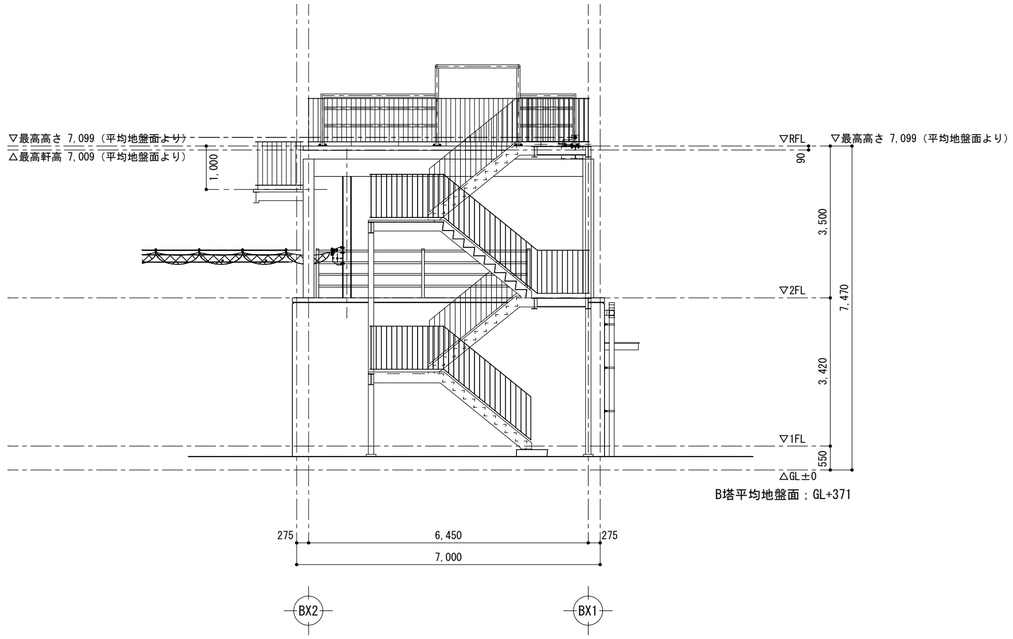
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-11-11 KUDO, FUCHUSHI 206 TEL.0423(33)7113	一級建築士登録 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SIGNE UKE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER: 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER: 一級建築士登録 第338259号 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG: 秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG: 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG: 長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG: 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER: 訓練塔・訓練訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING: 【訓練塔 A塔】立面図２ DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE: A2=1:100・A3=1:141	NO A-23



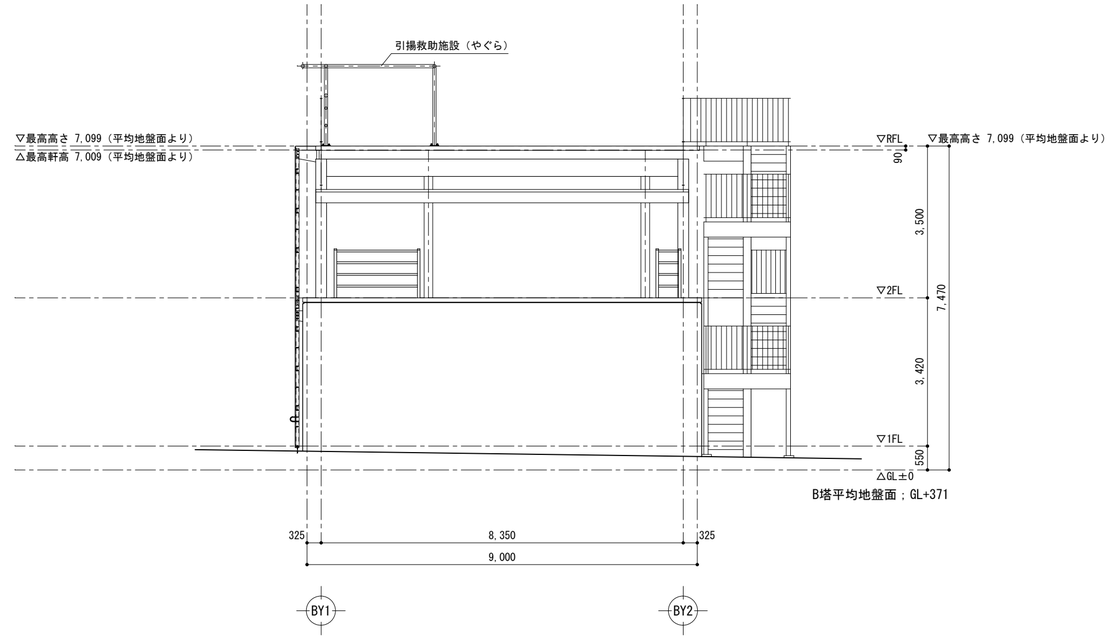
【補助訓練塔 B塔】西側立面図



【補助訓練塔 B塔】北側立面図



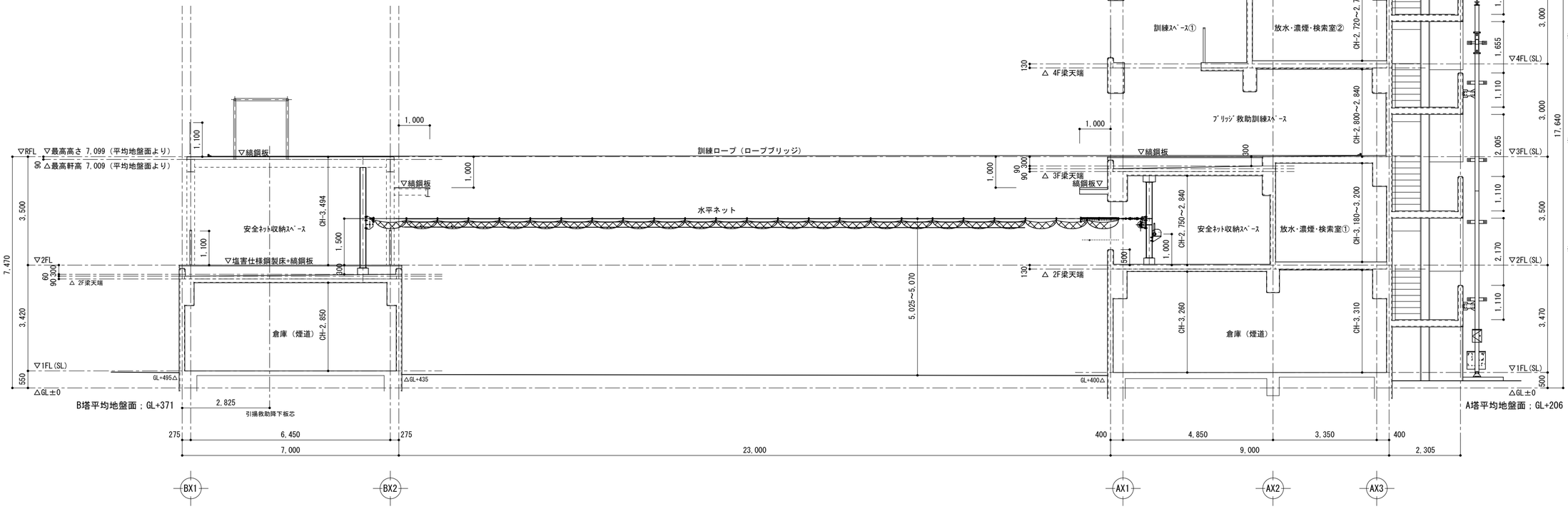
【補助訓練塔 B塔】東側立面図



【補助訓練塔 B塔】南側立面図

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN MINAMI CHIYODA-KU 102-0074 TEL.03(3511)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター
			設計担当 CHIEF DESIGNER	一級建築士登録 第338259号 鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	訓練塔・訓練補助塔新築工事
			構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見 直	PROJECT NUMBER

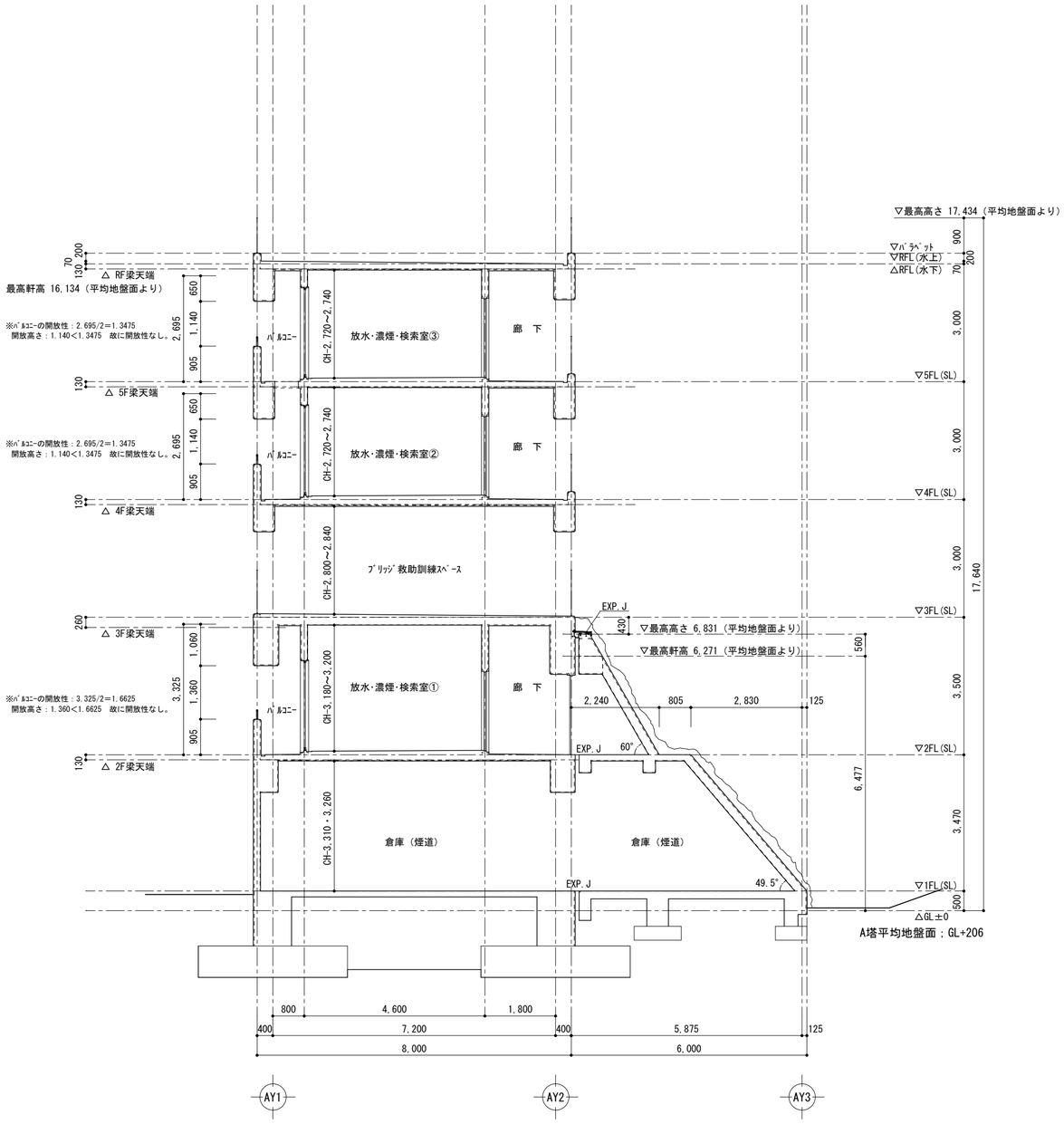
図面名称 ITEM OF DRAWING	【補助訓練塔 B塔】立面図	A-24
DRAWING NUMBER	縮尺 A2=1:100-A3=1:141 SCALE	NO



【補助訓練塔 B塔】断面図 1

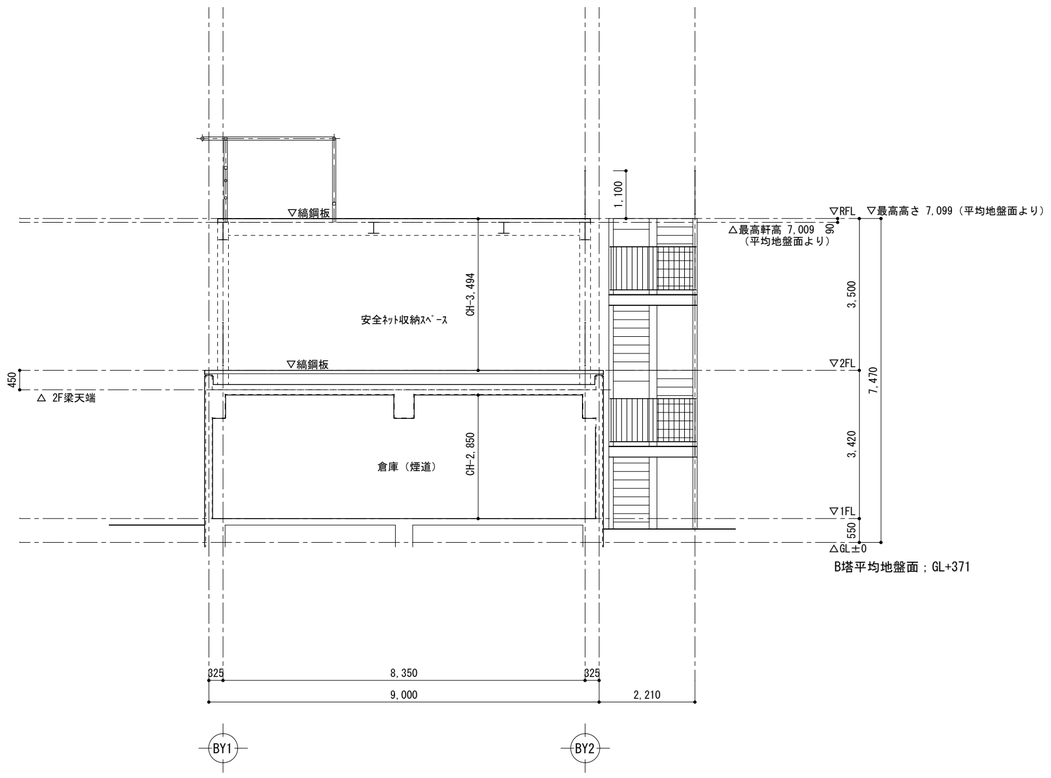
【訓練塔 A塔】断面図 1

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN MINAMI CHIYODA-KU TOKYO 102-0074 TEL.03-6261-7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤
設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成（一級建築士登録 第338259号）	構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩	衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直
空調設備担当 MECHANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター	PROJECT NUMBER 訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING 【訓練塔・補助訓練塔】断面図 1
DRAWING NUMBER	縮尺 SCALE A2=1:100・A3=1:141	NO A-25	



【訓練塔 A塔】断面図２

凡例：各階FLは、水下部分表示とする。

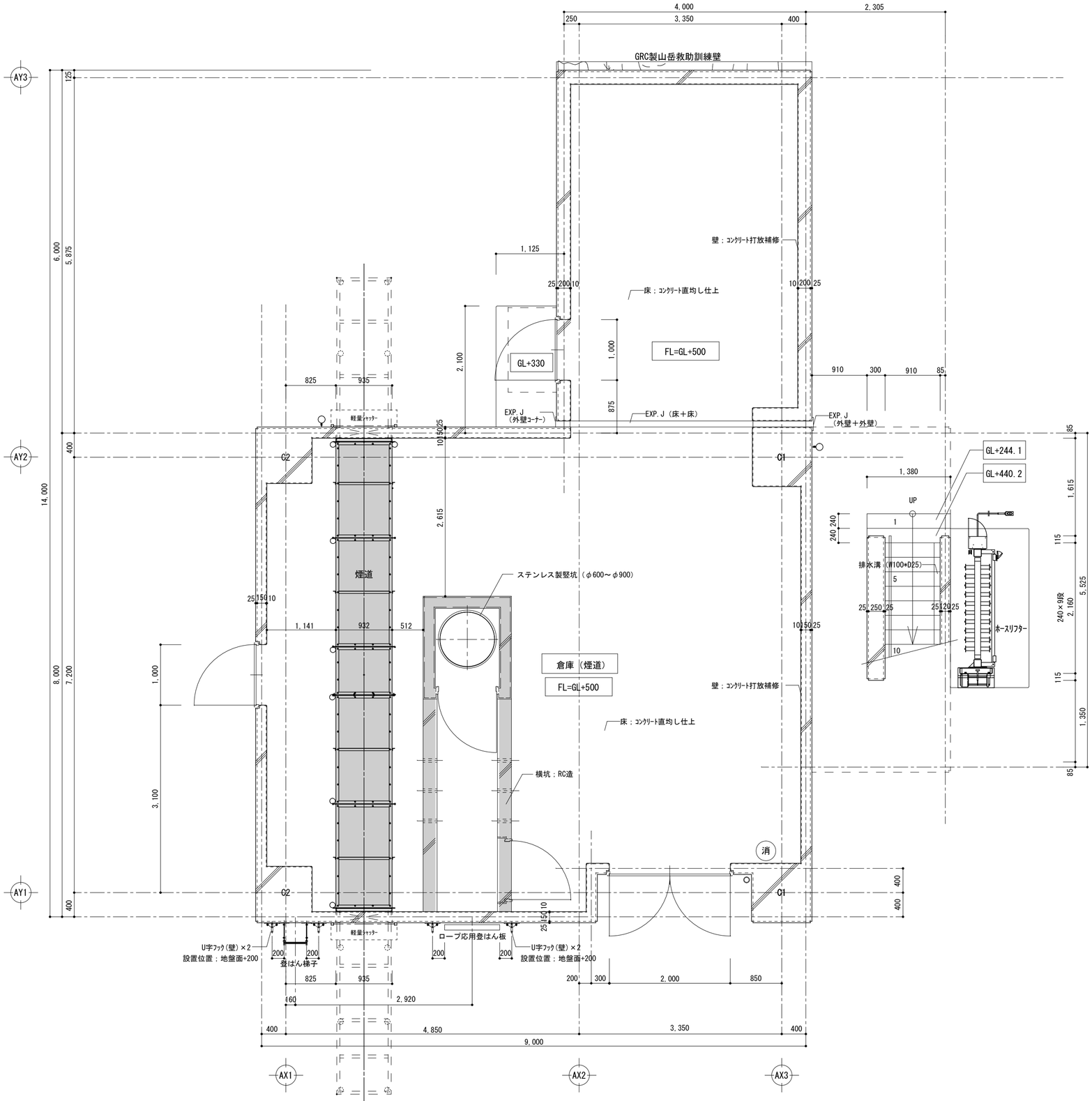


【補助訓練塔 B塔】断面図２

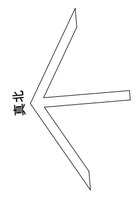
発行 2026年 3 月 24 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤
一級建築士登録 第82427号	一級建築士事務所登録（神奈川）第2575号	設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成
鈴 木 篤		構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二

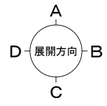
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	PROJECT NUMBER	訓練塔・補助訓練塔新築工事
空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直	図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔・補助訓練塔】断面図２
		DRAWING NUMBER	縮尺 A2=1:100-A3=1:141 SCALE

NO A-26



屋外階段(RC造)
有効巾　910
蹴上げ　196.1
踏　面　240.0
手摺付　H=850



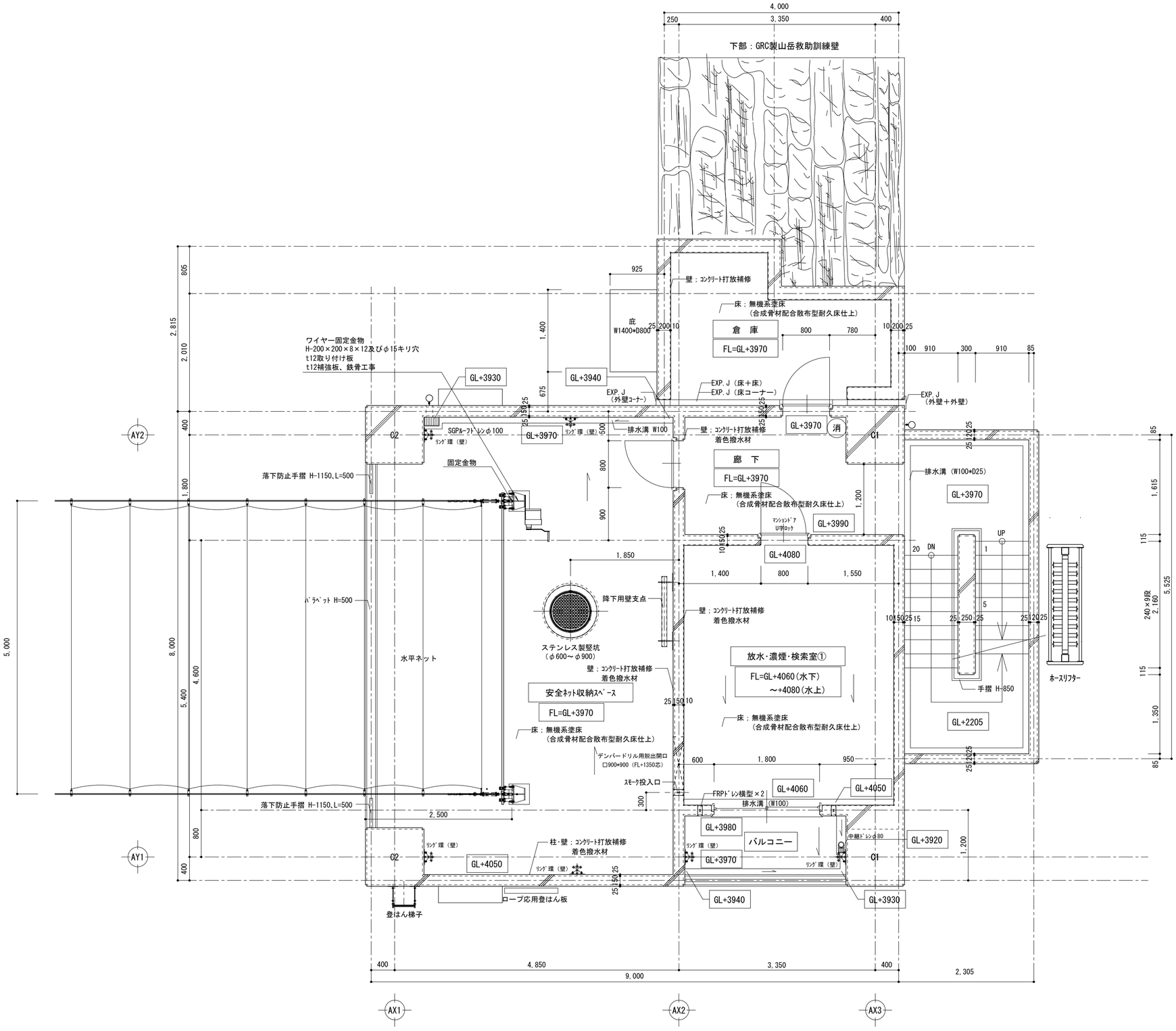


凡例

(消) 消火器（ABC10型・ｽﾀﾝﾄﾞ付）

発行 PUBLISHED	2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-1-1 KUDAN YOKOHAMA 230 TEL.045(633)7113	一級建築士登録 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER	訓練塔・補助訓練塔新築工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A塔】1階平面詳細図
DRAWING NAMBER	A-27
SCALE	縮尺　A2=1:50・A3=1:70.5



屋外階段(RC造)

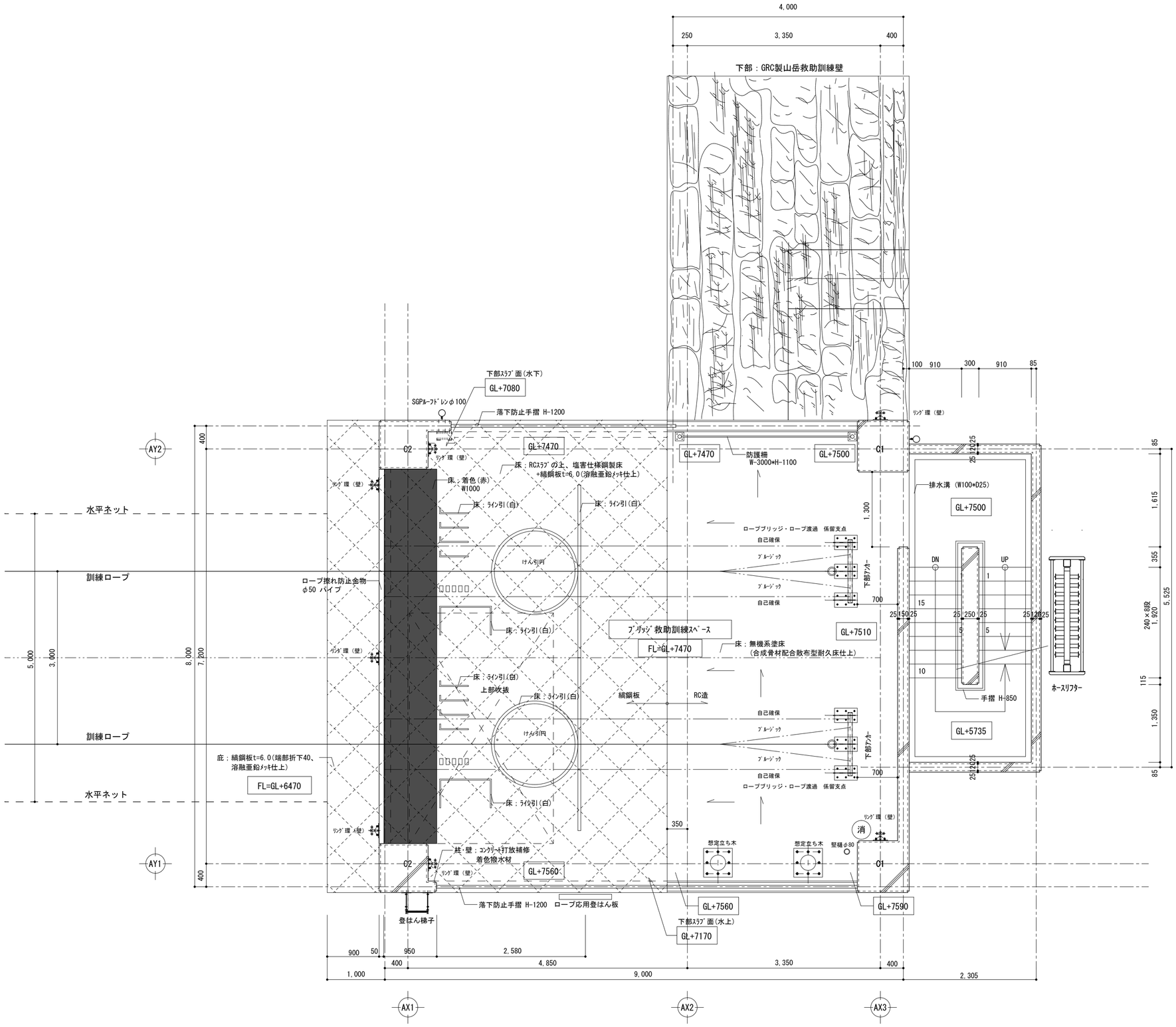
有効巾	910
蹴上げ	194.4
踏　面	240.0
手摺付	H=850

凡例

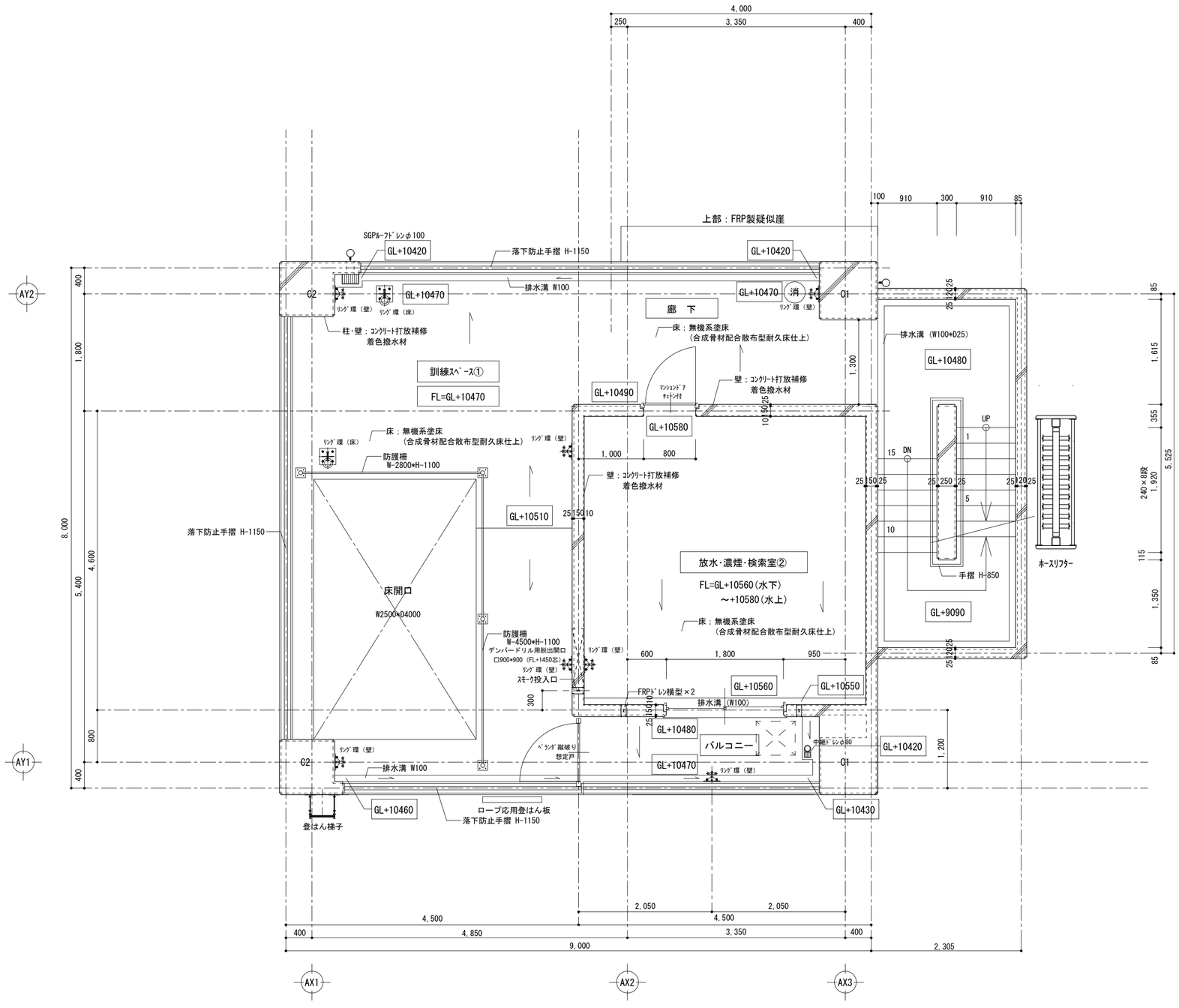
消　消火器（ABC10型・BOX付）

発行 PUBLISHED	2026年 9 月 18 日	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDO, TOKOSHIMA 238 TEL.0468(53)7113	一級建築士登録　第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木　篤 SIGNE URE BY A.SUZUKI	設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成
		構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見　直		

設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター	図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A塔】2階平面詳細図
PROJECT NUMBER	訓練塔・補助訓練塔新築工事	DRAWING NUMBER	A-28
		SCALE	縮尺　A2=1:50・A3=1:70.5

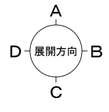


鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN-MINAMI CHIYODA-KU TOKYO 102-0074 TEL.03(3511)7113	発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録(神奈川)第2175号 鈴木 篤 SIGNATURE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 桒 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター 訓練塔・訓練訓練塔新築工事 PROJECT NAMBER	図面名称 ITEM OF DRAWING 【訓練塔 A塔】3階平面詳細図 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE A2=1:50・A3=1:70.5	A-29 NO

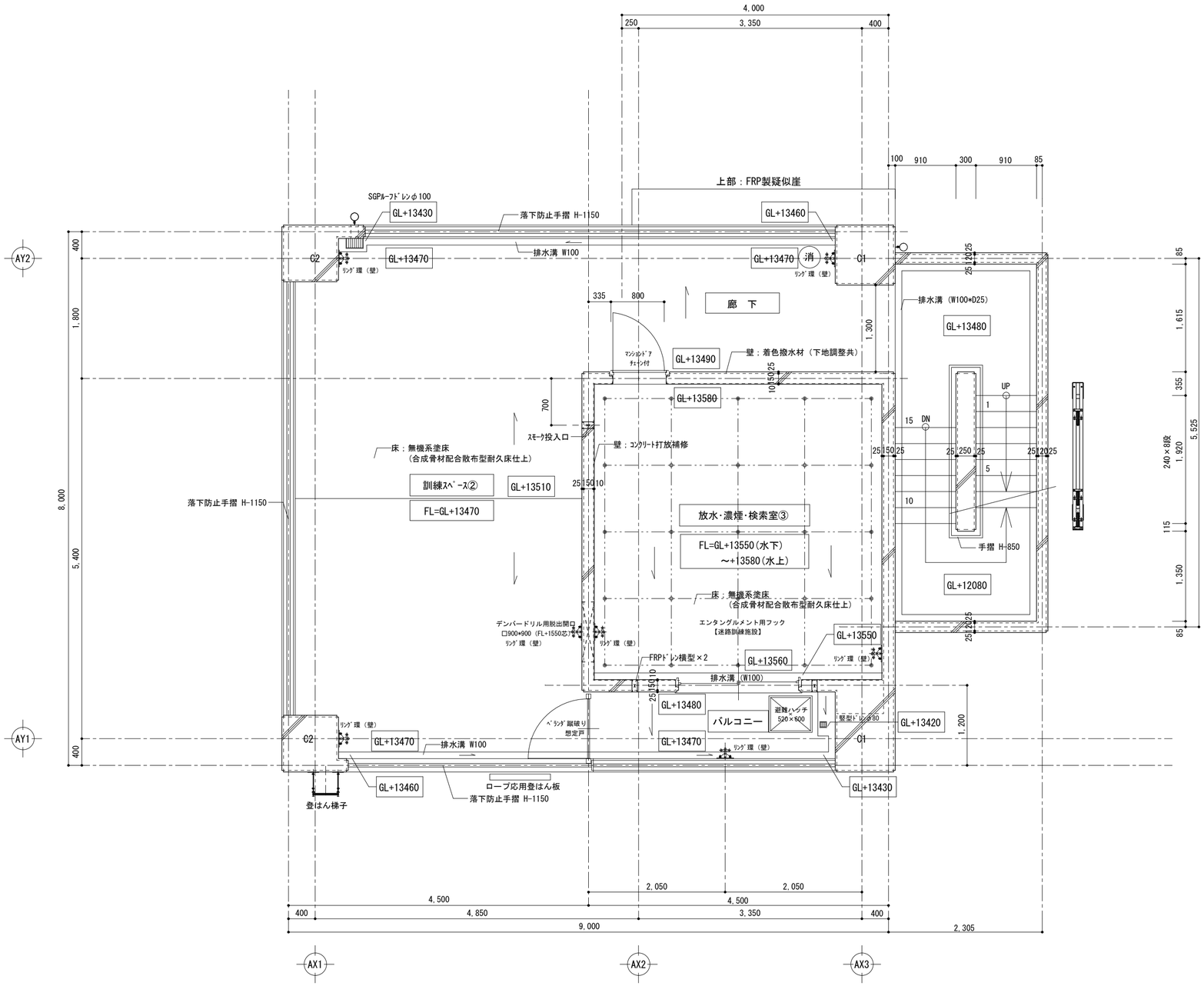


凡例

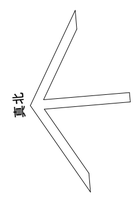
消　消火器（ABC10型・BOX付）

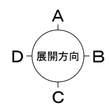


発行 PUBLISHED 2026年 9月 18日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOHAMA 230 TEL.045(633)7113	一級建築士登録　第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER：鈴木　篤 設計担当 CHIEF DESIGNER：鈴木　玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG：秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG：岡　正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG：長見　直 空調設備担当 MECHANICAL ENG：長見　直	設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター PROJECT NAMBER：訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING：【訓練塔 A塔】4階平面詳細図 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE：A2=1:50・A3=1:70.5	NO：A-30



屋外階段（RC造）
有効巾　910
蹴上げ　200.0
踏　面　240.0
手摺付　H=850





凡例

消　消火器（ABC10型・BOX付）

発行 2026年9月18日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-1-11 KUDOU YOKOHAMA 238 TEL.0468(33)7113	一級建築士登録　第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SIGNE UNE BY A.SUZUKI	
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター

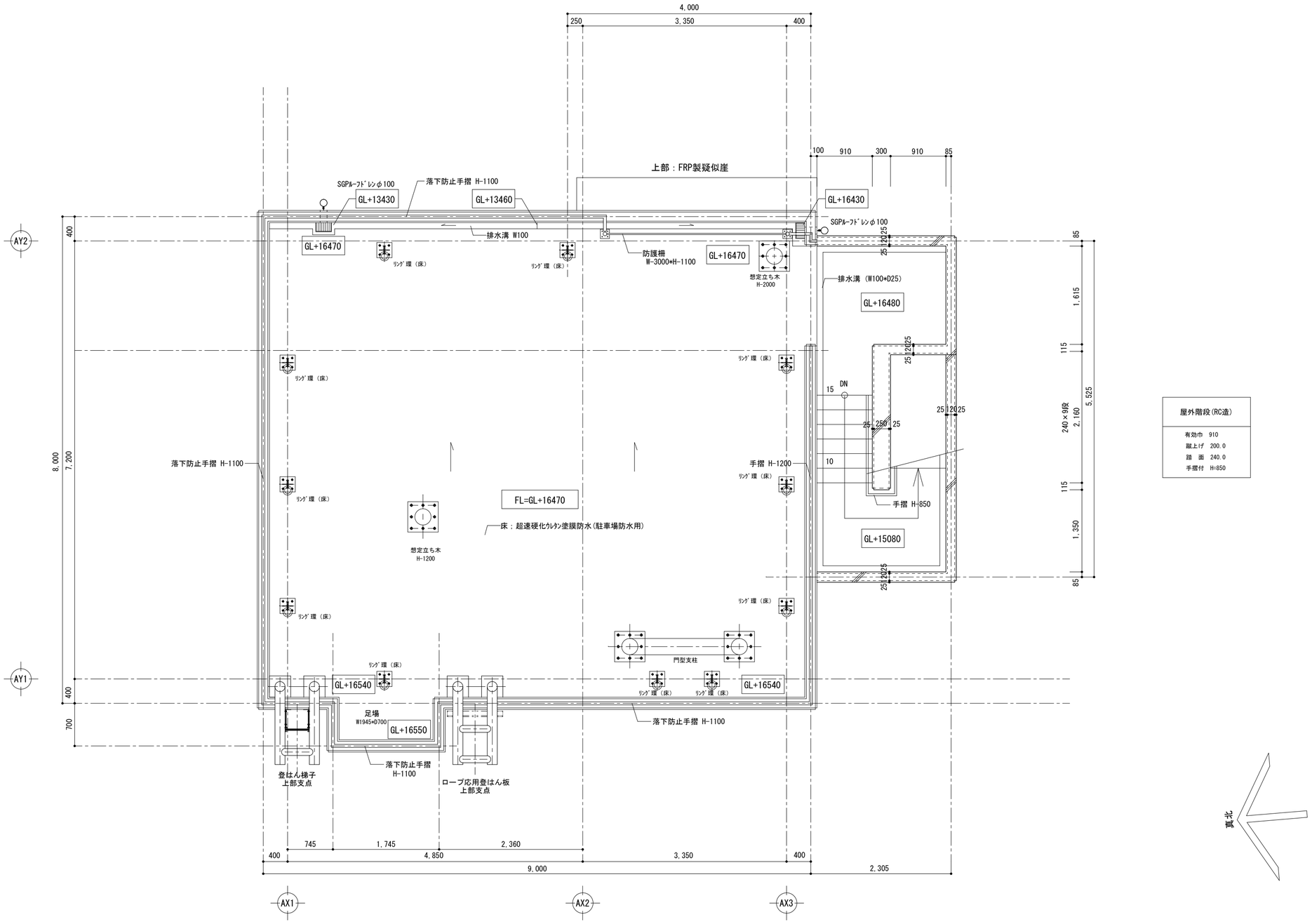
PROJECT NAMBER：訓練塔・訓練訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING：【訓練塔 A1塔】5階平面詳細図

DRAWING NAMBER

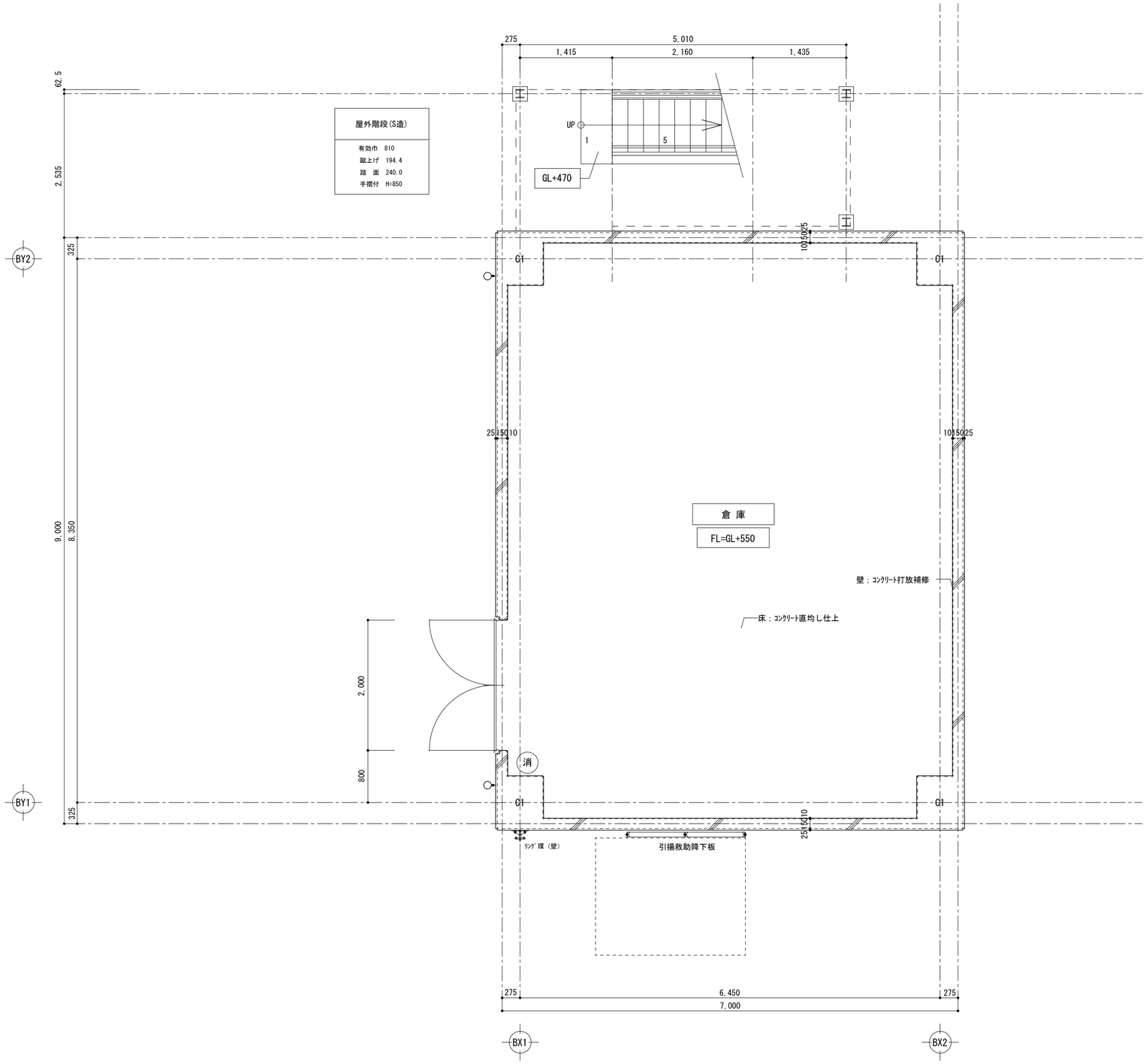
縮尺 SCALE　A2=1:50・A3=1:70.5

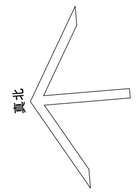
NO　A-31

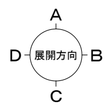


屋外階段(RC造)
有効巾 910
蹴上げ 200.0
踏 面 240.0
手摺付 H=850

公 FUBLISED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-1-11 KUDO 1-CHOME 238 TEL:048(833)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録(神奈川)第2715号 鈴木 篤 RIGHT UNE BY AJIUDAT	企画担当 CHIEF PRODUCER: 鈴木 篤
設計担当 CHIEF DESIGNER: 鈴木 玲成	構造担当 STRUCTURAL ENG: 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG: 岡 正浩	衛生設備担当 SANITARY ENG: 長見 直
空調設備担当 MECANICAL ENG: 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター	PROJECT NAMBER: 訓練塔・訓練訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING: 【訓練塔 A1塔】R階平面詳細図
DRAWING NAMBER: A-32	縮尺 SCALE: A2=1:50・A3=1:70.5	NO	





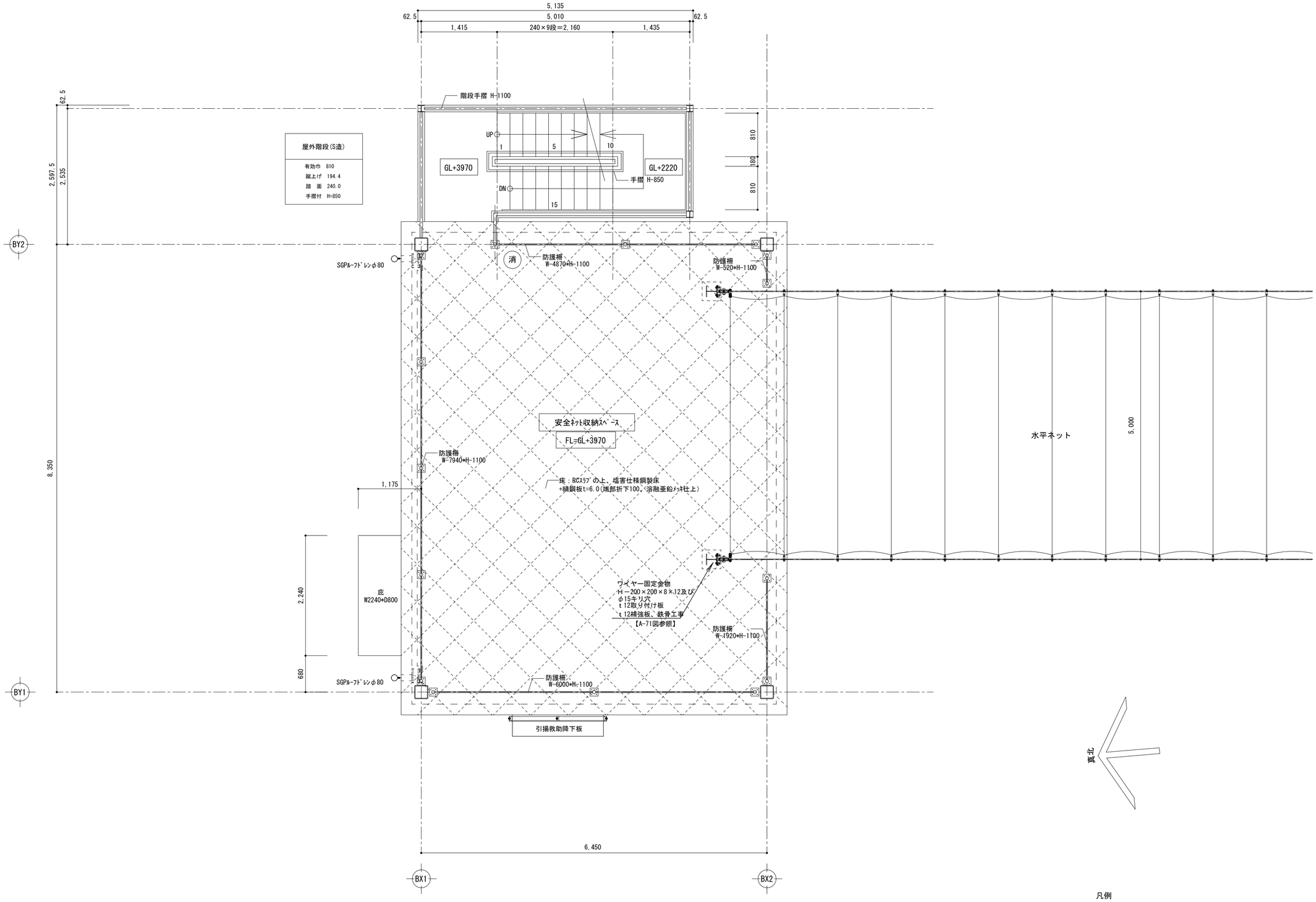


凡例

消 消火器（ABC10型・ｽﾀﾝﾄﾞ付）

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター
			設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	PROJECT NAMBER: 訓練塔・訓練補助塔新築工事
			構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANITCAL ENG	長見 直	

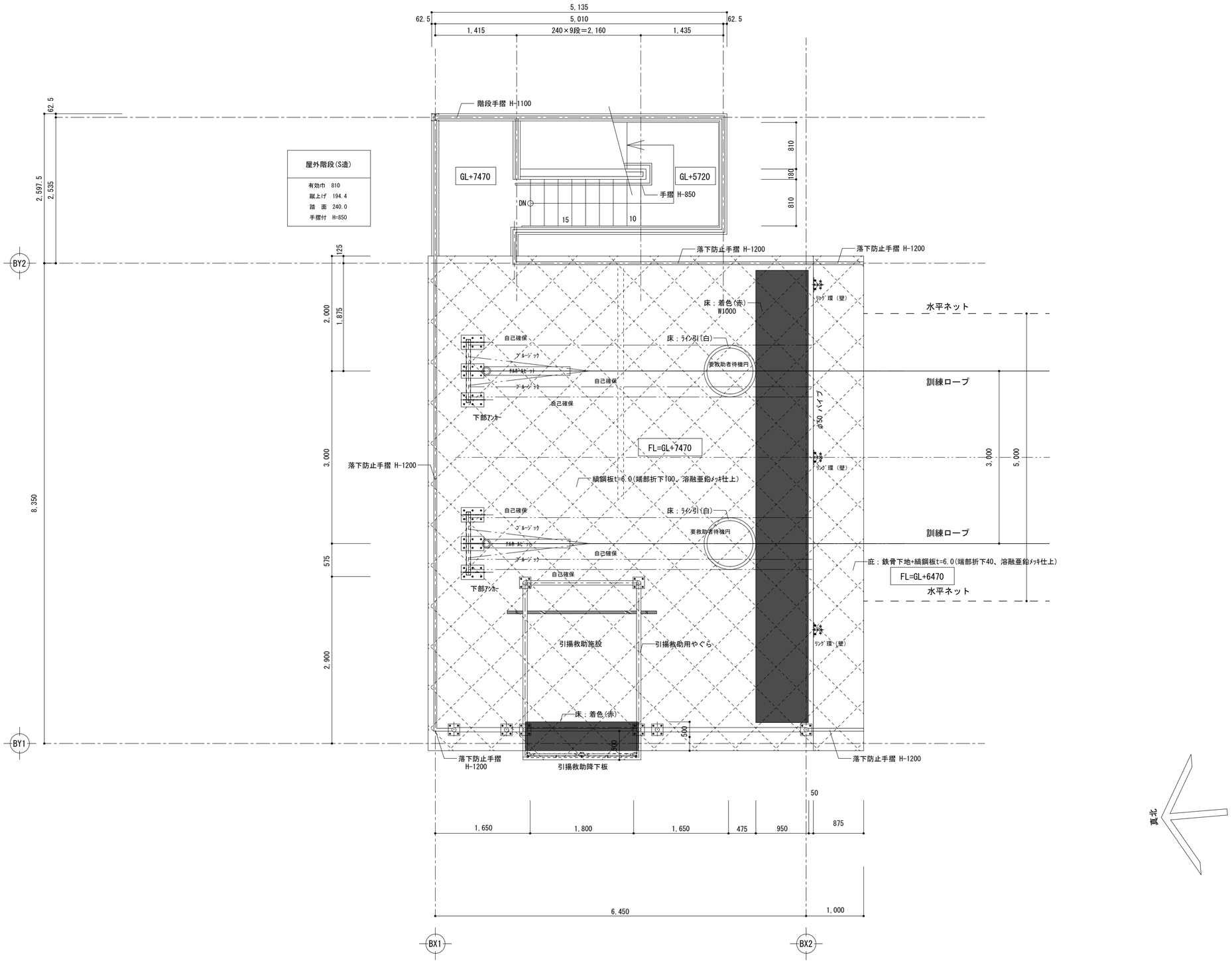
図面名称 ITEM OF DRAWING	【補助訓練塔 B塔】1階平面詳細図	A-33
DRAWING NAMBER	縮尺 A2=1:50・A3=1:70.5 SCALE	NO



凡例

(消) 消火器（ABC10型・BOX付）

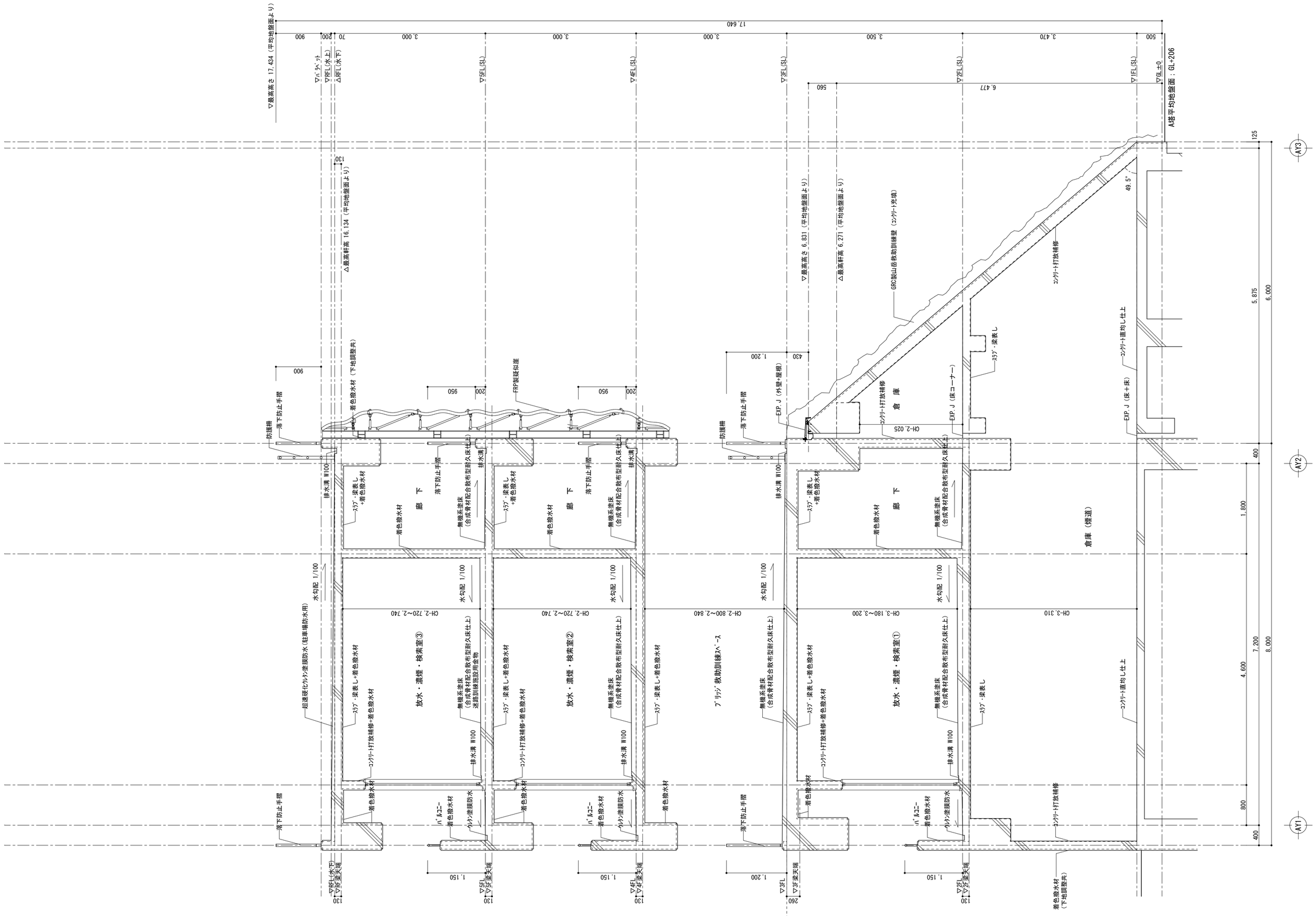
発行 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOHAMA 230 TEL.045(633)7113	一級建築士登録 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SIGNE UME BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER: 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER: 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG: 秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG: 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG: 長見 直 空調設備担当 MECHANICAL ENG: 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER: 訓練塔・訓練補助塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING: 【補助訓練塔 B塔】2階平面詳細図 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE: A2=1:50・A3=1:70.5	NO: A-34



発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113	一級建築士事務所 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩
			設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直
			構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見 直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER：訓練塔・訓練補助塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING：【補助訓練塔 B塔】R階平面詳細図
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE：A2=1:50・A3=1:70.5
NO：A-35



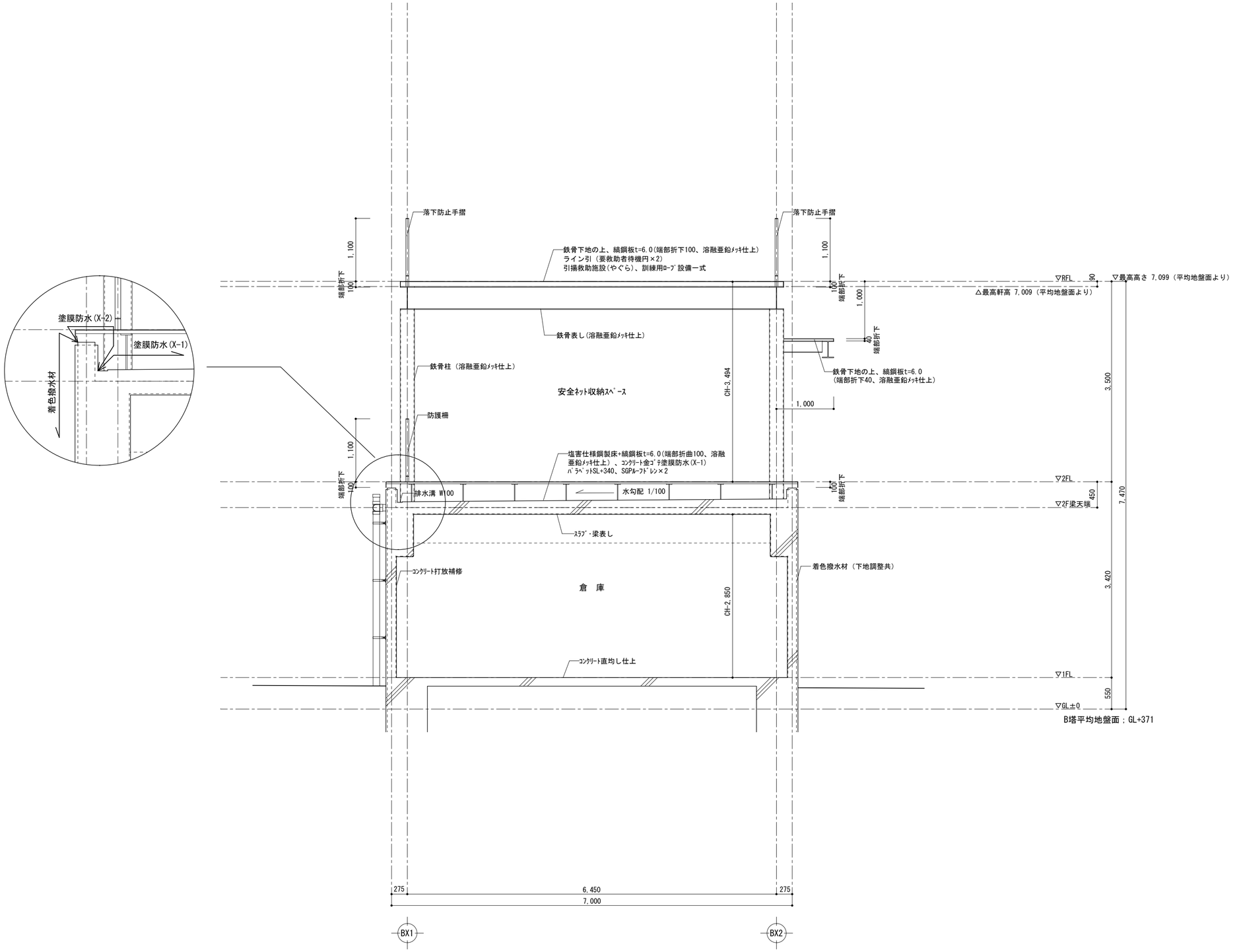
2026年 9 月 18 日	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.	設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
一級建築士事務所登録（神奈川）第2428号	構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター　訓練塔・補助訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING：【訓練塔 A塔】矩計図

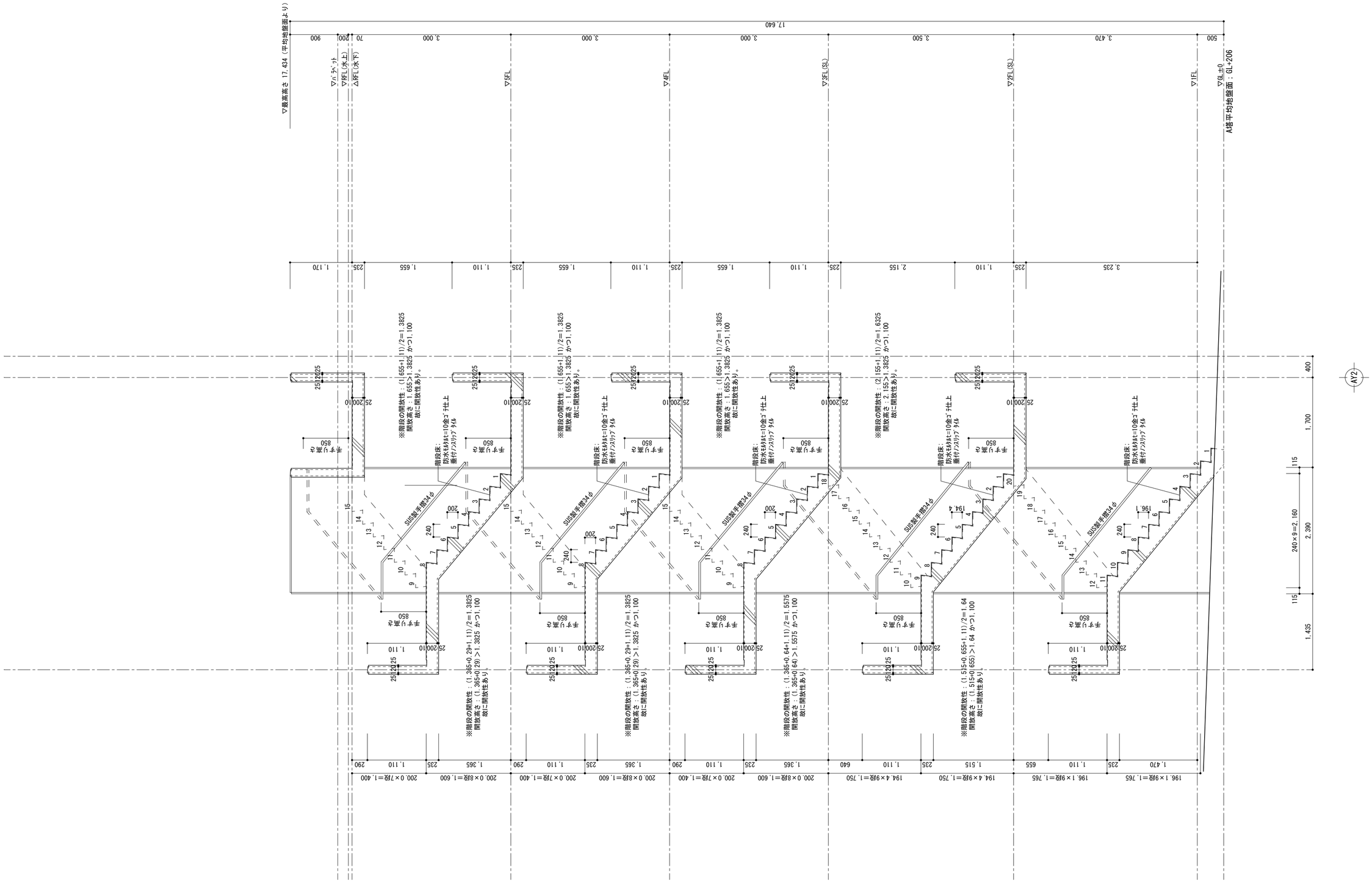
縮尺 SCALE：A2=1:50・A3=1:70.5

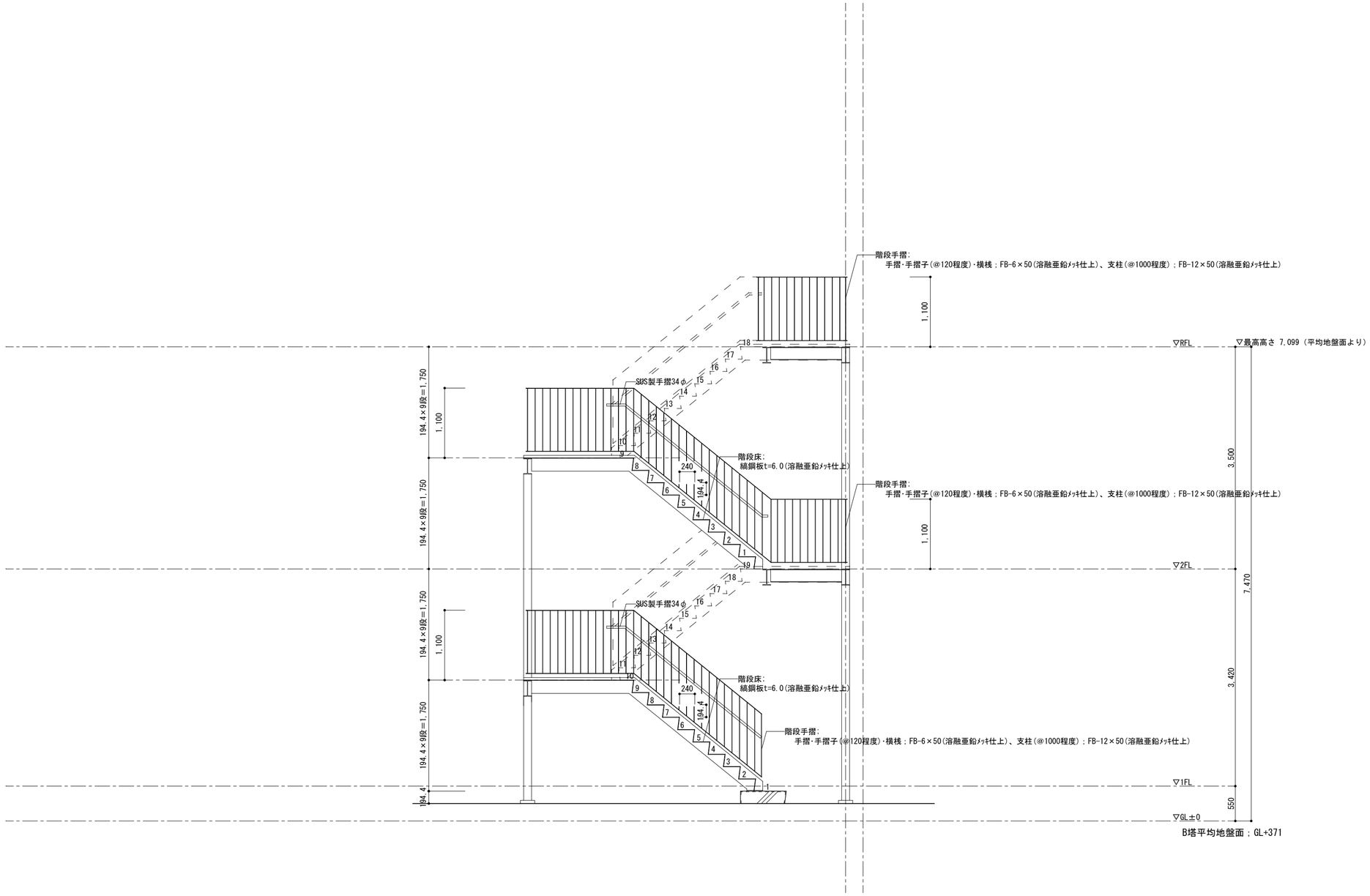
DRAWING NUMBER：A-36



発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-1-11 KUDOU 1ⁿ⁰ OSAKA 238 TEL.0468(53)7113	一級建築士事務所 第B4287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SIGNE URE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER 訓練塔・訓練補助塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING	【補助訓練塔 B塔】矩計図	A-37
DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE A2=1:50・A3=1:70.5	NO

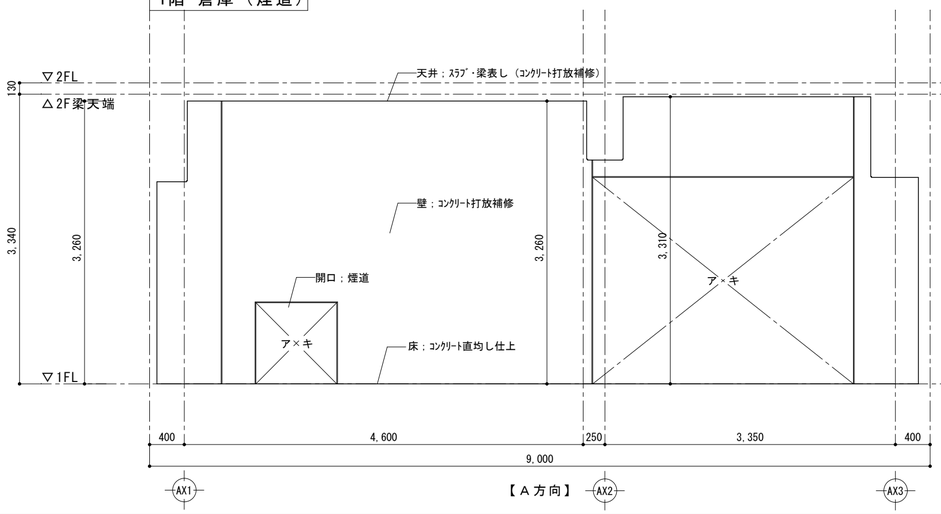

▽最高高さ 17.434（平均地盤面より）
▽ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ
▽RFL(水上)
△RFL(水下)
▽3FL
▽2FL
▽2FL(SL)
▽1FL
▽BL±0
A棟平均地盤面：GL+206
17,640
3,470
3,500
3,000
3,000
3,000
70
200
900
500
3,235
2,155
1,110
235
1,655
1,110
235
1,655
1,110
235
1,655
1,110
235
1,170
※階段の開放性：(1.655+1.11)/2=1.3825
開放高さ：1.655>1.3825 かつ1.100
故に開放性あり。
※階段の開放性：(2.155+1.11)/2=1.6325
開放高さ：2.155>1.3825 かつ1.100
故に開放性あり。
※階段の開放性：(1.365+0.29+1.11)/2=1.3825
開放高さ：(1.365+0.29)>1.3825 かつ1.100
故に開放性あり。
※階段の開放性：(1.365+0.64+1.11)/2=1.5575
開放高さ：(1.365+0.64)>1.5575 かつ1.100
故に開放性あり。
※階段の開放性：(1.515+0.655+1.11)/2=1.64
開放高さ：(1.515+0.655)>1.64 かつ1.100
故に開放性あり。
手すり高さ
850
階段床：
防水モルタル t=10金ｺﾞﾃ仕上
重付ノンスリップ タイル
SUS製手摺34φ
25 25 25 25
25 200 10
1,470
235
1,110
655
1,110
235
1,515
1,110
235
1,365
1,110
290
1,365
235
1,110
290
1,365
235
1,110
290
1,365
235
1,110
290
1,365
235
1,110
290
1,470
1,110
235
1,110
235
1,110
235



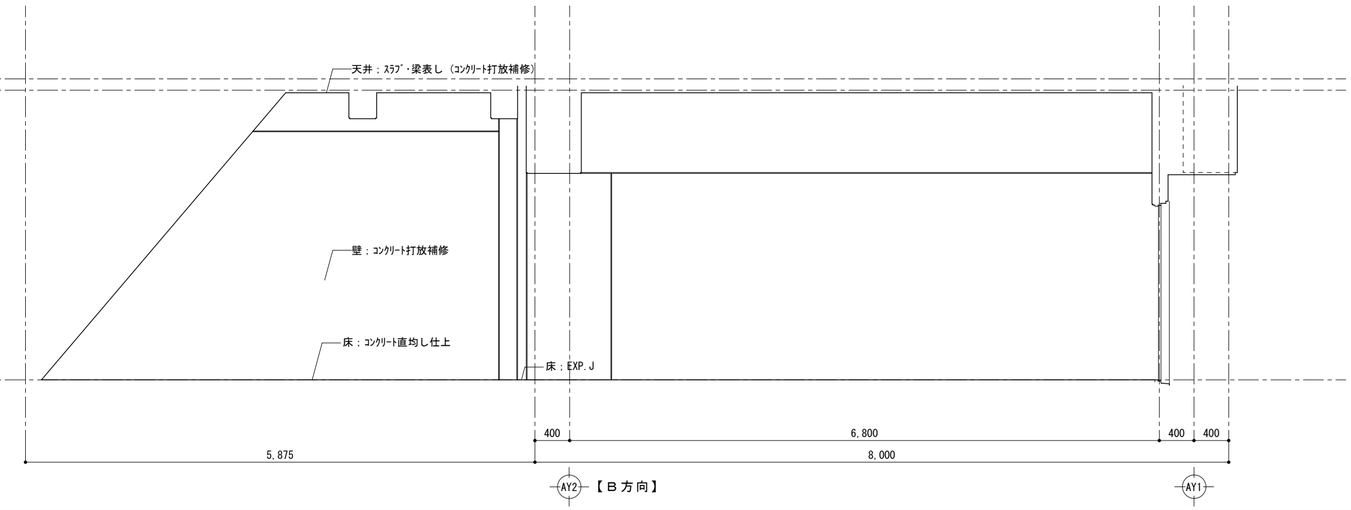
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN-MINAMI CHIYODA-KU TEL.0468(33)7113	設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	訓練塔・訓練補助塔新築工事 PROJECT NAMBER
一級建築士事務所登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2715号 鈴木 篤 SIGNE UME BY A.SUZUKI	構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直	図面名称 ITEM OF DRAWING 【補助訓練塔 B塔】階段詳細図
					DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE A2=1:50・A3=1:70.5

A-39
NO

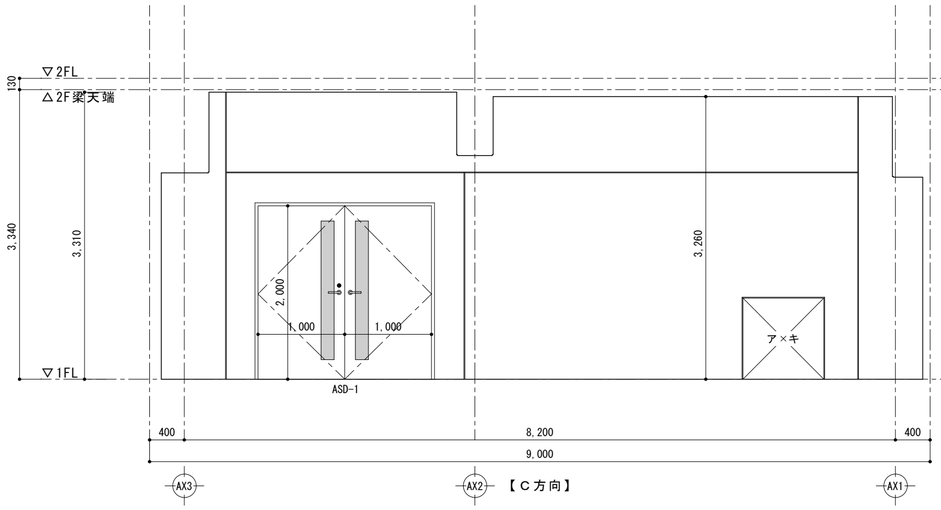
1階 倉庫（煙道）



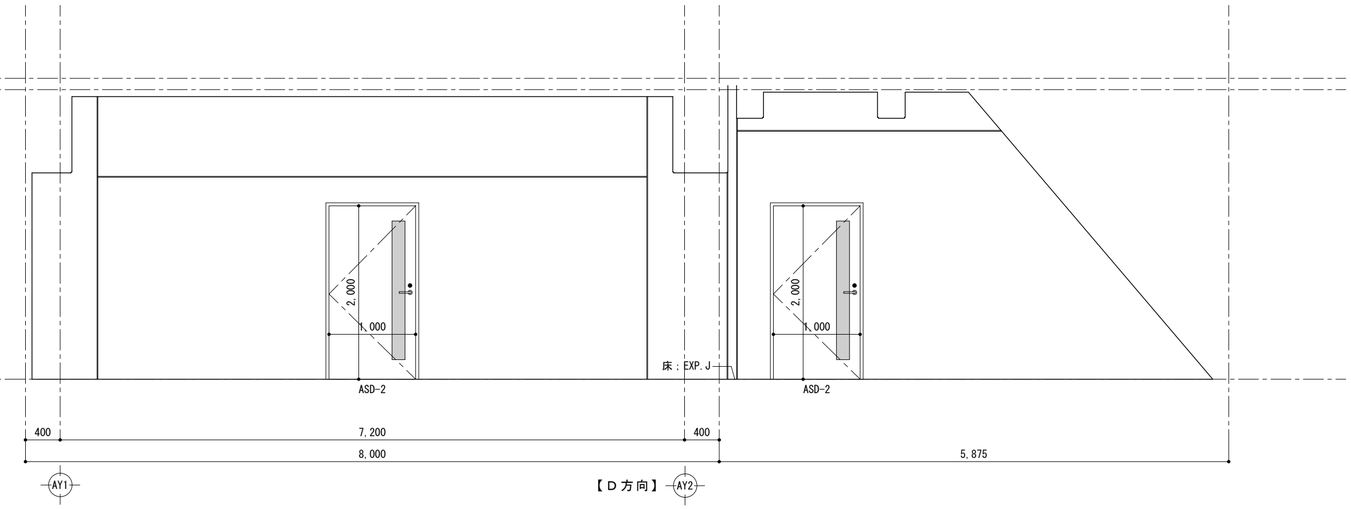
【Ａ方向】



【Ｂ方向】

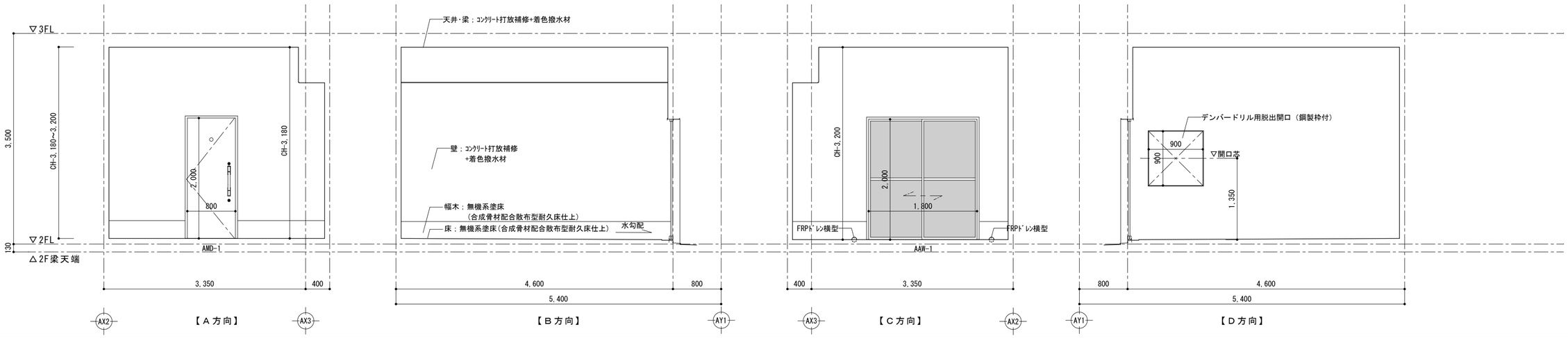


【Ｃ方向】



【Ｄ方向】

2階 放水・濃煙・検索室①

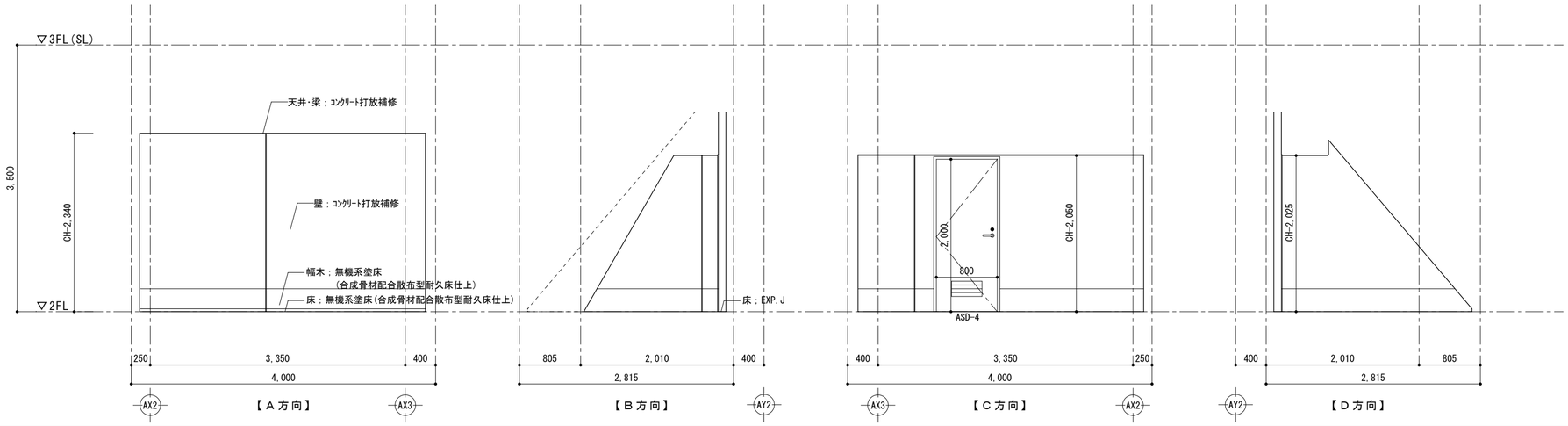


【Ａ方向】 【Ｂ方向】 【Ｃ方向】 【Ｄ方向】

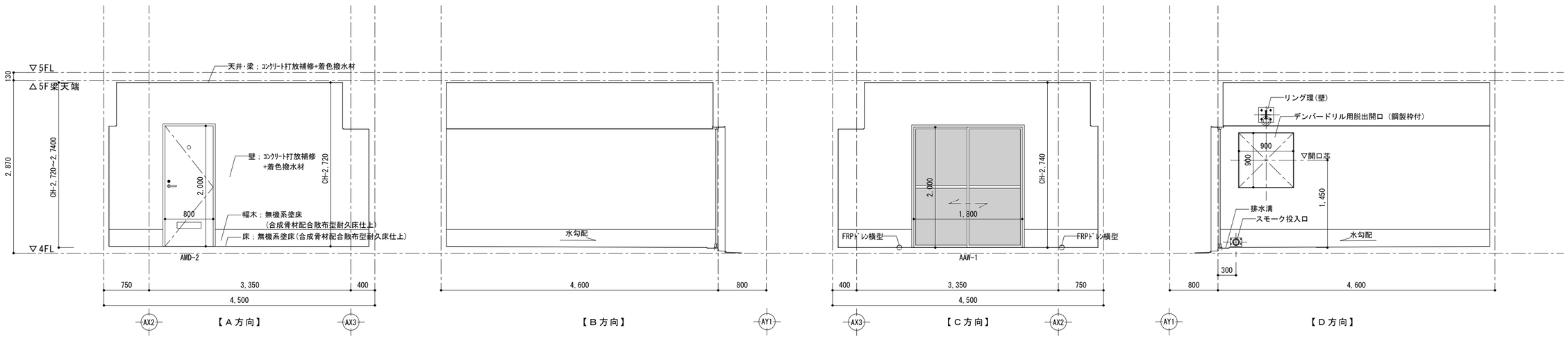
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN YOKOSUKA 238 TEL.04661337113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSU	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECHANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER 訓練塔・補助訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A1塔】展開図 1	A-40
DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE A2=1:50・A3=1:70.5	NO

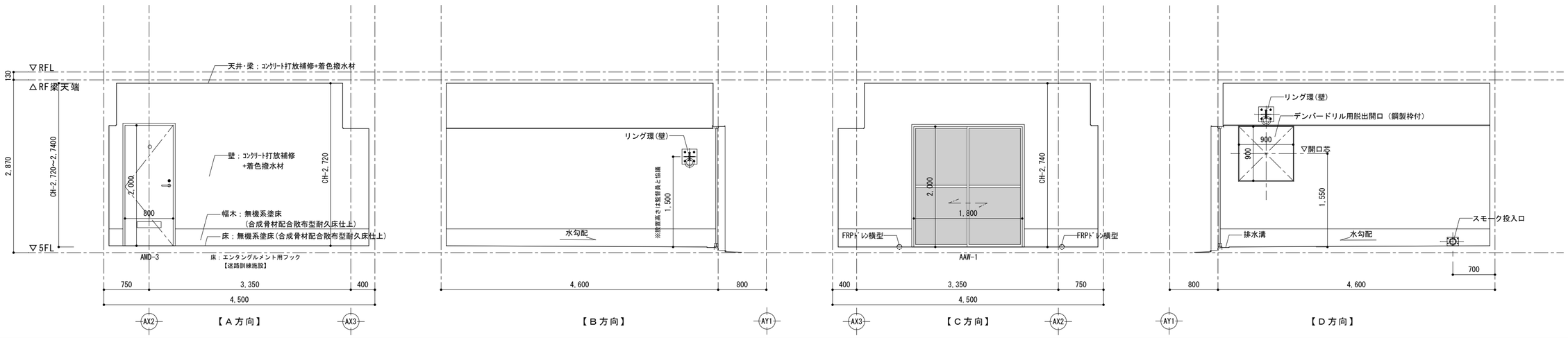
2階 倉庫



4階 放水・濃煙・検索室②



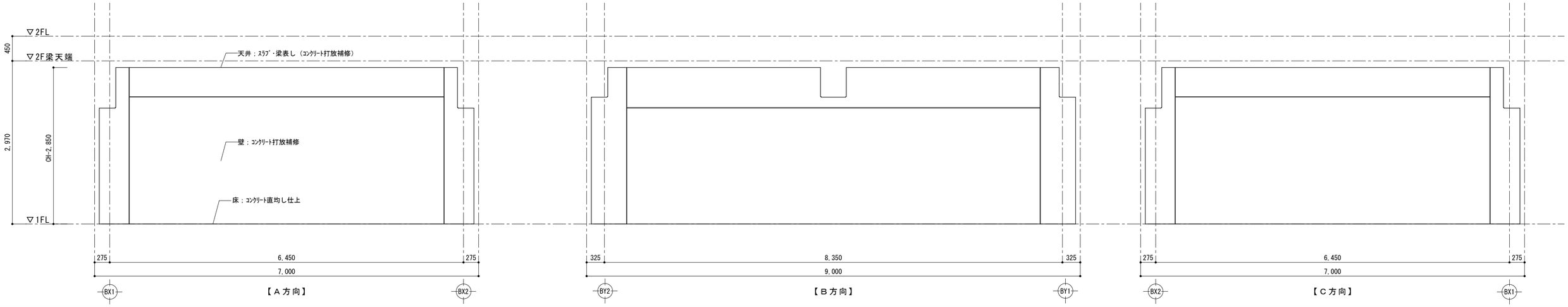
5階 放水・濃煙・検索室③

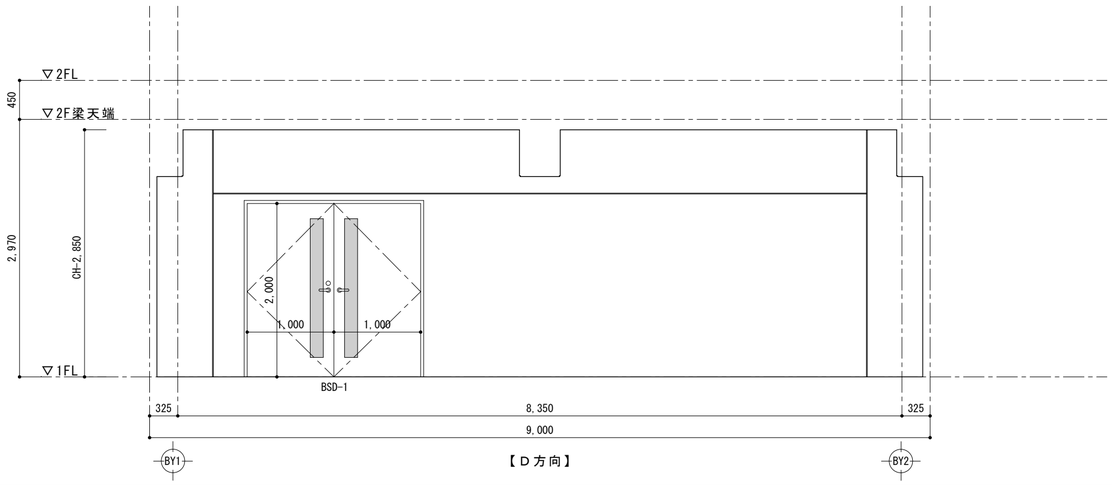


発行 2026年9月18日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-1-11 KUDOU YOKOHAMA 238 TEL.045(833)7113	一級建築士登録 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第215号 鈴木 篤 SIGNE UME BY SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER 訓練塔・補助訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A塔】展開図2	A-41
DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE A2=1:50・A3=1:70.5	NO

1階 倉庫





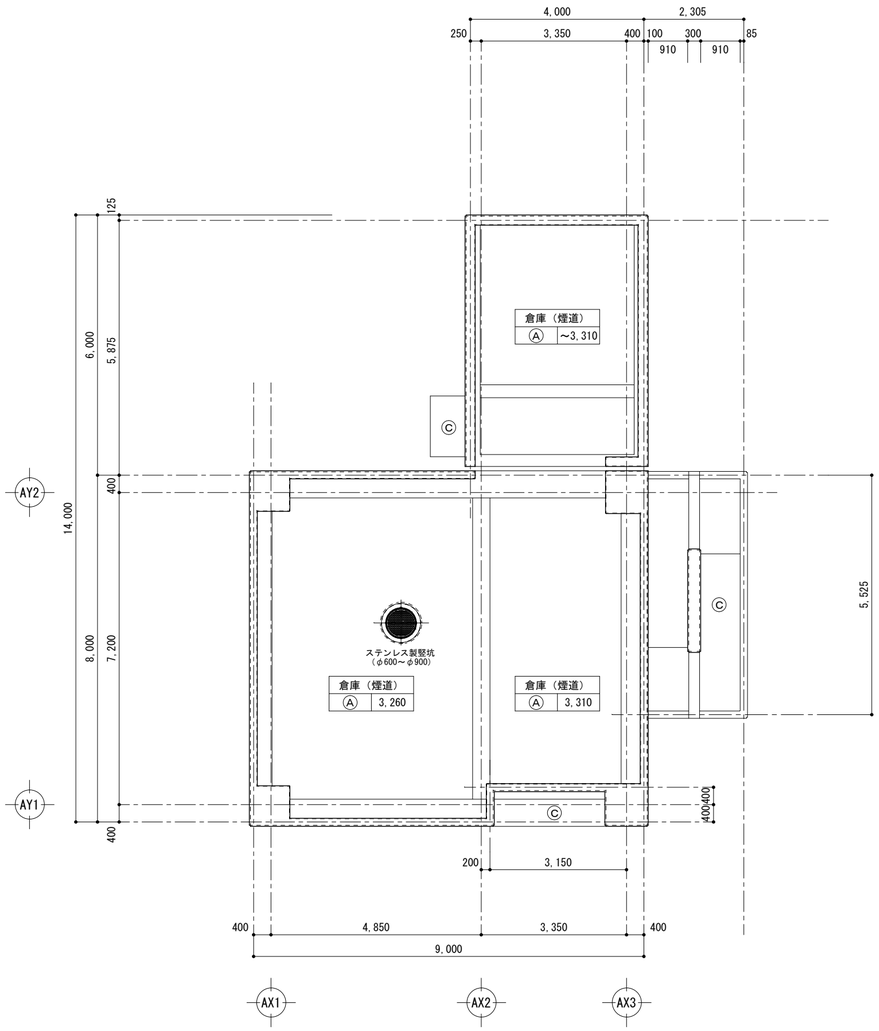
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-1-11 KUDO FUKUOKA 230 TEL.0480(32)7113	設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
一級建築士登録　第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SIGNE UME BY A.SUZUKI	構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECANITCAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事 PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING：【補助訓練塔 B塔】展開図
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE：A2=1:50・A3=1:70.5

NO A-42

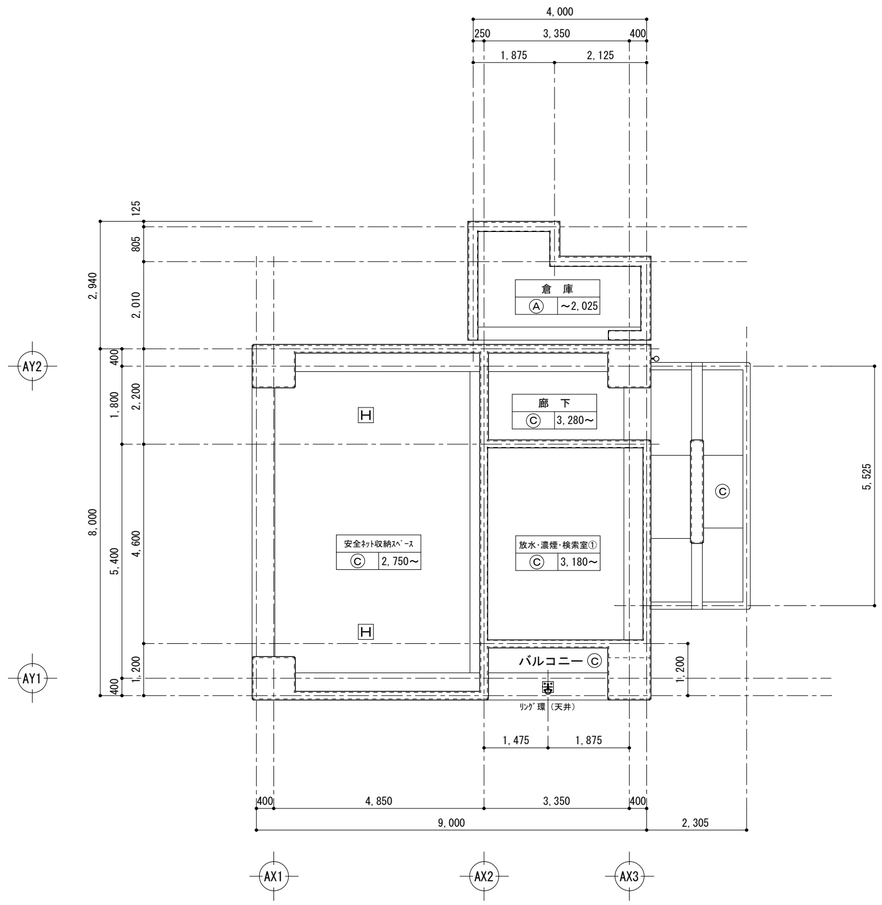
	仕上凡例	室名	
Ⓐ	ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ・梁表し	仕上凡例	天井高さ
Ⓑ	縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上) 表し		
Ⓒ	着色撥水材(外壁同仕様)		



真北

【訓練塔 A塔】1階天井伏図

	仕上凡例	室名	
Ⓐ	ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ・梁表し	仕上凡例	天井高さ
Ⓑ	縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上) 表し		
Ⓒ	着色撥水材(外壁同仕様)		



真北

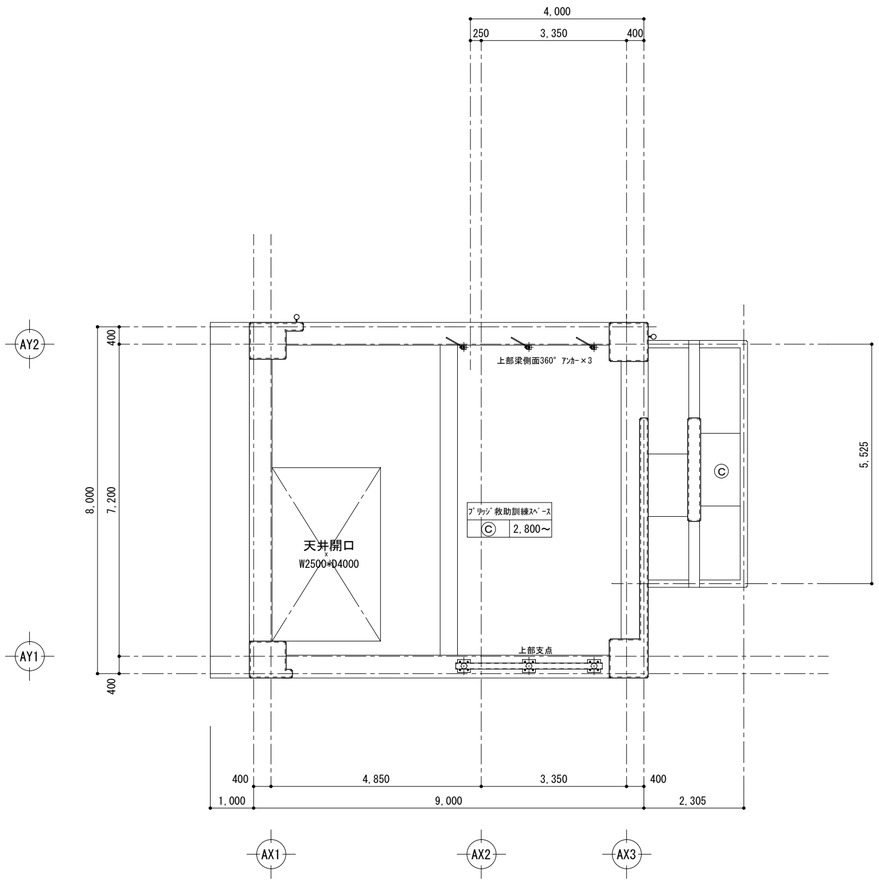
【訓練塔 A塔】2階天井伏図

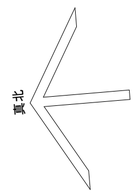
公開 PUBLISHED 行 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDO YOKOHAMA 230 TEL.045(681)3371(3)	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 / 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 / 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 / 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 / 空調設備担当 MECHANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター / PROJECT NAMBER 訓練塔・補助訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A塔】天井伏図 1	A-43
DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE A2=1:100-A3=1:141	NO

	仕 上 凡 例
Ⓐ	ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ・梁表し
Ⓑ	縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上) 表し
Ⓒ	着色撥水材(外壁同仕様)

室 名	
仕上凡例	天井高さ

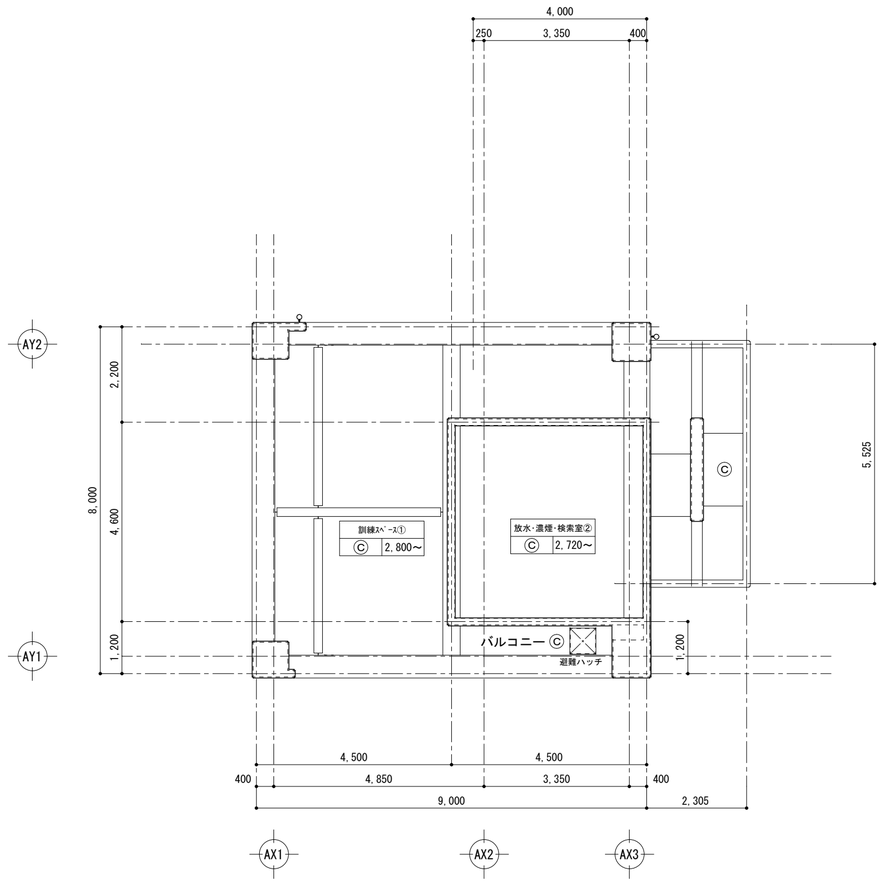


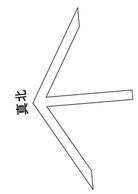


【訓練塔 A塔】3階天井伏図

	仕 上 凡 例
Ⓐ	ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ・梁表し
Ⓑ	縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上) 表し
Ⓒ	着色撥水材(外壁同仕様)

室 名	
仕上凡例	天井高さ





【訓練塔 A塔】4階天井伏図

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113

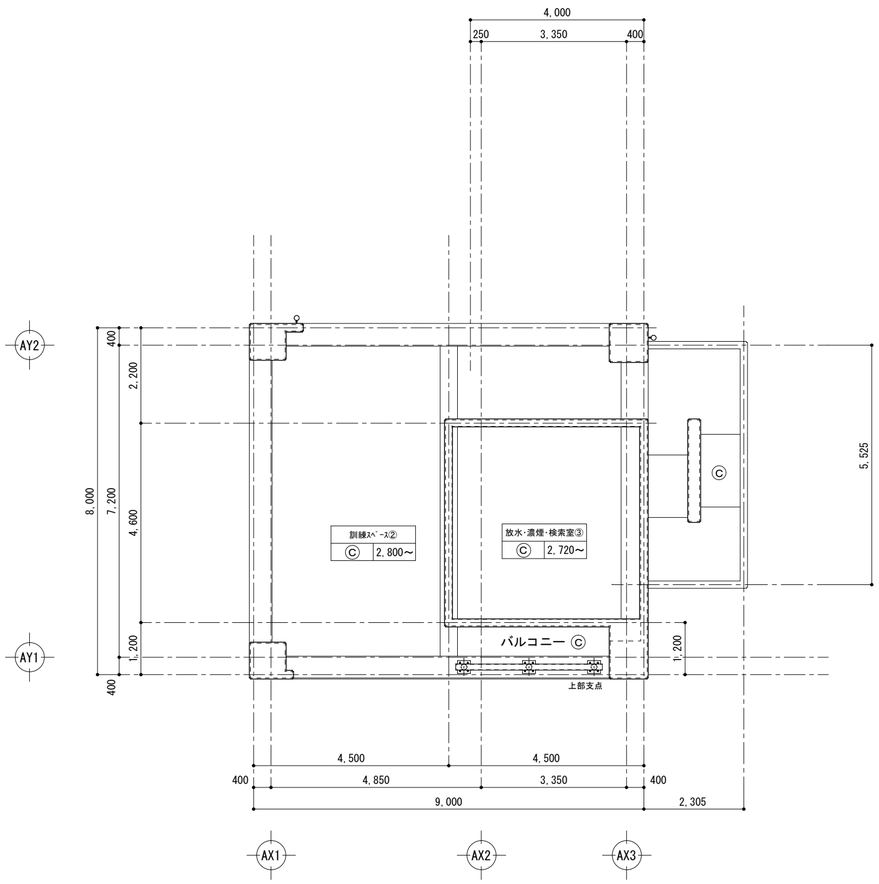
一級建築士登録 第84287号
一級建築士事務所登録(神奈川)第2515号
鈴 木 篤
SUZUKI ATSUSHI

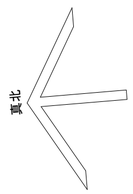
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直		訓練塔・補助訓練塔新築工事
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見 直	PROJECT NAMBER	

図面名称 ITEM OF DRAWING: 【訓練塔 A塔】天井伏図2
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE A2=1:100・A3=1:141
NO A-44

	仕 上 凡 例
Ⓐ	ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ・梁表し
Ⓑ	縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上) 表し
Ⓒ	着色撥水材(外壁同仕様)

室 名	
仕上凡例	天井高さ



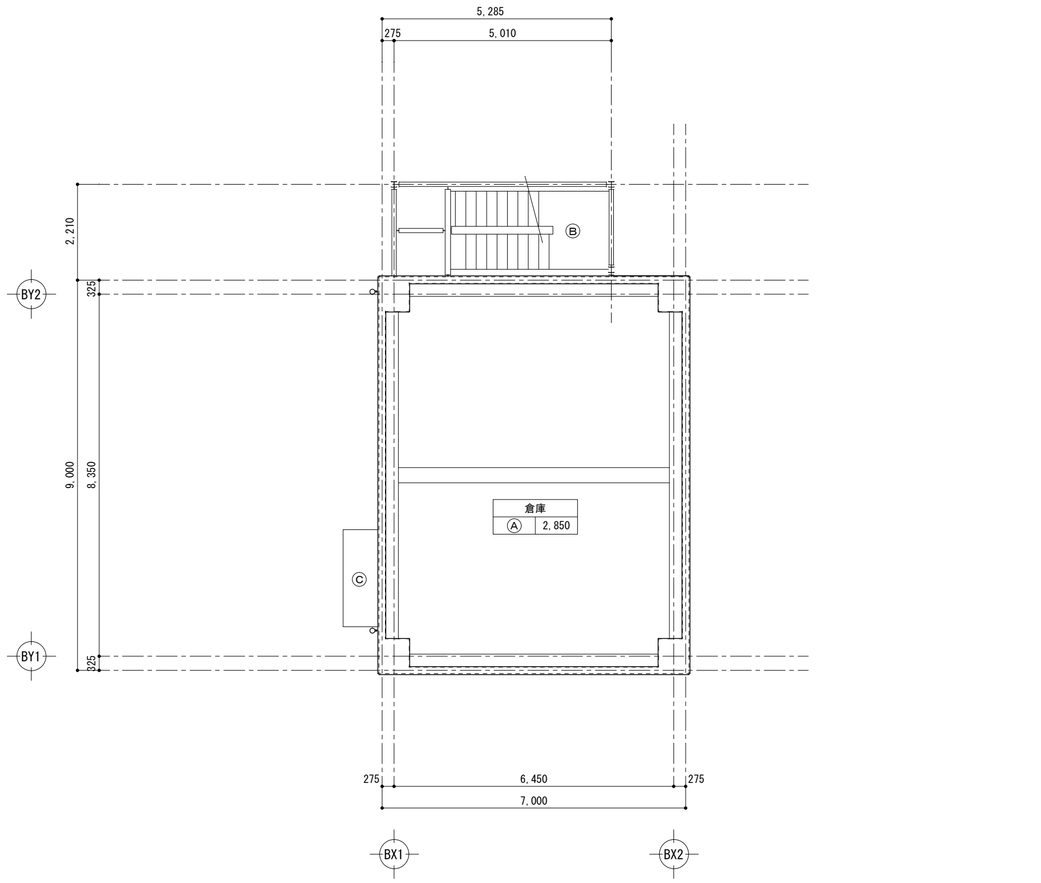


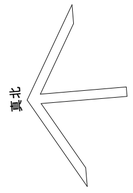
【訓練塔 A塔】5階天井伏図

発行 PUBLISHED	2026年 9 月 18 日		
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録(神奈川)第2515号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤
		設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成
		構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	PROJECT NAMBER	訓練塔・訓練訓練塔新築工事
空調設備担当 MECANITCAL ENG	長見 直	図面名称 ITEM OF DRAWING	【訓練塔 A塔】天井伏図3
		DRAWING NAMBER	A-45
		SCALE	縮尺 A2=1:100・A3=1:141
		NO	

	仕 上 凡 例
Ⓐ	ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ・梁表し
Ⓑ	縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上) 表し
Ⓒ	着色撥水材(外壁同仕様)

室 名	
仕上凡例	天井高さ

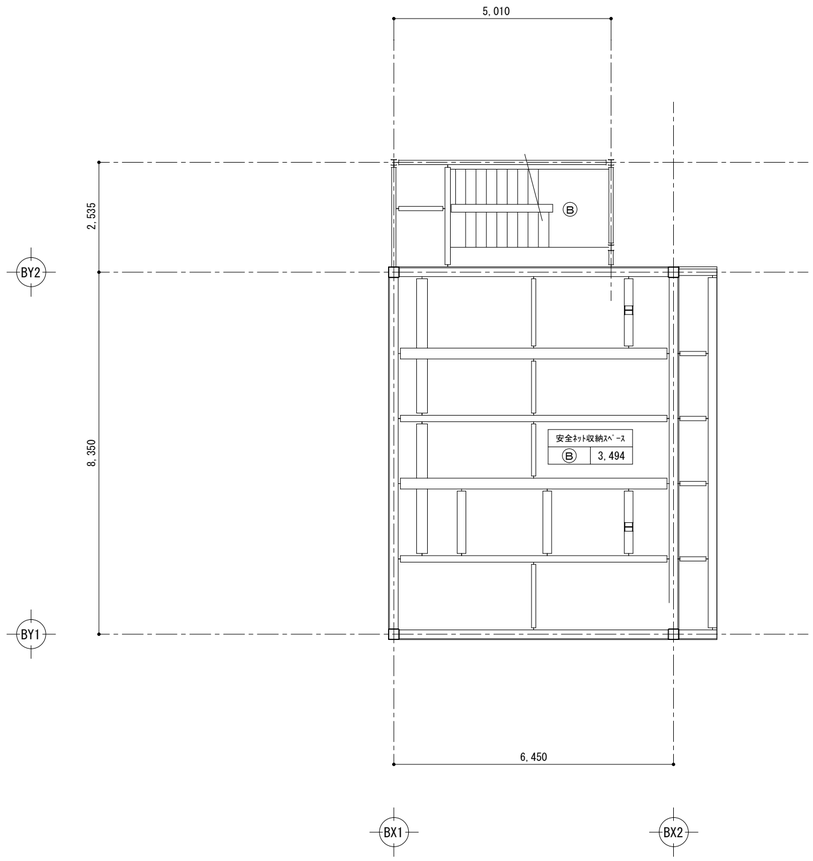


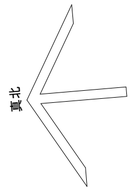


【補助訓練塔 B塔】1階天井伏図

	仕 上 凡 例
Ⓐ	ｺﾝｸﾘｰﾄｽﾗﾌﾞ・梁表し
Ⓑ	縞鋼板t=6.0(溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上) 表し
Ⓒ	着色撥水材(外壁同仕様)

室 名	
仕上凡例	天井高さ





【補助訓練塔 B塔】2階天井伏図

PUBLISHED 2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-1-11 KUDO YOKOHAMA 220 TEL:045(313)7113

一級建築士登録 第8428号
一級建築士事務所登録(神奈川)第2515号
鈴木 篤

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	
空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直	

設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター 訓練塔・訓練補助塔新築工事

PROJECT NAMBER

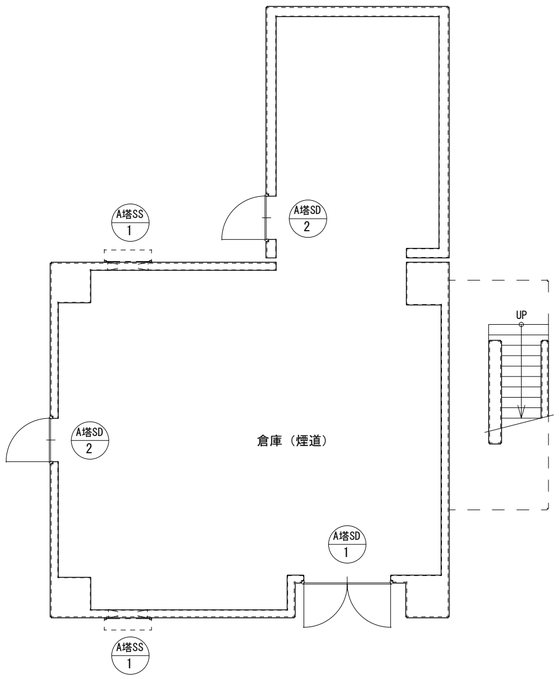
図面名称 ITEM OF DRAWING: 【補助訓練塔 B塔】天井伏図

DRAWING NAMBER

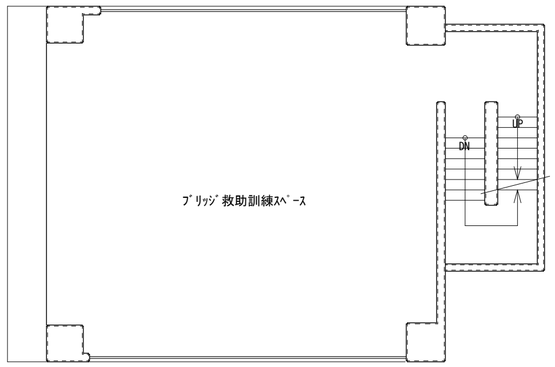
縮尺 SCALE: A2=1:100-A3=1:141

NO: A-46

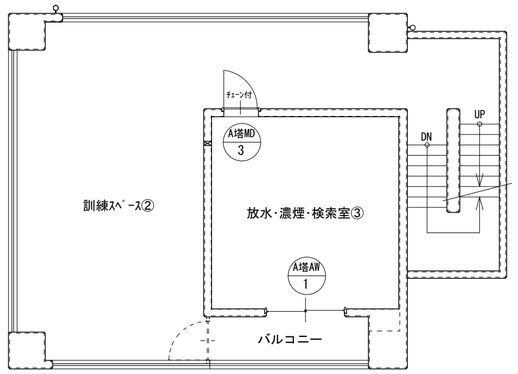
A塔 1階キープラン



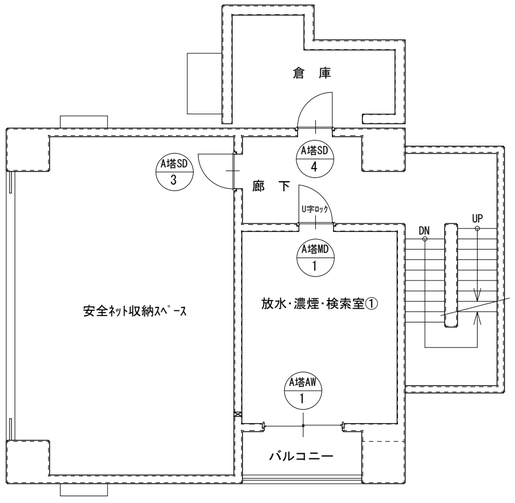
A塔 3階キープラン



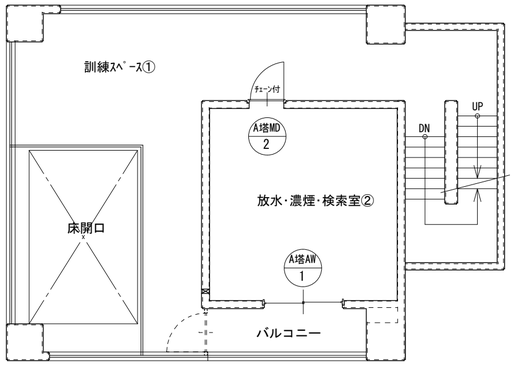
A塔 5階キープラン



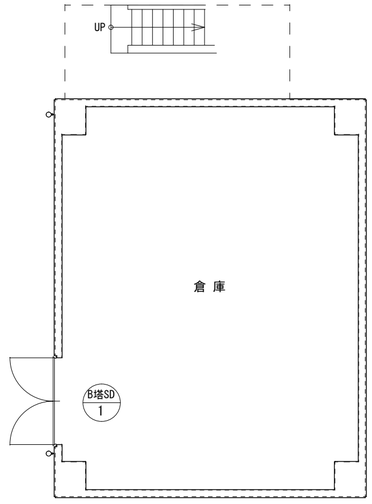
A塔 2階キープラン



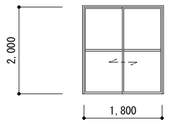
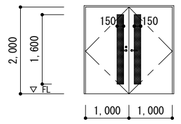
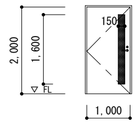
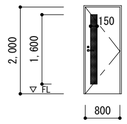
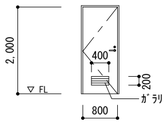
A塔 4階キープラン

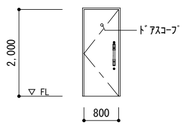
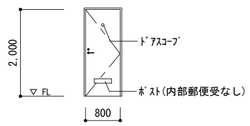
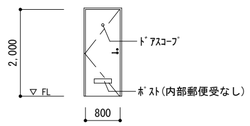
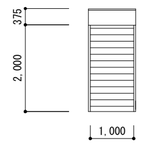


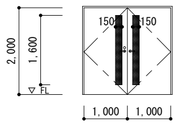
B塔 1階キープラン



公開 PUBLISHED	2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN TOKYO 102 TEL.0480(53)7113	一級建築士登録 第842号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2575号 鈴 木 篤
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	一級建築士登録 第339259号 鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANITCAL ENG	長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING	建具表１（キープラン）
PROJECT NAMBER		DRAWING NAMBER	A-47
SCALE	縮尺 A2=1:100-A3=1:141	NO	

記号・個数	A塔AW-1・3ヵ所	A塔SD-1・1ヵ所	A塔SD-2・2ヵ所	A塔SD-3・1ヵ所	A塔SD-4・1ヵ所
取付場所	2･4･5階:放水･濃煙･訓練室①～③	1階:倉庫（煙道）	1階:倉庫（煙道）	2階:安全ﾈｯﾄ収納ｽﾍﾟｰｽ	2階:倉庫
形状・寸法	消防有窓算定 	消防有窓算定 	消防有窓算定 		
見込・寸法	70	100	100	100	100
種別方式	引違窓	両開き戸	片開き戸	片開き戸	片開き戸（ｶﾞﾗﾘ付）
材料仕上	ｱﾙﾐ製	ｽﾁｰﾙ製t=1.6　焼付塗装（枠共）	ｽﾁｰﾙ製t=1.6　焼付塗装（枠共）	ｽﾁｰﾙ製t=1.6　焼付塗装（枠共）	ｽﾁｰﾙ製t=1.6　焼付塗装（枠共）
ガラス厚	平面強化透明6.0＋飛散防止フィルム(室内側)	平面網入型硝子6.8	平面網入型硝子6.8	平面網入型硝子6.8	
付属金物	ｸﾚｾﾝﾄ、水切、ｱﾝｸﾞﾙ、付属金物一式	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠+ｻﾑﾀｰﾝ(同一ｷｰ①)、付属金物一式	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠+ｻﾑﾀｰﾝ(同一ｷｰ①)、付属金物一式	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠+ｻﾑﾀｰﾝ(同一ｷｰ①)、付属金物一式	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠+ｻﾑﾀｰﾝ(同一ｷｰ①)、付属金物一式
備考		ﾄﾞｱﾁｪｯｸ（ｽﾄｯﾌﾟ付）両扉共	ﾄﾞｱﾁｪｯｸ（ｽﾄｯﾌﾟ付）	ﾄﾞｱﾁｪｯｸ（ｽﾄｯﾌﾟ付）	ﾄﾞｱﾁｪｯｸ（ｽﾄｯﾌﾟ付）

記号・個数	A塔MD-1・1ヵ所	A塔MD-2・1ヵ所	A塔MD-3・1ヵ所	A塔SS-1・2ヵ所
取付場所	2階:放水・濃煙・検索室①	4階:放水・濃煙・検索室②	5階:放水・濃煙・検索室③	1階:倉庫（煙道）
形状・寸法				
見込・寸法	100	100	100	
種別方式	片開きﾏﾝｼｮﾝ玄関ﾄﾞｱ	片開きﾏﾝｼｮﾝ玄関ﾄﾞｱ	片開きﾏﾝｼｮﾝ玄関ﾄﾞｱ	手動軽量ｼｬｯﾀｰ
材料仕上	ｽﾁｰﾙ製t=0.8　化粧鋼板（枠；焼付塗装）	ｽﾁｰﾙ製t=0.8　化粧鋼板（枠；焼付塗装）	ｽﾁｰﾙ製t=0.8　化粧鋼板（枠；焼付塗装）	ｽﾃﾝﾚｽ鋼板t=0.8（ｹｰｽ；ｽﾃﾝﾚｽ鋼板）
ガラス厚				
付属金物	ｽﾄﾚｰﾄﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠+2ヵ所ｻﾑﾀｰﾝ(同一ｷｰ①)、U字ﾛｯｸ	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠+ｻﾑﾀｰﾝ(同一ｷｰ①)、ﾁｪｰﾝﾛｯｸ	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠+ｻﾑﾀｰﾝ(同一ｷｰ①)、ﾁｪｰﾝﾛｯｸ	座板･ﾚｰﾙ:ｽﾃﾝﾚｽ鋼板、ﾌﾞﾗｹｯﾄ:鋼板(素地ごしらえの上錆止め塗装)
備考	ﾄﾞｱｽｺｰﾌﾟ（φ12）、付属金物一式	ﾎﾟｽﾄ、ﾄﾞｱｽｺｰﾌﾟ、付属金物一式	ﾎﾟｽﾄ、ﾄﾞｱｽｺｰﾌﾟ、付属金物一式	ｼｬｯﾀｰ錠（同一ｷｰ②）　他付属金物一式

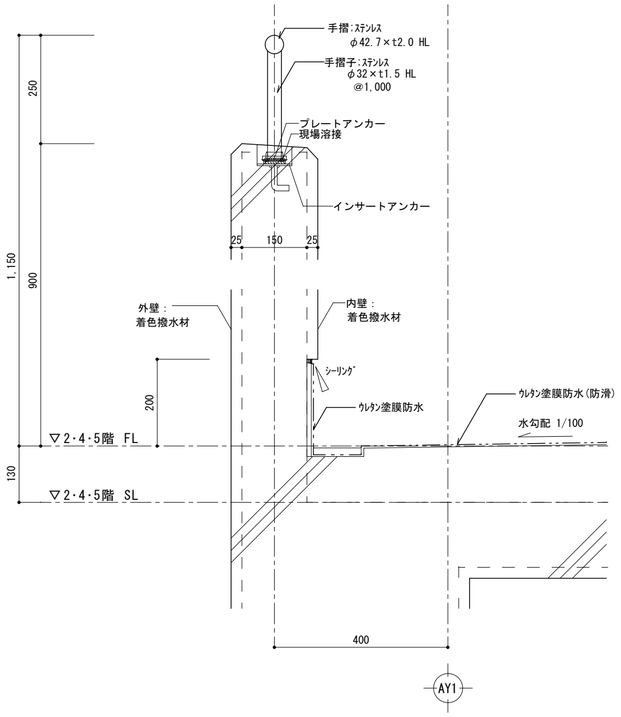
記号・個数	B塔SD-1・1ヵ所
取付場所	1階:倉庫
形状・寸法	
見込・寸法	100
種別方式	両開き戸
材料仕上	ｽﾁｰﾙ製t=1.6　焼付塗装（枠共）
ガラス厚	平面網入型硝子6.8
付属金物	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠+ｻﾑﾀｰﾝ(同一ｷｰ①)、付属金物一式
備考	ﾄﾞｱﾁｪｯｸ（ｽﾄｯﾌﾟ付）両扉共

※ 同一キー仕様

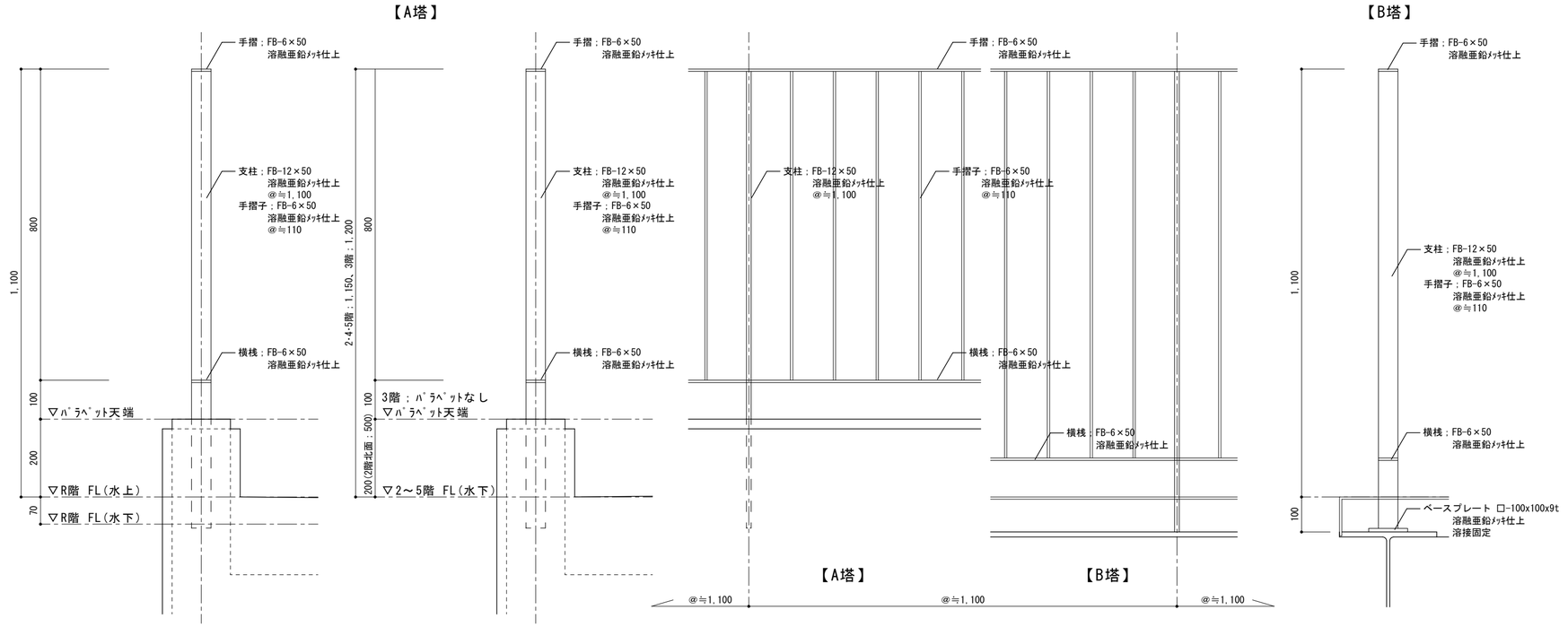
同一キー①（計18本）；A塔SD-1～4、A塔MD-1～3、B塔SD-1

同一キー②（計 6本）；A塔SS-1

【A塔】2･4～5階 バルコニー　S=1:10

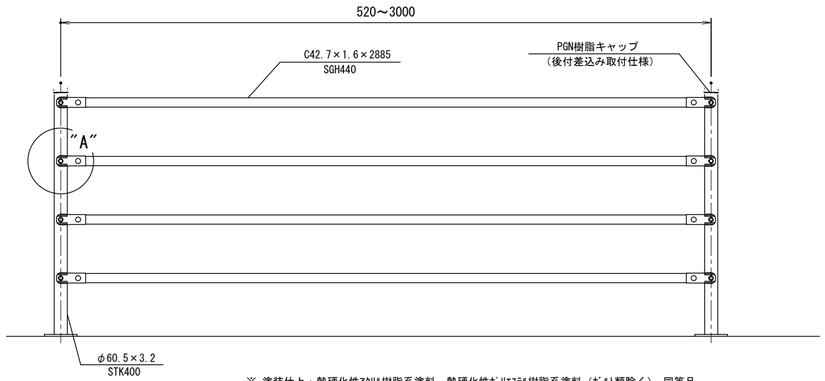


【A塔・B塔】各階 落下防止手摺　S=1:20



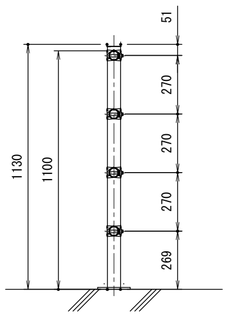
【A塔】3(床開口共)･R階　【B塔】2階　防護柵　S=1:10･20

正 面 図

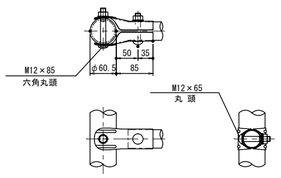


断 面 図

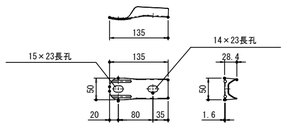
ベースプレート用
(P)



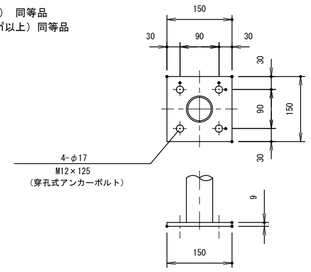
※ 塗装仕上；熱硬化性ｱｸﾘﾙ樹脂系塗料、熱硬化性ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系塗料（ﾎﾞﾙﾄ類除く） 同等品
※ 下地処理；JIS G3302「溶融亜鉛ﾒｯｷ鋼板」に規定される Z27（両面付着量275g/㎡以上）同等品



"A"部詳細図 S=1:10



端末ブラケット詳細図 S=1:10

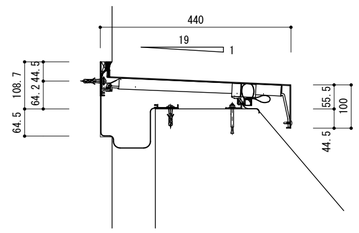


ベースプレート詳細図 S=1:10

【A塔】EXP.J

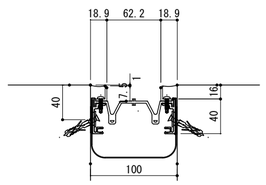
外壁+屋根（小ロフタ）

仕様；ｱﾙﾐ既製品（ｼﾙﾊﾞｰｱﾙﾏｲﾄ仕上げ）



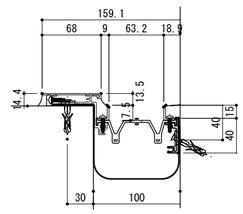
外壁+外壁

仕様；熱可塑性ｴﾗｽﾄﾏｰ（見切りｼﾙﾊﾞｰ）



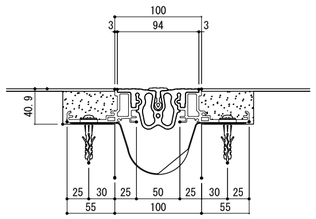
外壁コーナー

仕様；熱可塑性ｴﾗｽﾄﾏｰ（見切りｼﾙﾊﾞｰ）



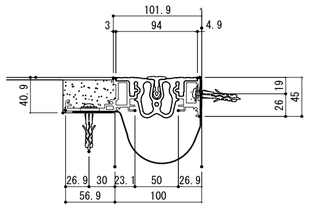
床+床

仕様；熱可塑性ｴﾗｽﾄﾏｰ（見切りｼﾙﾊﾞｰ）

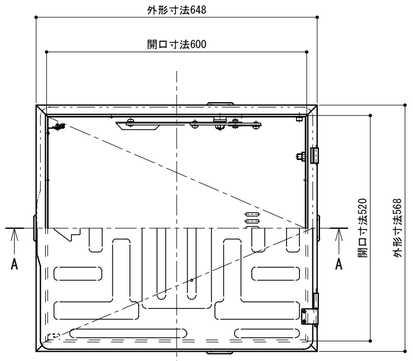


床コーナー

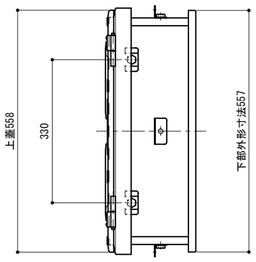
仕様；熱可塑性ｴﾗｽﾄﾏｰ（見切りｼﾙﾊﾞｰ）



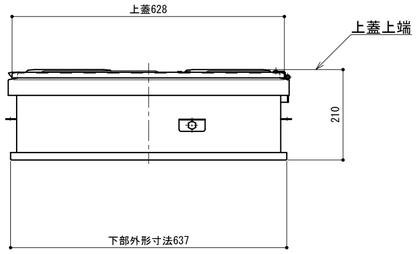
発行 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-1-11 KUDO YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113
一級建築士事務所 第B4287号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号
鈴木 篤
RIGHT LINE BY A.SUZUKI
企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤
設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直
空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING 雑詳細図 1
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE 図示
NO A-49



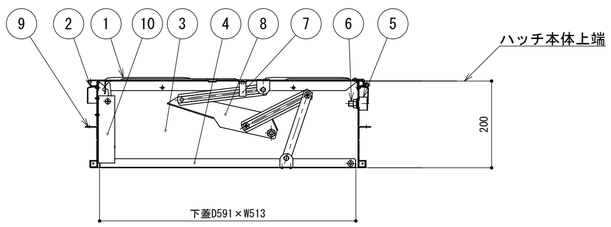
避難ハッチ平面図
S=1:10



避難ハッチ側面図
S=1:10

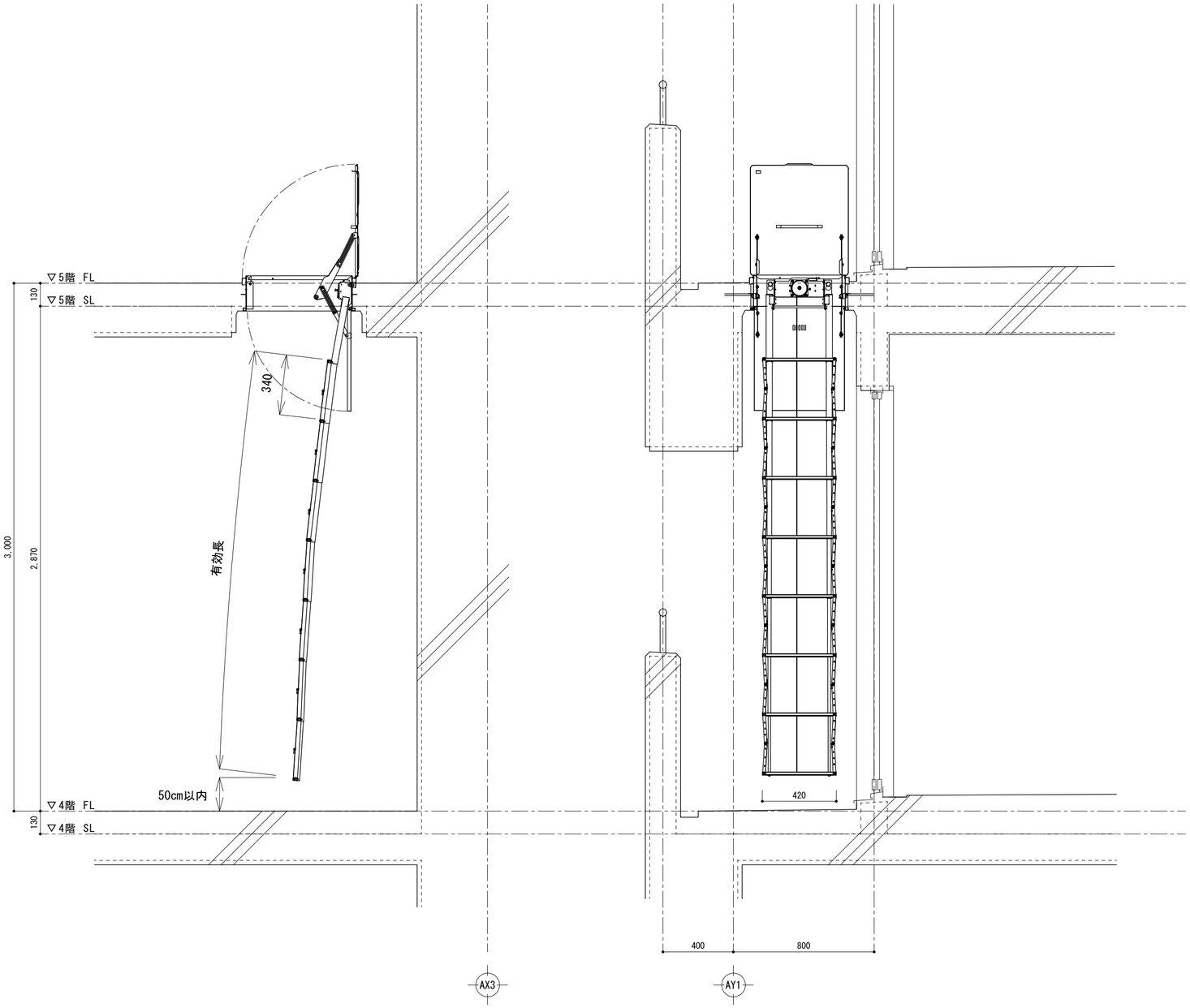


避難ハッチ側面図
S=1:10



避難ハッチ断面図
S=1:10

総重量		15.9kg	
10	チャイルドロック	SUS304(2B)	t1.5～t2.0
9	固定プレート	SUS304(2B)	t1.5
8	ステー装置	SUS304(2B)	t1.5～t2.0
7	手掛棒	SUS304(2B)	FB-15×3
6	はしご吊りボルト	SUS304	M12
5	補強板	SUS304(2B)	t2.0
4	下蓋	SUS304(2B)	t1.2
3	本体	SUS304(2B)	t1.2
2	上ツバ	SUS304(2B)	t1.2
1	上蓋	SUS304(2B)	t1.5
符号	名　称	材質	備　考



8段はしご使用状態図
S=1:20

区分 / 種類	はしご			
	段数	有効長	重量	適用高さ
ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金	8段	2380	9.5kg	2890≦適用高さ≦3275

発行 2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113

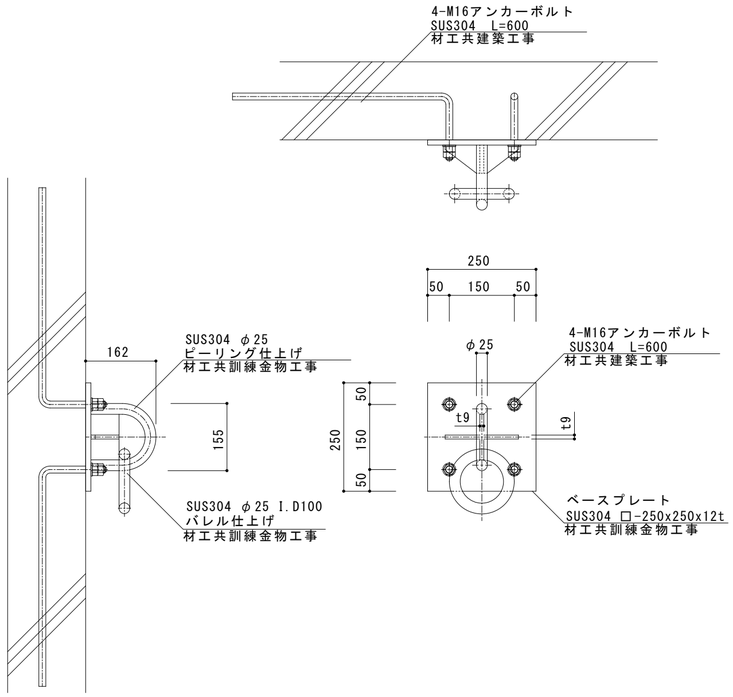
一級建築士事務所 第84287号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2575号
鈴木 篤
SUZUKI ATSUSHI

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩	
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直	
空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見　直	

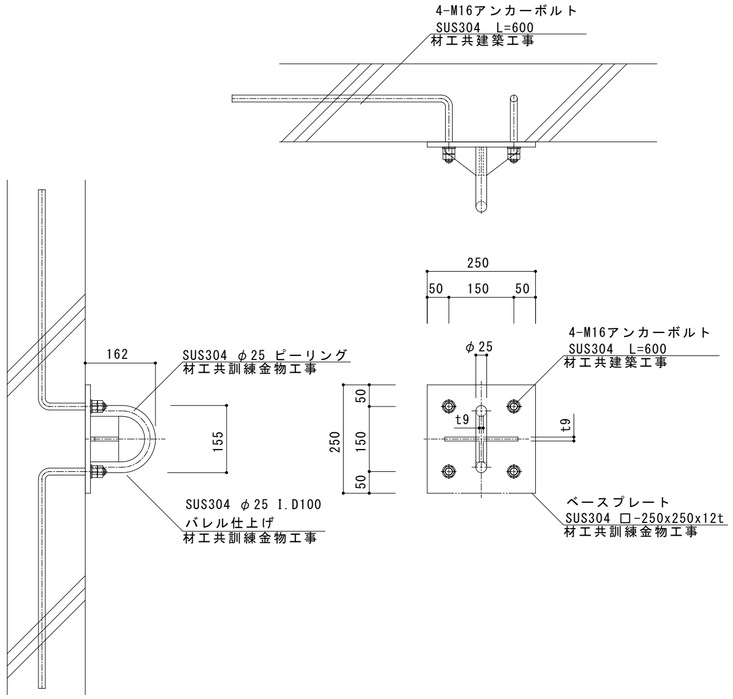
設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING：雑詳細図２
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE　図示
NO　A-50

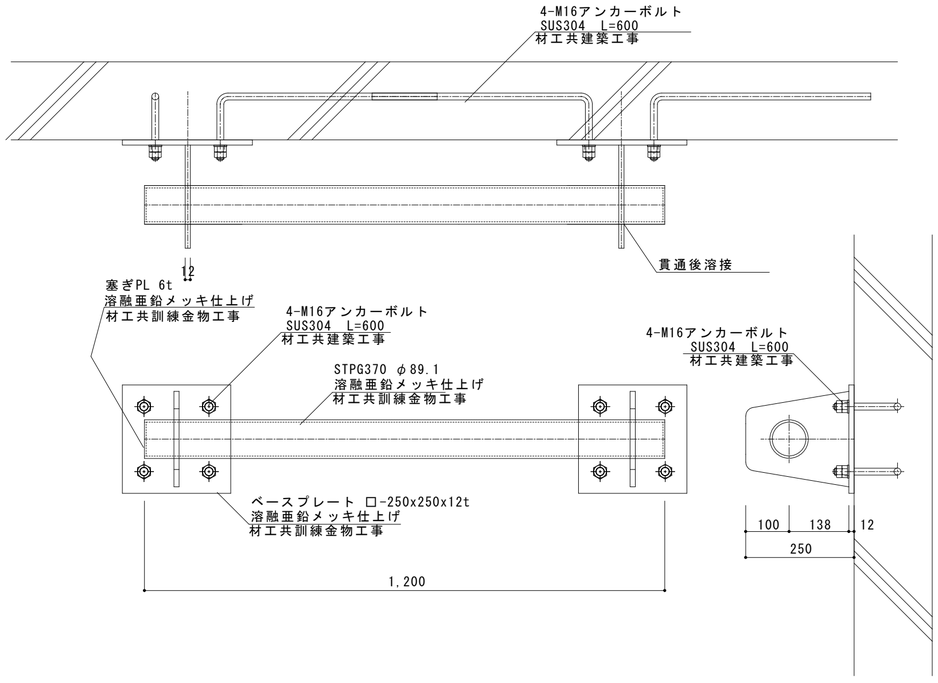
（1）リング環（20KN）（45カ所）
（A塔・B塔各所）



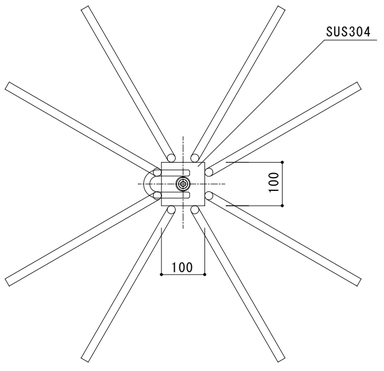
（2）U字フック（7KN用）（4カ所）
（A塔）

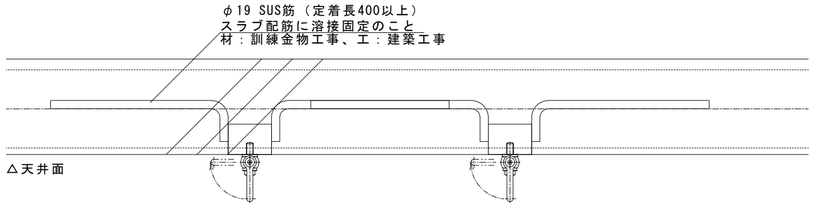


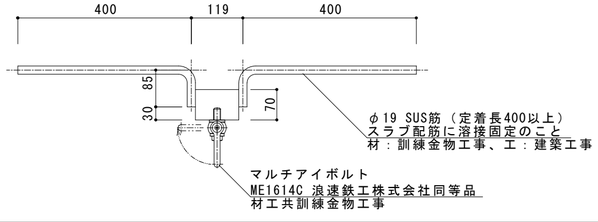
（3）降下用壁支点（20KN）（1カ所）
（A塔2階）



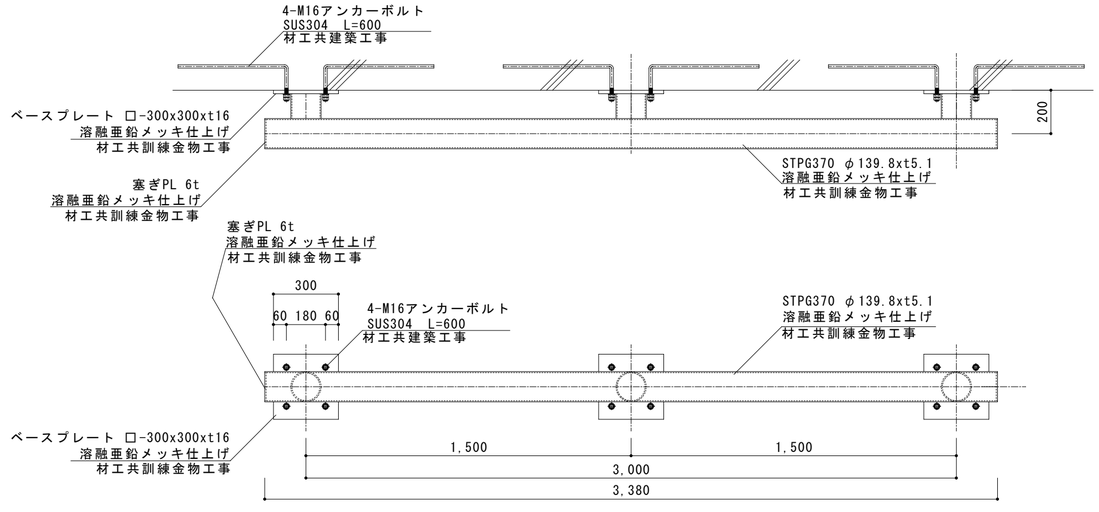
（4）天井支点（360° ｱﾝｶｰ・20KN））（3カ所）
（A塔3階）







（5）上部支点（2カ所）
（A塔3階・5階）

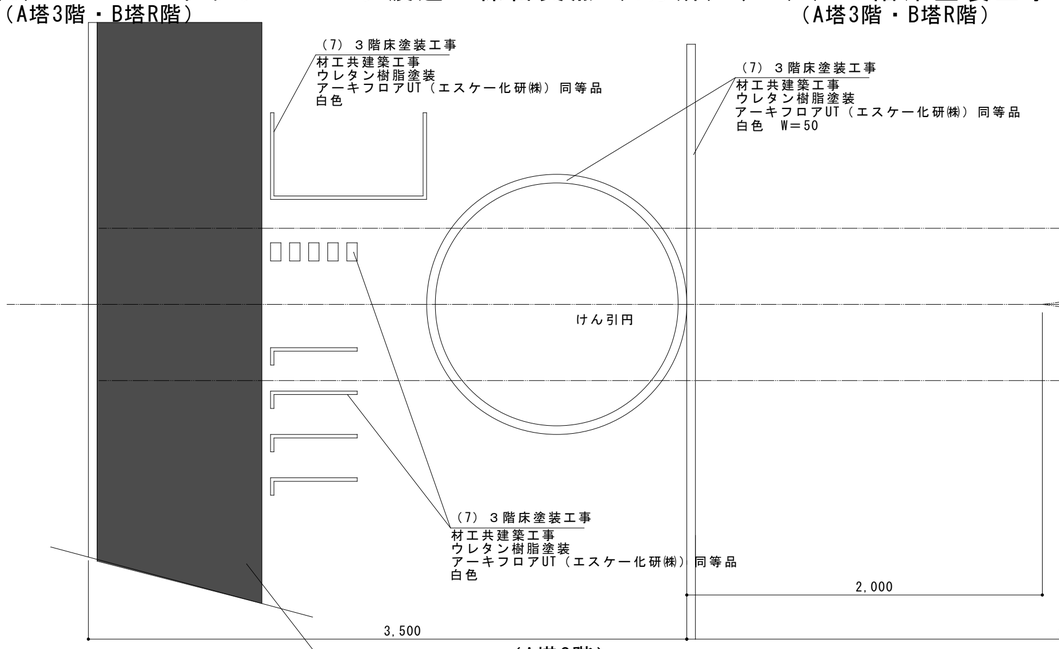


※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

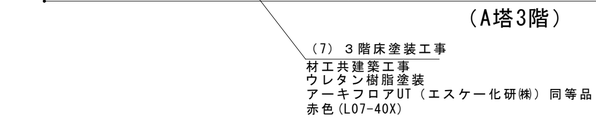
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-2-11 KUDAN YOKOHAMA 230 TEL.045(681)7113	一級建築士登録 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2575号 鈴木 篤 SIGNE UNE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター 訓練塔・訓練補助塔新築工事 PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING 訓練金物01 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE	NO A-56				

（6）ロープブリッジ・ロープ渡過　係留支点（4カ所）、（7）３階床塗装工事

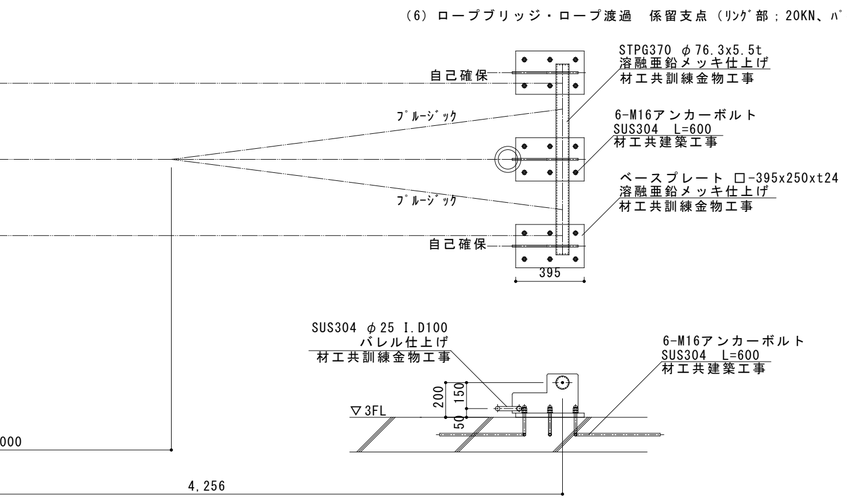
（A塔3階・B塔R階）

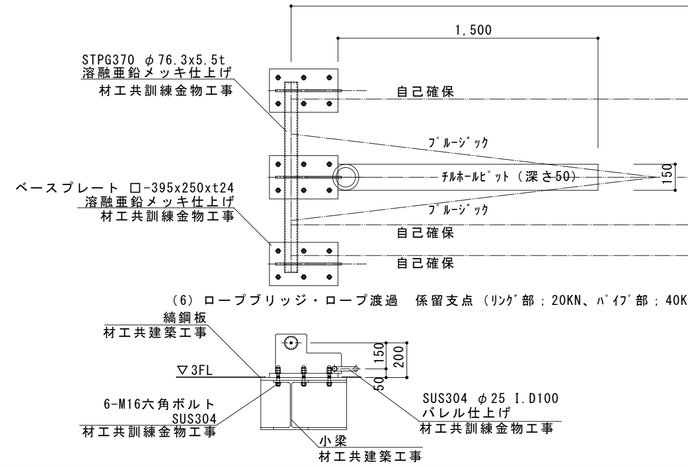


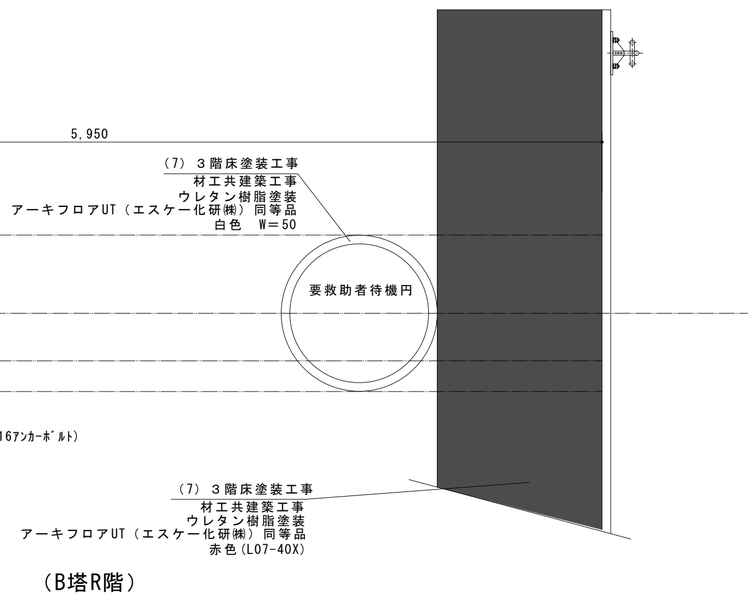
（A塔3階）



（A塔3階・B塔R階）



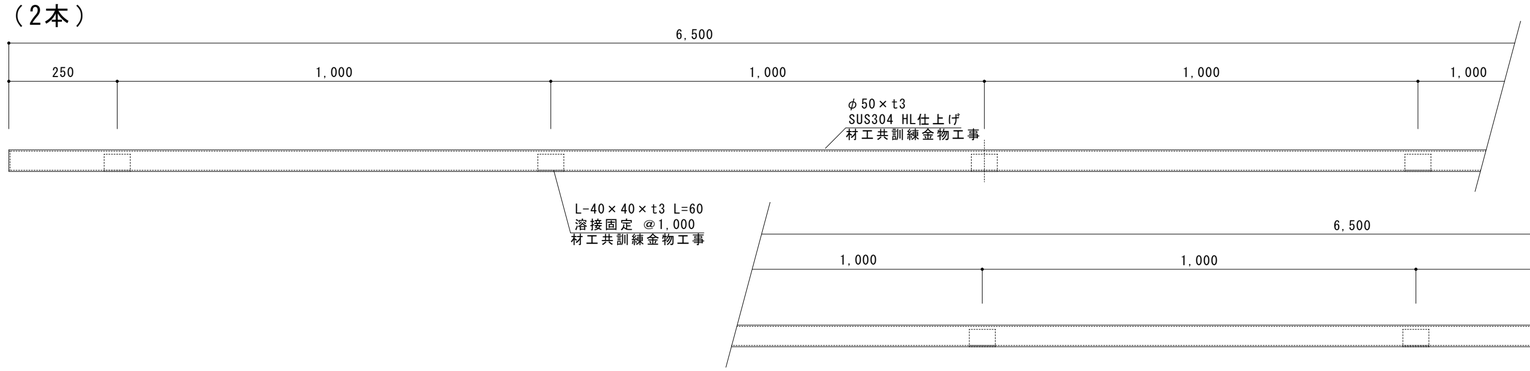


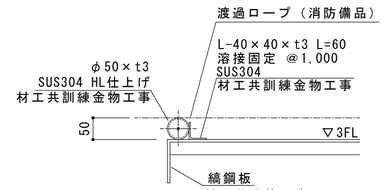


（B塔R階）

（8）ロープ擦れ防止金物（2本）

（A塔3階・B塔R階）

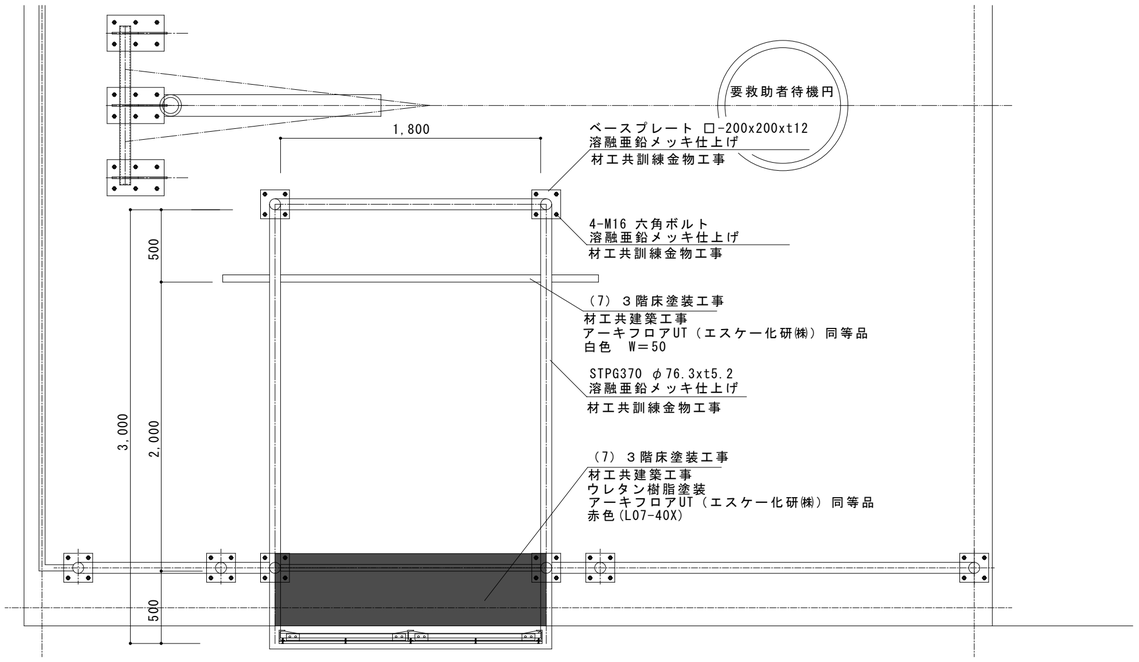


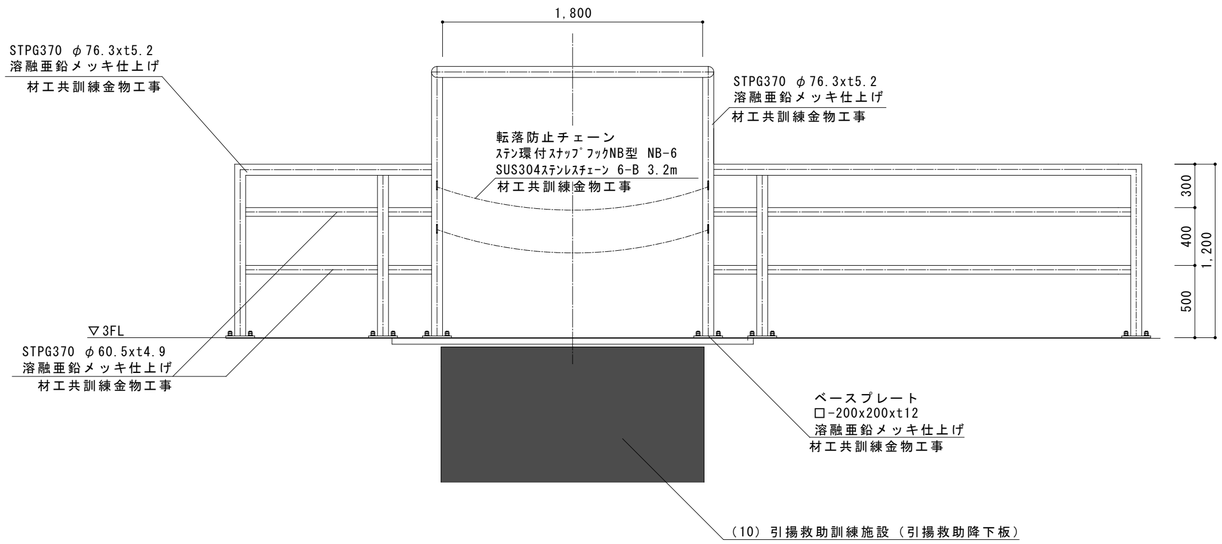


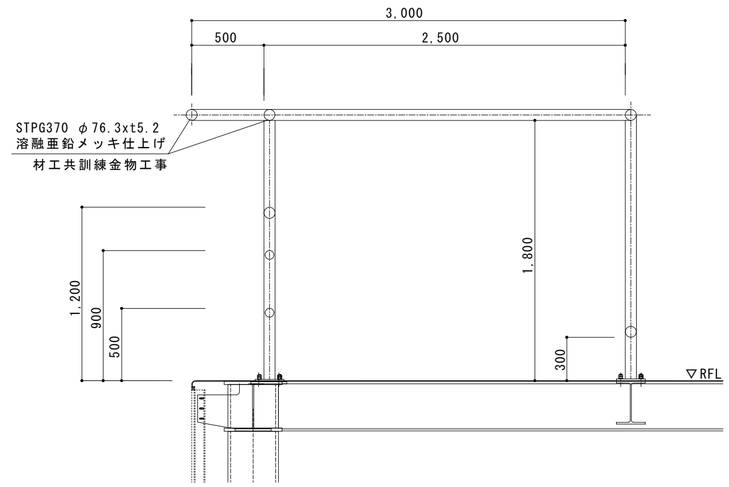
※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(50)7113	一級建築士登録　第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2911号 鈴木 篤 SIGNE UME BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER: 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER: 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG: 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG: 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG: 長見 直 空調設備担当 MECHANICAL ENG: 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER: 訓練塔・訓練補助塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING: 訓練金物02 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE	A-57 NO

（9）引揚救助訓練施設（鋼製やぐら・7KN）
（B塔R階）





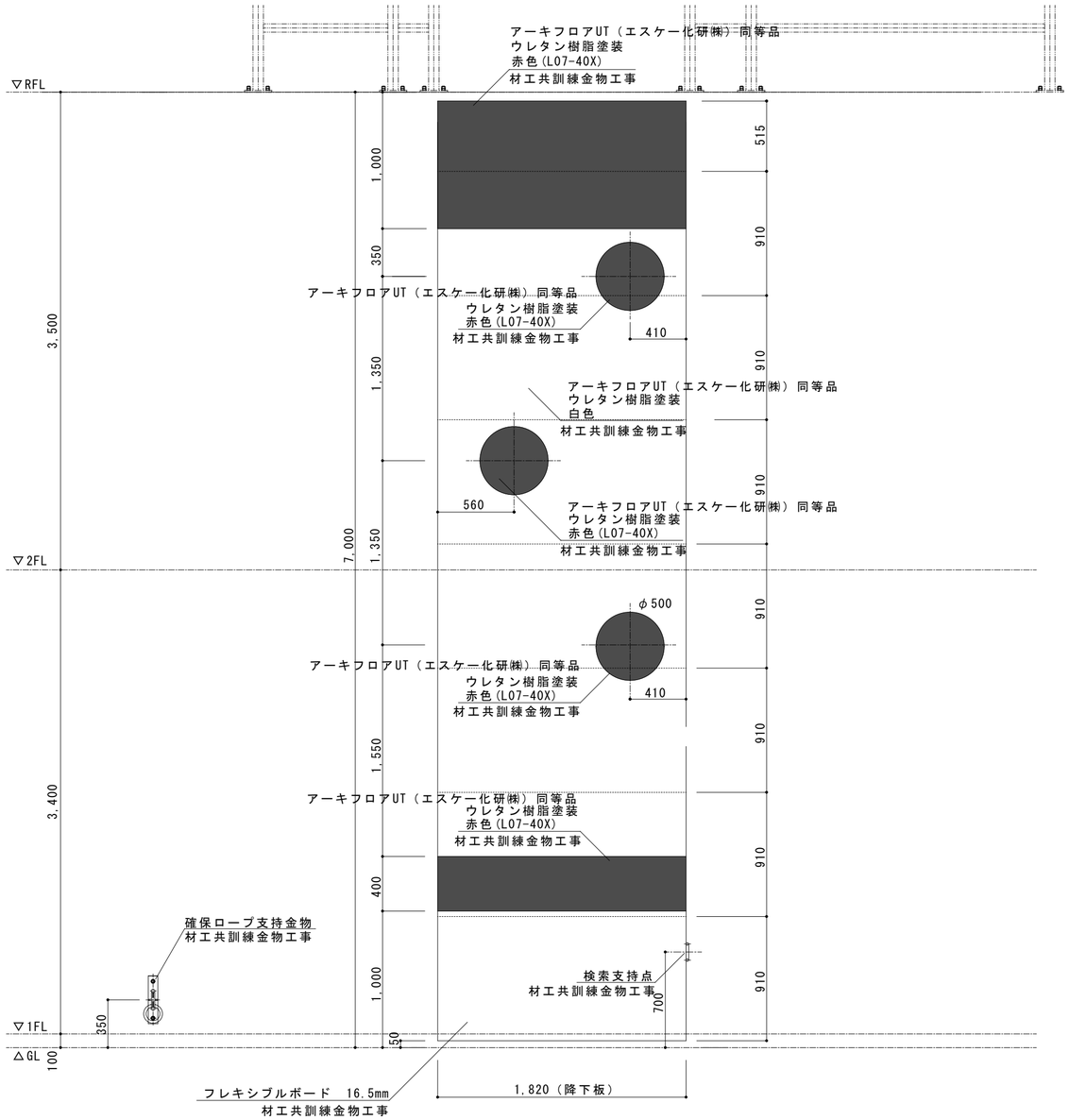


※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

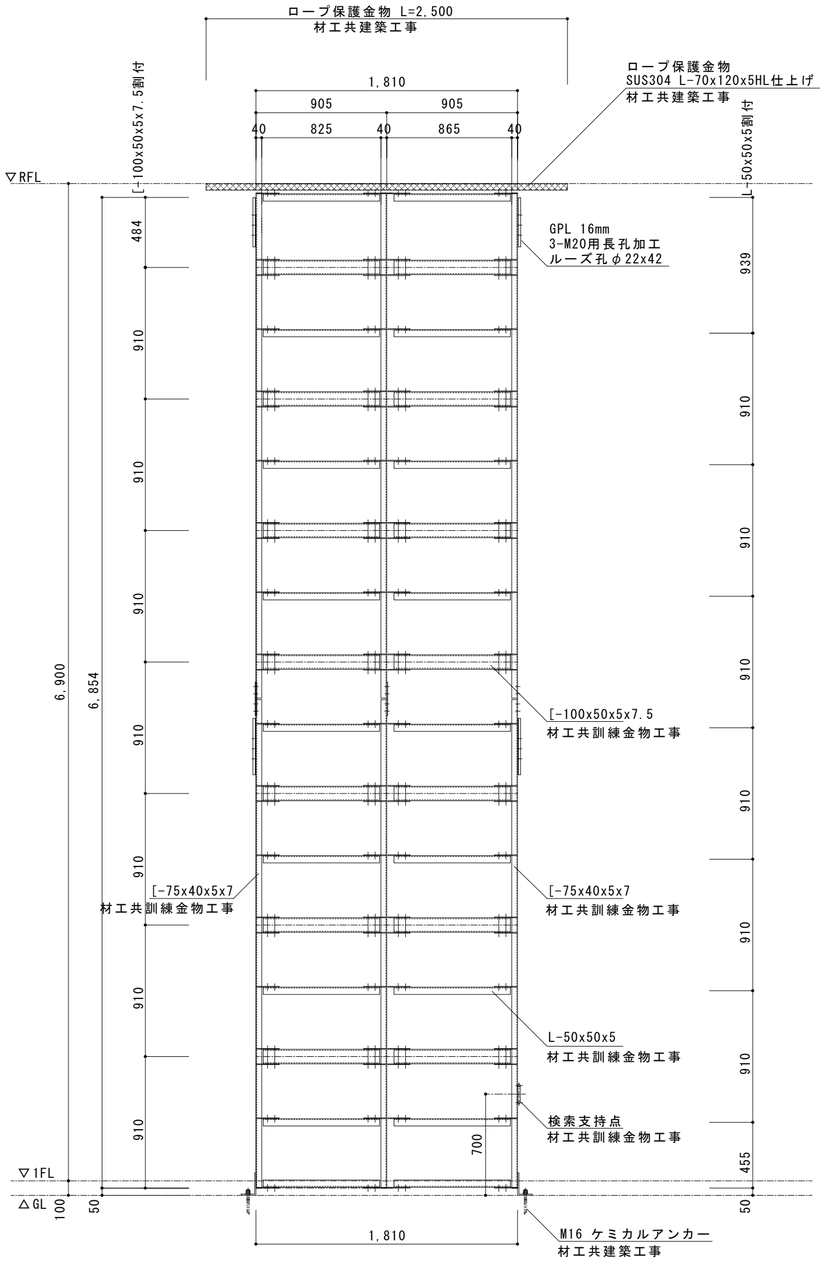
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN YOKOSUKA 238 TEL.0468(52)7113	一級建築士事務所 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2引3号 鈴木 篤 SIGNE UKE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター
			設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	訓練塔・訓練補助塔新築工事
			構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直	PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING	訓練金物03	A-58
DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE	NO

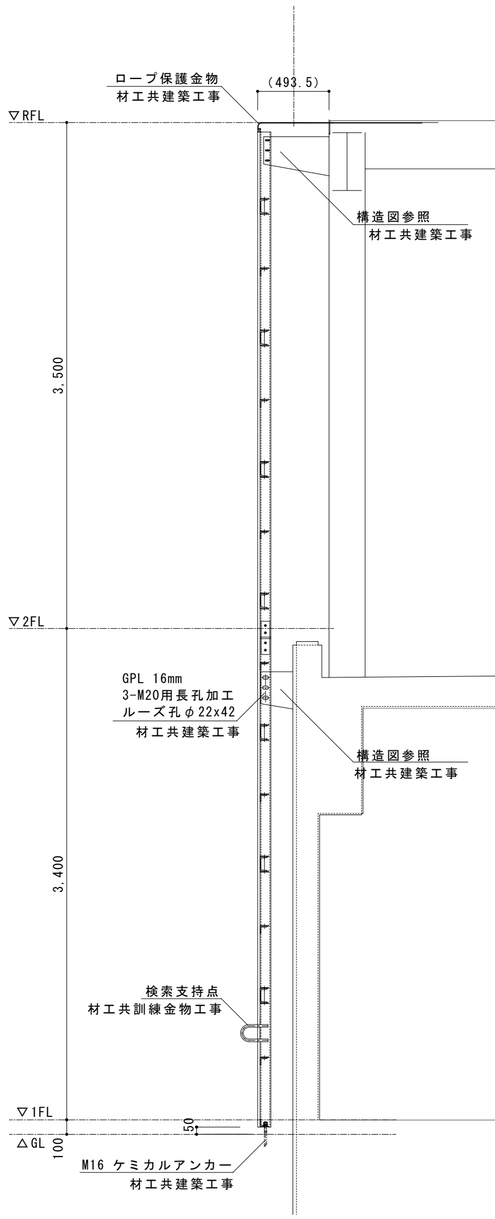
（10）引揚救助訓練施設（引揚救助降下板）
（B塔）



（仕上げ）



（下地鉄骨立面図）

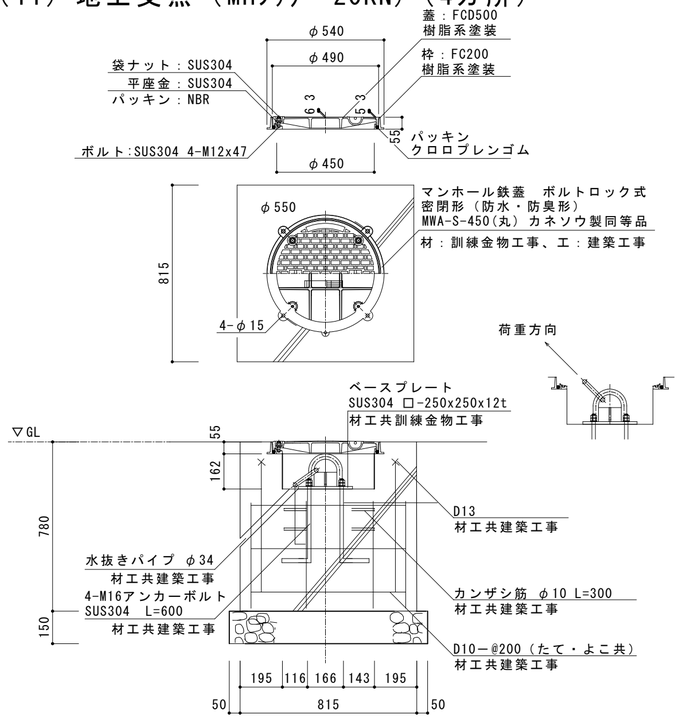


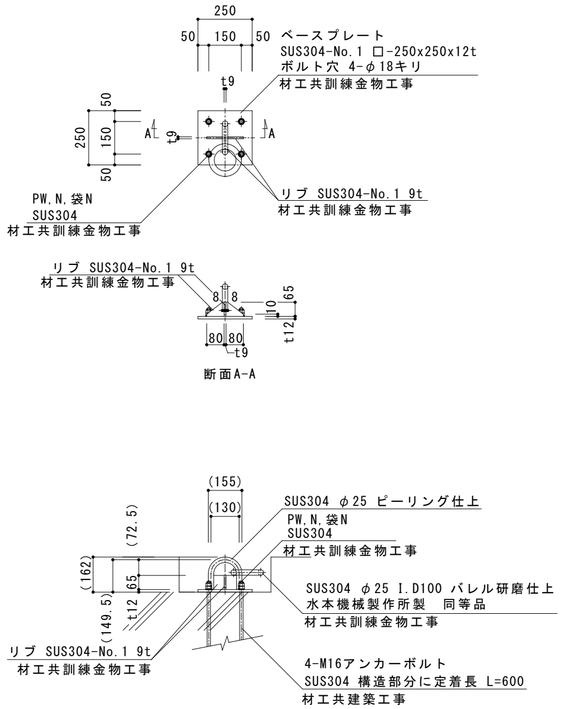
（断面図）

※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）
および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

発行 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2131号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 CHIEF PRODUCER: 鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG: 岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター	図面名称 ITEM OF DRAWING: 訓練金物04	A-59
			設計担当 CHIEF DESIGNER: 鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG: 長見 直	訓練塔・訓練補助塔新築工事	縮尺 SCALE	NO
			構造担当 STRUCTURAL ENG: 秦 陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG: 長見 直	PROJECT NAMBER	DRAWING NAMBER	

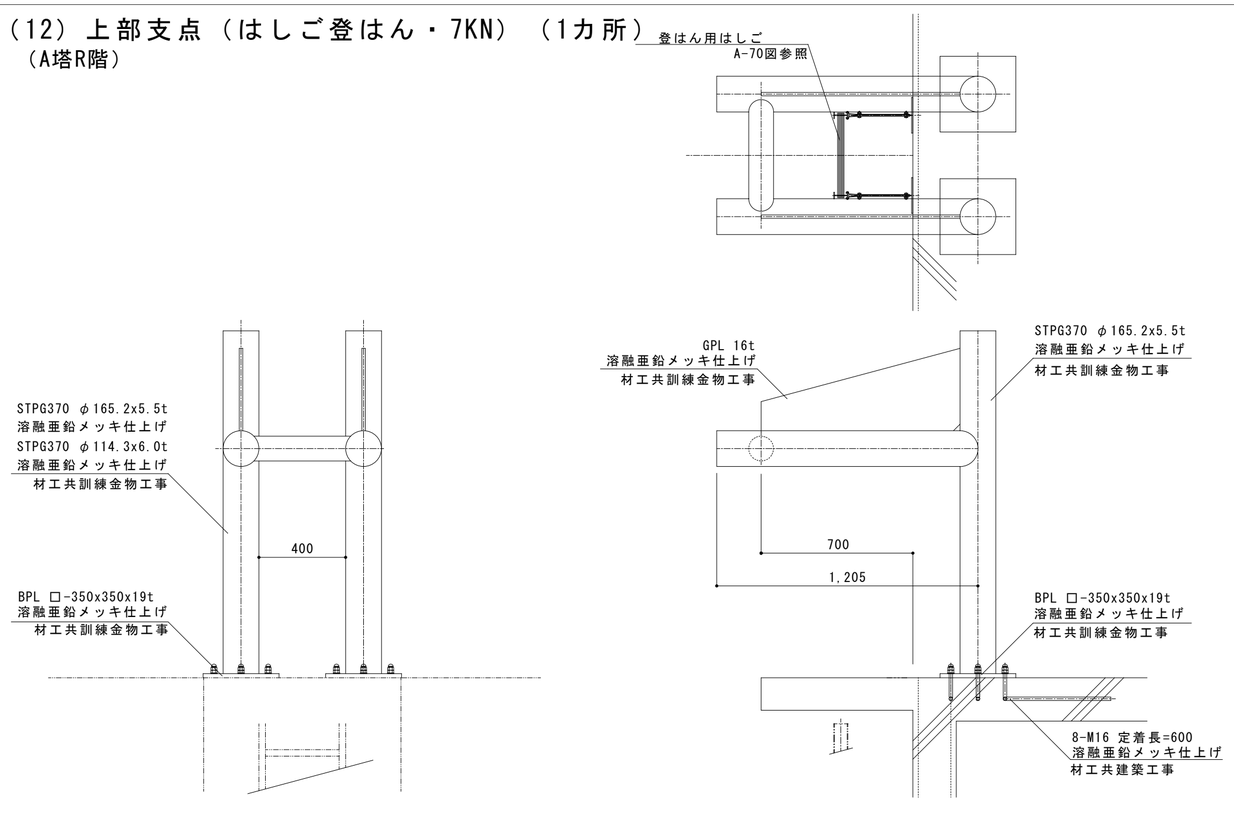
（11）地上支点（MHﾌｯｸ・20KN）（4カ所）





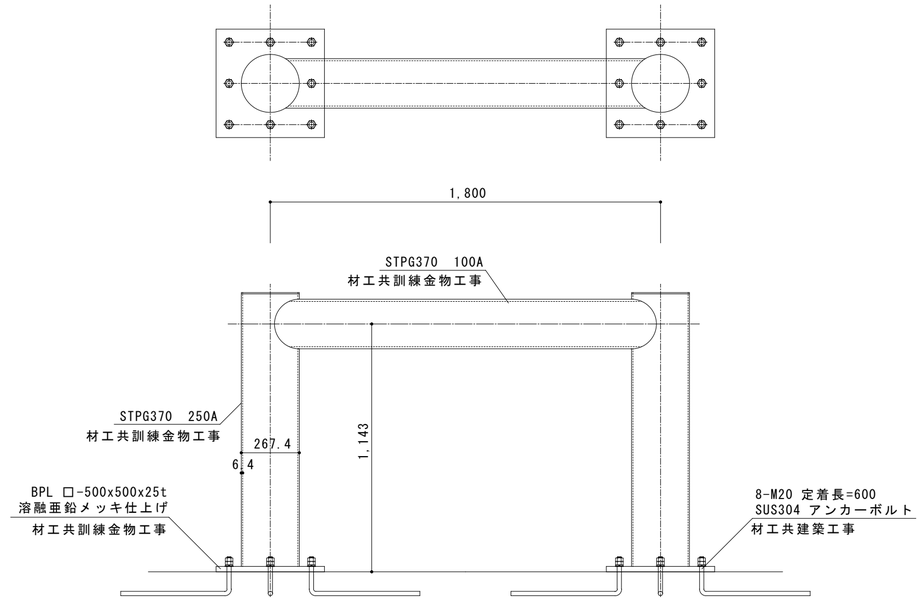
（12）上部支点（はしご登はん・7KN）（1カ所）

（A塔R階）



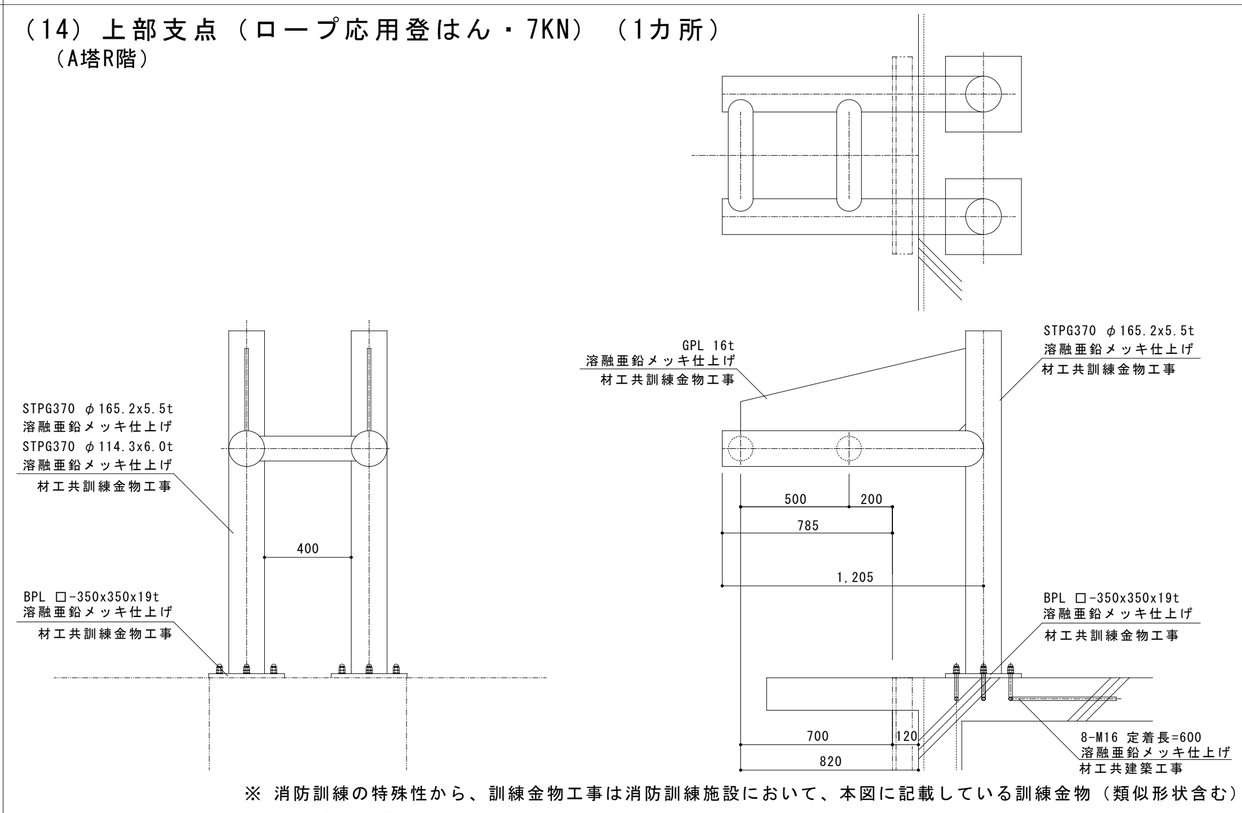
（13）門型支点 20KN（1カ所）

（A塔R階）



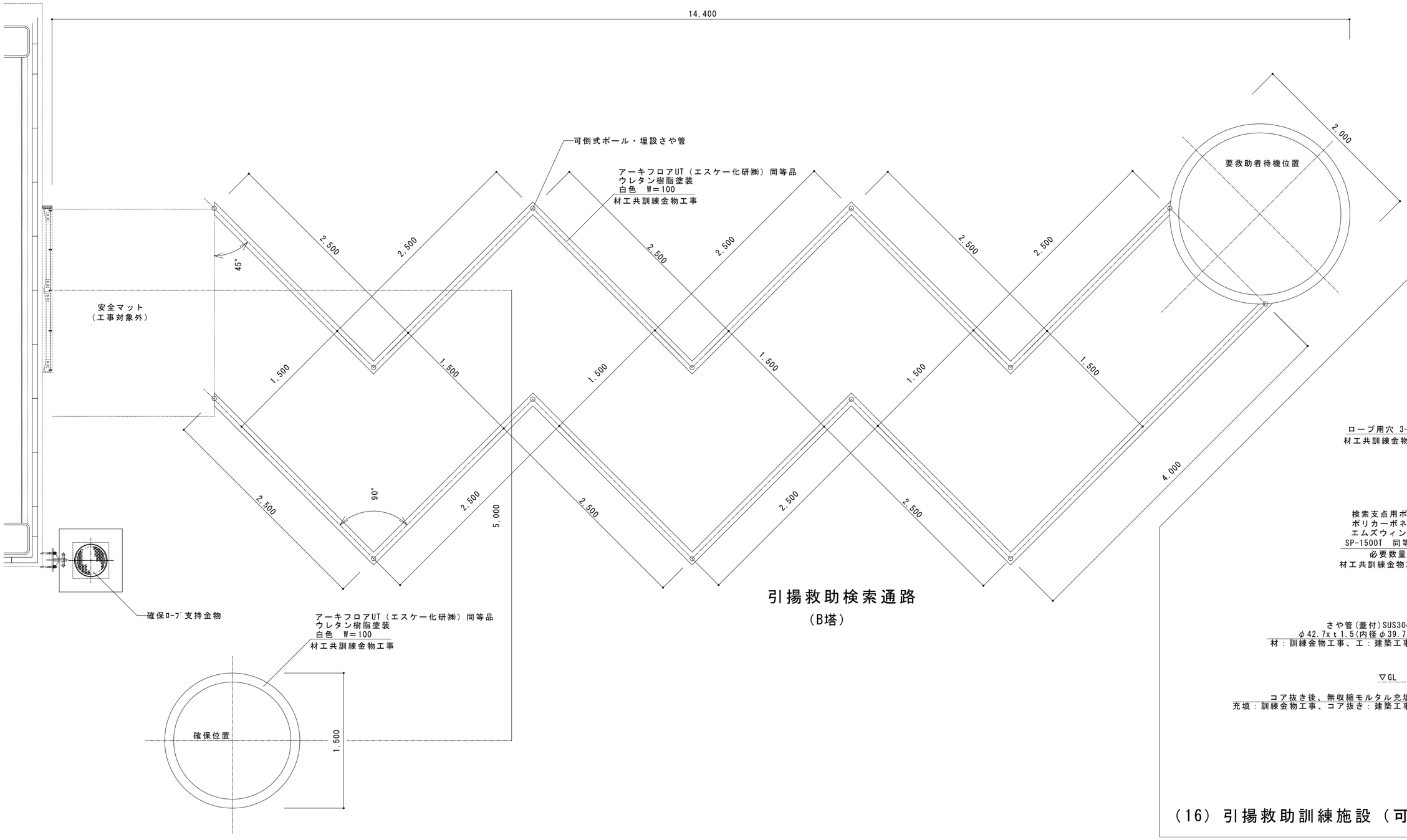
（14）上部支点（ロープ応用登はん・7KN）（1カ所）

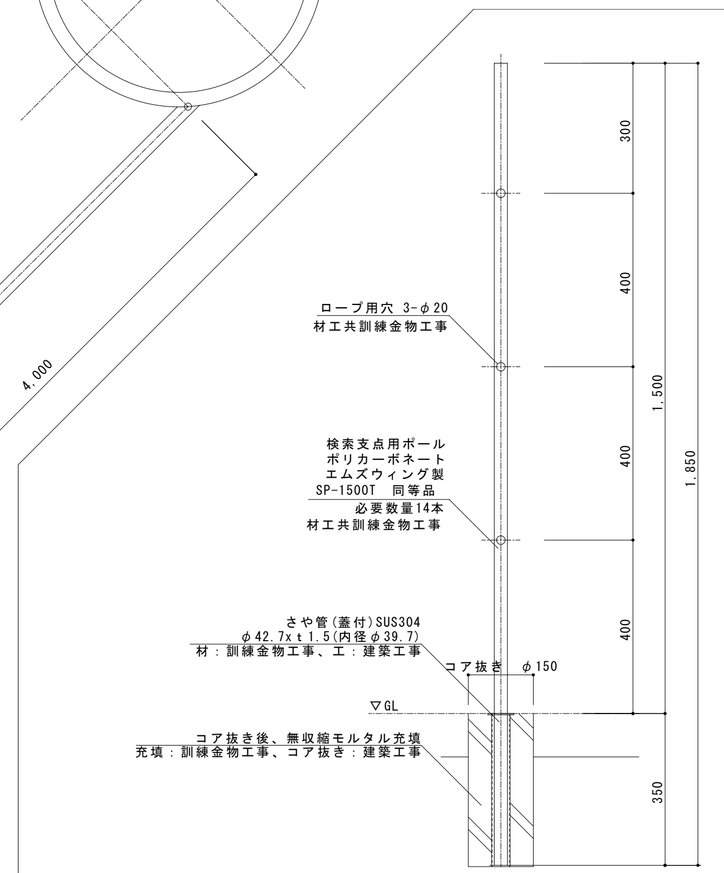
（A塔R階）



※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

（15）地上ペイント 材工共建築工事



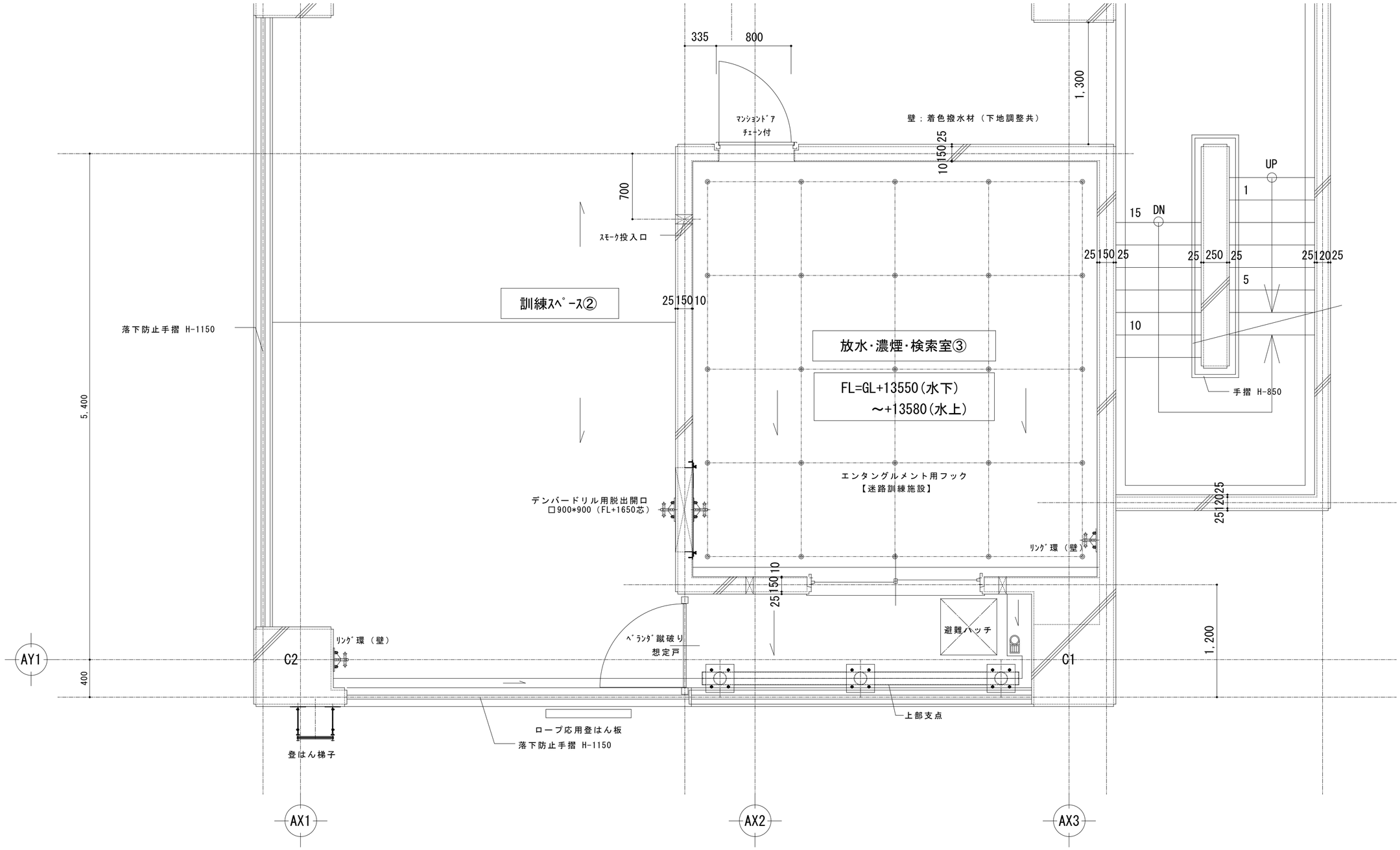


（16）引揚救助訓練施設（可倒式ポール・さや管）

※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(530)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2171号 鈴木 篤 BYONE UME BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECHANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER 訓練塔・訓練補助塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING 訓練金物06 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE	A-61 NO

（17） 迷路訓練施設
（A塔5階）

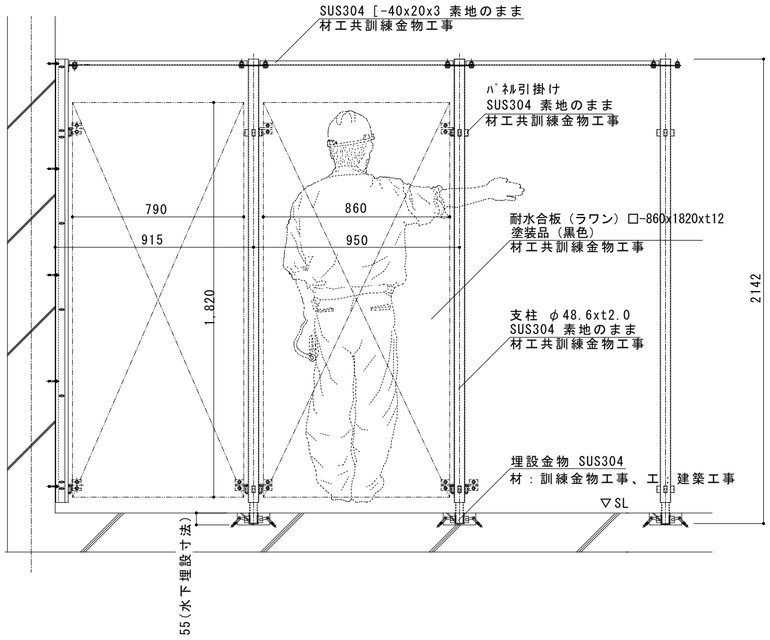


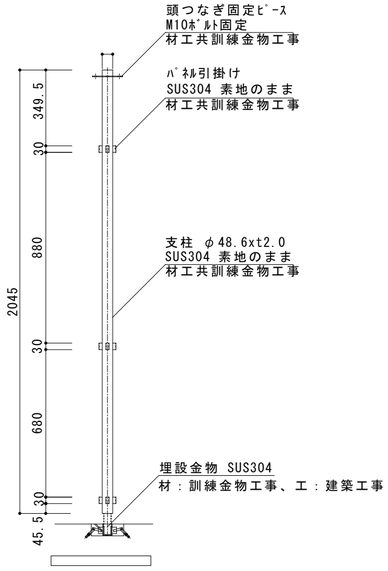
迷路訓練施設（Ａ塔５階）

※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）
および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUGOU FUKUOKA 238 TEL.0468(32)7113	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2171号 鈴木 篤 SIGNE UKI BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター 訓練塔・訓練補助塔新築工事 PROJECT NAMBER	図面名称 ITEM OF DRAWING 訓練金物07 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE	A-62 NO

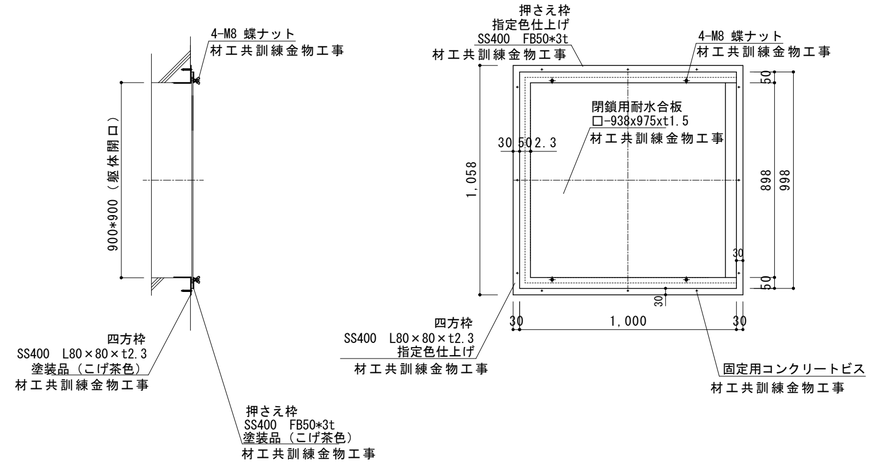
（17）迷路訓練施設
（A塔5階）

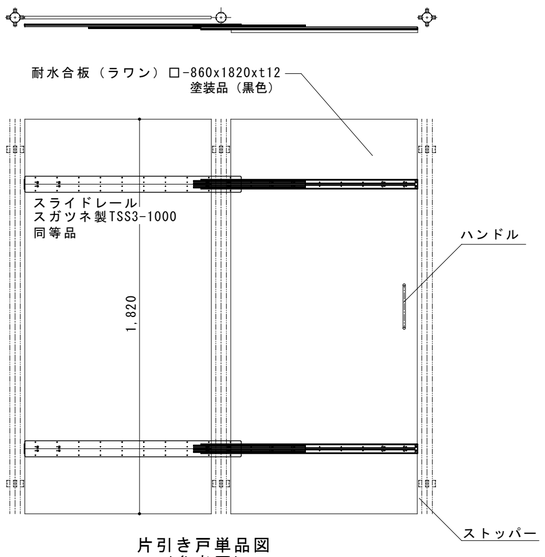




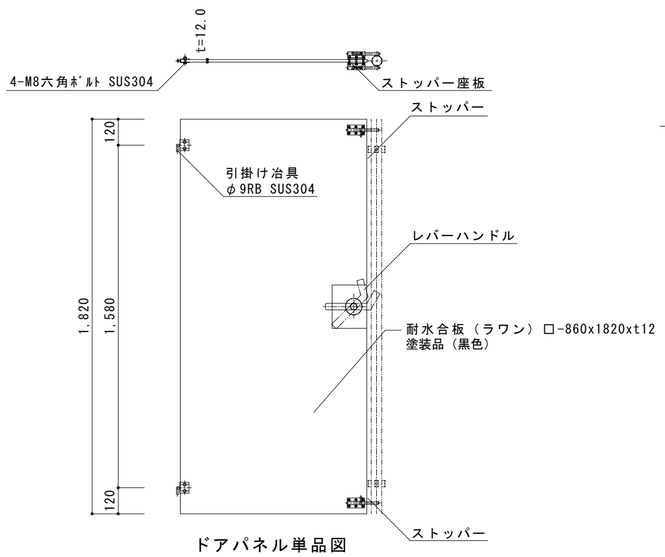
着脱支柱単品図

（18）デンバードリル脱出開口用鋼製枠（3カ所×両面）
（A塔2階・4階・5階）

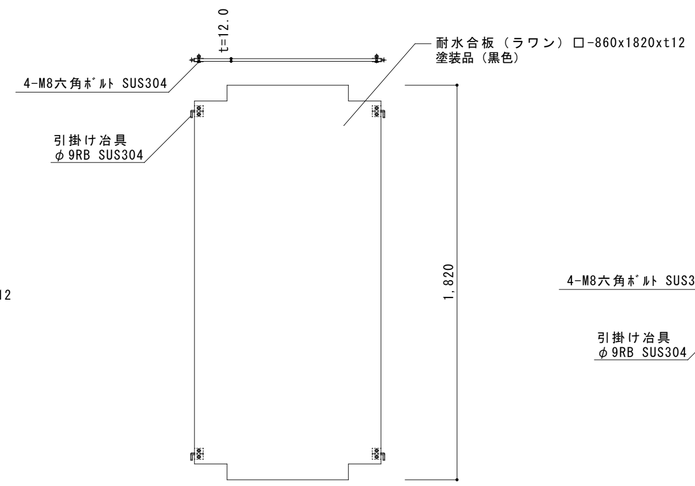




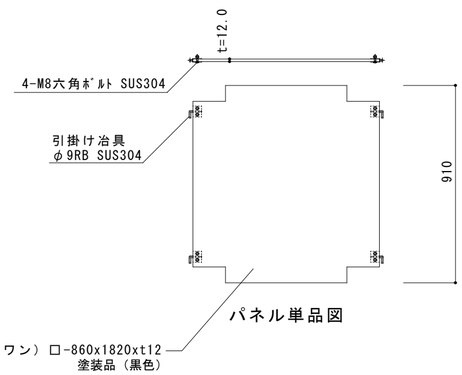
片引き戸単品図
（参考図）



ドアパネル単品図



パネル単品図

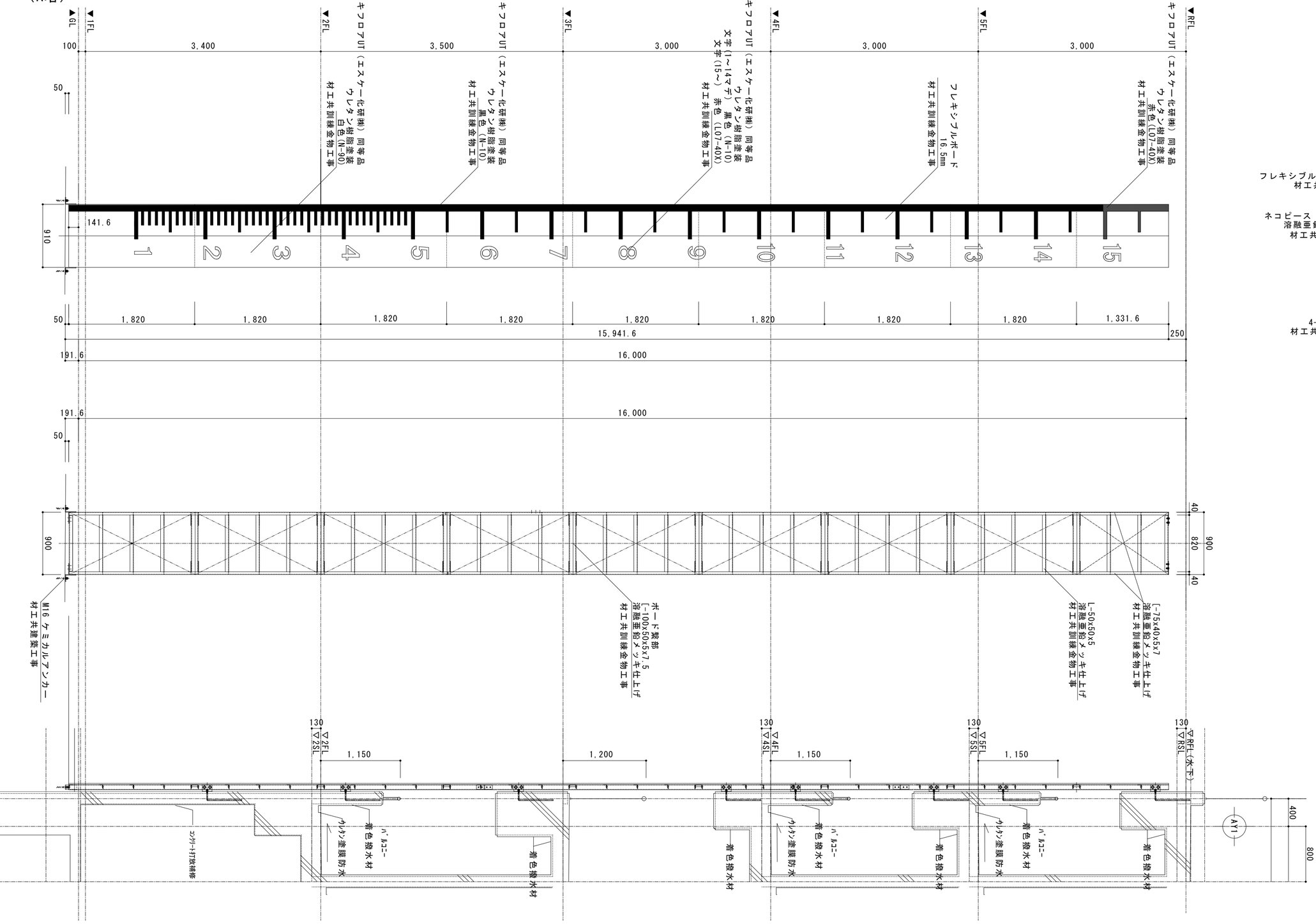


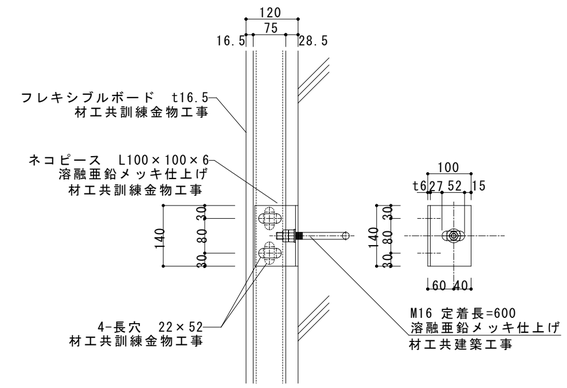
パネル単品図

※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

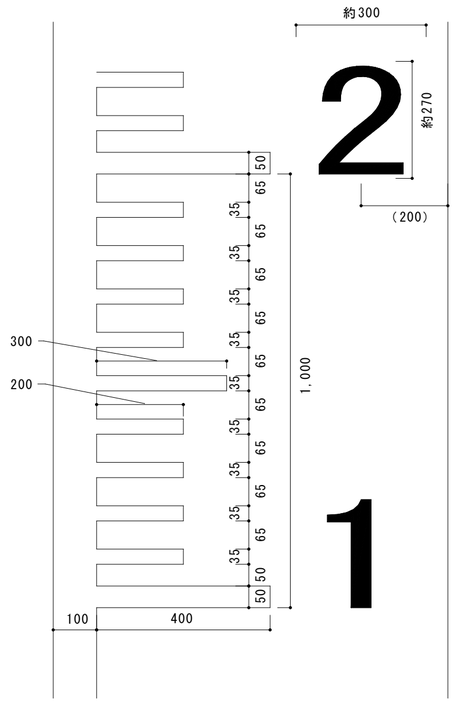
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日 鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 一級建築士事務所 第842876号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2313号 鈴木 篤 SIGNE UBE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 設計担当 CHIEF DESIGNER 構造担当 STRUCTURAL ENG	鈴木 篤 鈴木 玲成 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 衛生設備担当 SANITARY ENG 空調設備担当 MECANITCAL ENG	岡 正浩 長見 直 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT PROJECT NAMBER 消防総合訓練センター 訓練塔・訓練補助塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING DRAWING NAMBER 訓練金物08 縮尺 SCALE	A-63 NO

（19）ロープ応用登はん訓練施設
（A塔）





取合詳細図　S=1/5



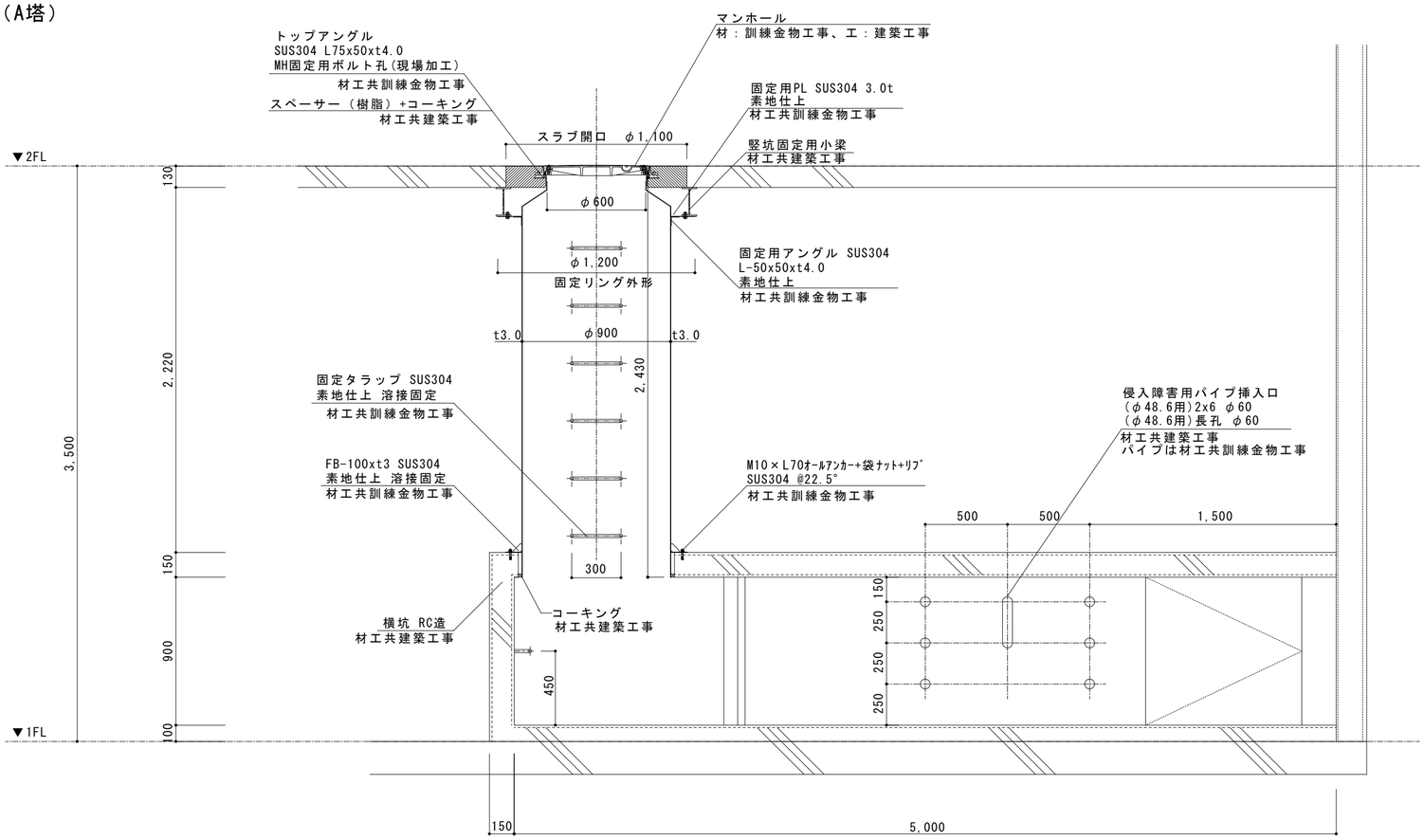
目盛り部詳細　S=1/10

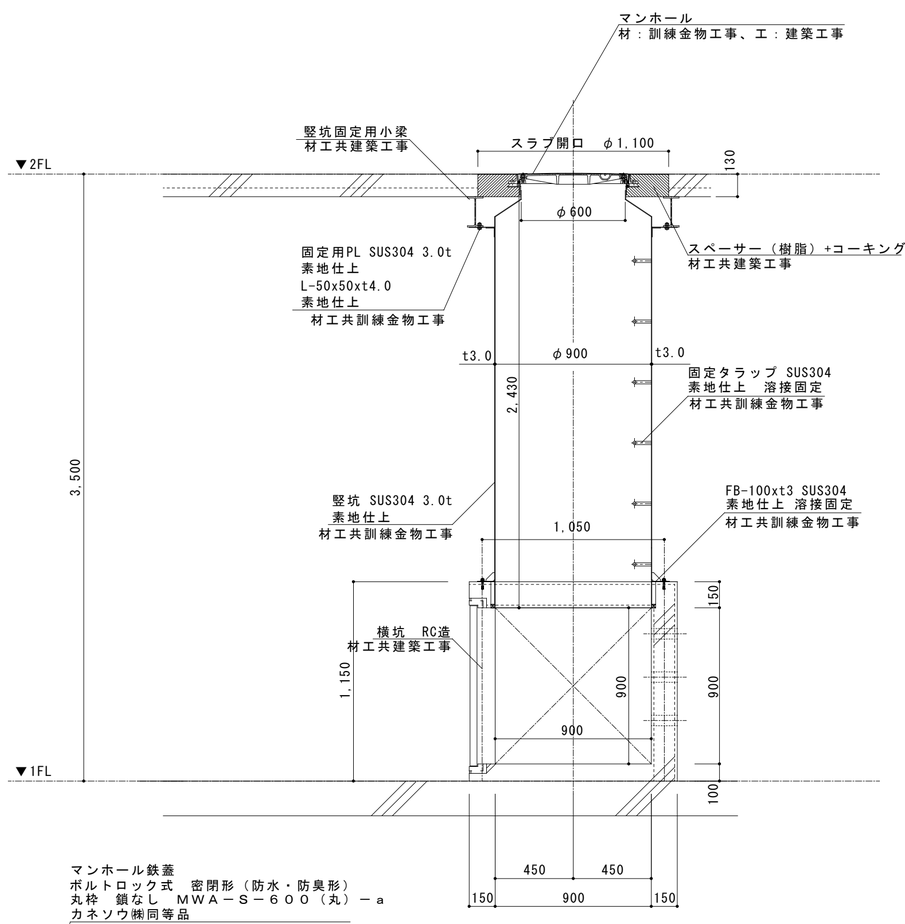
※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

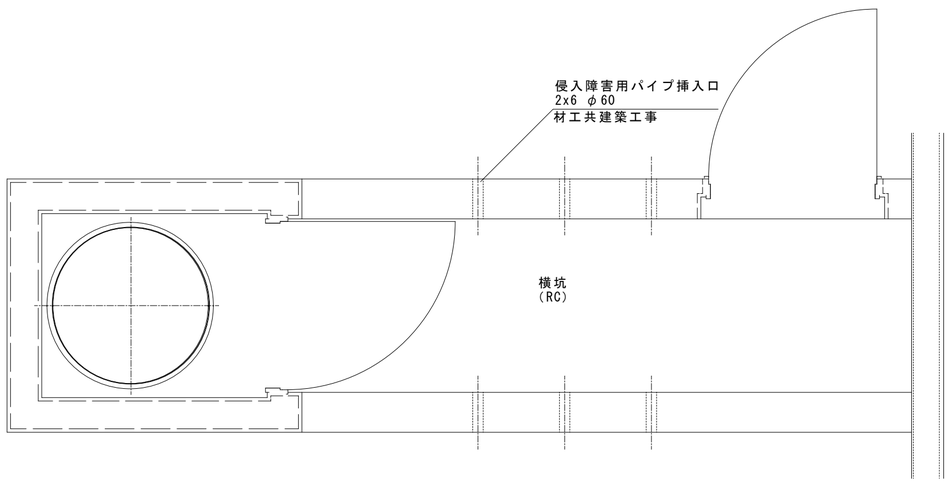
発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 NISHI-YOKOHAMA ZIP 221-0052 TEL.045(313)7113	一級建築士登録 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2171号 鈴木 篤 SIGNE UKE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター 訓練塔・訓練補助塔新築工事 PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING 訓練金物09 縮尺 SCALE DRAWING NAMBER	A-64 NO				

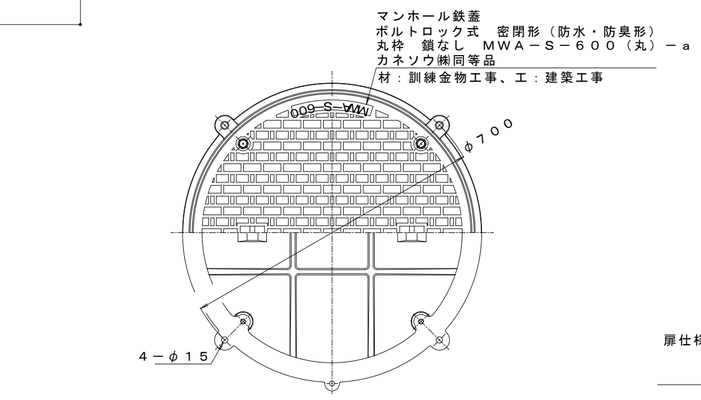
（20）竪坑訓練施設（φ600～900）

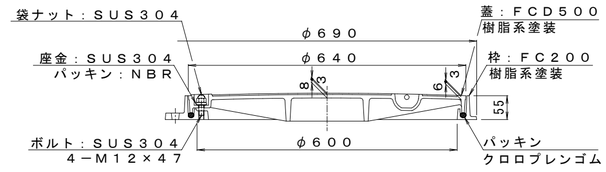
（A塔）

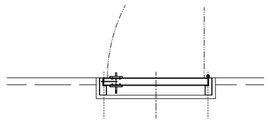




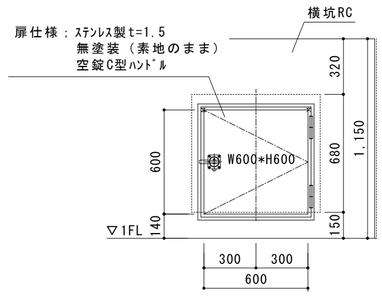








SD扉 平面図 S=1/25

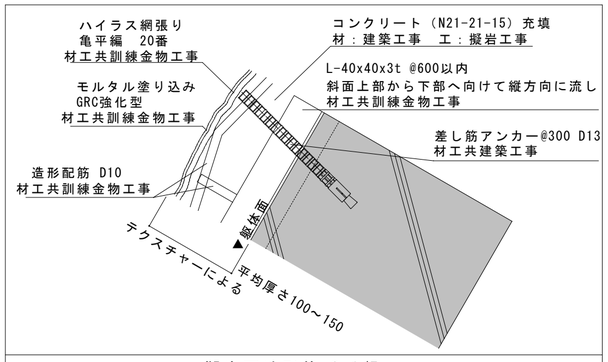


SD扉 立面図 S=1/25

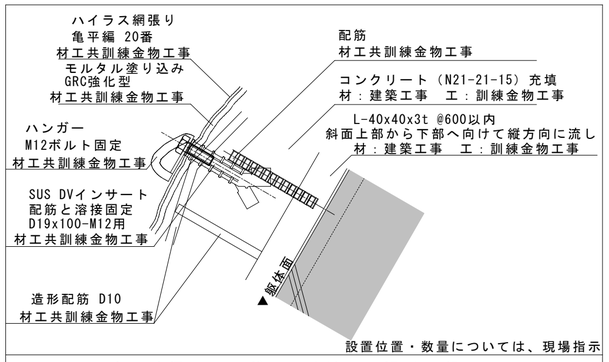
材：訓練金物工事、工：建築工事

発行 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
一級建築士事務所登録 第842879号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2319号
鈴木 篤
企画担当 鈴木 篤
設計担当 鈴木 玲成
構造担当 秦 陽二
電気設備担当 岡 正浩
衛生設備担当 長見 直
空調設備担当 長見 直
設計名称 消防総合訓練センター
訓練塔・訓練補助塔新築工事
図面名称 訓練金物10
縮尺
A-65

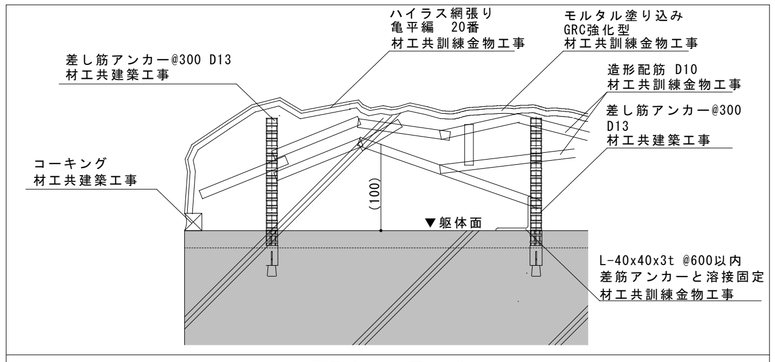
（21） GRC製山岳救助訓練壁（約48㎡）
（A塔）



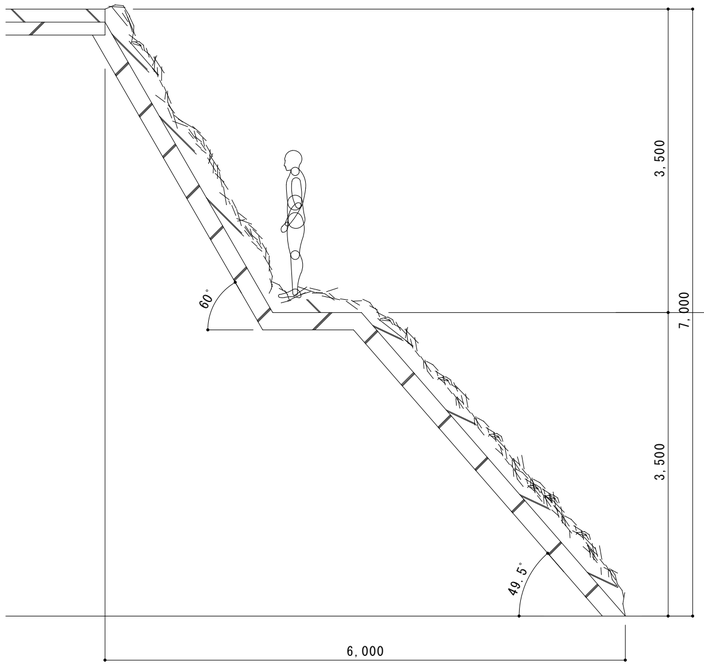
擬岩下地形状 S=1/5



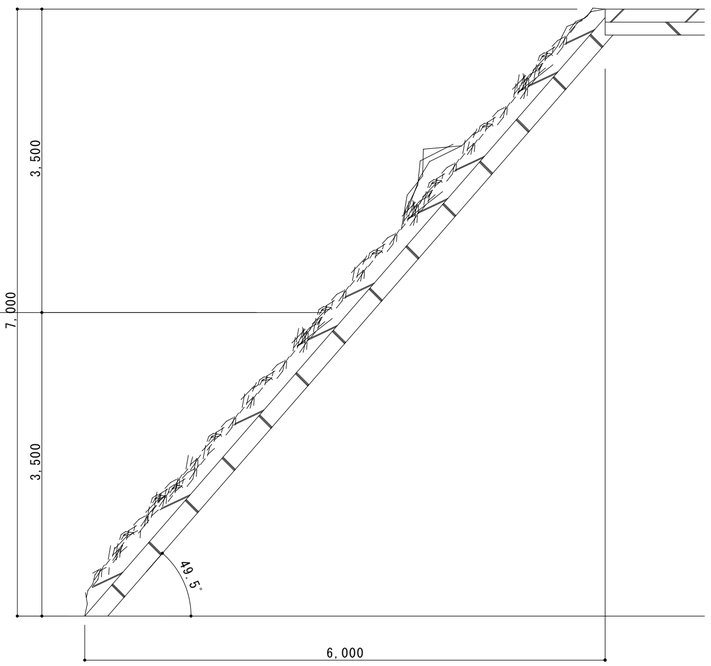
自己確保用ハンガー取り付け要領 S=1/5



出隅取り合い要領 S=1/5



（A-A断面 : 60度～49.5度）



（B-B断面 : 49.5度）

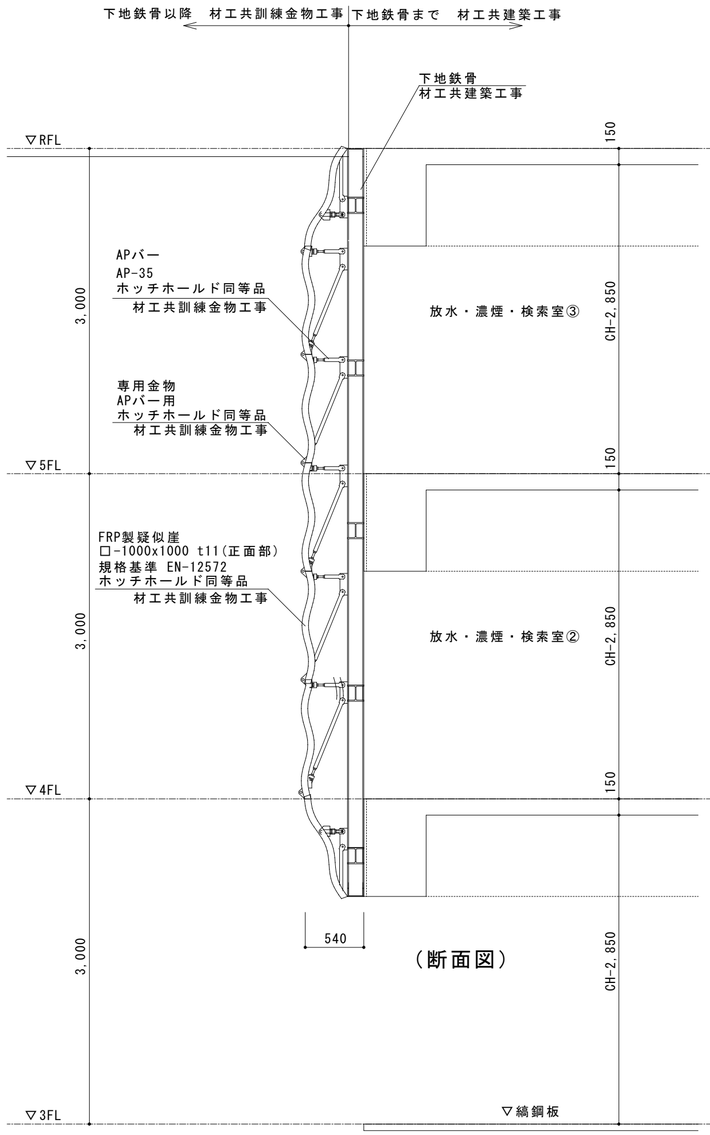
※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）
および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする
発注者または監理者の要求に応じて、有資格者の自社社員によるロープ降下を行うこと。（本図のみに適用する）

2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.	一級建築士登録 第84287号	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩
		一級建築士事務所登録（神奈川）第2717号	設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直
		鈴木 篤	構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG 長見 直

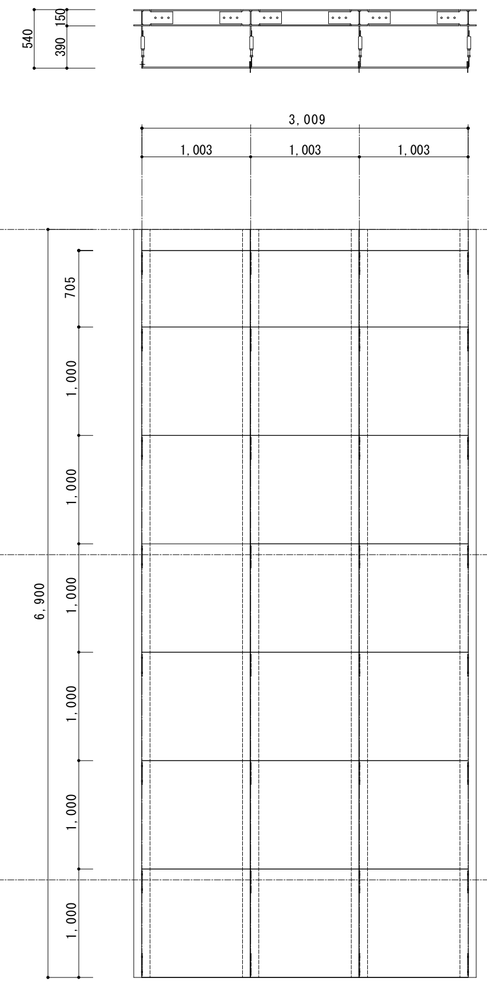
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター	図面名称 ITEM OF DRAWING	訓練金物11
PROJECT NAMBER	訓練塔・訓練補助塔新築工事	DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE

NO A-66

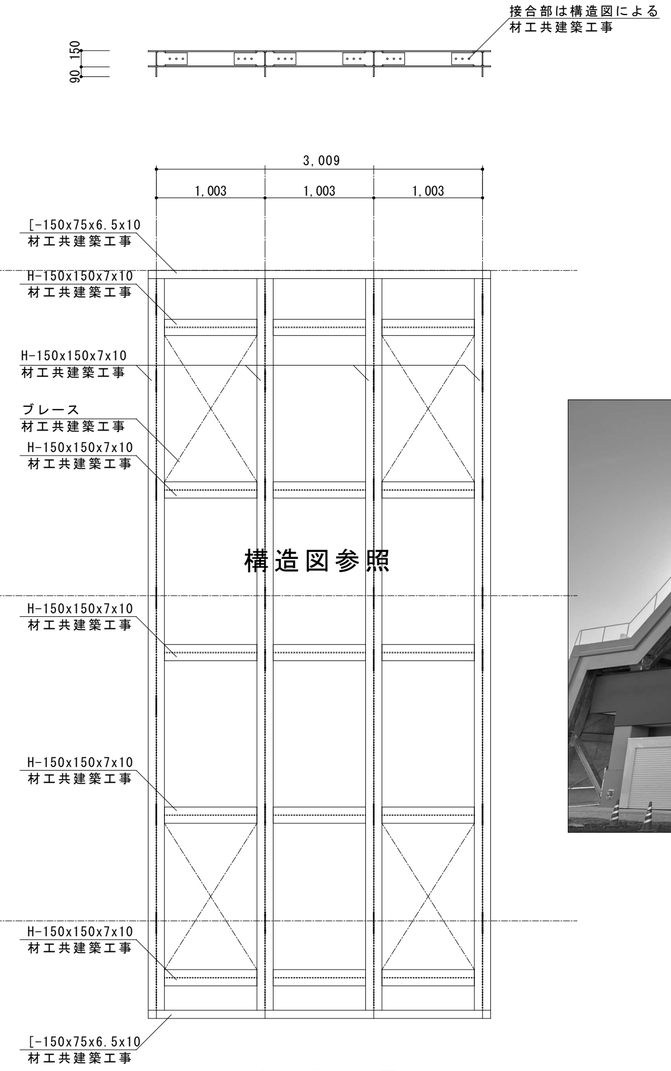
（22）FRP製疑似崖
（A塔）



（断面図）



（仕上げ）



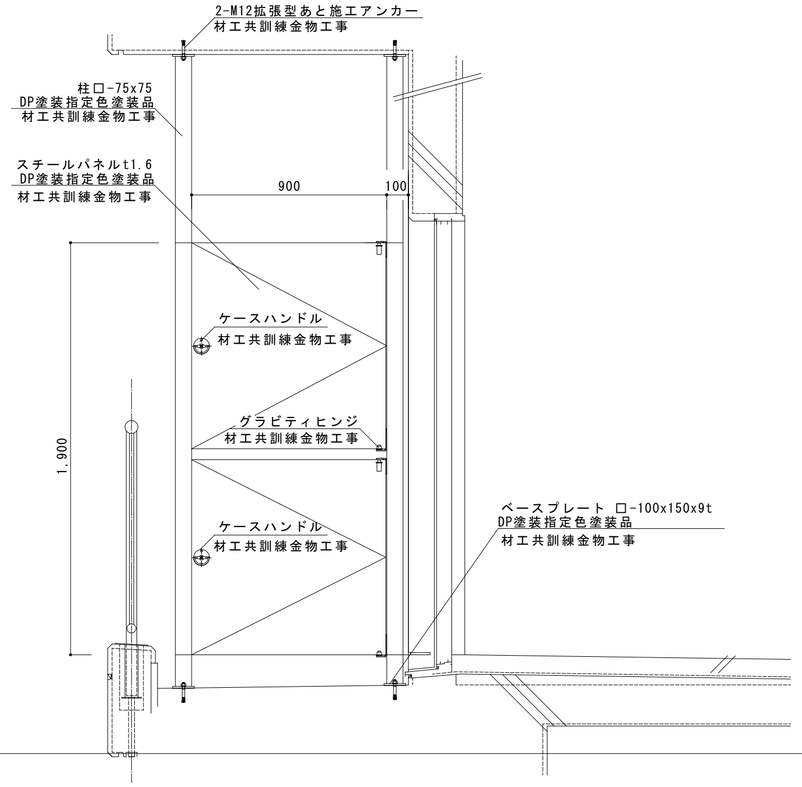
（下地鉄骨参考図）

（イメージ）

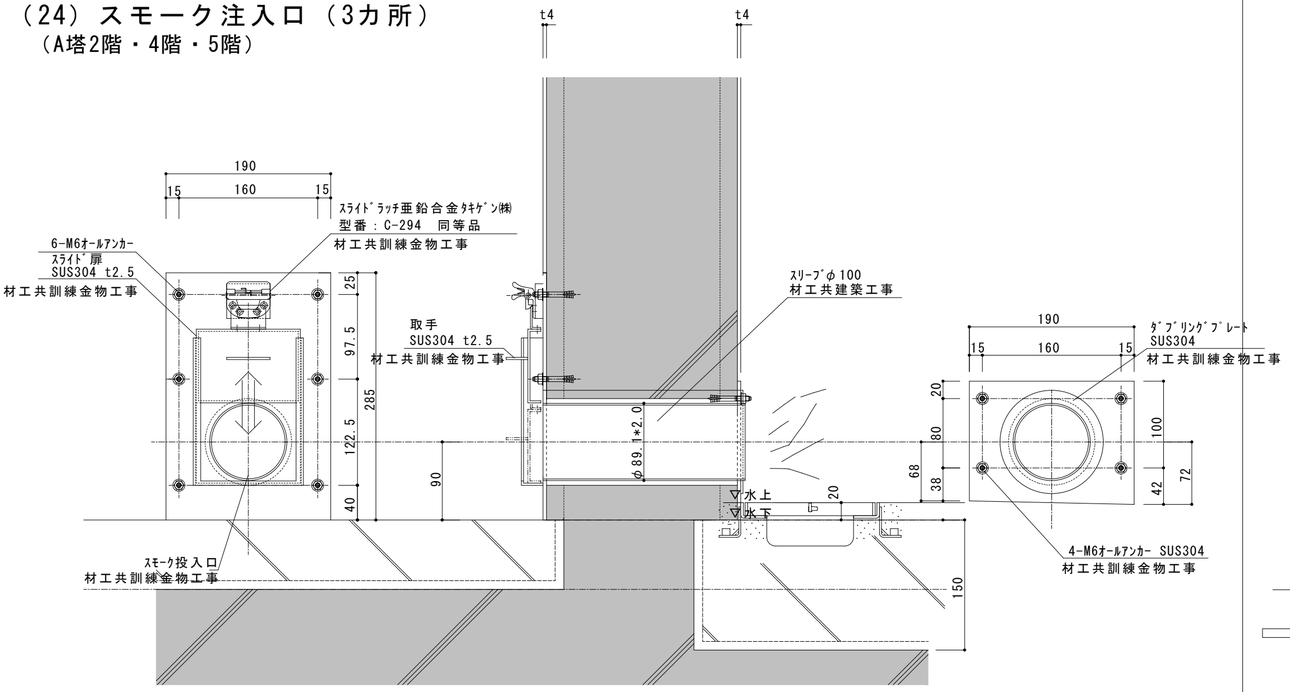
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(53)7113	発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録(神奈川)第2引号 鈴木 篤 SIGNE UKI BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター
			設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直	訓練塔・訓練補助塔新築工事
			構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二	空調設備担当 MECANITCAL ENG 長見 直	PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING	訓練金物12	A-67
DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE	NO

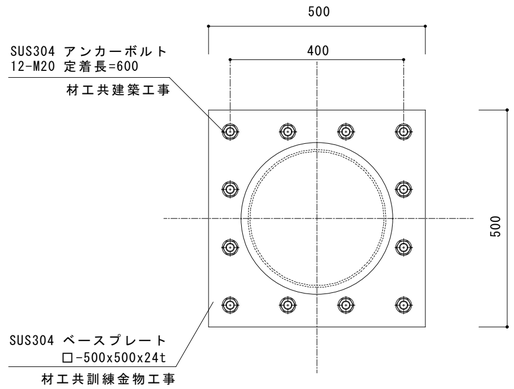
（23）ベランダ蹴破り戸（上下分割式）（2カ所）
（A塔4階・5階）

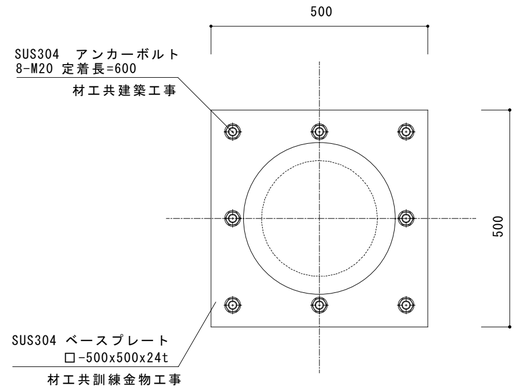


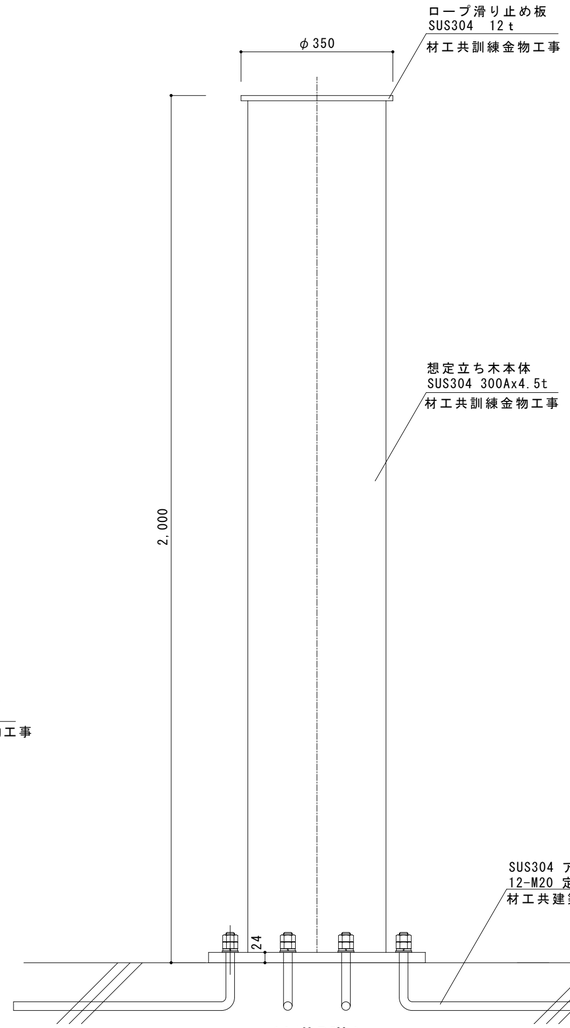
（24）スモーク注入口（3カ所）
（A塔2階・4階・5階）



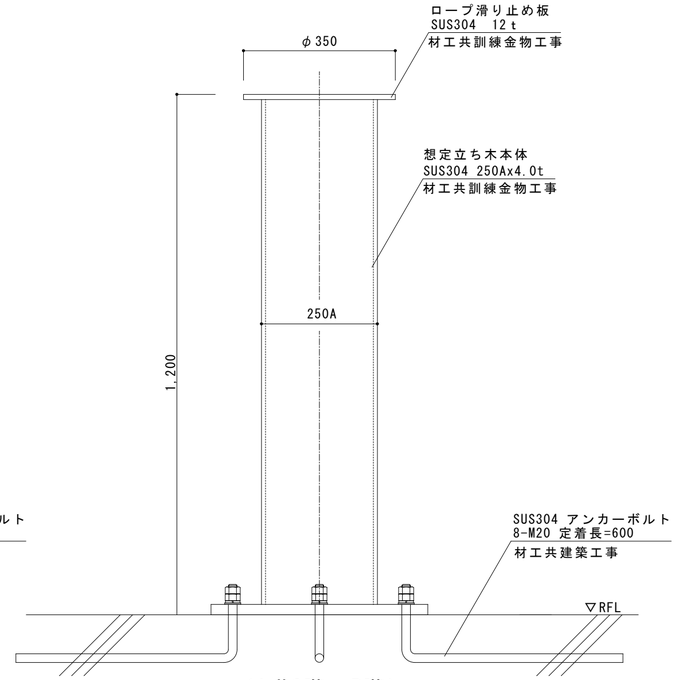
（25）想定立ち木H-2m・20KN（1本）、（26）想定立ち木H-1.2m・20KN（3本）
（A塔R階）　（A塔3階・R階）







（A塔R階）



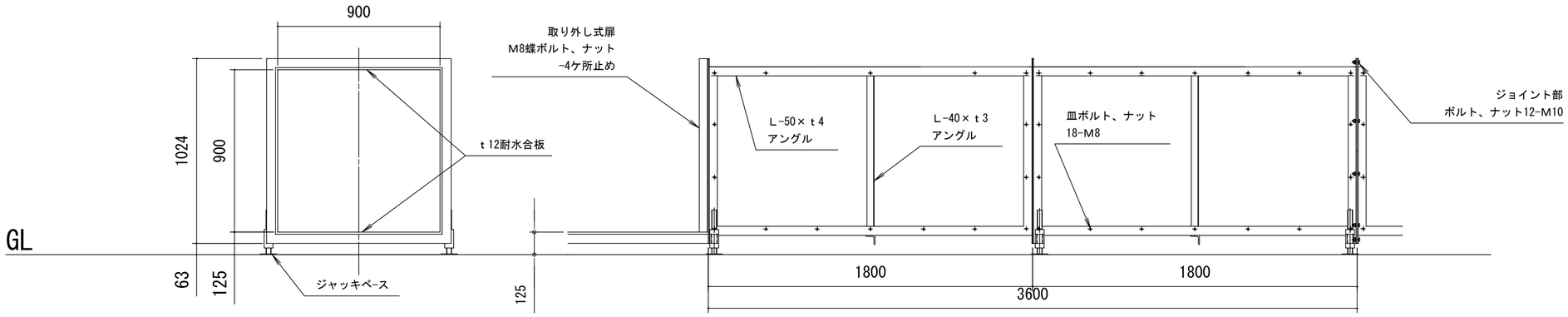
（A塔3階・R階）

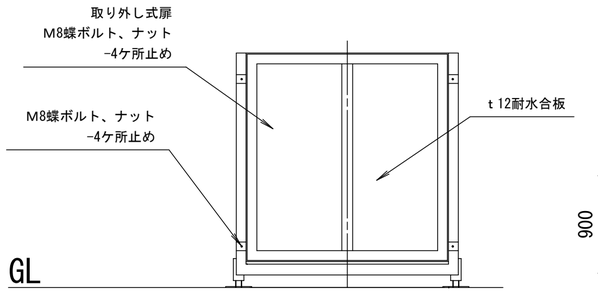
※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUDOU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113
一級建築士登録　第84287号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2171号
鈴木 篤
SIGNE UMI BY A.SUZUKI
企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木 篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木 玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡 正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見 直
空調設備担当 MECHANICAL ENG　長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター
訓練塔・訓練補助塔新築工事
PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING　訓練金物13
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE
NO　A-68

煙道

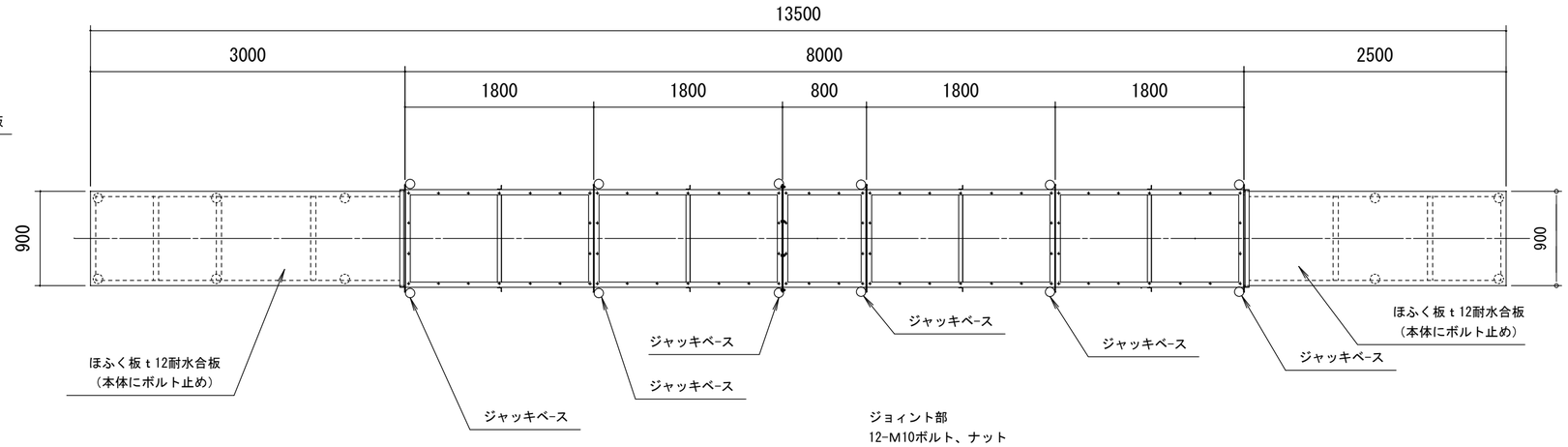
（A塔1階）

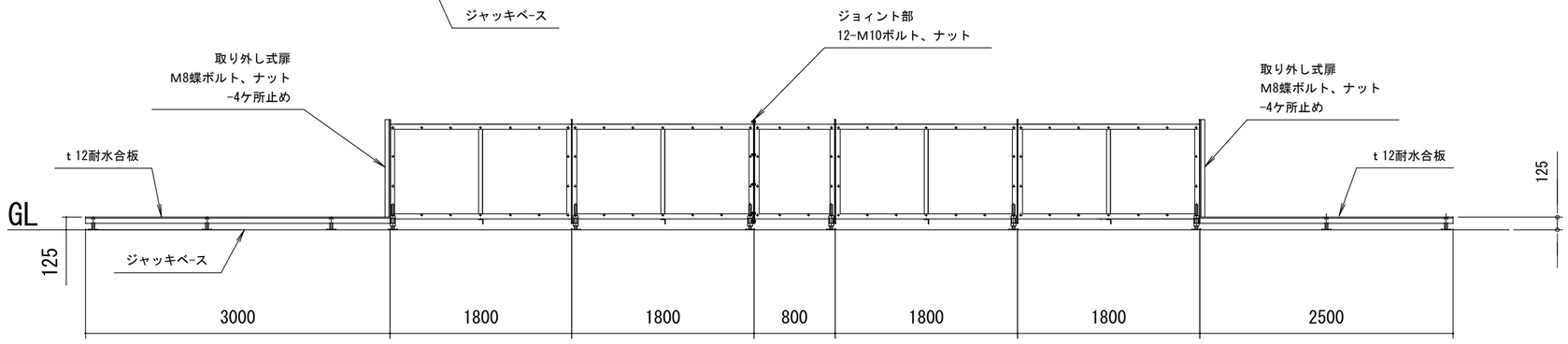


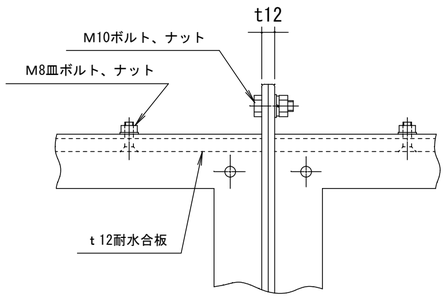


取り外し式扉

入り口、出口　計2枚







ボルト ジョイント部　S＝1／4

名　称		ほふく煙道（ジャッキベース付）
		□900×8,000
骨組み	材　料	ＳＳ材油性塗装仕上げ
板	材　料	耐水合板　ｔ12×900×1,800mm
	塗　装	水性塗料　濃紺色仕上げ
ジャッキベース	材　料	ＳＳ製　電気メッキ

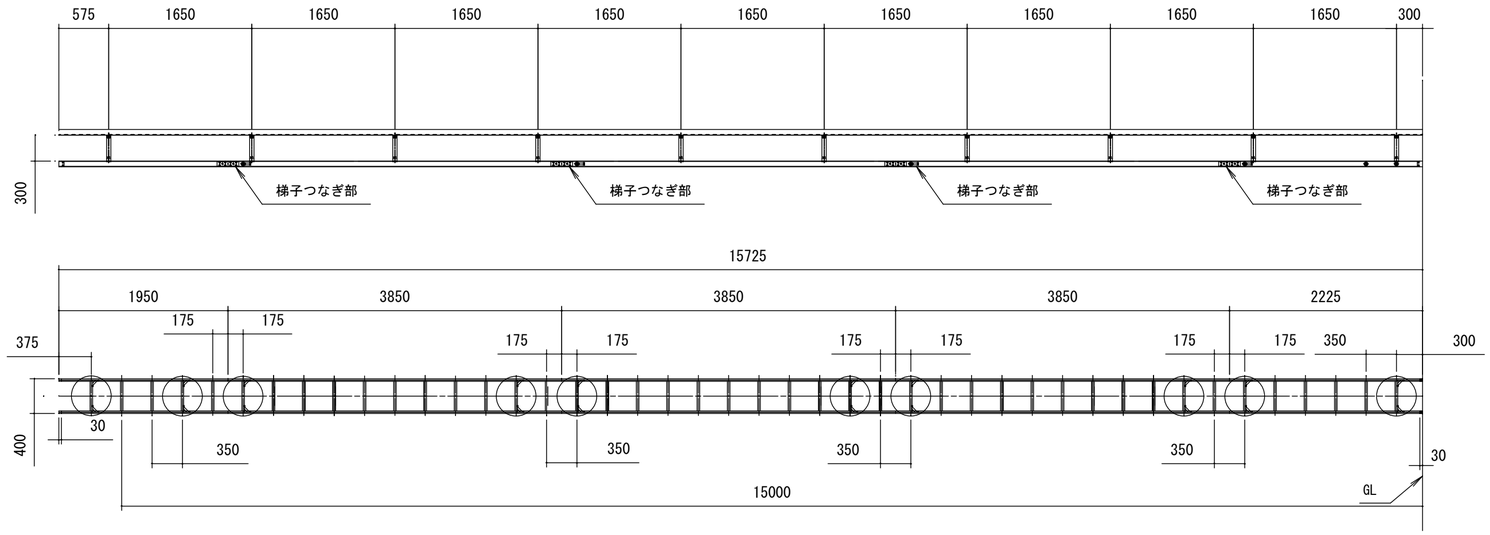
ほふく煙道（ｼﾞｬｯｷﾍﾞｰｽ付）　S＝1／40

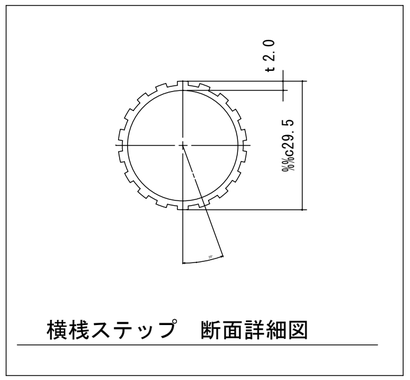
※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤
	一級建築士登録　第42876号	設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成
	鈴木　篤	構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二
	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩	
	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直	
	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見　直	
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター	訓練塔・訓練補助塔新築工事	
図面名称 ITEM OF DRAWING	訓練金物14		
縮尺 SCALE			
NO	A-69		

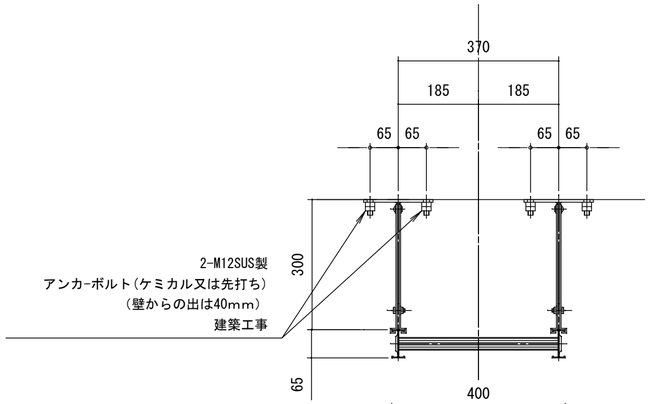
登はん梯子

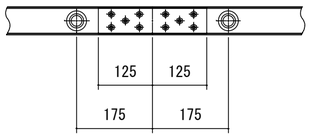
（A塔）





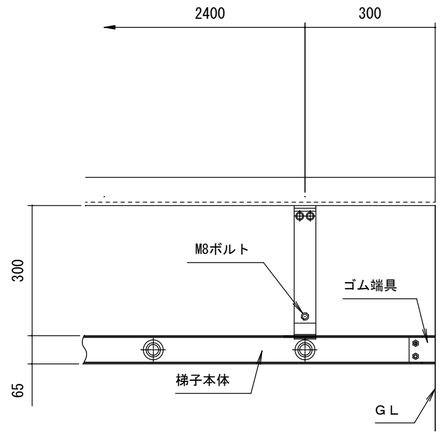
横桟ステップ　断面詳細図

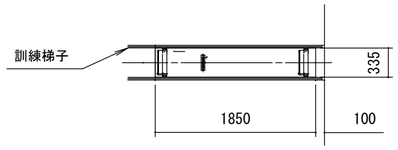




梯子つなぎ部　１０－Ｍ８ﾎﾞﾙﾄ，ナット

ＳＵＳ304製板加工品

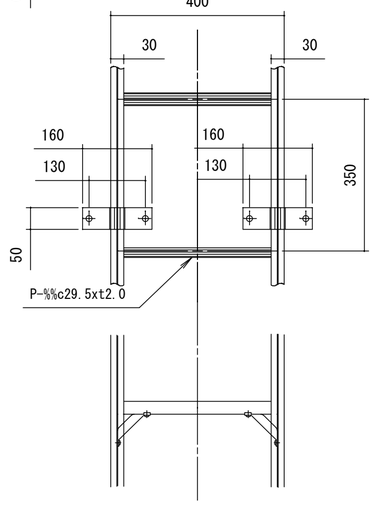




登はん防止板　SUS製　1式

梯子固定金具

ＳＵＳ304製板加工品



補強金具　アルミ製

名　称		登はん訓練用梯子
		Ｌ＝15,725mm
本体	材　質	アルミ製　A6063S
固定金具	材　質	ＳＵＳ304製板加工品
つなぎ金具	材　質	ＳＵＳ304製板加工品
登はん防止版	材　質	ＳＵＳ304製板加工品

※壁面に取付けはSUS製Ｍ１２アンカーﾎﾞﾙﾄ（建築工事）

※壁面状況により、取付梯子に多少の曲がりが発生する為、壁面はフラットにする事

※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）
および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

発行 2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-1-11 SUSOU-SHOKAI 230 TEL:045(631)7113

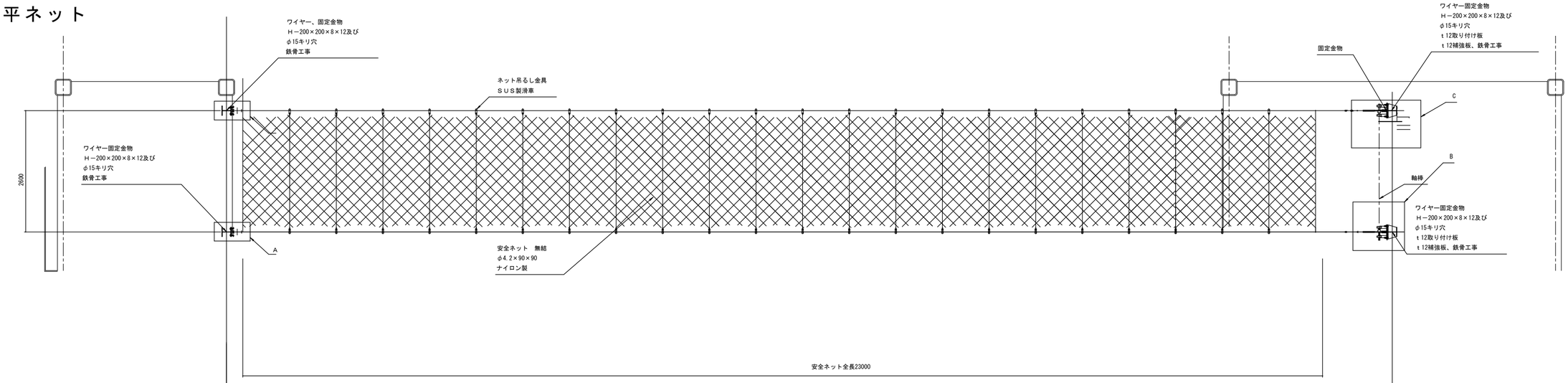
一級建築士登録　第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号
鈴木 篤
STONE USE BY A.SUZUKI

企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECANICAL ENG　長見　直

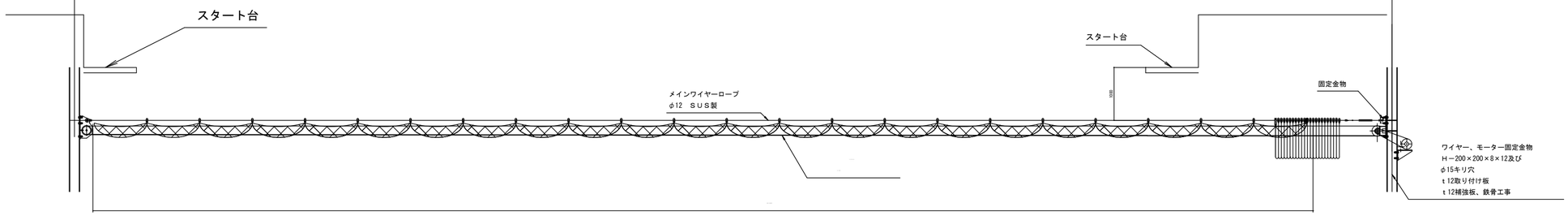
設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター
訓練塔・訓練補助塔新築工事
PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING　訓練金物15
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE
NO　A-70

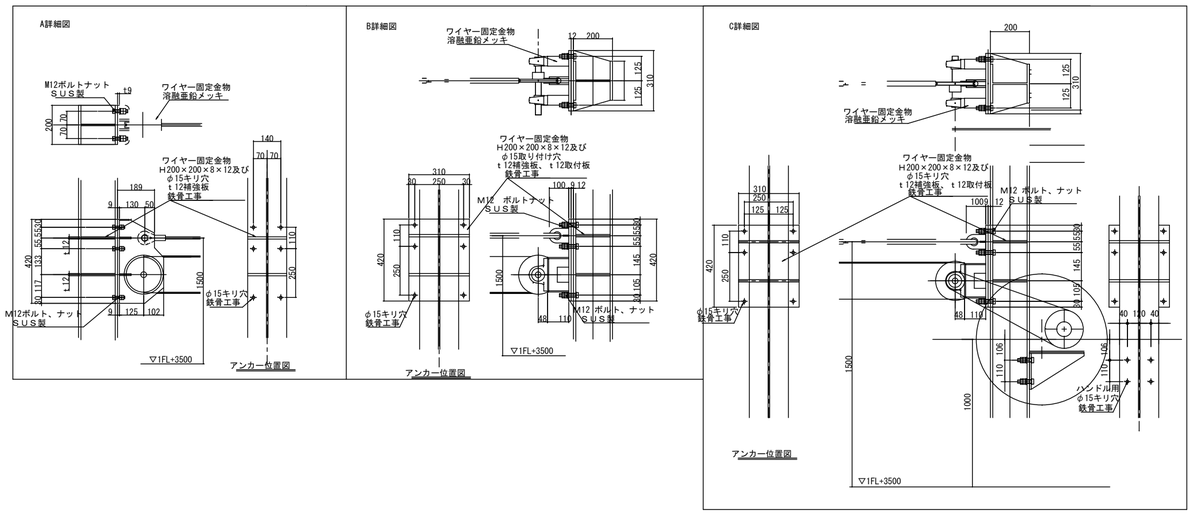
水平ネット



手動式安全ネット装置平面図



手動式安全ネット装置断面図



名　　称		手動式レンジャーネット装置(2.6m×23.0m)
	材　質	ナ イ ロ ン
	網　糸	C4．2mm　黄色
	網　地	９０×９０mmメッシュ無結節
	強　度	網　糸：340ｋｇｆ以上 縁ロープ：2,950ｋｇｆ以上 中間ロープ：820ｋｇｆ以上

メイン ワイヤー	材　質	ＳＵＳ製φ12　7×19
	取付金具	シンブル　ロック　加　工
	緊張金具	ターンバックル
垂下り防止 ワイヤー	材　質	ビニールワイヤーφ6
展張金具	材　質	ステンレス製カラビナ
リード ワイヤー	材　質	ＳＵＳ製φ6　7×19
	鉄製材加工品	
固定金具	材　質	鉄製加工品　溶融亜鉛メッキ処理

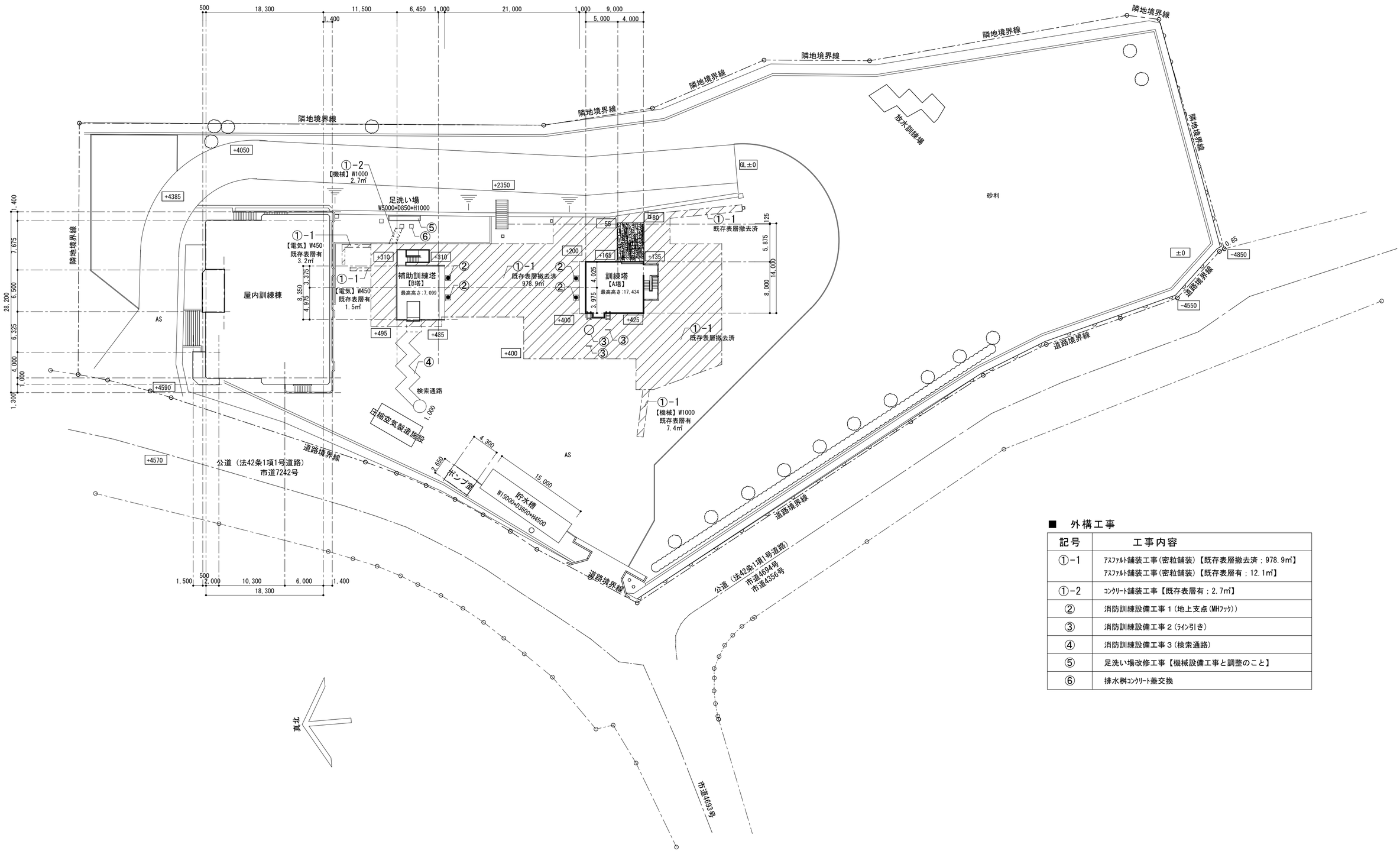
記事　　建築工事のアンカー及び穴位置のズレは
Ｐ2mm以内とし，曲りのないようにすること。

※ 消防訓練の特殊性から、訓練金物工事は消防訓練施設において、本図に記載している訓練金物（類似形状含む）
および訓練施設の施工実績を過去５年以内に有する業者とする

発行 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-11-11 KUDOU YOKOHAMA 230 TEL:045(633)7113
一級建築士事務所登録（神奈川）第2428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号
鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER：訓練塔・訓練補助塔新築工事
図面名称 ITEM OF DRAWING：訓練金物16
DRAWING NUMBER
SCALE：縮尺
NO：A-71



■　外構工事

記号	工事内容
①-1	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装工事(密粒舗装)【既存表層撤去済；978.9㎡】 ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装工事(密粒舗装)【既存表層有；12.1㎡】
①-2	ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装工事【既存表層有；2.7㎡】
②	消防訓練設備工事１(地上支点(MHﾌｯｸ))
③	消防訓練設備工事２(ﾗｲﾝ引き)
④	消防訓練設備工事３(検索通路)
⑤	足洗い場改修工事【機械設備工事と調整のこと】
⑥	排水桝ｺﾝｸﾘｰﾄ蓋交換

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-1-11 KUDO ©BUNKA 230 TEL.0480(53)7113

一級建築士登録　第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号
鈴木 篤
SIGNE UNE BY A.SUZUKI

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩	
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直	
空調設備担当 MECANITCAL ENG	長見　直	

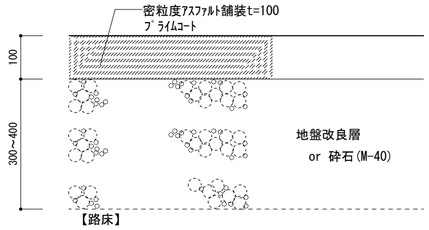
設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER：訓練塔・補助訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING：外構図１
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE：A2=1:400・A3=1:564

NO G-01

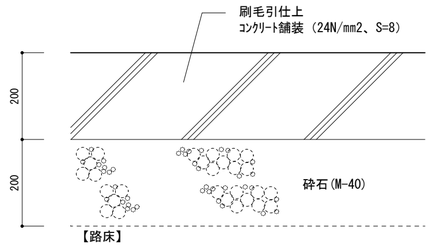
①-1 ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装工事（密粒舗装）
工事開始時ｱｽﾌｧﾙﾄ表層撤去済範囲；978.9㎡、表層有；12.1㎡

※外構図（ﾊｯﾁ部分）は、工事開始時ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（表層）撤去済。
※同上【電気】【機械】はｱｽﾌｧﾙﾄ舗装撤去（ｶｯﾀｰ共）及び設備工事施工後復旧とする。



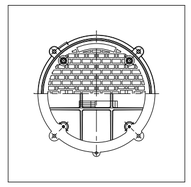
①-2 ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装工事
2.7㎡

※【機械】はｺﾝｸﾘｰﾄ舗装（ｶｯﾀｰ共）撤去及び設備工事施工後復旧とする。

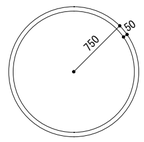


② 消防訓練設備工事１（ﾏﾝﾎｰﾙﾌｯｸ）
4ヵ所

A-60（訓練金物05）参照



③ 消防訓練設備工事２（ﾗｲﾝ引き）
ﾛｰﾌﾟ結索ﾗｲﾝ；1ヵ所、ｽﾀｰﾄﾗｲﾝ；2ヵ所

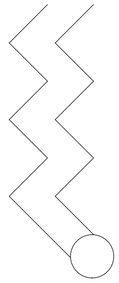


ﾛｰﾌﾟ結索ﾗｲﾝ(白色塗料)
φ1500、W=50

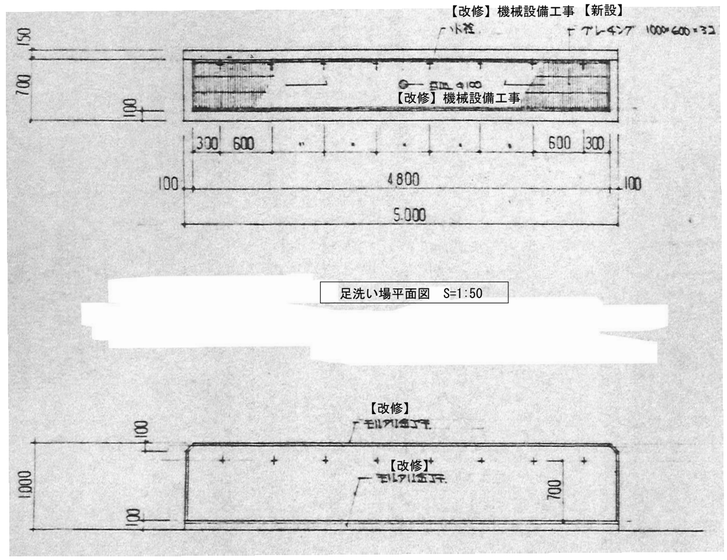
ｽﾀｰﾄﾗｲﾝ(白色塗料)
L=900、W=50

④ 消防訓練設備工事３（検索通路）
1ヵ所

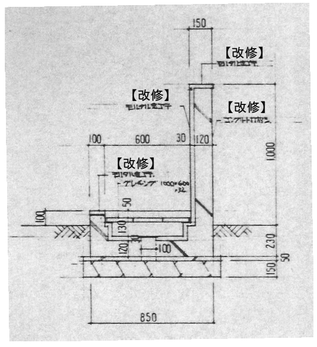
A-61（訓練金物06）参照



⑤ 足洗い場改修工事
1ヵ所



足洗い場立面図 S=1:50

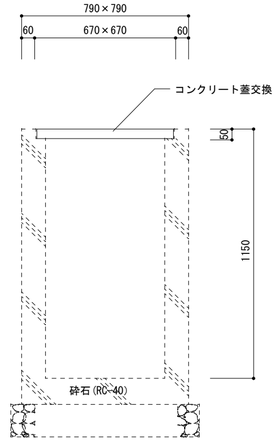


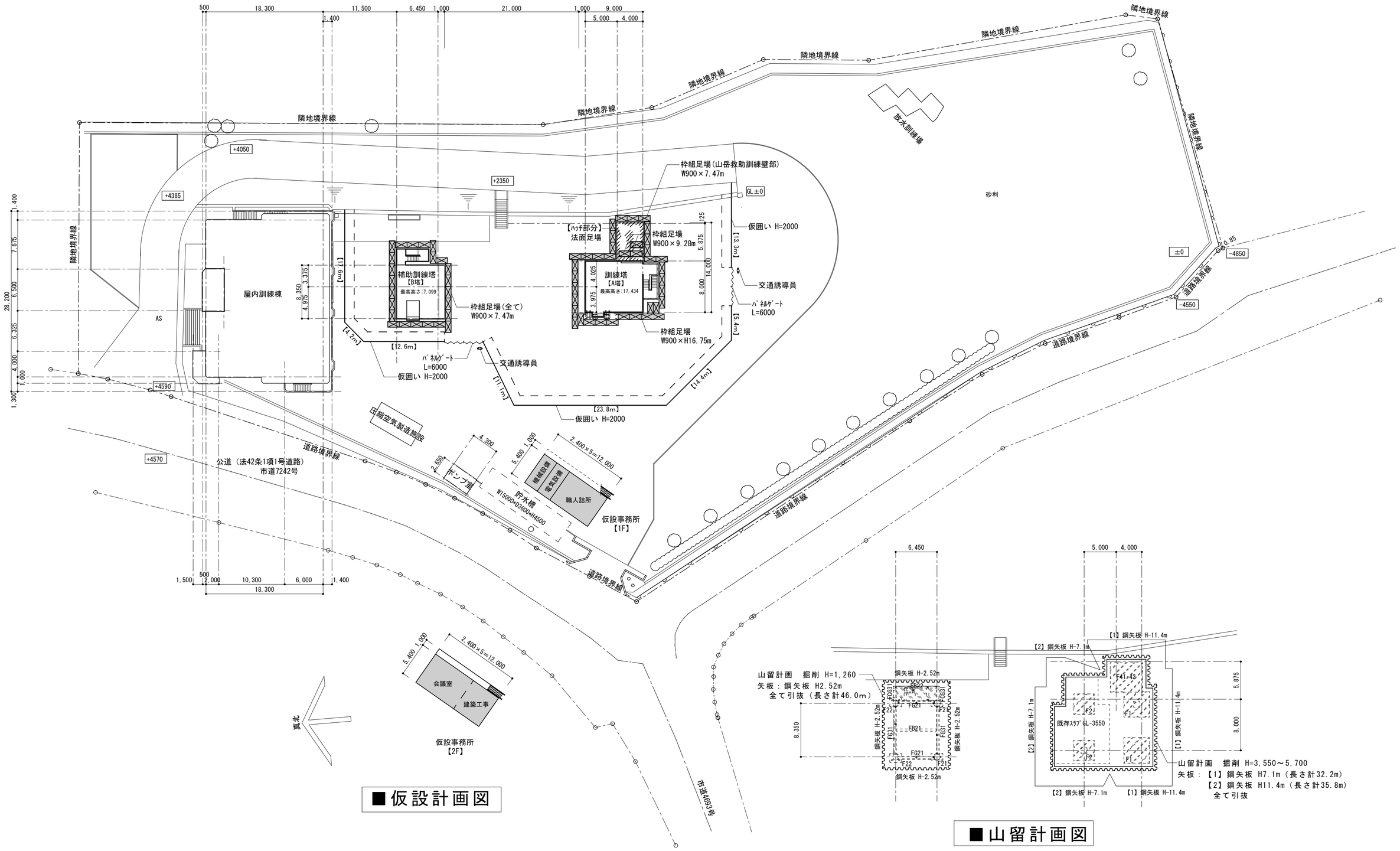
足洗い場断面図 S=1:30

改修工事内容

記号	名　　称	改　　修
⑤	足洗い場流し	着色撥水材塗装。 ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ交換。 【以下、機械設備工事】 ・既存水栓交換及びｼｬﾜｰ水栓新設 ・貯水用共栓新設

⑥ 排水桝ｺﾝｸﾘｰﾄ蓋交換（既存破損）
1ヵ所





発行 PUBLISHED	2026年9月18日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.	一級建築士事務所 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2575号 鈴木 篤 SIGNE UNE BY A.SUZUKI
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター / 訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING	仮設計画図【参考図】
PROJECT NAMBER		DRAWING NAMBER	K-01
縮尺 SCALE	A2=1:400・A3=1:564	NO	

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 構造設計特記仕様　その１

・修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

１．本仕様の適用範囲

（１）本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm² 以上 60 N/mm² 以下のコンクリートと、JIS G 3112に規定するSD295、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m 以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

（２）仕様書等の優先順位

設計図書および仕様書の優先順位は以下による。

①特記仕様
②設計図（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

２．建築物の構造内容

（１）建築場所　神奈川県横須賀市長瀬3-280-1ほか1筆

（２）工事種別

□新築　■増築(別棟新築)□改築　□　□

（３）構造設計一級建築士の関与　■必要　□必要としない

■　法第20条第二号（ □RC造高さ 20 m超　□S造 4 階建以上　□木造高さ 13 m超　■その他 ）
□

（４）階数及び構造種別

訓練塔　地下 － 階　地上 5 階　塔屋 － 階　基礎～R階床　RC造
補助訓練塔　地下 － 階　地上 2 階　塔屋 － 階　基礎～２階床　RC造
２階柱～R階床　S造

（６）主要用途

□事務所　□共同住宅　□病院　□店舗　□倉庫　□　■訓練センター

（７）屋上付属物

□キュービクル　kN　□高架水槽　kN　□広告塔　kN　□煙突　m
□太陽光発電設備　□　□　□

（８）設計荷重

(a)主な積載荷重　(N/m²)

室　名	床　用	架構用	地震用
訓練スペース	２，９００	１，３００	６００
倉庫	３，９００	２，９００	２，０００

(b)1次設計用地震力
C0 = 0.2　Z = 1.0　Rt = 1.0　K（地下）= 0.1

(c)風荷重
地表面粗度区分　Ⅲ　基準風速　V0 = 36.0 m/sec

(d)雪荷重
■垂直積雪量　30 cm　■設計用雪荷重　0.6 kN/m²　□

(e)特殊の荷重及び仕上材
□エレベーター　kN　基　□受水槽　kN　□エスカレーター
□　□　□　□

（９）構造計算ルート
X方向ルート ３ －（　）　Y方向ルート ３ －（　）

（10）一次設計時用層間変形角
X方向　1/ 200 rad　Y方向　1/ 200 rad

（11）付帯工事
□門塀　□擁壁　□駐輪場　□機械式駐車場　□

（12）特定天井
□有　■無

（13）屋根、床、壁

材　種	型式　厚　その他	使用箇所	仕様・構法
ALC　(JIS A 5416)	厚	□壁　□床版	□スライド　□ボルト止め
押出し成形セメント版			□ロッキング　□
□ハーフPca版　□Pca版	厚	□壁　□床版	□
折　版	H=　厚	□屋根　□	□
特殊デッキプレート 大臣認定（　）	型式　厚	□屋根　□床版	□

３．使用建築材料表・使用構造材料一覧表

（１）コンクリート（レディーミクストコンクリート　JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308）

適用箇所 階	部位	設計基準強度 Fc = N/mm²	品質基準強度 Fq = N/mm²	スランプ cm (スランプフロー)	比重 γ= kN/m³	備考 (使用部位)
R	■柱 ■壁 □ ■梁 ■床版 □	３０	３０	２１	２３	
1～5	■柱 ■梁 ■壁 ■床版 ■ □	３０	３０	２１	２３	
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
	□柱 □梁 □壁 □床版 □ □					
基礎	■床版 □ ■基礎 ■地中梁	３０	３０	２１	２３	
	■ ラップルコンクリート	■ １８	１８	１８	２３	※本仕様適用外
	土間コンクリート	■ １８	１８	１８	２３	※本仕様適用外
	捨てコンクリート	■ １８	１８	１８	２３	※本仕様適用外

セメントの種類	■ポルトランドセメント（■普通 □中庸熱 □低熱 □　）	（　）
	□高炉セメント（□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種）	（　）
	□	（　）
細骨材の種類	■ 砂　■ 山砂　■ 砕砂　□	
粗骨材の種類	■ 砂利　■ 砕石　□　□	
水の区分	■ 水道水　■ 地下水　□ 工業用水 □	
構造体コンクリート強度を保証する材齢	材齢（■28日　□56日　□91日　□　）	
	養生（■標準　□現場水中　□現場封かん　□　）	
単位水量	□ 185 kg/m³ 以下　■ 175 kg/m² 以下 □	
単位セメント量	■ 270 kg/m³ 以上　□	
混和剤	■ AE減水剤　■ 高性能減水剤　□	
	□　□　□	
空気量	■ 4.5 %　□ 3.0 %　□	
塩化物量	■ 0.3 kg/m³ 以下　□	
水セメント比	□ 65 % 以下　■ 50 % 以下　□	

（２）コンクリートブロック　（□ JIS A 5406）

□ A種　□ B種　□ C種　厚 □ 100　□ 120　□ 150　□ 190　使用箇所(□　□　)

（３）鉄　筋

鉄　筋	種　類	使用径mm	使用箇所	備　考
異形鉄筋 (JIS G 3112)	■ SD295	D16以下	基礎、帯筋、肋筋、スラブ、壁	■重ね継手
	■ SD345	D19～D25	基礎・柱、梁主筋・壁補強筋	■ガス圧接継手
	■ SD390	D29	梁主筋	□溶接継手
	□ SD490			□機械式継手
	□			□
	□			□機械式定着工法
高強度せん断補強筋	■ 685	MA13	帯筋、肋筋	■大臣認定番号 MSRB-0137
	□ 785			
	□ 1275			
	□			
溶接金網 (JIS G 3551)	□			
	□			

注1）SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2）各継手の使用詳細については本仕様その2の9.(2)鉄筋の項の鉄筋継手の項に■にて表示すること。

（４）鉄　骨

種　類			使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
□SN400A	□SN400B	□SN400C		□有 □無	JIS G 3136
□SN490B	■SN490C	□	ダイヤフラム	□有 ■無	JIS G 3136
■SS400	□SS490	□	梁	□有 ■無	JIS G 3101
□SM400A	□SM490A	□		□有 □無	JIS G 3106
■BCR295	□TSC295	□	柱	□有 ■無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□BCP235	□BCP325	□		□有 □無	大臣認定品 認定番号 MSTL-
□STKR400	□STKR490	□		□有 □無	JIS G 3466
□SSC400	□	□		□有 □無	JIS G 3350
□	□	□			
溶接材料	□	□			JIS Z
□	□	□			

（５）ボルト等

■高力ボルト
□F10T(JIS B 1186)　□S10T 大臣認定番号(　　)　(□M16、□M20、□M22、□M24、□　)
■溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号(　　)　(■M16、■M20、□M22、□M24、□　)
□

□ボルト(JIS B 1180)　M　M　□ 4.8(4T)　□　□

■アンカーボルト（構造用アンカーボルト）＊ハイパースNEO使用　別図参照
■SS400　M16　L＝400　mm　ナット（□シングル、■ダブル）
□ABR400　M　L＝　mm　ナット（□シングル、□ダブル）(JIS B 1220)
□　M　L＝　mm　ナット（□シングル、□ダブル）

□頭付スタッド(JIS B1198)
φ＝　L＝　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）
φ＝　L＝　mm　使用箇所（□柱　□大梁　□小梁）

４．地　　盤

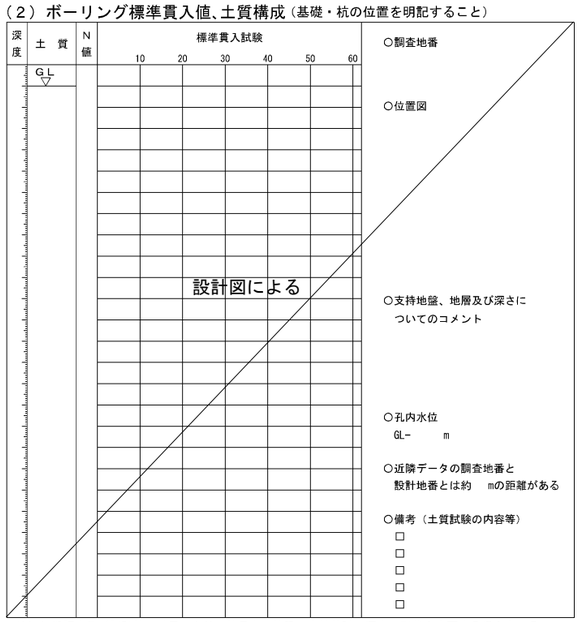
（１）地盤調査資料と調査計画

■有　（■敷地内　□近隣）　□無　（調査計画　□有　□無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静的貫入試験			標準貫入試験	○	
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験堀（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			ＰＳ検層		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（２）ボーリング標準貫入値、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）



注）地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

５．地業工事

（１）直接基礎　□ベタ基礎　■布基礎　■独立基礎　試験堀 □有 □無
深さ GL－　m、支持層－　、長期許容支持力度　kN/m²　載荷試験 □有 □無

（２）地盤改良　□浅層混合処理工法　□深層混合処理工法　■ ラップルコンクリート置換工法
深さ　GL－　5.70　m、長期許容支持力度　300　kN/m²　載荷試験 □有 □無
注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2018」を参考とする

（３）杭基礎
■支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
■施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
■支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭　種	材　料		施工法	備　考
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc	N/mm²	□オールケーシング	認定
	スランプ	cm以下	□リバースサーキュレーション	第　号
	セメント量	kg/m³	□アースドリル	年　月　日
	単位水量	kg/m³	□拡底杭　□拡頭・拡底杭	
			□鋼管補強杭 □	
			□深礎 □手掘 □機械掘	

既製杭・杭種	種　類	材　料	施工法	備　考
□ PRC	□ Ⅰ種 □ Ⅱ種 □ Ⅲ種 □	鋼材■	□埋め込み	国土交通大臣 認定
□ PHC	□A種　□B種　□C種　□	鋼材□	□打ち込み	第 TACP-0636 号
■ 鋼管	■ STK490	コンクリート□FC85	■EAZET工法(同等工法)	年　月　日
□ SC	□	コンクリート□FC105	□	

杭仕様　■施工計画書承認　■杭施工結果報告書
試験杭　（■有・□無）　（□打ち込み・□載荷・□孔壁測定）　1 本

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項
216.3	590	GL-13.95	8	羽根径　550

６．鉄骨工事　（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による
■　日本建築学会「JASS6 2018年版」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
■　一社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
■　鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事監理者の承認を必要とするもの
■製作工場　■製作要領書　■工作図　■施工計画書
■認定工場（大臣認定　S　H　M　Ⓡ　J　グレード）
■材料規格証明書※、または試験成績書
■鋼材　■高力ボルト　□特殊ボルト　□頭付スタッド
※一社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
■社内検査表　□　□

（３）工事監理者が行う検査項目
（■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）
■現寸検査　■組立・開先検査　■製品検査　■建方検査　□

（４）接合部の溶接は下記によること
■　平成12年建設省告示第1464号第二号 イ、ロ
□　鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
■　日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
■　日本建築学会「鉄骨工事技術指針　工事現場施工編」

（５）接合部の検査
■　溶接部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法		検査率又は検査数 工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	備　考
■完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）		100 % ~~個~~	30 % ~~個~~	（　）	※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測）
□	超音波探傷検査		100 % ~~個~~	30 % ~~個~~	（　）	
	内質検査(注)	□硬さ試験	% 個	% 個	（　）	(注) 東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する
		□示温塗料塗布	% 個	% 個	（　）	
	マクロ試験・その他		個	個	（　）	
□	外観検査（※）		% 個	% 個	（　）	
第三者検査機関名	CIW認定会社またはND1の2種以上所有者が行うこと。		（都知事登録　号）			

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注１）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注２）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

■　高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）
軸力導入試験　□ 要　■ 否　高力ボルトすべり係数試験　□ 要　■ 否
■　一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
■　トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

（６）防錆塗装
■　防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、□JIS K 5621、□JIS K 5625、■JIS K 5674、□　（フォースター　F☆☆☆☆）を使用し、2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
■　現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。
□

（７）耐火被覆の材料
■　意匠図による

７．設備関係　令第１２９条の２の３の事項

■　建築設備の構造および構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
■　建築設備の支持構造部および緊結金物には、錆止め等、防腐のための有効な措置を講じること。
■　建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
■　煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
■　設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
■　設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
■　エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
また、地震時の層間変形に追従できること。
■　特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
■　床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
■　給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

８．その他

■　諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■　各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■　必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
■　令39条の規定(屋根葺き材等)に関する取り付けにあっては、構造耐力上安全なものにすること。

2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUBU YOKOSUKA 238 TEL.0468(33)7113
一級建築士事務所　第8428号
一級建築士事務所協会(神奈川)賛助会員
鈴木 篤
企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECHANICAL ENG　長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター　訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NUMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING：新構造設計特記仕様　その１
DRAWING NUMBER
縮尺 SCALE　NO SCALE
NO　S-01

新 構造設計特記仕様　その２

※修正箇所は下線を引くこと
適用は　■　印を記入する。

９．鉄筋コンクリート工事

（１）コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm^{2}以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm^{2}を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。
軽量コンクリートについてはJASS5の14節によること。

表9.1　コンクリート圧縮強度(N/mm^2)に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9.2　レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度(N/mm^2)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度（JIS規格品）	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
　□標準　　■長期　　□超長期
　（本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。）

■ コンクリートは JIS A 5308（レディーミクストコンクリート） に適合するJIS認証工場の製品とする。

□ 設計基準強度が36N/mm^{2}を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているか、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

■ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

■ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm^2 以下33N/mm^2 以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm^2 未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36N/mm^{2}超 45N/mm^2 未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm^2 以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。

■ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m^3 以下とする。

■ コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25℃未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。

■ コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

■ 打継ぎ部は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

■ コンクリート打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

■ コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108(コンクリートの圧縮強度試験方法)
　もしくはJIS A 1107（コンクリートからのコアの採取方法）による。

ｉ）高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。

□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。

□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
　① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。
　② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm^2 加えた値以上とする。

□ 調合管理強度は、以下による。

$_HF_m = F_c + {}_mS_n$ (N/mm^2)

$_HF_m$ ： 高強度コンクリートの調合管理強度　(N/mm^2)
F_c ： コンクリートの設計基準強度　(N/mm^2)
$_mS_n$ ： 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS5 による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

$_HF \geqq {}_HF_m + 1.73\sigma_H$　(N/mm^2)
$_HF \geqq 0.85\,{}_HF_m + 3\sigma_H$　(N/mm^2)

$_HF$ ： 高強度コンクリートの調合強度　(N/mm^2)
σ_H ： 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差　(N/mm^2)　で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1($F_c + {}_mS_n$)とする。

ⅱ）普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。

■ 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3　構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢(1)	判定基準
標準養生(2)	28 日	X ≧ Fm
コ　ア	91 日	X ≧ Fq

ただし、X ： 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm^2)
Fm: コンクリートの調合管理強度 (N/mm^2)
Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm^2)

[注] (1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当らない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

＊ 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm^2 を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

＊ コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。
その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm^{2}を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。

$F_m = F_q + {}_mS_n$ (N/mm^2)

F_m ： コンクリートの調合管理強度　(N/mm^2)
F_q ： コンクリートの品質基準強度　(N/mm^2)
$_mS_n$ ： 標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値 (N/mm^2)

■ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 m 日は、原則として28日とする。

$F \geqq F_m + 1.73\sigma$　(N/mm^2)
$F \geqq 0.85\,F_m + 3\sigma$　(N/mm^2)

F ： コンクリートの調合強度 (N/mm^2)
σ ： 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm^2) で、レディミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm^2、または 0.1Fm の大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて３回行い、その平均値を試験値とする。

■ スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm（呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm）とする。
高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m^{3}またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。 3回の試験で 1検査ロットを構成する。
高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m^{3}ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ 150m^{3}またはその端数ごとに 1回行う。 1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。
高強度コンクリートでは打込み日、打込み工区かつ 300m^{3}ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。
構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c)調合および構造体コンクリート強度による。

■ コンクリートの試験は、~~「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」~~ 公的~~第4条~~の試験機関で行うこと。

試験・検査機関名　　（都知事登録　　号）
代行業者名　　（登録番号　　号）
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

（２）鉄　筋

(a) 施工

■ 鉄筋はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。

■ 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。

■ 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。

■ 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4　鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位(注)				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				■ D（ 16 ）以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	■			■ D（ 19 ）以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□		□ D（　 ）以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□	□ D（　 ）以上	

注) (1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2020）』によって検討した部材の条件・仕様によること。

■ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

■ 圧接技量資格者は、（公社）日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

■ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

ｉ）鉄筋の種類・径の検査

■ 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。

ⅱ）配筋の検査

■ 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は計測で確認する。

ⅲ）鉄筋継手部の検査

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、（公社）日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9.5　鉄筋継手部の検査　（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■外観検査	全数 ※	目視又は計測
	■超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（ 30 ）箇所又は（　 ）%	JIS Z 3062:2014による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　 ）箇所又は（　 ）%	JIS Z 3120:2014による
溶接継手	□外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり（　 ）箇所又は（　 ）%	JRJS 0005:2017による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　 ）箇所又は（　 ）%	JIS Z 2241:2011による
機械式継手	□外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□超音波測定検査	抜取り1検査ロット当たり（　 ）箇所又は（　 ）%	JRJS 0003:2017による
	□引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり（　 ）箇所又は（　 ）%	JIS Z 2241:2011による

注）1 抜取り１検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。
注）2 ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

表9.6　外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備　考
		検査機関	施　工　者		
□	全数	全数	（　　）	（　　）	
■	全数	超音波探傷又は超音波測定 検査実施部位	検査機関による 検査部位以外	（ 確　認 ）	
□	全数	―	全数	（　　）	
□	全数	抜取り1検査ロット当たり （　　）箇所又は（　　）%	（　　）	（　　）	

■ 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、又は施工者が自ら契約した機関とする。

□ 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱要綱」第4条の試験機関、検査機関は同要綱第8条の検査機関とする。

試験機関名　　（都知事登録　　号）
検査機関名　　（都知事登録　　号）

（３）かぶり厚さ

■ 最小かぶり厚さは、表9.7に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。

■ 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.7以上の値とする。

表9.7　設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期		超長期	
部材の種類		屋　内	屋　外(2)	屋　内	屋　外(2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材(1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注）(1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

■ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

（４）型　枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、下表による。

表9.8　型枠存置日数　　昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種類 / 部位		せき板				支柱		
		基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、梁下		スラブ下		梁下
セメントの種類		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
存置期間の平均気温								
コンクリートの材令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度		※ 5.0N/mm^2		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		設計基準強度の100%

※　JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5N/mm^2 以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm^2 以上、また高強度コンクリートの場合は 10N/mm^2 以上。

注）1 片持ち梁、庇、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。
注）2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
注）3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注）4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5 支柱の盛替えは、小梁が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。
注）6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。
注）7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

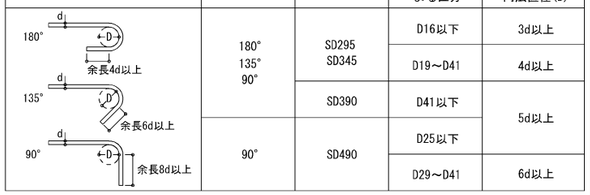
ｄ･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　　Ｄ･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

@･･･間隔　　ｒ･･･半径　　℄･･･中心線　　l_o･･･部分間の内法距離　　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ＳＴ･･･あばら筋　　ＨＯＯＰ･･･帯筋　　Ｓ.ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

［注］（１）dは呼び名に用いた数値とする。

（２）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（３）片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（４）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

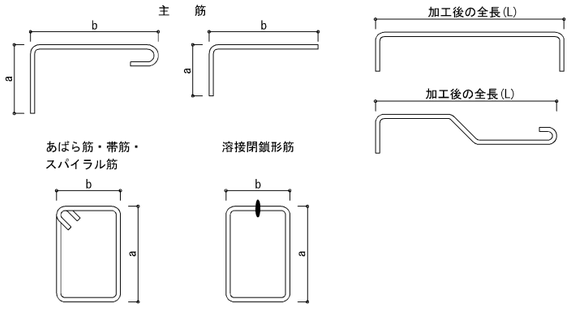
（５）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（６）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差　(mm)

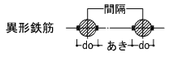
項目			符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a, b	± 15
		D29以上D41以下	a, b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a, b	± 5
加工後の全長			L	± 20

［注］（１）各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋

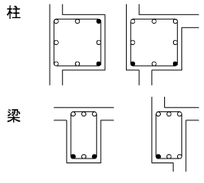
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
　および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)

d. 単純梁の下端筋

e. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の● 印の鉄筋の重ね継手の
末端にはフックが必要



（５）定着長さ　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

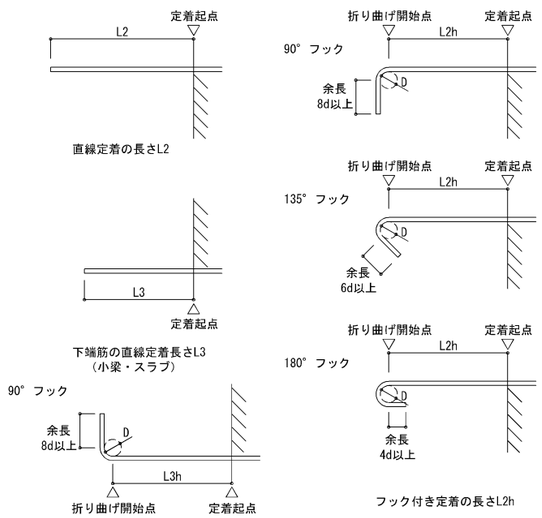
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ						
		一般				小梁下端筋		スラブ下端筋
		L2（フックなし）	L2h（フックあり）	La(3)	Lb	L3（フックなし）	L3h（フックあり）	L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

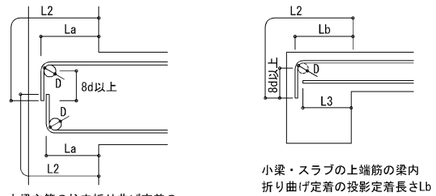
［注］（１）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（２）フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

（４）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。





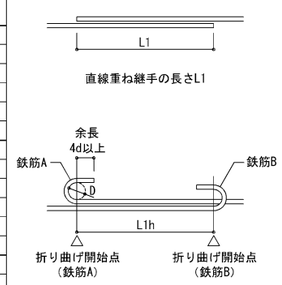
大梁主筋の柱内折り曲げ定着の
投影定着長さLa

小梁・スラブの上端筋の梁内
折り曲げ定着の投影定着長さLb

（６）継手

■重ね継手　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ	
		L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



［注］（１）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

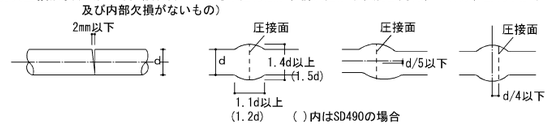
1．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

2．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

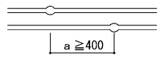
3．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

4．ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

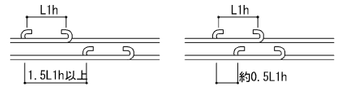
・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの）



・圧接継手



・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



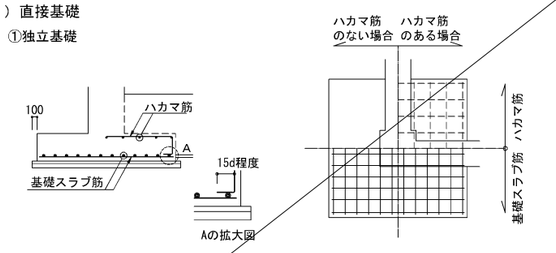
5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。

6．非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

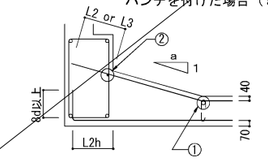
（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

ハンチを付けた場合（ａ≧3）



1．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
　但し上筋と下筋を読みかえる

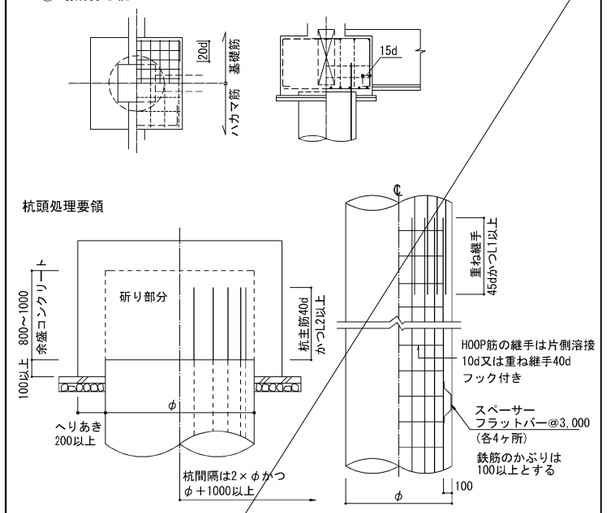
2．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

3．② の鉄筋はD13以上

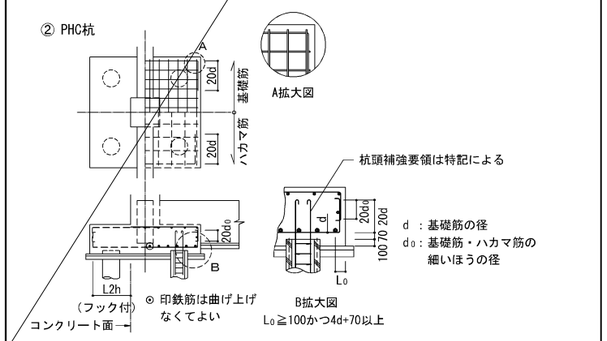
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

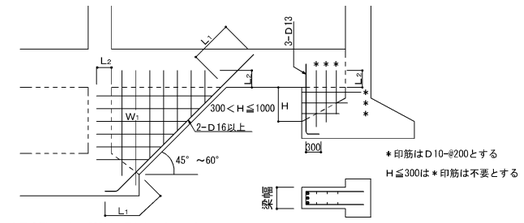
① 場所打ち杭



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



W₁の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、
配筋は両厚の壁リストにならう

2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN KITA CHIYODA-KU 102 TEL.0468(32)7113	一級建築士事務所 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2514号 鈴木 篤 STONE UNE BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER：鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER：鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG：秦 陽二 電気設備担当 ELECTRICAL ENG：岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG：長見 直 空調設備担当 MECANITCAL ENG：長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）
PROJECT NAMBER		DRAWING NAMBER	縮尺 NO SCALE SCALE
NO	S-03		

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

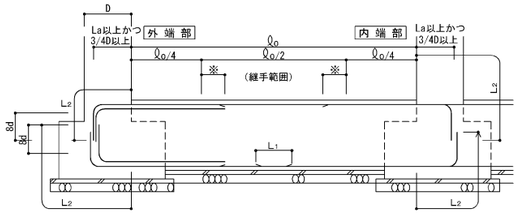
新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

４．地中梁

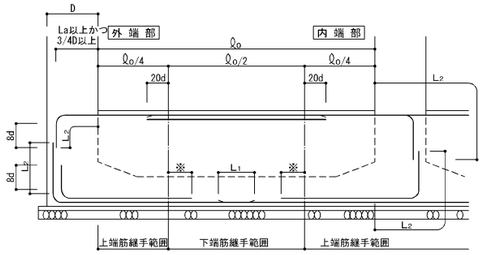
（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。）



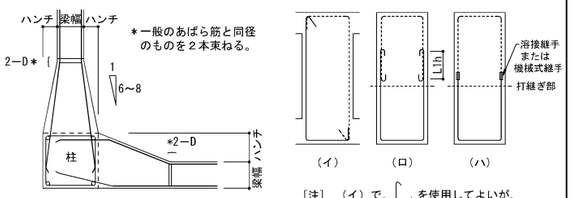
※主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



※主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（４）せいの高い梁のあばら筋加工要領図



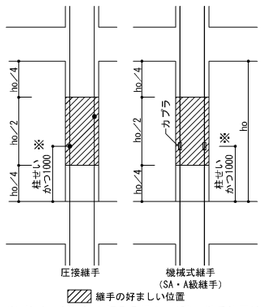
＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。

［注］（イ）で、⌊ を使用してよいが、⌊ は使用してはいけない。

（ロ）では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

５．柱

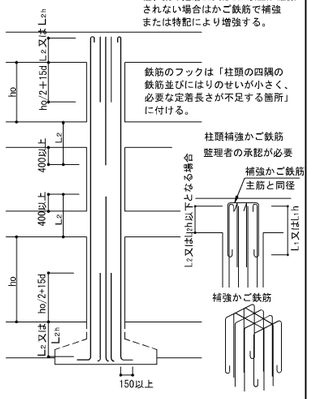
（１）柱主筋の継手位置



※ 柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

（２）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。



鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

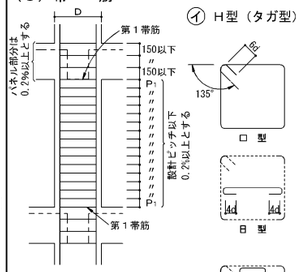
柱頭補強かご鉄筋

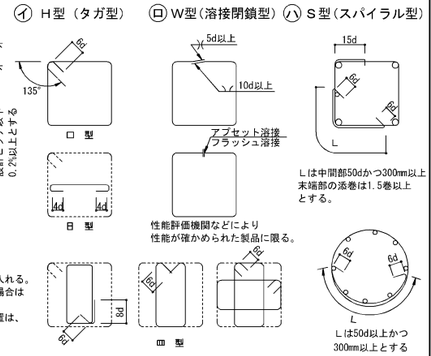
整理者の承認が必要

補強かご鉄筋主筋と同径

補強かご鉄筋

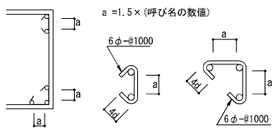
（３）帯　筋



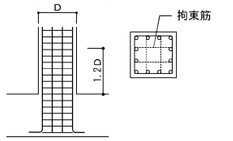


注 1.　第１帯筋は、梁づらに入れる。
注 2.　W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注 3.　フックおよび継手の位置は、交互とする。

（４）寄せ筋の保持



（５）柱脚部の補強



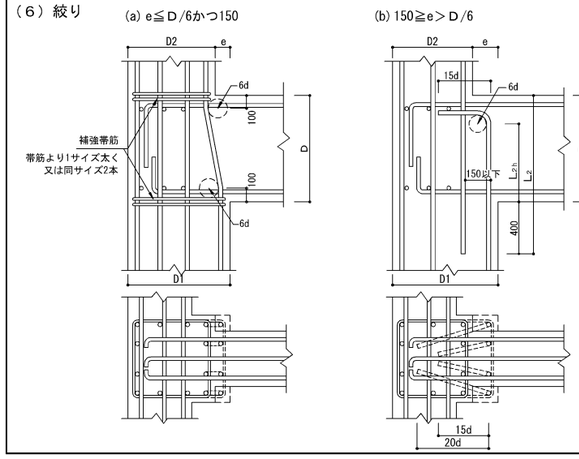
1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。

拘束筋は以下による。

□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻づつ

□図示による

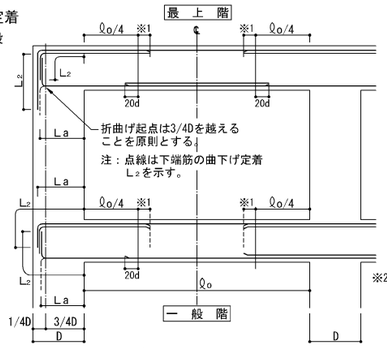
（６）絞り

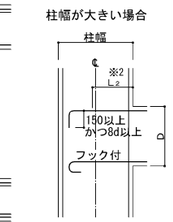


６．大梁

（１）定着

ⓐ一般





※2 柱幅が大きくて、直線部だけでL2がとれる場合でも柱中心線を超えて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする。

※1 主筋のカットオフ長さは ℓo/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

ⓑハンチがある場合

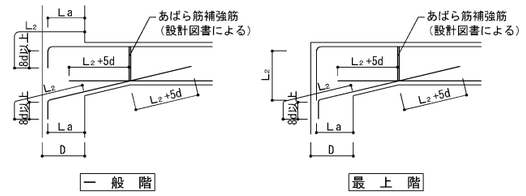
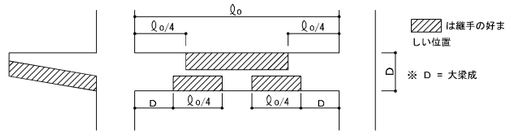


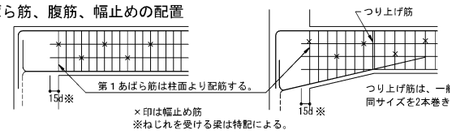
表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

部 材 名	ℓo/4 に加える長さ	部 材 名	ℓo/4 に加える長さ
端部カットオフ位置については設計図による			

（２）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。）

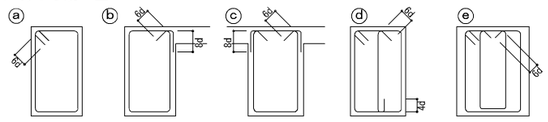


（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



×印は幅止め筋
※ねじれを受ける梁は特配による。

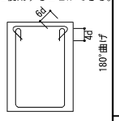
（４）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135°以上のフックとする。）



（イ）原則として ⓐ のフック先曲とする。片側床版付（L型）梁で ⓑ、両側床版付（T型）梁で ⓒ 又は ⓑ とすることができる。

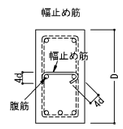
（ロ）フックの位置は ⓐ にあっては交互、ⓑ にあってはスラブ付側とする。

ⓕ 梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。



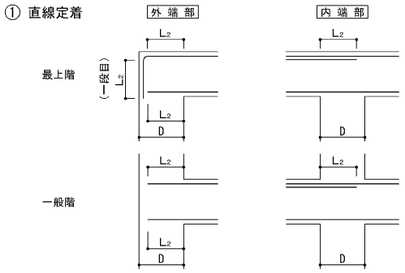
（５）幅止め筋の本数、加工

腹　筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2−D10　1段
	900≦D＜1200	4−D10　2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

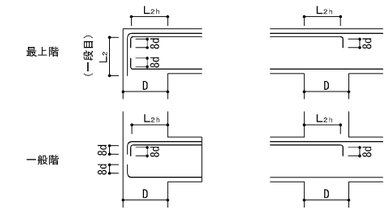


（６）梁主筋の定着

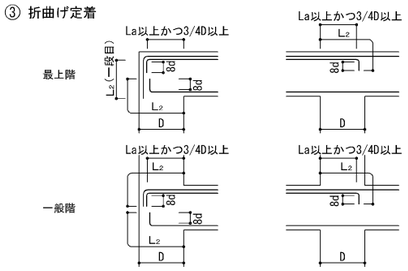
① 直線定着



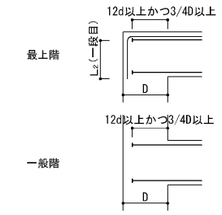
② 90° フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。

※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-1-11 KUDAN MINAMI 2ND TEL.0480(33)7113
一級建築士事務所　第B4287号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2579号
鈴 木 篤

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター　訓練塔・補助訓練塔新築工事

PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING：新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

DRAWING NAMBER

縮尺 SCALE：NO SCALE

NO：S-04

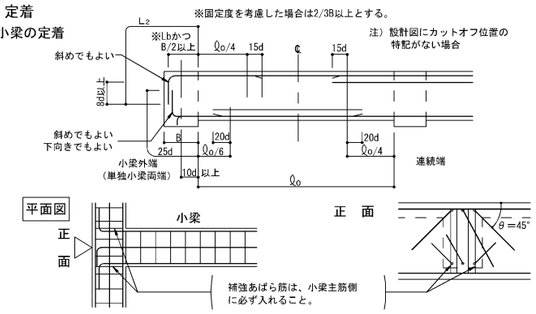
２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

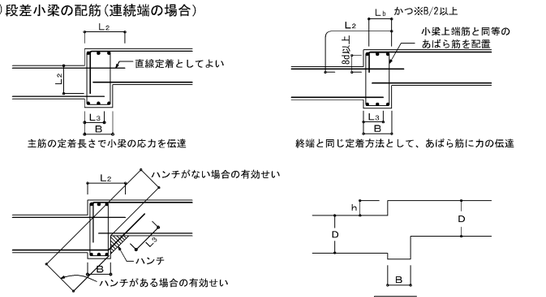
７．小梁、片持梁

（１）定着

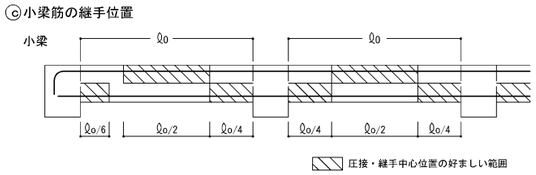
ⓐ 小梁の定着



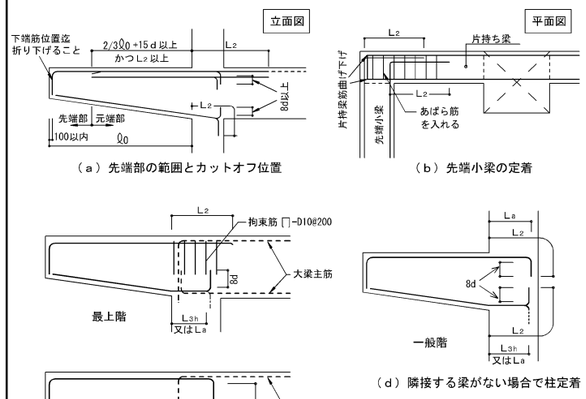
ⓑ段差小梁の配筋（連続端の場合）



ⓒ小梁筋の継手位置



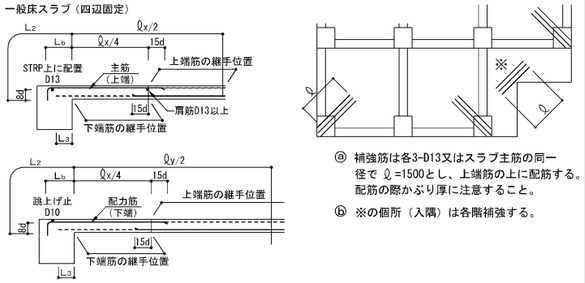
ⓓ片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4Ｄ以上とすること。



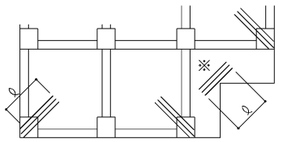
８．床　　版

（１）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（２）屋根スラブの補強

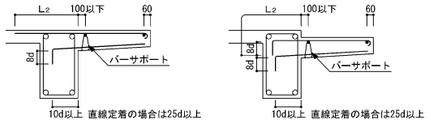


ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

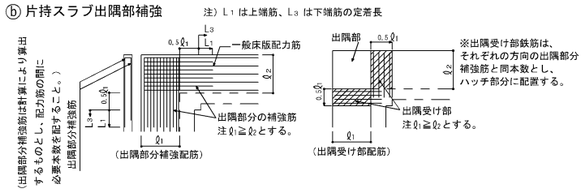
ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する。

（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

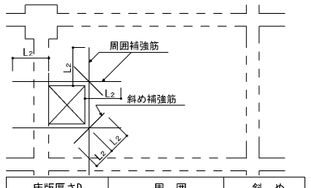
ⓐ片持床スラブ定着



ⓑ片持スラブ出隅部補強　注）L₁は上端筋、L₃は下端筋の定着長



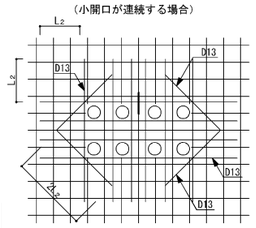
（４）床版開口部の補強（開口の径600以下程度の場合）



床版厚さD	周　囲	斜　め
D ≦ 150	上・下各 2-D13	1-D13
150 ＜ D ≦ 300	上・下各 2-D13	1-D13
300 ＜ D ≦ 500	上・下各 2-D19	1-D16

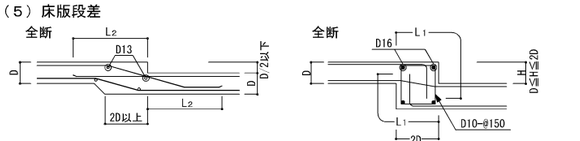
周囲、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同径、同本数鉄筋を開口横に配筋する。

（小開口が連続する場合）



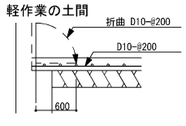
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。
孔と孔のへりあき100以上

（５）床版段差

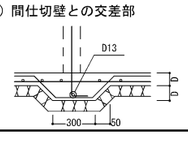


（６）土間コンクリート

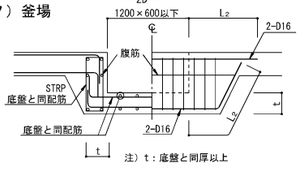
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交差部



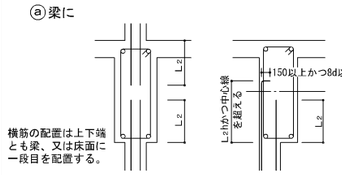
（７）釜場



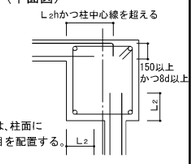
９．壁

（１）定着

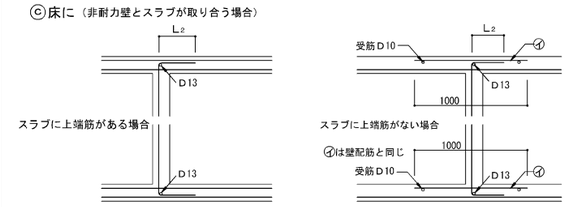
ⓐ梁に



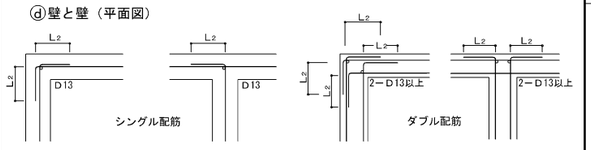
ⓑ柱に（平面図）



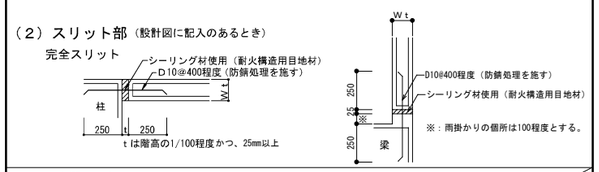
ⓒ床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）



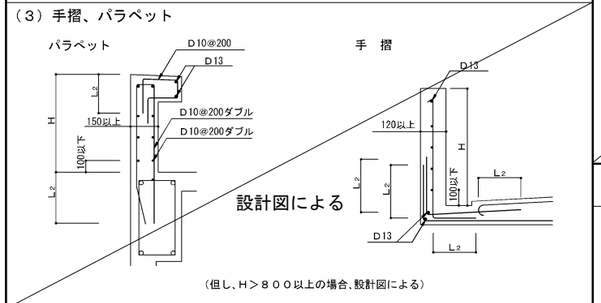
ⓓ壁と壁（平面図）



（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）



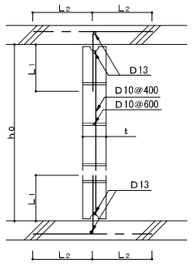
（３）手摺、パラペット



（但し、Ｈ＞８００以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

一般の場合

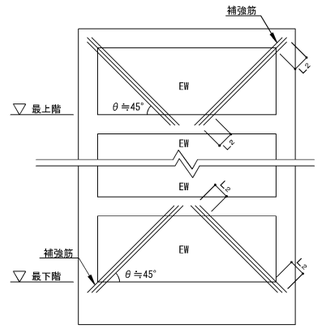


注）ｈｏ≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦ｈ≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること

（５）耐震壁端部の納まり

：鉄筋径および間隔は壁筋と同等、同ピッチ以上とし、壁筋に135°フックを設けた場合のＬは8ｄとする。
壁筋にフックを設けない場合のＬはL2とする。

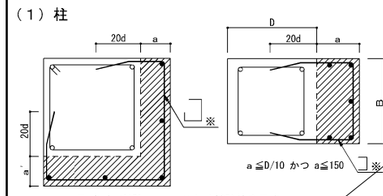
（６）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱



●印は補強筋を示す

設計図による

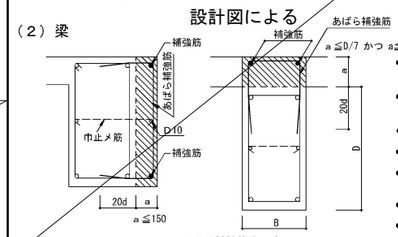
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積　A cm²

補強タテ筋

A＜500	500≦A＜1000
3−D16	4−D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（２）梁



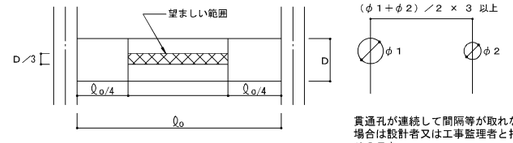
●印は補強筋を示す

- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（Ｄ１６以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋Ｄ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強　（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２Ｄ以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

■製品名　ダイヤレンＮＳ、ＭＡＸリンブレンＫ型、ＭＡＸウェブレン（又は同等品）

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

PUBLISHED 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUDAN MINAMI CHIYODA-KU TOKYO 102-0074 TEL.0468(33)7113
一級建築士事務所　第8428号
一級建築士事務所協会（神奈川）第25号
鈴木 篤 STONE LINE BY A.SUZUKI
企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECHANICAL ENG　長見　直
設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター　訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NUMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING　新鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）
DRAWING NUMBER
縮尺 SCALE　NO SCALE
NO　S-05

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（１）

※修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

（１）材料及び検査

(a) 新構造設計特記仕様その1による。
(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
　但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

（２）工作一般

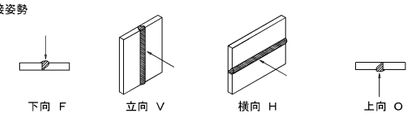
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（３）高力ボルト接合

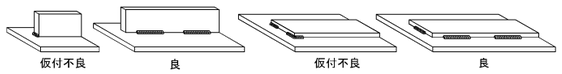
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
(c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

（４）溶接接合

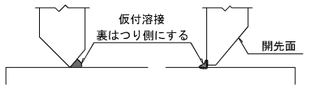
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
　溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
　(イ) 交流アーク溶接機 300A～500A　　(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
　(ロ) アークエアーガウジング機(直流)　　(ホ) 溶接電流を測定する電流計
　(ハ) セルフシールドアーク溶接機　　(ヘ) 溶接棒乾燥器
(d) 溶接方法
　被覆アーク溶接(アーク手溶接、ＭＣ、ＭＰ)　　ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、ＧＣ、ＧＰ)
　セルフシールドアーク溶接（半自動溶接、ＮＧＣ）　　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）
(e) 溶接姿勢



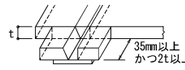
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
　(イ) 仮付位置
　組立溶接は溶接の始,終端,隅角部など強度上,工作上,問題となり易い箇所は避ける。



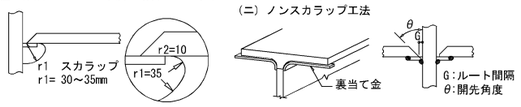
　(ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



(g) 溶接施工
　(イ) エンドタブ
　・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
　・エンドタブの材質は,母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
　・エンドタブの長さは、ＭＣ:35mm以上
　　ＮＧＣ,ＧＣ:40mm以上とし特記のない場合は、
　　溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
　　グラインダー仕上げとする。



　・プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
　(ロ) 裏当て金
　材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
　但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
　(ハ) スカラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。
　但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。



　(ホ) 裏はつり
　規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
　(ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う。

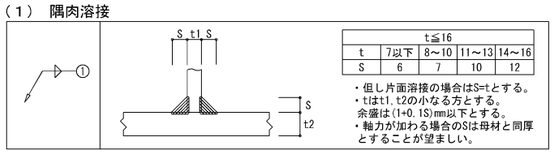
（５） 塗 装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

２．溶接規準図 （注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S:脚長

（単位mm）

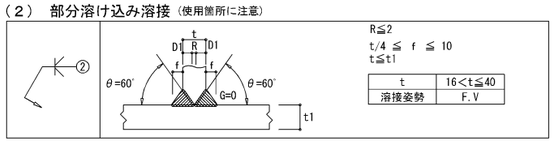
（１） 隅肉溶接



	t≦16			
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
・tはt1, t2の小なる方とする。
　余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

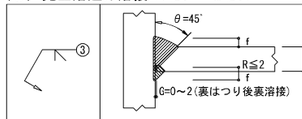
（２） 部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



R≦2
t/4 ≦ f ≦ 10
t≦t1

t	16<t≦40
溶接姿勢	F.V

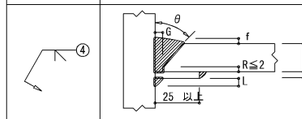
（３）完全溶込み溶接（平継手　Ｔ形継手）



t/4 ≦ f ≦ 10

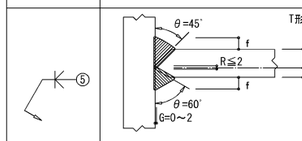
t	6≦t≦40
溶接姿勢	F.V

∘ＡＡＧ



t/4 ≦ f ≦ 10

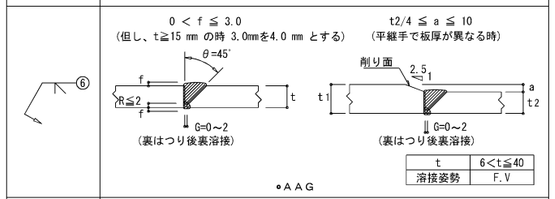
	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t<16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							



T形突合せ継手余盛　t/4 ≦ f ≦ 10

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4<t≦12	2
12<t≦19	3
19<t≦40	4
溶接姿勢	F.V

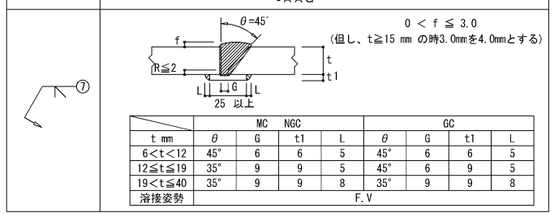
∘ＡＡＧ



0 < f ≦ 3.0
（但し、t≧15 mm の時 3.0mmを4.0 mm とする）
t2/4 ≦ a ≦ 10
（平継手で板厚が異なる時）

t	6<t≦40
溶接姿勢	F.V

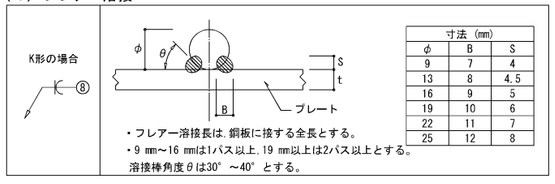
∘ＡＡＧ



0 < f ≦ 3.0
（但し、t≧15 mm の時3.0mmとする）

	MC NGC				GC			
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6<t<12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19<t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

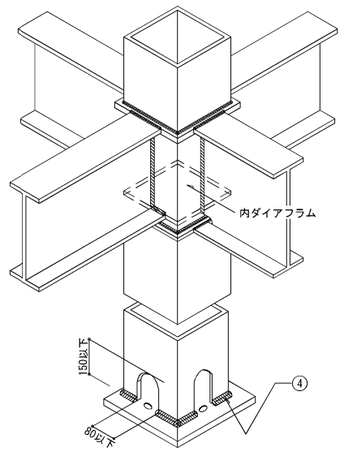
（４）フレアー溶接

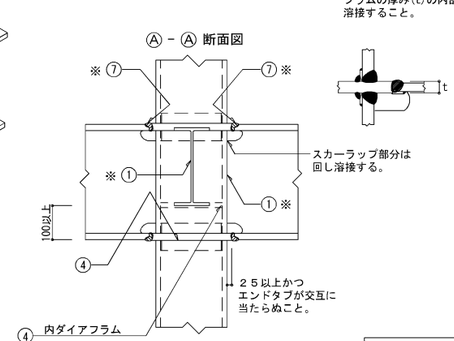


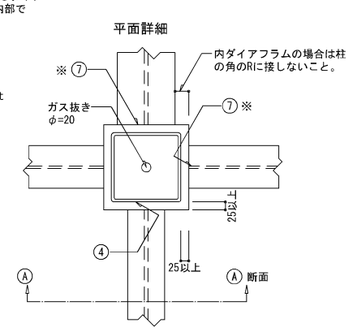
寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする。
・9 mm～16 mmは1パス以上,19 mm以上は2パス以上とする。
　溶接棒角度θは30° ～40° とする。

●BOX型（通しダイアフラムの場合）







① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。

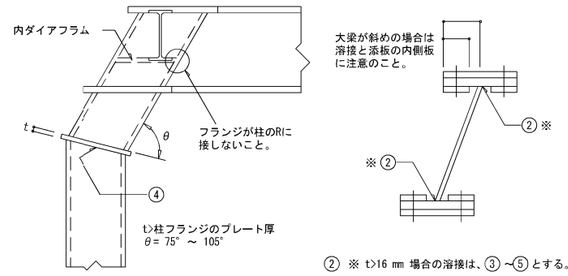
ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
〈 柱材料:BCR295,BCP325を使用する場合 〉
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
　　柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

●鋼材種別による溶接条件 溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類		規格	溶接材料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(℃)
一般鋼材	400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	40 以下	350 以下
			YGW18, YGW19	30 〃	450 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30 〃	450 〃
		JIS Z 3211	E43xx, E49xx	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30 〃	250 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
		JIS Z 3211	E49xx	40 〃	350 〃
冷間成形角形鋼管	400N級炭素鋼 BCR295, BCP235 STKR400	JIS Z 3312	YGW11, YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18, YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼 BCP325 STKR490	JIS Z 3312	YGW18, YGW19	30 〃	250 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

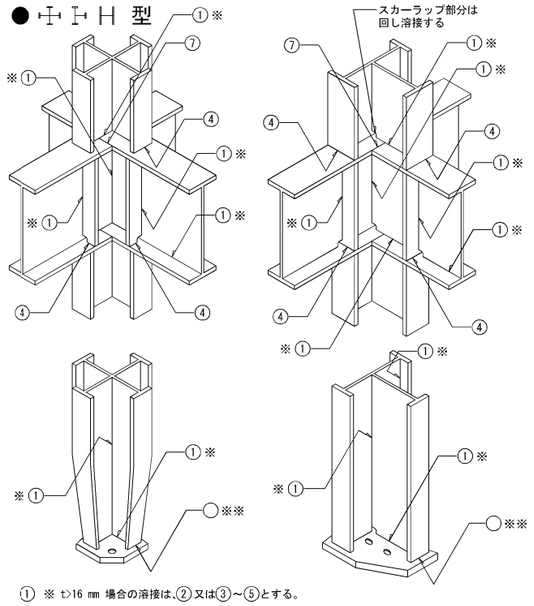
注）ロボット溶接の場合（一社）日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に従うこと。
490N/mm² を超える部材は適合する溶着金属を使用すること。
ガスシールドアーク溶接法による完全溶け込み溶接部に適用する。

● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



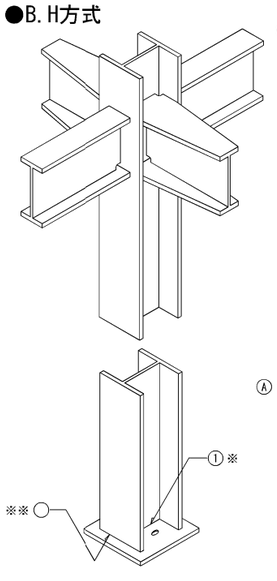
② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

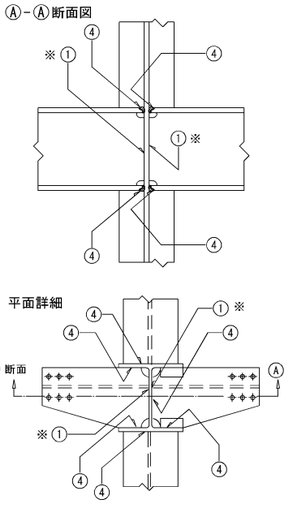
●Ｈ型



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。
○ ※※ 印は設計者が記入すること。

●B.H方式





① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KABUKI-CHO SHINJUKU 208 TEL.0468(33)7113
一級建築士事務所 第34287号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2579号
鈴木 篤
企画担当 鈴木 篤
設計担当 鈴木 玲成
構造担当 秦 陽二
電気設備担当 岡 正浩
衛生設備担当 長見 直
空調設備担当 長見 直
設計名称 消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
図面名称 鉄骨構造標準図（１）
縮尺 NO SCALE
S-06

２０２１年１２月１日 発行　一般社団法人　東京都建築士事務所協会　監修　東京都建築構造行政連絡会

鉄 骨 構 造 標 準 図（２）

※修正箇所は下線を引くこと

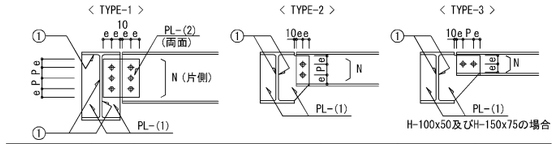
３．継手規準図，その他

（１）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ (P)　ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

呼び径 d		ボルト穴径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径＋５		9d/5	4d/3			

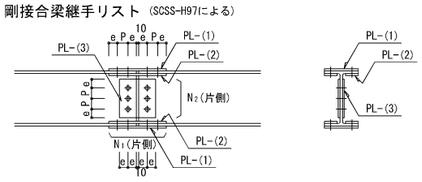
〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離。

（２）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N － 径
	3	H－125・60・6･8	6		2－M16
	3	H－150・75・5･7	6		2－M16
	2	H－175・90・5･8	6		2－M16
	2	H－200・100・5.5･8	6		2－M16
	2	H－250・1設計図による	6		3－M16
	2	H－300・150・6.5･9	9		3－M20
	2	H－350・175・7･11	9		4－M20
	1	H－350・175・7･11	9	6	4－M20
	2	H－400・200・8･13	9		5－M20
	1	H－400・200・8･13	9	9	4－M20

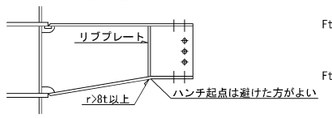
（３）剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)



〔注〕端部をBHとする場合の部材は設計図による。

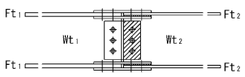
符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁－ 径	ウエブ PL-(3)	N₂－ 径
	設計図による					

（４） ハンチ部の継手



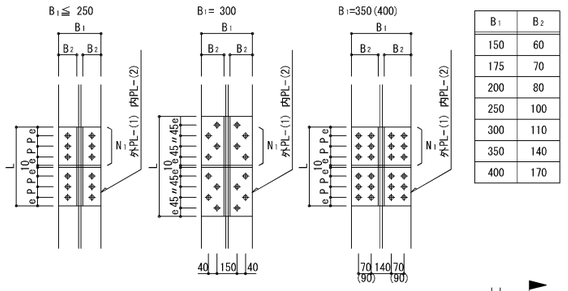
ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による。
r：半径　t：板厚

フランジ及びウエブ厚の差のある場合

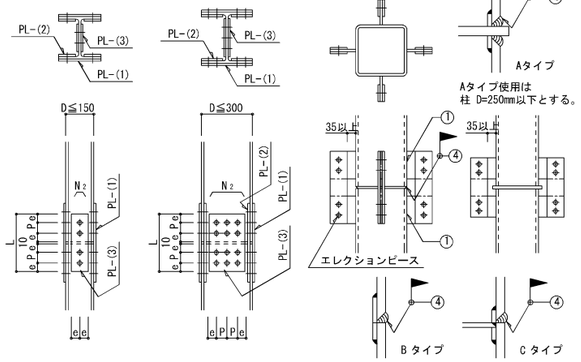


Ft_1-Ft_2
Wt_1-Wt_2 ≧1mm　フィラプレート併用の事

（５）柱継手リスト



B_1	B_2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170



注〕現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N₁－ 径	ウエブ PL-(3)	N₂－ 径

（６）ターンバックルブレース (JIS規格品とする ･･･ JIS A 5540 ･･･ 2008 / 5541 ･･･ 2008)

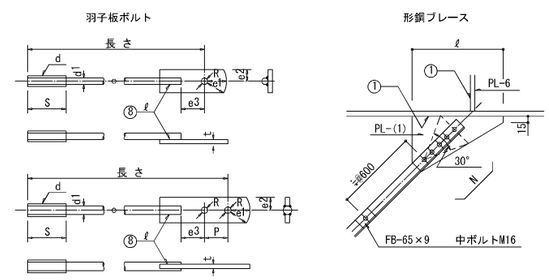
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最　大		10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最　小		10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0 −0.5 mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小) (1)	e2	28	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小) (1)	e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき (最小)		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		W	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種　類		JIS B 1186 2種高力ボルト(F10T) (3)						
	ねじの呼び		M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

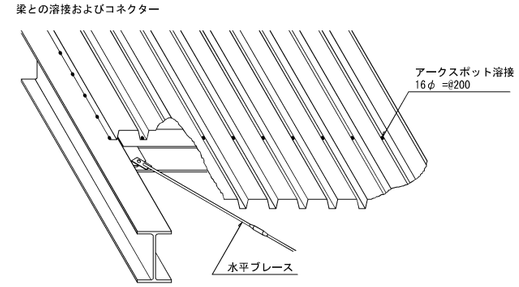
〔注〕(1) e1,e2が確保されてれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3) 溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1 種 F8TAに準じるものを使用する。

(b) 形鋼ブレース

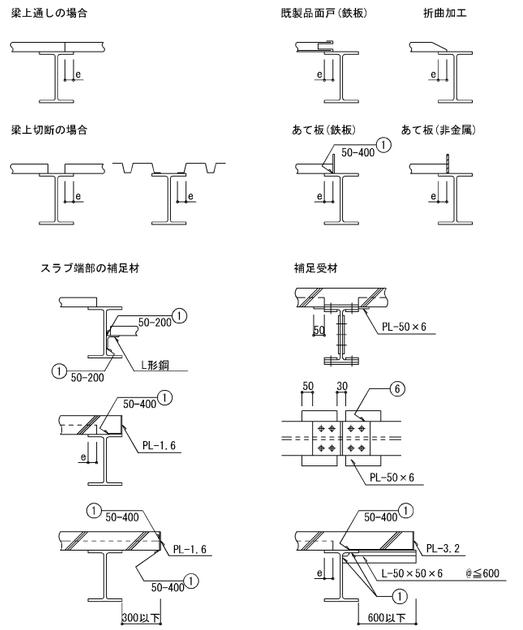
符 号	部　材	PL-(1)	N － 径	ℓ



（７）デッキプレート (床剛性を考慮する合成床, 合成梁のときは構造図参照)

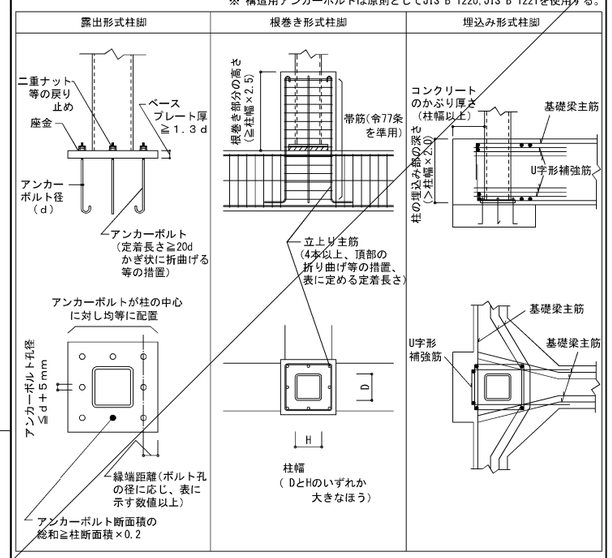


受梁へのかかり寸法及端部処理　　e ： 長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。
且つ、各メーカーの仕様による。



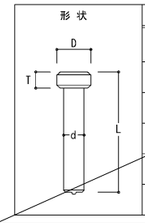
（８）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220, JIS B 1221を使用する。



（９）頭付きスタッド(JIS B 1198 - 2011)

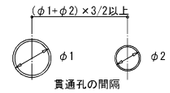
スタッド材の標準形状・寸法

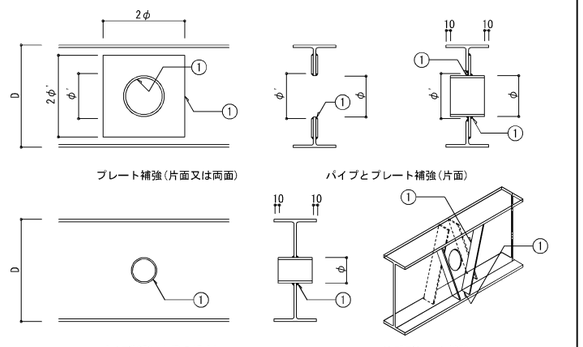


スタッド材 呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
φ13 mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
φ16 mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
φ19 mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
φ22 mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
φ25 mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置, 寸法及び補強方法によらなくて良い。
・梁端部（内法スパン ℓ0 の1/10以内かつ、2D以内）は避ける。
・φ≦ 0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す。





プレート補強の板厚

スリーブ径	補　強　板
φ≦ 0.15D	補強板不要　(計算で安全性の確認を行う)
φ≦ D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦ D/3	Web板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上（両面）

発行 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
一級建築士事務所 第842876号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号
鈴 木 篤
企画担当 鈴木　篤
設計担当 鈴木　玲成
構造担当 秦　陽二
電気設備担当 岡　正浩
衛生設備担当 長見　直
空調設備担当 長見　直
設計名称 消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
図面名称 鉄骨構造標準図（２）
縮尺 NO SCALE
S-07

ハイベースNEO工法設計施工標準

（ハイベースNEO工法は、Ｓ造及びＣＦＴ造に適用）

2025/10

大臣認定 MSTL-0566（Gタイプ用ベースプレート）
MBLT-0042～0044, 0046, 0228～0230（アンカーボルトセット）
BCJ評定 BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ、高強度柱適用タイプ）

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 ＪＡＳＳ６ 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説 ＪＡＳＳ５ 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設　計

１．材質

（１） ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ（ＥＢ型式、ＥＭ型式、ＥＨ型式），高強度柱適用タイプ（KB型式）

	ベースプレート エコタイプ	ベースプレート 高強度柱適用タイプ	アンカーボルト[1]	エコナット[2]	ナット[※2]	座金[※2]	定着板
規格	JIS G3136[※4] 又はTMCP鋼[※4]	TMCP鋼[※4]	HAB（大臣認定取得材）	大臣認定取得材	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	板厚40mm以下の場合SN490B 板厚40mm超の場合TMCP325B, C	TMCP385B, C	降伏比 70%以下	–	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプ、高強度柱適用タイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ（GB型式、GM型式、GH型式）

	ベースプレート[※1]	アンカーボルト[※2]	ナット[※2]	座金[※2]	定着板
規格	HCW490B（大臣認定取得材）	HAB（大臣認定取得材）	JIS B1181（六角ナット）	JIS G3106	JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	強度区分5（三種ナット相） 強度区分6（一種ナット相）	SM490A	SS400

※１ 国土交通大臣認定（ＭＳＴＬ-0566） ※２ 国土交通大臣認定（ＭＢＬＴ-0042～0044, 0046, 0228～0230）
※３ Ｍ７２は細目ねじ ※４ 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用 ※５ 電炉材を使用する場合があります

（２）ベースプレート下面のモルタル

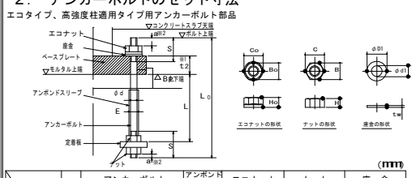
後詰めモルタル	ハイベース工法無収縮モルタルＮＸ-２０００、又はクイック３およびこれと同等以上の無収縮性モルタル[※] ※ センクシアが供給するものに限る
中心塗部分モルタル	○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル（ＮＸ-２０００及びクイック３は使用不可。） ○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

（３）基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「ＪＡＳＳ ５ 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、Ｆｃ＝１８～３６Ｎ／ｍｍ²
鉄筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	へりあき量は、ベースプレート外形寸法の０．１倍以上確保しなければならない。

２．アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ、高強度柱適用タイプ用アンカーボルト部品



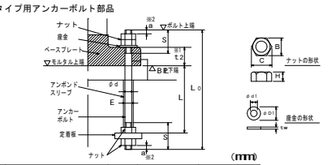
（mm）

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径	ねじピッチ	ねじ長さ	余長※2	定着長さ	全長	アンボンドスリーブ 外径	エコナット 高さ	二面幅	対角距離	ナット 高さ	二面幅	対角距離	座金 厚さ	内径	外径
	φd	P	S	a	L	LO	E	HO	BO	CO	H	B	C	tw	φd1	φD1
エコタイプ[※3] M24	24	3	90 / 105	10	480 / 630	645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	110 / 130	13	600 / 800	835	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	130 / 150	16	720 / 960	1025	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
高強度柱適用タイプ M42	42	4.5	150 / 175	18	840 / 1120	1215	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	170 / 200	22	960 / 1280	1425	54	38	75	87	39	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	195 / 230	24	1120 / 1500	1625	62	45	85	98	9	58	105			
M64	64	6	220 / 260	28	1280 / 1700	1825	70	51	95	110	12	66	115			
M72	72	6	250 / 300	30	1440 / 1850	2075	79	58	105	121	12	74	125			

※１ t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※２ a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※３ 表中のエコタイプ上段はEB、EM型式のアンカーボルト4本タイプ、
エコタイプ下段はEB、EM型式のアンカーボルト8本、12本タイプ及びEHタイプの場合の寸法です。

⚠注意
・エコタイプ、高強度柱適用タイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



（mm）

ねじの呼び	アンカーボルト 軸径	ねじピッチ	ねじ長さ	余長※2	定着長さ	全長	アンボンドスリーブ 外径	ナット 高さ	二面幅	対角距離	座金 厚さ	内径	外径
	φd	P	S	a	L	LO	E	H	B	C	t w	φd1	φD1
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	150 / 170	16	720 / 960	955 / 1215	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	175 / 195	18	840 / 1120	1180 / 1435	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	195 / 225	22	960 / 1280	1325 / 1625	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	225 / 260	24	1120 / 1500	1525 / 1825	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	260 / 300	28	1280 / 1700	1725 / 2075	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	290 / 340	30	1440 / 1850	1975 / 2425	79	58	105	121	12	74	125

※１ t_1 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
※２ a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。
施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
※３ 上段はGB型式及びGM型式の場合、下段はGH型式の場合の寸法です。

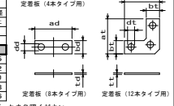
⚠注意
・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
（一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。）

ベースプレートのアンカーボルト孔径 （mm）

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72
エコタイプ及び高強度柱適用タイプ	38	44	50	57	–	–	–	–
Gタイプ孔径	–	38	45	53	61	70	79	87

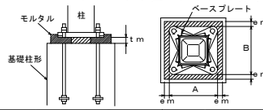
定着板（エコタイプ、高強度柱適用タイプ、Gタイプ共通） （mm）

ねじの呼び	4本タイプ用 厚さ t s	外径 Ds	内径 ds	8本タイプ用 厚さ t d	長さ ad	幅 bd	内径 dd	12本タイプ用 厚さ t t	長さ at	幅 bt	内径 dt
M24	16	70	27	–	–	–	–	–	–	–	–
M30	16	90	33	9	180	65	33	–	–	–	–
M36	19	100	39	9	215	75	39	–	–	–	–
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M56	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	–	–	–	16	380	145	76	16	375	145	76



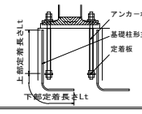
ベースプレートの形状・寸法は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックを参照ください。

３．ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ（tm）	標準寸法 tm=50mm	許容範囲 30≦tm≦70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅（em）	em≧30mm	許容範囲 em≧25mm

４．基礎柱形主筋の定着長さ（最小値）



基礎柱形主筋の定着長さ（Lt）は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

工場加工

１．溶接材料

被覆アーク溶接	JIS Z 3211（旧JIS Z 3212）に従い選定する（低水素系）
ガスシールドアーク溶接	JIS Z 3312 又は JIS Z 3313に従い選定する

※ベースプレートと柱のF種が異なる場合は、JASS6や各材質毎に定められた指針に従い溶接材料を選定する。

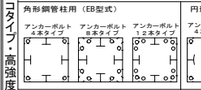
２．ベースプレートの鉄骨柱への取付け（柱端部に開先を設ける）

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
開先はＭＣ－ＴＬ－１Ｂ、ＧＣ－ＴＬ－１Ｂによる　　※開先形状は参考

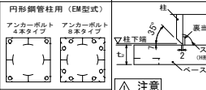
エコタイプ・高強度柱適用タイプ

ベースプレート形状

角形鋼管柱用（EB型式）

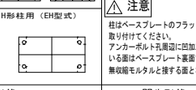


円形鋼管柱用（EM型式）

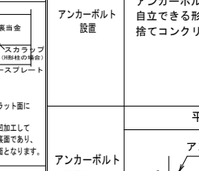


高強度角形鋼管柱用（KB型式）

H形柱用（EH型式）



開先形状

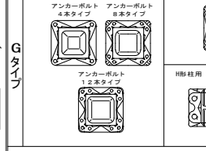


⚠注意
柱はベースプレートのフラット面に取り付けてください。
アンカーボルト孔周辺に凹加工している面はベースプレート裏面であり、無収縮モルタルと接する面となります。

Gタイプ

ベースプレート形状

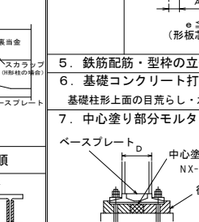
角形鋼管柱用（GB型式）



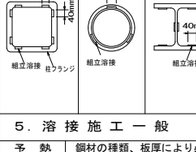
円形鋼管柱用（GM型式）

H形柱用（GH型式）

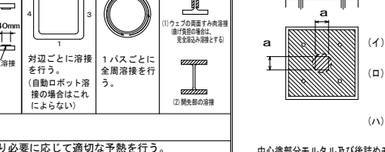
開先形状



３．組立溶接

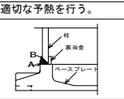


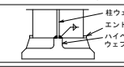
４．本溶接の手順



５．溶接施工一般

予熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手または丁継手余盛り高さに準拠する（Gタイプ）。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接





⚠注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱変形によって曲がることがあります。

６．検査

方法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	（１） 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 （２） 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から５０ｍｍ以上、はつり取り再溶接する。

現場施工

（#）：センクシアの担当範囲

１．捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは９０mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

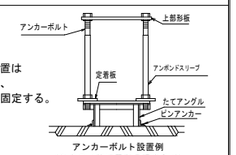
２．墨出し

３．アンカーボルト搬入（#）

４．アンカーボルト据付（#）

アンカーボルト設置

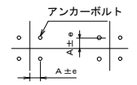
アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。



アンカーボルト設置例
（架台の形状は異なる場合あり）

アンカーボルト設置精度の目標値

平面



e≦3mm
（形板芯にて検査）

レベル

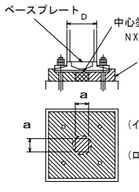
基準高さよりの誤差eh
－３mm≦eh≦10mm

５．鉄筋配筋・型枠の立込み

６．基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

７．中心塗り部分モルタル施工



中心塗部分モルタル
NX-2000、クイック3は使用不可。

後詰めモルタル
ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル※
注入方法はヘッド圧工法による。
※ センクシアが供給するものに限る

（イ） □ ２５０以下、φ２６７．４以下、H２５０以下の場合
１００mm ≦ a ≦２００mm かつ柱寸法 D以下
（ロ） □ ３００以上□７００以下、φ３００以上φ７１１．２以下、および H２５０以上の場合
１５０mm ≦ a ≦３００mm かつ柱寸法 D以下
（ハ） □ ７５０～□１２００、φ７５０～φ１０１６の場合
３００mm ≦ a ≦５００mm

中心塗部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH, KB型式	GH型式
８．鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締付けを行う。	８．鉄骨建方
９～１０．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#） アンカーボルト締付確認（#） ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	９．モルタル注入枠設置（#） 後詰めモルタル充填（#） １０．アンカーボルト締付（#） 予備締め マーキング ナット回転法による本締め （30°回転、許容差 $^{+10°}_{-0}$）

１１．モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースＮＥＯ工法のチェックシートに工事記録を記載する。

センクシア株式会社
URL https://www.senqcia.co.jp/
本社 TEL 03-4214-1932　関東 TEL 027-322-9411　関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177　中部 TEL 052-582-3356　中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595　北陸 TEL 076-233-5260　九州 TEL 092-452-0341

⚠注意
1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。（日本建築センターの評定で義務付けられています。）
2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきずやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
4. 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEO工法の性能が発揮できなくなります。

ハイベースNEO工法　各種寸法及び基礎柱形設計例（Fc21の場合）〈角形鋼管柱用 □150～□550〉

（ハイベースNEO工法Gタイプは、Ｓ造及びCFT造に適用）
（ハイベースNEO工法エコタイプは、Ｓ造及びCFT造に適用）

大臣認定 MSTL-0566, 0404, 0180（Gタイプ用ベースプレート）
BCJ評定 MBLT-0042～0044, 0046, 0228～0230（アンカーボルト）
BCJ評定-ST0058（Gタイプ）
BCJ評定-ST0059（エコタイプ）
本工法の設計・施工は、鋼構造設計規準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ６鉄骨工事、建築工事標準仕様書同解説ＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

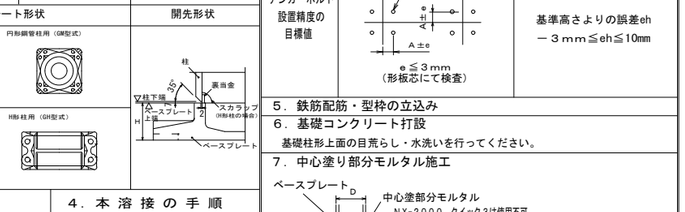
2025/10

型式表示例
エコタイプ：EB350－8－36
Gタイプ：GB500－8－42
アンカーボルト径
アンカーボルト本数
柱外形寸法
角形鋼管柱用

ベースプレート形状

アンカーボルト４本タイプ　アンカーボルト８本タイプ　アンカーボルト１２本タイプ

L, L1, h, hc, b寸法、柱形主筋の定着長さ(Lt)



エコタイプはシングルナット仕様（コンクリートスラブに埋込）
Gタイプはダブルナット仕様(露出が標準)
注)表中のh寸法は杭がない場合です。
杭がある場合は表中のh寸法に+100mm以上確保して下さい。
Gタイプでコンクリートスラブに埋め込む場合、スラブ厚(hc寸法)は"L1寸法+鉄筋40mm以上のかぶり"となる寸法を確保してください。

下部定着長さ(Lt)　Lt寸法は定着板上面より下表の定着長さを上下とも確保してください。

・ハイベースNEO工法
（角形鋼管柱用□150～□550）

採用 柱符号	数量	適用柱 柱サイズ	板厚範囲	ハイベースNEO型式 エコタイプ	Gタイプ	アンカーボルト	回転バネ定数 X10⁶kN・m/rad	寸法（mm） A	C1	C2	C3	E	F	H	t_2	質量（kg） ベースプレート	部品	セット質量	L (mm)	L1 (mm)	基礎柱形の設計例(Fc21) 〈 側・隅柱用 〉 基礎天端一致でコンクリート天端 h (mm)	<ベースプレート下端とコンクリート天端> hc (mm)	Iゾーン 柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	Iゾーン 柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	鉄筋の定着長さ Lt (mm)	基礎柱形の設計例(Fc21) 〈 中柱用（4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。）〉 Iゾーン 柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	Iゾーン 柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	鉄筋の定着長さ Lt (mm)
sC21	4	□250	6～16	EB250-4 -36		4-M36	59.7	410	320	–	–	–	–	–	40	53	36	89	480	117	700以上	160	610	12-D19	D13@150	610	20-D19	D13@100	350	610	12-D19	D13@150	610	20-D19	D13@100	350

鉄筋はD13, D16はSD295, D19, D22, D25はSD345, D29はSD390をご採用ください。　表中に無いサイズについても対応可能です。センクシアに問い合わせ下さい。
注 1）Ⅰ,Ⅱ ゾーン分けについてはハイベースNEO工法設計ハンドブックの各型式の耐力線図を参照下さい。
注 2）上記表内の(中柱用)とは、4方向から基礎梁が取り付いた状態を示します。この条件を満たさない状態については、(側・隅柱用)を御採用下さい。
注 3）表中の鉄筋量は基礎立上がりのない場合（基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合）の設計例です。立上がりがある場合、独立基礎の場合は、ハイベースNEO工法設計ハンドブックに従い、日本建築学会等の規準・指針に準拠した設計を行って下さい。
注 4）(中柱用)の鉄筋量は、基礎梁内のあばら筋を□450以下はD10@250、□500以上はD13@250として算定しています。
あばら筋断面積がこれよりも小さくなる場合は(側・隅柱用)の鉄筋量として下さい。
注 5）部品の質量はアンカーボルト部品と形板を合わせた質量です。

センクシア株式会社
URL https://www.senqcia.co.jp/
本社 TEL 03-4214-1932　関東 TEL 027-322-9411　関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177　中部 TEL 052-582-3356　中四国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595　北陸 TEL 076-233-5260　九州 TEL 092-452-0341

令和 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-11-11 KUDAN MINAMI 238 TEL.0468(33)7113
一級建築士事務所 第042876号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2576号
鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI
企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤
設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直
空調設備担当 MECHANICAL ENG 長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING ハイベースNEO工法設計施工標準
DRAWING NUMBER
SCALE 縮尺 NO SCALE
NO S-08

スクリューパイルEAZET（イーゼット）設計施工標準（関東・甲信越地区）

・引抜き評定適用時の許容支持力及び適用範囲については別途カタログをご参照ください。
・本掲載内容及び仕様については、予告なしに変更することがあります。
・本掲載内容及び仕様は、2022年10月現在のものです。

【許容支持力および適用範囲】

1.件名

先端羽根付き鋼管杭　　スクリューパイルＥＡＺＥＴ

2.本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期ならびに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1）長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3}[\alpha \overline{N} Ap + (\beta \overline{Ns} Ls + \gamma \overline{qu} Lc) \Psi] \ (kN) \cdot\cdot\cdot\cdot (i)$$

2）短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3}[\alpha \overline{N} Ap + (\beta \overline{Ns} Ls + \gamma \overline{qu} Lc) \Psi] \ (kN) \cdot\cdot\cdot\cdot (ii)$$

ここで、（i）,（ii）式において、

α：基礎ぐいの先端付近の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）におけるくい先端支持力係数（α＝300）

β：基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）のうち砂質地盤におけるくい周面摩擦力係数（$\beta \overline{Ns}$＝15を満たすβ）

γ：基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）のうち粘土質地盤におけるくい周面摩擦力係数（$\gamma \overline{qu}$＝15を満たすγ）

$\overline{N}$：基礎ぐいの先端付近（くい先端位置より下方に1Dw（Dw：羽根の直径）、上方に1Dwの範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

ただし、基礎ぐいの先端地盤が砂質地盤（礫質地盤含む）の場合は $15 \leqq \overline{N}$ とし、60を超える場合は60を上限とする。

また、基礎ぐいの先端地盤が粘土質地盤の場合は $12 \leqq \overline{N}$ とし、60を超える場合は60を上限とする。

Ap：基礎ぐいの先端の有効断面積（㎡）

Ap = A ・e

e：有効面積率（e＝0.5）

A：くい先端平面積　A ＝ π ・Dw2/4（㎡）

$\overline{Ns}$：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

ただし、$0 < \overline{Ns}$ とし、30を超える場合は30とする。なお、Ns値が0の場合、周面摩擦力を考慮しない。

$\overline{qu}$：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（kN/㎡）

ただし、$0 < \overline{qu}$ とし、200を超える場合は200を上限とする。なお、qu値が0の場合、周面摩擦力を考慮しない。

Ls：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（m）

Lc：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（m）

Ψ：基礎ぐいの周囲の有効長さ（m）

Ψ ＝ π ・Do

Do：くい本体部径（m）

3.くい材から決まる許容鉛直支持力

$Ra2 = fe \cdot Ae \times 10^{-3}$

Ra2：くい材から決まる長期許容鉛直支持力（kN）

fe ：くい材の長期許容応力度（＝ $F^{※}/1.5$）

$F^{※}$：設計基準強度（N/mm2）

$F^{※}$ ＝F・(0.80 + 2.5te / r)かつ F ≦$F^{※}$

F：くい材の許容応力度を決定する場合の基準値

（STK400→235N/mm2、STK490→325N/mm2、SEAH590[STKT590]→440N/mm2）

te：腐食しろを除いた鋼管の肉厚(mm)

r ：鋼管の半径(mm)

Ae：腐食しろを考慮したくい材の有効断面積（mm2）

4.適用範囲

1）適用する地盤の種類

基礎ぐいの先端付近の地盤：

砂質地盤（礫質地盤含む）――――― TACP-0635

粘土質地盤 ――――――――――― TACP-0636

基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤及び粘土質地盤

2）最大施工深さ（m）

杭本体部径	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4
先端砂質地盤（礫質地盤）	14.85	18.17	21.47	24.79	28.11	34.76	41.40	46.22	51.37
先端粘土質地盤	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.0	45.8	－

3）適用する建築物の規模

床面積の合計が500,000㎡以下の建築物

【EAZET（イーゼット）の構造・規格】

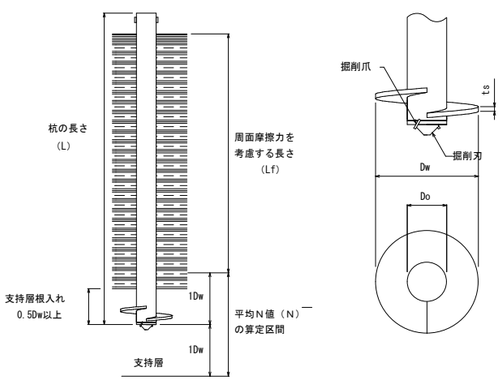
1.関東・甲信越地区向け杭材仕様

杭本体部				杭先端羽根部		
径 Do(mm)	STK400	STK490	SEAH590 [STKT590]	径 Dw(mm)	厚 ts(mm)	材質
	厚 t(mm)					
114.3	6.0	－	－	300	16	SM490A
139.8	6.6	－	－	350	19	
165.2	－	7.1	－	350	16	
				450	22	
190.7	－	7.0	－	400	19	
				500	22	
				570	25	
216.3	－	8.2 12.7	<8.2>	470	22	
				550	25	
				600	28	
				650	28	
267.4	－	8.0 12.7	<8.0> <12.7>	580	28	
				● 650	28	
				700	28	
				● 750	32	
				800 ※1	36	
318.5	－	7.9 <12.7>	－	700	28	
				800	32	
355.6	－	<7.9 12.7> <16.0>	－	750	28	
				800	32	
406.4	－	<7.9 12.7> <19.0>	－	800	28	
				880	32	

※1：N値45まで限定

※< >の仕様は準標準材です。ご検討される場合は弊社担当までお問い合わせください。

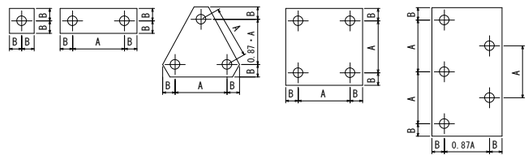
部材	規格
杭本体部	JIS G 3444　一般構造用炭素鋼鋼管　　STK400、STK490
	MSTL-0230 国土交通大臣認定 建築構造用テーパー鋼管　NS-490TPP
	MSTL-0419 国土交通大臣認定 基礎ぐい用高張力鋼管　SEAH590[STKT590]
杭先端部	JIS G 3106　溶接構造用圧延鋼材　　SM490A



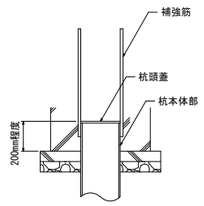
【基礎とフーチング形状例】

A：杭心間隔	B：へりあき
Dw ＋ Do	1.25 × Do

※ Dw：杭先端羽根部径　　Do：杭本体部径

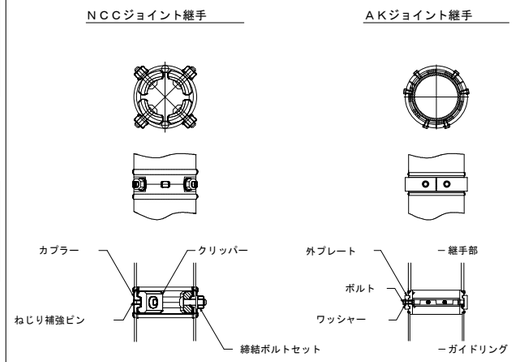


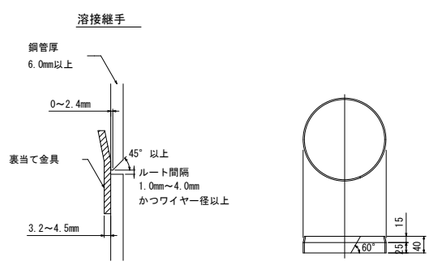
【杭頭接合例】



※杭頭接合部の設計は、認定書・評定書の中で規定されていませんので、設計者の判断に委ねられています。

【継手接続例】





【施工管理項目一覧】

工　程	管理項目	管理方法	管　理　値
杭材の受け入れ	材料寸法	・搬入時に測定検査	・杭径、杭長、肉厚、羽根径、羽根厚に誤りがないこと
	外観不良・数量	・搬入時に目視確認	・継手部に異常がないこと
回転埋設	杭心からのずれ	・逃げ心棒にて測定	・偏心量±2cm以内
	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜　1/100以内 ※気泡が中央にあること
	回転トルク	・施工機械の管理装置（トルク計）	・杭体のねじり強さ以内
溶接継手	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜　1/100以内 ※気泡が中央にあること
	接続状況	・目視により確認	・異常なアンダーカット、ピット、割れがないこと
NCC　ジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・ボルトM16→約100N・m ・ボルトM20→約150N・m
	本締め	・シャーレンチによる	・ピンテールの破断、ボルト余長はネジ山２山以上
	共廻り防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
ＡＫジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・締付トルク　90N・m±10%
	本締めトルク		・締付トルク 180N・m±10%
	締め忘れ防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
支持層の確認	支持層到達確認	・施工機械のトルク計	・施工回転トルクの変化傾向 ・地盤調査データのN値の推移 ・施工回転トルクの管理目標値
	根入れ長さ	・施工機械の深度計	・支持層に0.5Dw以上かつ設計時に設定された根入れ長さ以上
	回転貫入量	・専用用紙に記録する	・回転貫入量の管理値による
杭頭のずれ	偏心量	・逃げ心棒にて測定	・±10cm以内

【EAZET（イーゼット）取得済認定、公的評価】

国土交通大臣認定

名称	認定番号	取得年月日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリューパイルEAZET）（先端地盤：砂質地盤（礫質地盤含む）））	TACP-0635	令和4年2月7日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリューパイルEAZET）（先端地盤：粘土質地盤）	TACP-0636	令和4年2月7日

一般財団法人 日本建築センター評定

件名	番号	取得年月日
鋼管くいに用いる無溶接継手（クリッパー式継手）	BCJ評定-FD0045-09	令和4年10月14日
鋼管杭に用いる接続プレート・嵌合方式無溶接継手（ＡＫジョイント）	BCJ評定-FD0509-03	令和元年6月20日

一般財団法人 ベターリビング評定

件名	認定区分	番号	取得年月日
スクリューパイルEAZET工法における引抜き方向の許容支持力（先端地盤：砂質地盤礫質地盤を含む）	一般評定	CBL FP004-07号	令和5年7月6日

※φ406.4は砂質地盤［礫質地盤を含む］の場合でも、引抜き支持力に対しては適用できません

一般財団法人 日本建築センター評定

件名	番号	取得年月日
スクリューパイルEAZET工法による基礎ぐいの引抜き方向の地盤の許容支持力（先端地盤：粘土質地盤）	BCJ評定-FD0579-02	令和5年4月14日

2024.4

2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUDAN MINAMI 238 TEL.0468(33)7113

一級建築士事務所　第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号
鈴木 篤
SUZUKI ATSUSHI

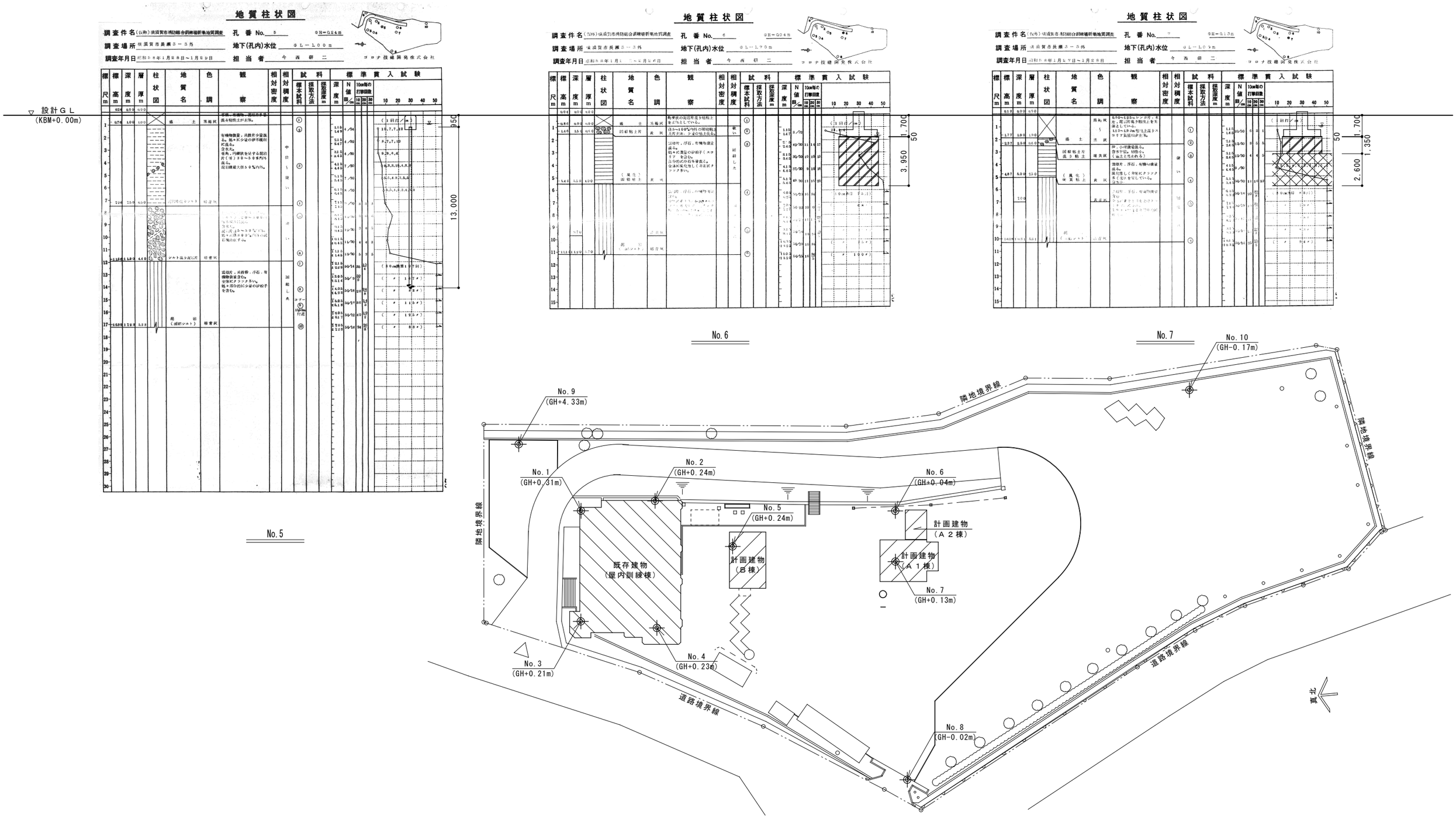
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正治
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY　ENG	長見　直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING：杭工法　施工標準図
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE：NO SCALE

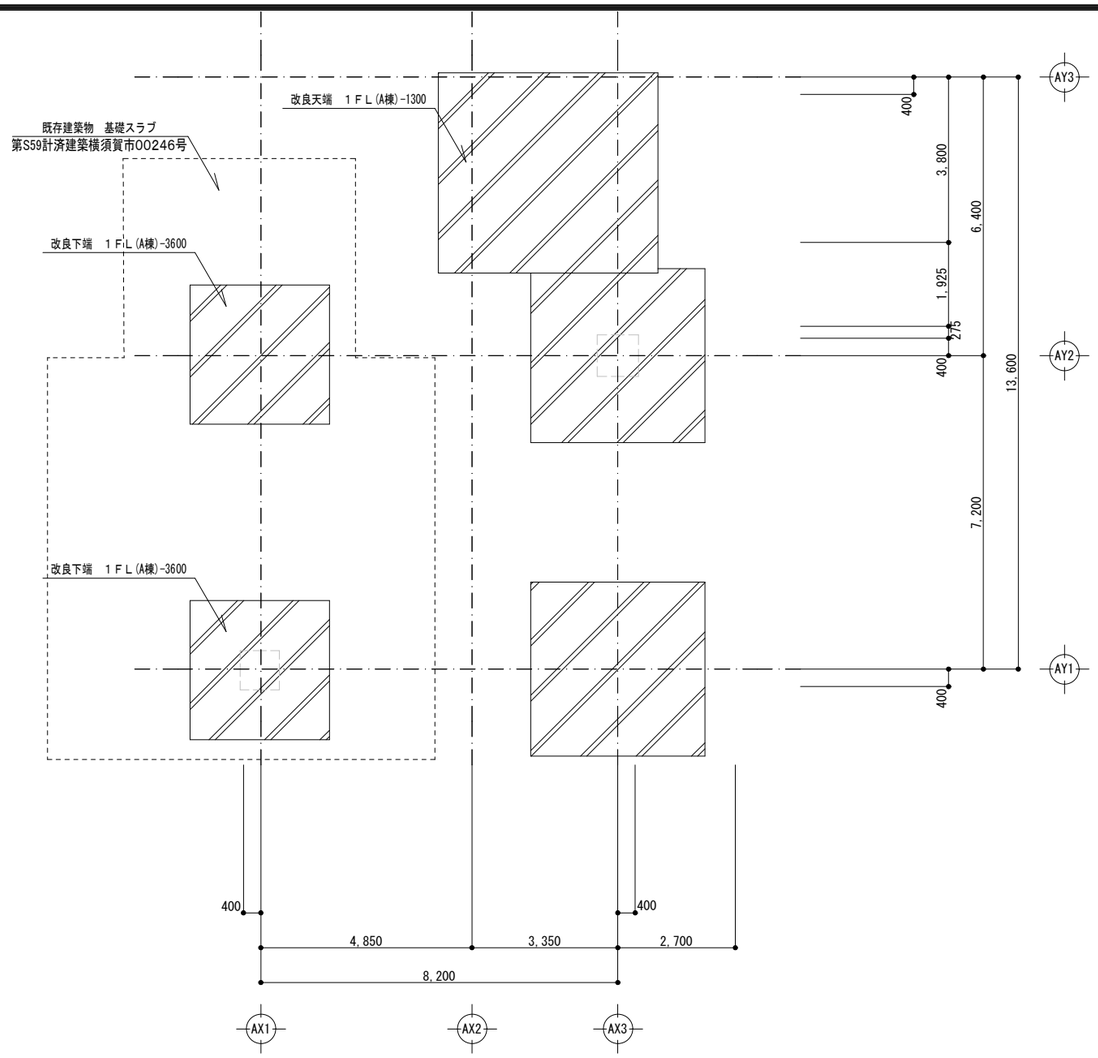
S-08a
NO

ボーリング柱状図



鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事
	設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	図面名称 ITEM OF DRAWING: ボーリング位置図・柱状図
	構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANITCAL ENG	長見 直	縮尺 SCALE: A2=1:500・A3=1:705

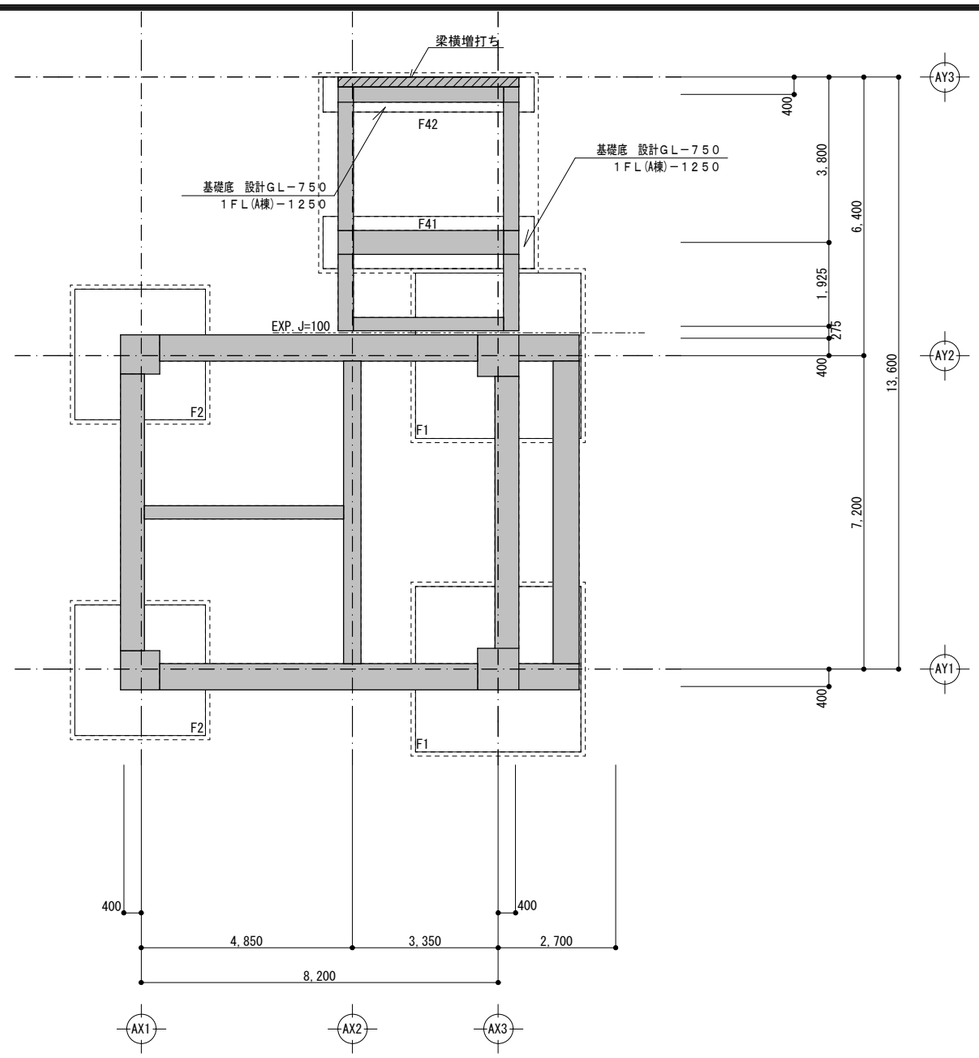
S-09



地盤改良伏図	１／１００(A2) １／１４１(A3)

特記以外

改良天端	１ＦＬ(A棟)－２２５０（設計ＧＬ－１７５０）
	１ＦＬ(A棟)-6200までラップルコンクリート 置換による地盤改良



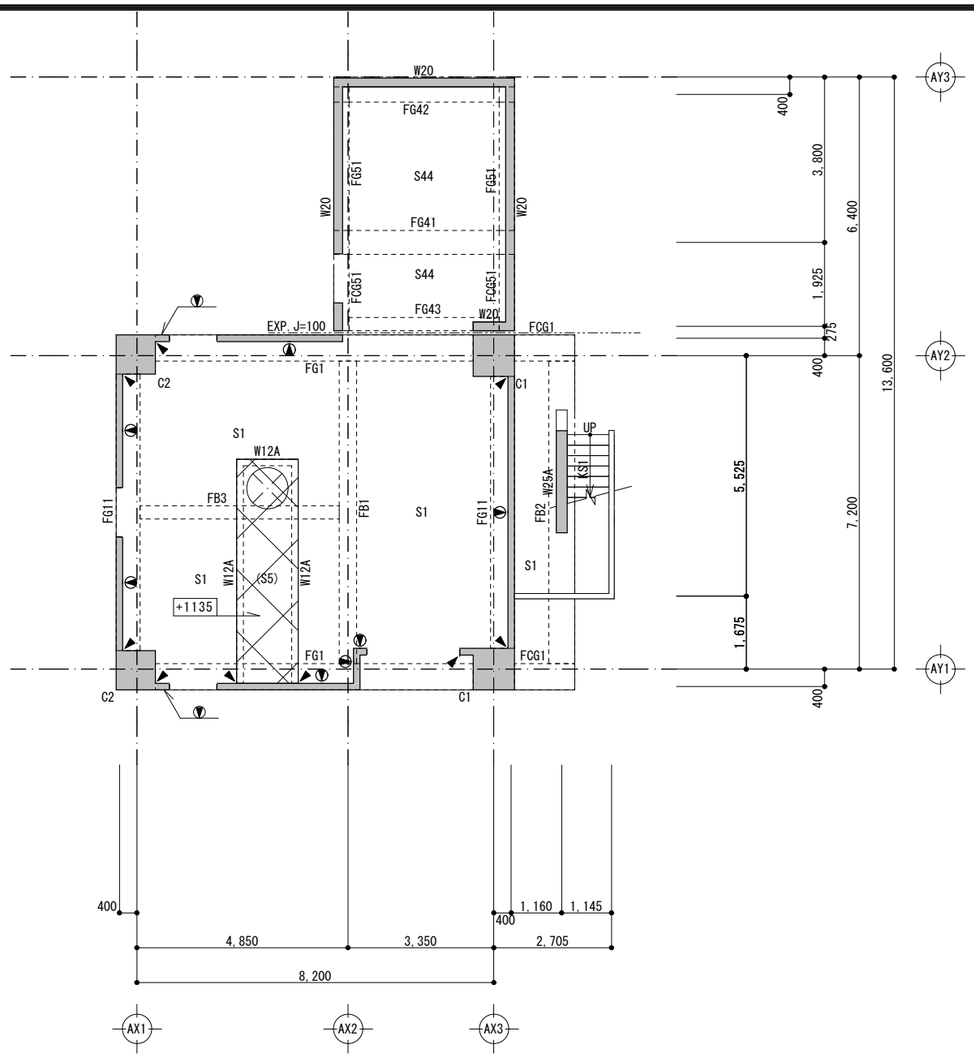
基礎伏図	１／１００(A2) １／１４１(A3)

特記以外

基礎底	１ＦＬ(A棟)－２２００（設計ＧＬ－１７００）

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-1-11 NAGOYA YOKOHAMA 220 TEL.045(132)7113	一級建築士登録 第8428?号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2?1号 鈴木 篤 RIGHT LINE OF A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER 設計担当 CHIEF DESIGNER 構造担当 STRUCTURAL ENG	鈴木 篤 鈴木 玲成 秦 陽二	電気設備担当 ELECTRICAL ENG 衛生設備担当 SANITARY ENG 空調設備担当 MECANICAL ENG	岡 正浩 長見 直 長見 直

設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター	図面名称 ITEM OF DRAWING	A塔　地盤改良伏図・基礎伏図
PROJECT NAMBER	訓練塔・補助訓練塔新築工事	DRAWING NAMBER	S-10
		SCALE	縮尺　A2=1:100・A3=1:141
		NO	



１階床伏図

１／１００(A2)
１／１４１(A3)

特記以外

１ＦＬ(A塔)＝設計ＧＬ＋５００

１ＳＬ(A塔)＝１ＦＬ(A塔)±０

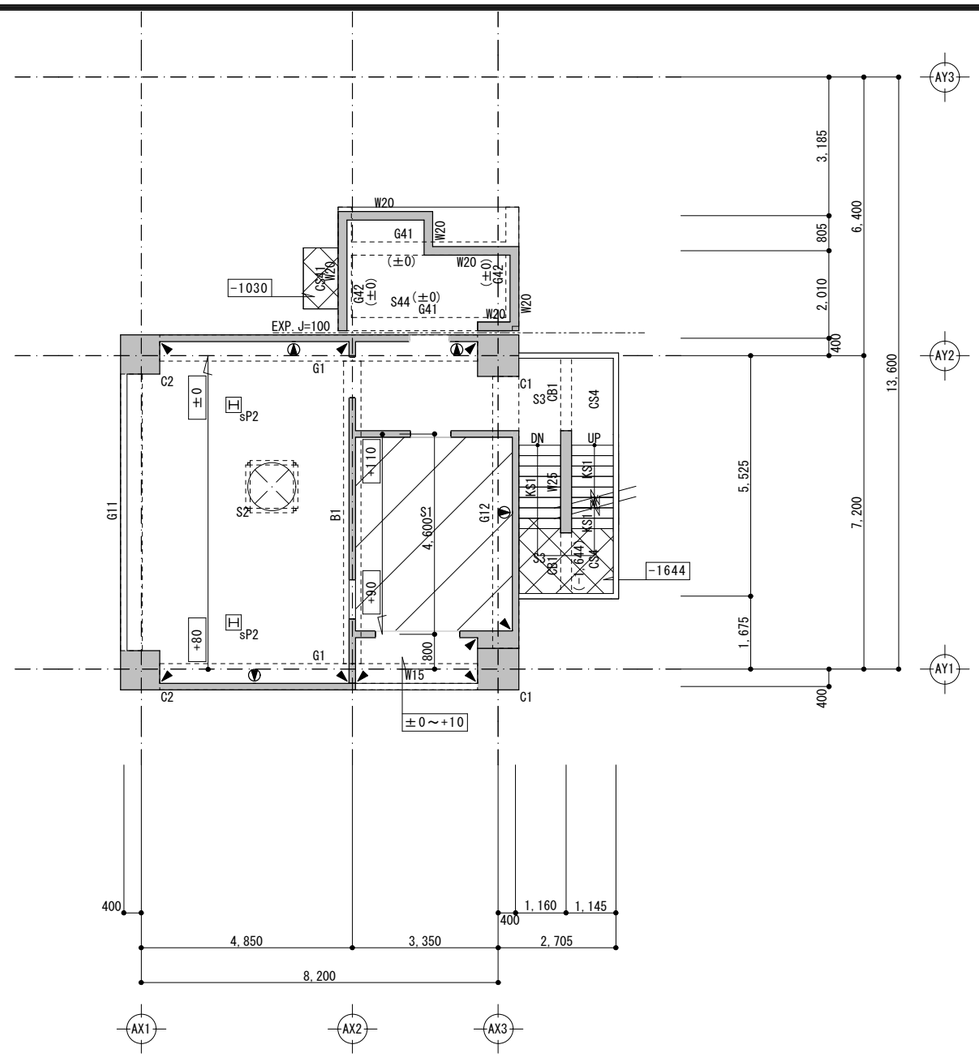
梁天端	１ＦＬ(A塔)－２００（設計ＧＬ＋３００）
ｎ	１ＦＬ(A塔)からの床レベルを示す。
（ｎ）	１ＦＬ(A塔)からの梁天端レベルを示す。

梁天端とスラブとのアキは増し打ちとする。

壁	Ｗ１５
▲ ⓐ	スリットを示す。（▲壁面 ⓐ 床面）

床レベル　凡例

□	床レベルを１ＦＬ(A塔)±０
▨	床レベルを図示とする。



２階床伏図

１／１００(A2)
１／１４１(A3)

特記以外

２ＦＬ＝設計ＧＬ＋３９７０

２ＳＬ＝２ＦＬ±０

ＲＣ梁天端	２ＦＬ－１３０
ｎ	２ＦＬからの床レベルを示す。
（ｎ）	２ＦＬからの梁天端レベルを示す。

梁天端とスラブとのアキは増し打ちとする。

壁	Ｗ１５
▲ ⓐ	スリットを示す。（▲壁面 ⓐ 床面）

床レベル　凡例

□	床レベルを２ＦＬ±0とする。
▨	床レベルを２ＦＬ+90～+110とする。
▨	床レベルを図示とする。

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-1-11 NAGOYA YOKOHAMA 220 TEL.045(312)7113

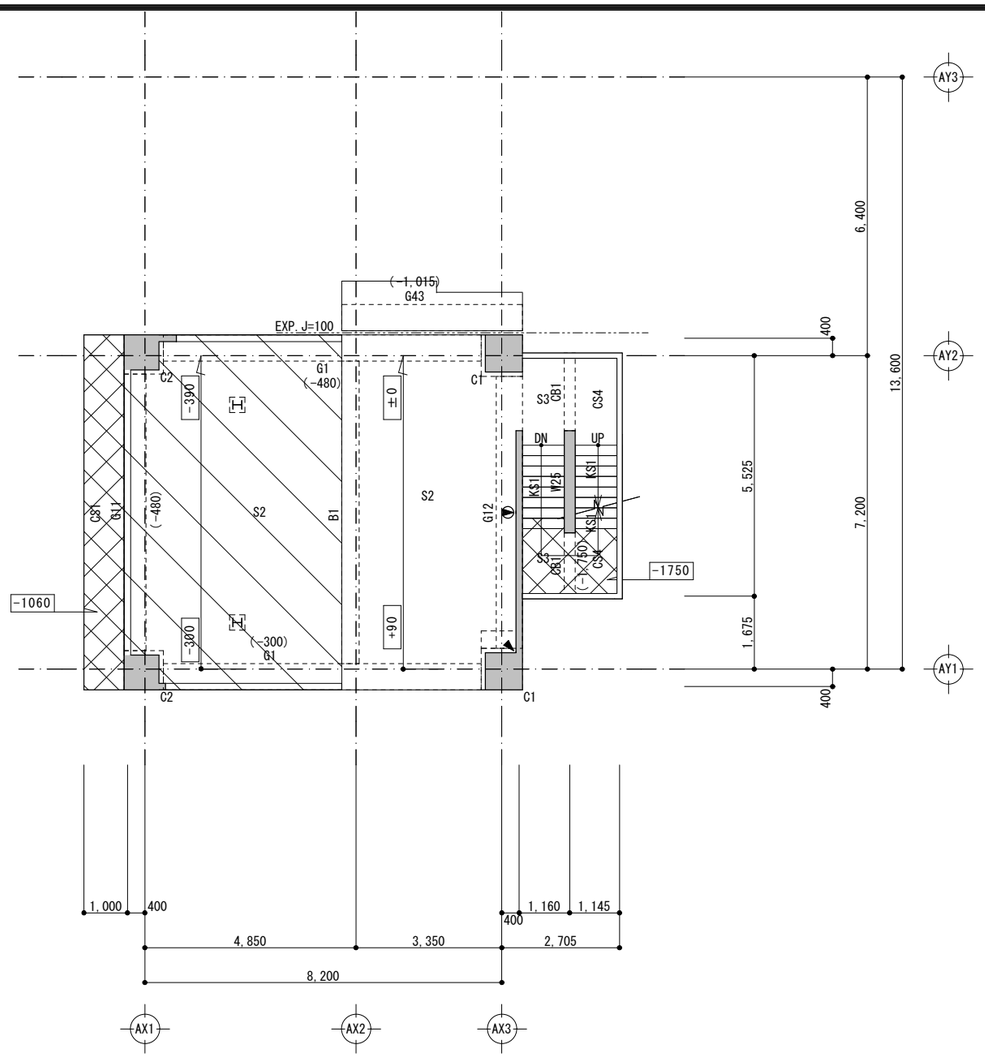
一級建築士事務所登録 第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2内1号
鈴木 篤
RIGHT LINE OF AUTHOR

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER：訓練塔・補助訓練塔新築工事

図面名称 ITEM OF DRAWING：A塔 １，２階床伏図
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE：A2=1:100・A3=1:141

NO S-11



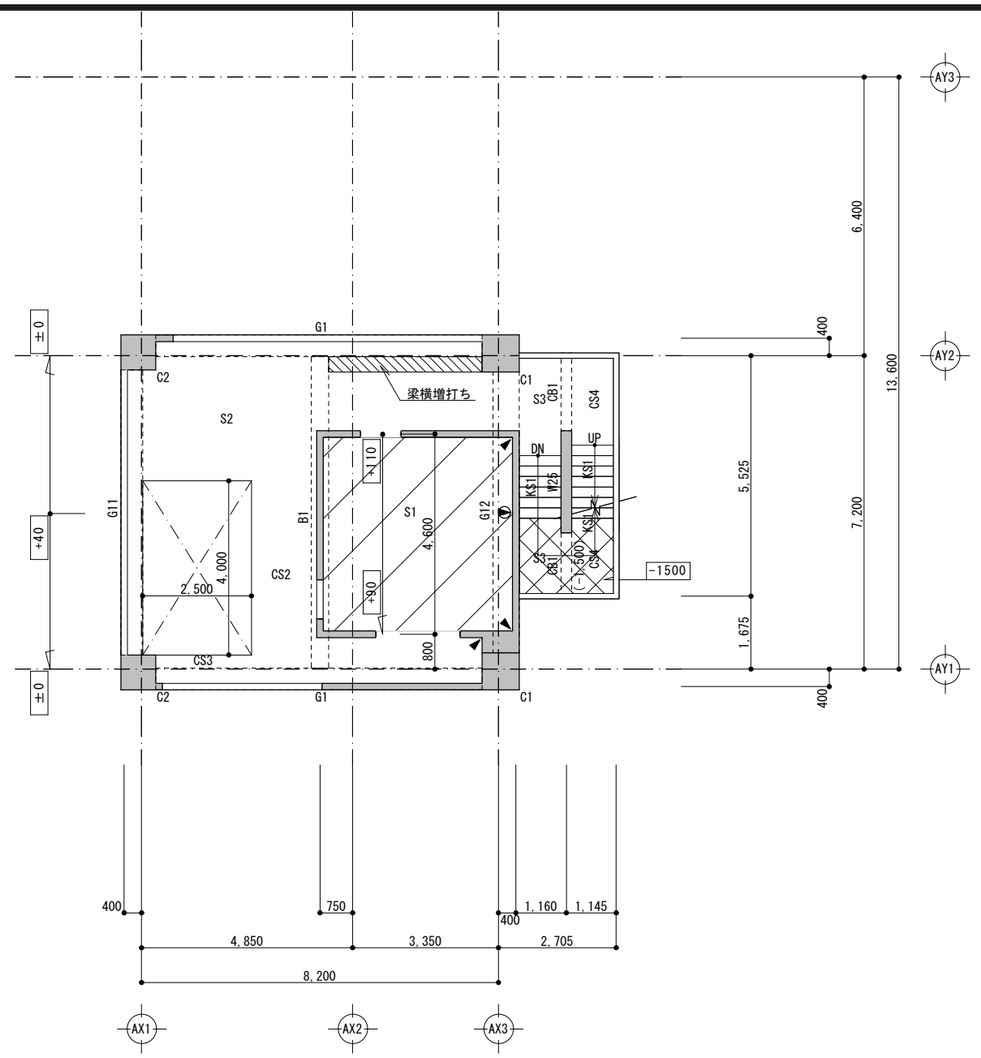
３階床伏図	１／１００(A2) １／１４１(A3)

特記以外

３ＦＬ＝設計ＧＬ＋７４７０	
３ＳＬ＝３ＦＬ±０	
ＲＣ梁天端	３ＦＬ±０
ｎ	３ＦＬからの床レベルを示す。
（ｎ）	３ＦＬからの梁天端レベルを示す。
梁天端とスラブとのアキは増し打ちとする。	
	壁　Ｗ１５
▲ ⓐ	スリットを示す。（▲壁面 ⓐ 床面）

床レベル　凡例

	床レベルを３ＦＬ±0～+90とする。
	床レベルを３ＦＬ-390～-300とする。
	床レベルを図示とする。



４階床伏図	１／１００(A2) １／１４１(A3)

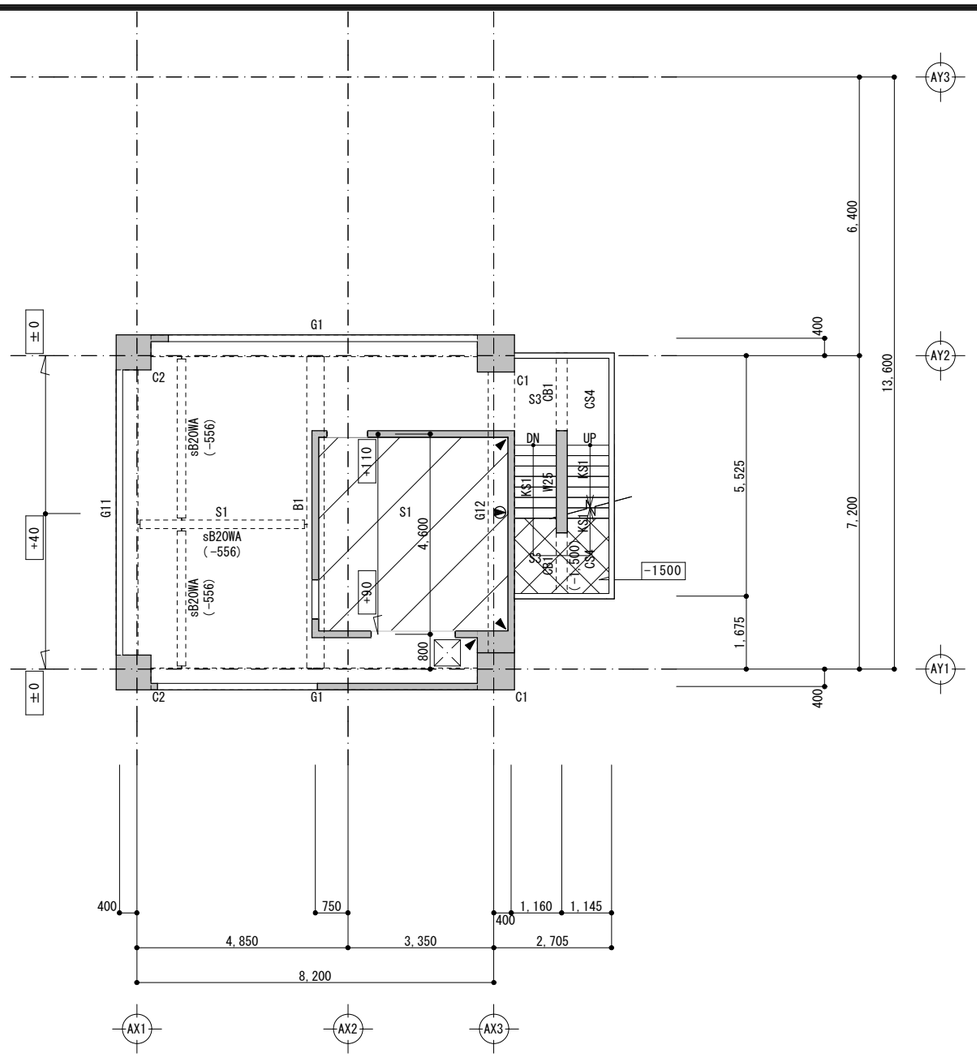
特記以外

４ＦＬ＝設計ＧＬ＋１０４７０	
４ＳＬ＝４ＦＬ±０	
ＲＣ梁天端	４ＦＬ－１３０
ｎ	４ＦＬからの床レベルを示す。
（ｎ）	４ＦＬからの梁天端レベルを示す。
梁天端とスラブとのアキは増し打ちとする。	
	壁　Ｗ１５
▲ ⓐ	スリットを示す。（▲壁面 ⓐ 床面）

床レベル　凡例

	床レベルを４ＦＬ±0～+40とする。
	床レベルを４ＦＬ+90～+110とする。
	床レベルを図示とする。

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-1-11 NAGOU YOKOHAMA 220 TEL.045(312)7113
一級建築士登録 第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2内1号
鈴木 篤 RIGHT LINE OF A.SUZUKI
企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤
設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 隆二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直
空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER 訓練塔・補助訓練塔新築工事
図面名称 ITEM OF DRAWING A塔 3，4階床伏図
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE A2=1:100・A3=1:141
NO S-12



５階床伏図

１／１００(A2)
１／１４１(A3)

特記以外

５ＦＬ＝設計ＧＬ＋１３４７０

５ＳＬ＝５ＦＬ±０

ＲＣ梁天端　　５ＦＬ－１３０

ｎ　　５ＦＬからの床レベルを示す。

（ｎ）　　５ＦＬからの梁天端レベルを示す。

梁天端とスラブとのアキは増し打ちとする。

壁　　Ｗ１５

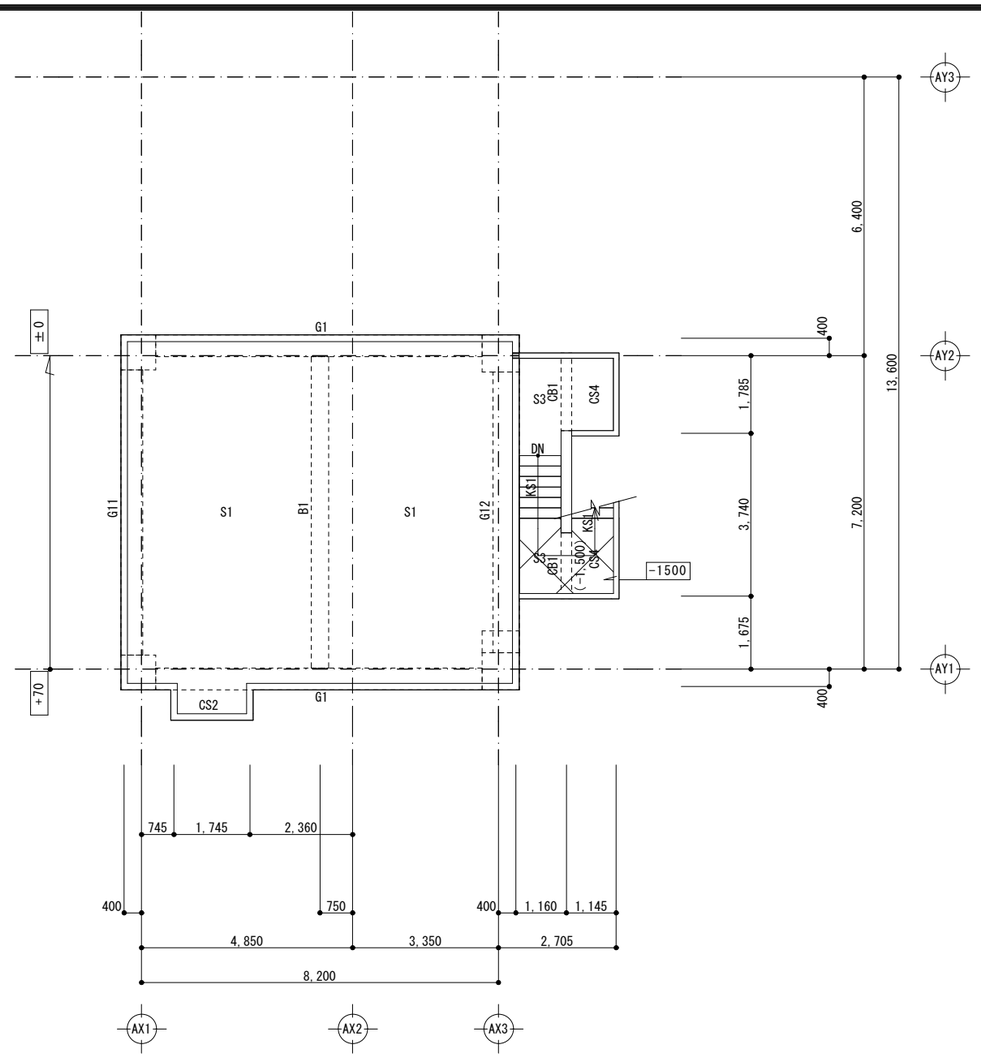
▲ ◭　　スリットを示す。（▲壁面 ◭ 床面）

床レベル　凡例

床レベルを５ＦＬ±0～+40とする。

床レベルを５ＦＬ+90～+110とする。

床レベルを図示とする。



Ｒ階床伏図

１／１００(A2)
１／１４１(A3)

特記以外

ＲＦＬ（水下）＝設計ＧＬ＋１６４７０

ＲＣ梁天端　　ＲＦＬ（水下）－１３０

ｎ　　ＲＦＬ（水下）からの床レベルを示す。

（ｎ）　　ＲＦＬ（水下）からの梁天端レベルを示す。

梁天端とスラブとのアキは増し打ちとする。

床レベル　凡例

床レベルをＲＦＬ（水下）±0～+70とする。

床レベルを図示とする。

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日

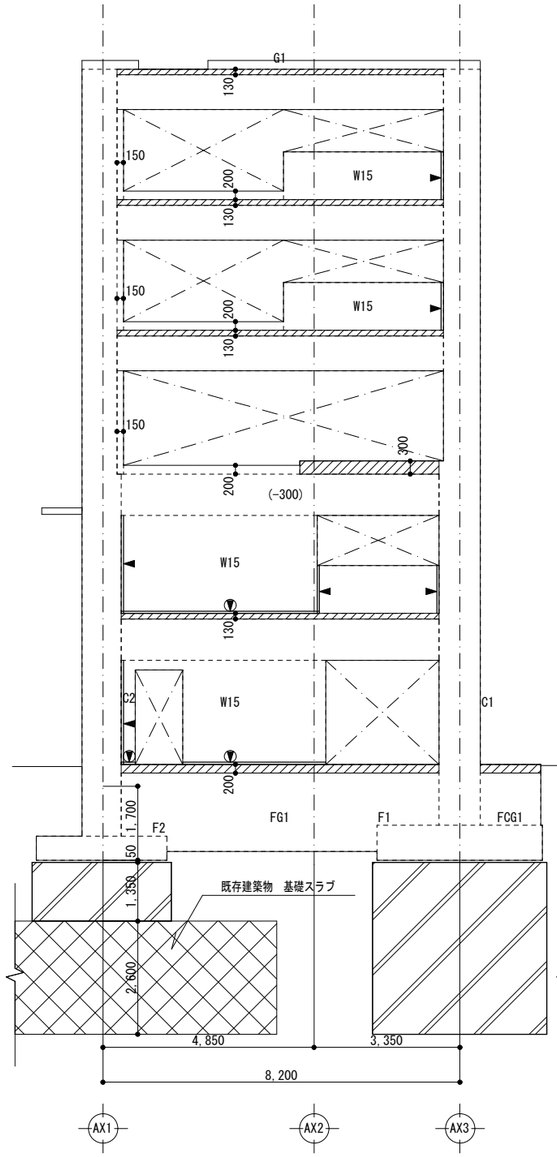
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-1-11 NAGOU YOKOHAMA 236 TEL.045(132)7113

一級建築士登録　第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2内1号
鈴木 篤
RIGHT LINE BY A.SUZUKI

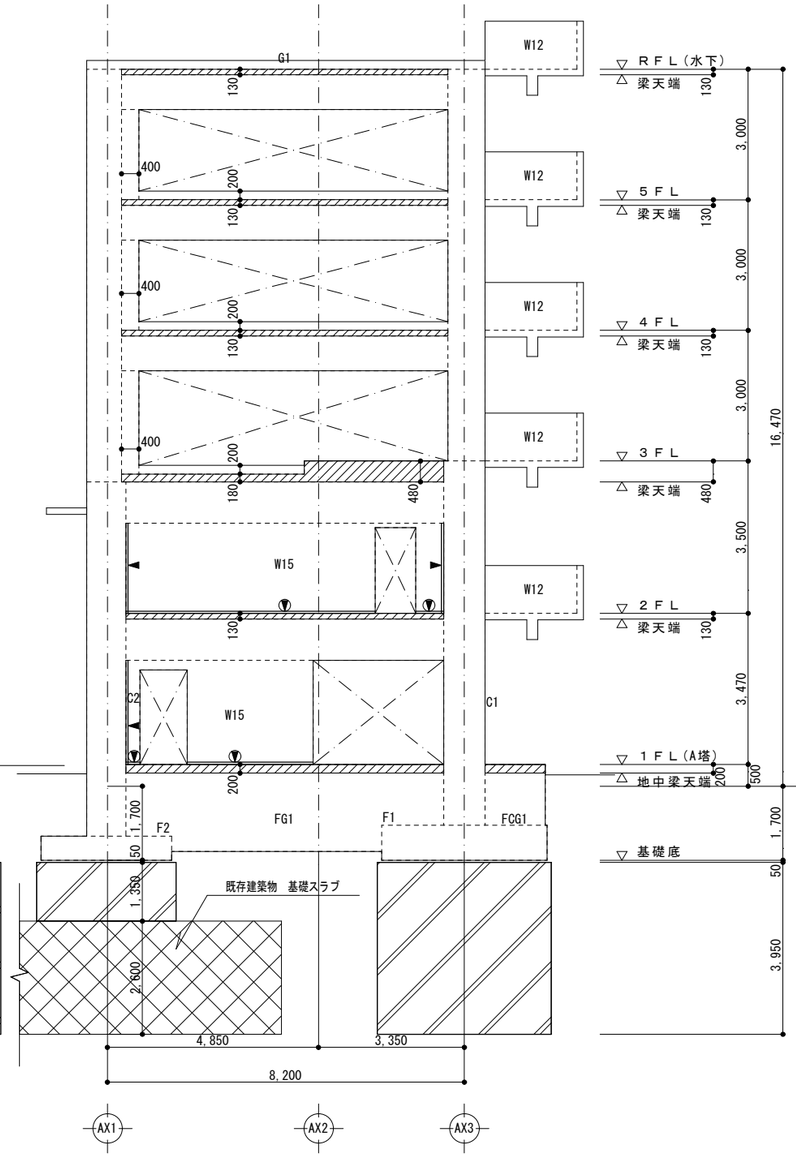
企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　隆二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECANICAL ENG　長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター
PROJECT NAMBER　訓練塔・補助訓練塔新築工事

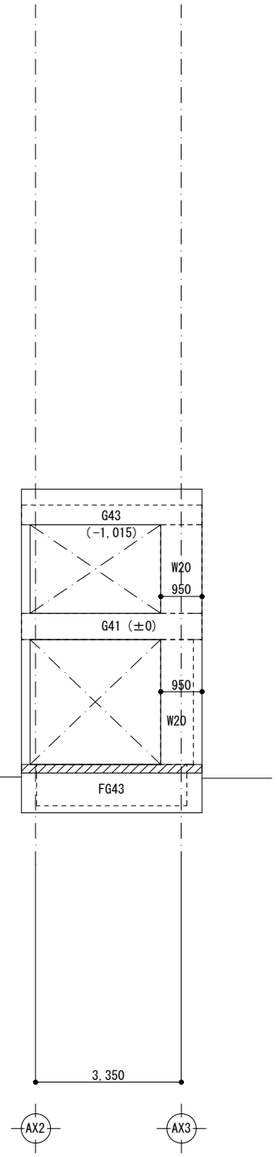
図面名称 ITEM OF DRAWING　A塔　５，Ｒ階床伏図
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE　A2=1:100・A3=1:141
NO　S-13



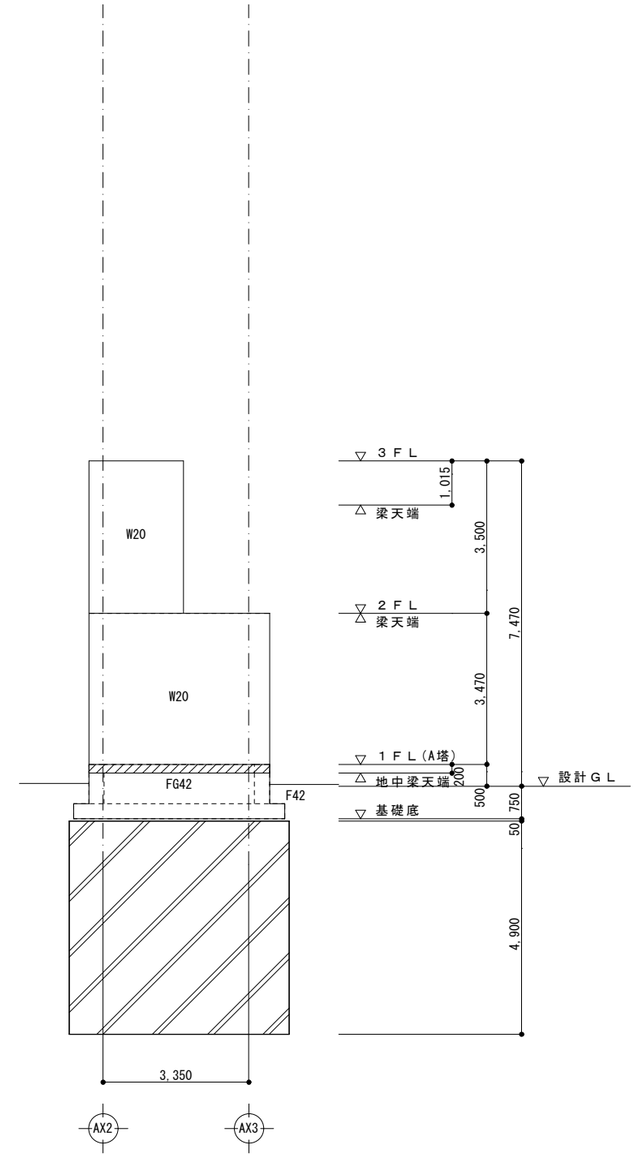
AY1　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



AY2　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



AY2+675　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



AY3　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)

特記以外

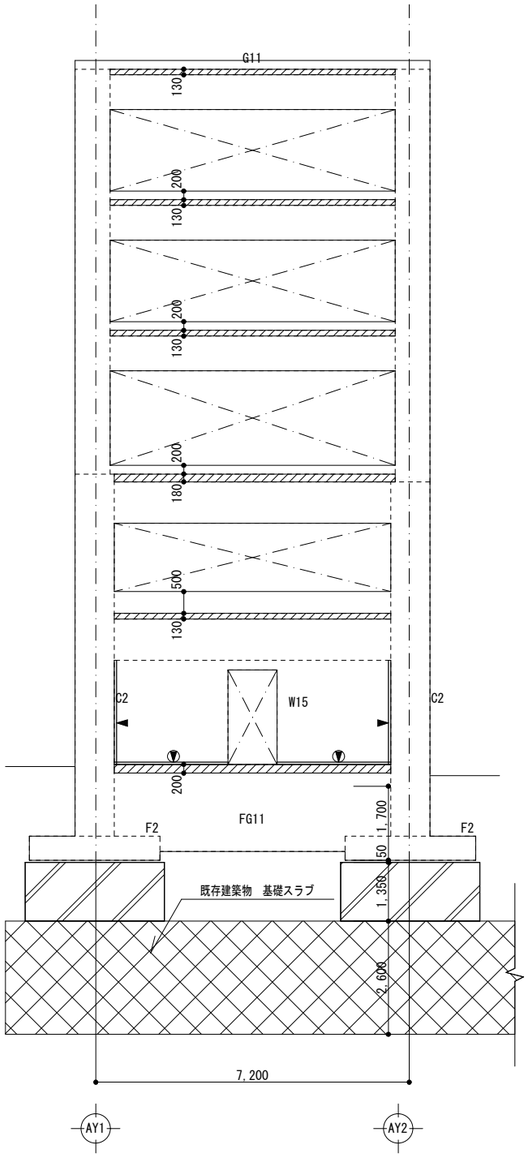
（　）内は各ＦＬからの梁天端を示す。

増打ちを示す。

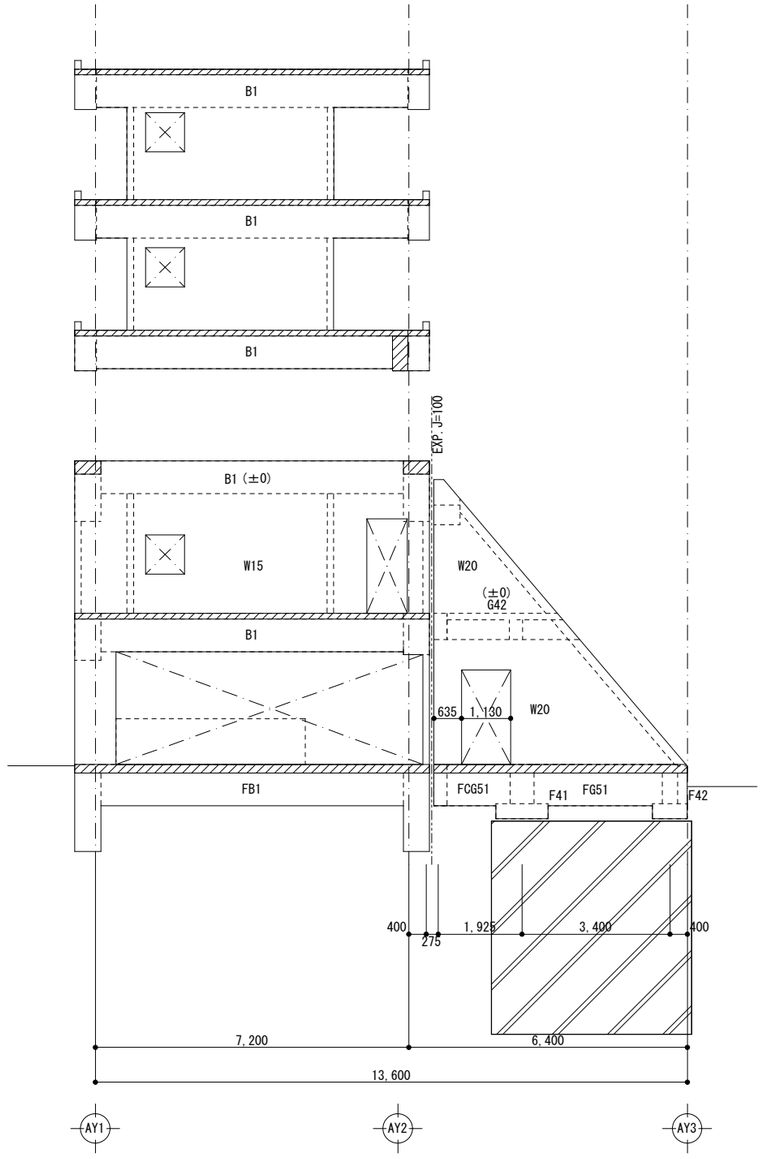
ラップルコンクリート置換による地盤改良

発行 PUBLISHED 2026年9月18日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-1-11 KUDO YOKOHAMA 220 TEL.045(313)7113	一級建築士登録　第42876号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2373号 鈴木 篤 STONE LAID BY A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER：鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER：鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG：秦 隼二 電気設備担当 ELECTRICAL ENG：岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG：長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG：長見 直

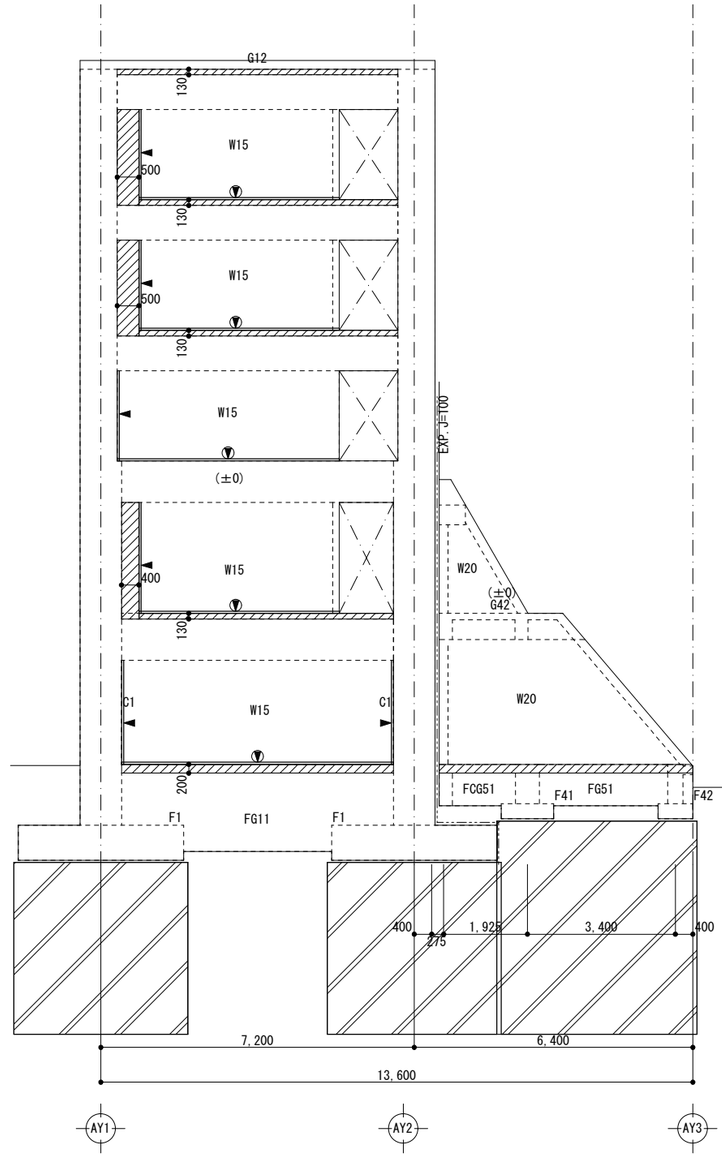
設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING	A塔　軸組図1
PROJECT NAMBER		DRAWING NAMBER	縮尺 SCALE A2=1:100・A3=1:141
		NO	S-14



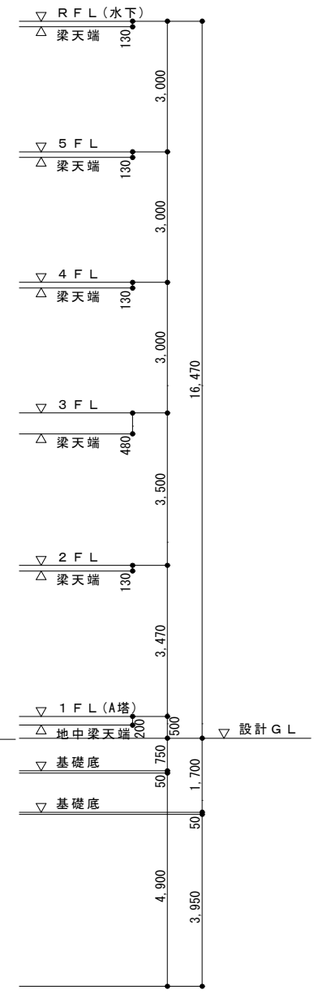
AX1　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



AX2　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



AX3　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



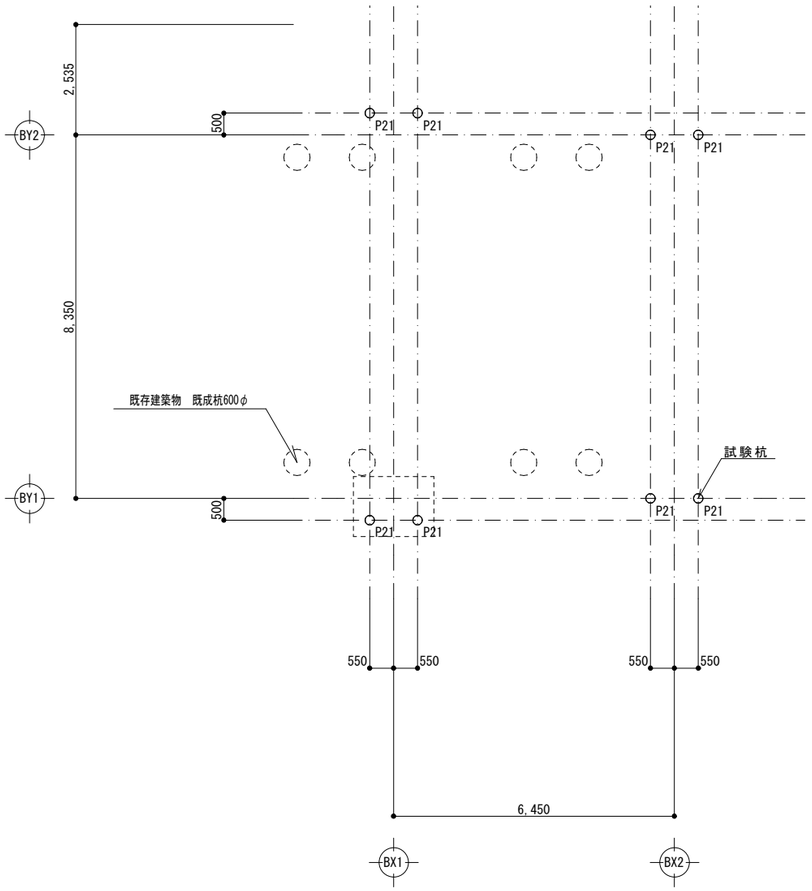
特記以外

（　）内は各ＦＬからの梁天端を示す。

増打ちを示す。

ラップルコンクリート置換による地盤改良

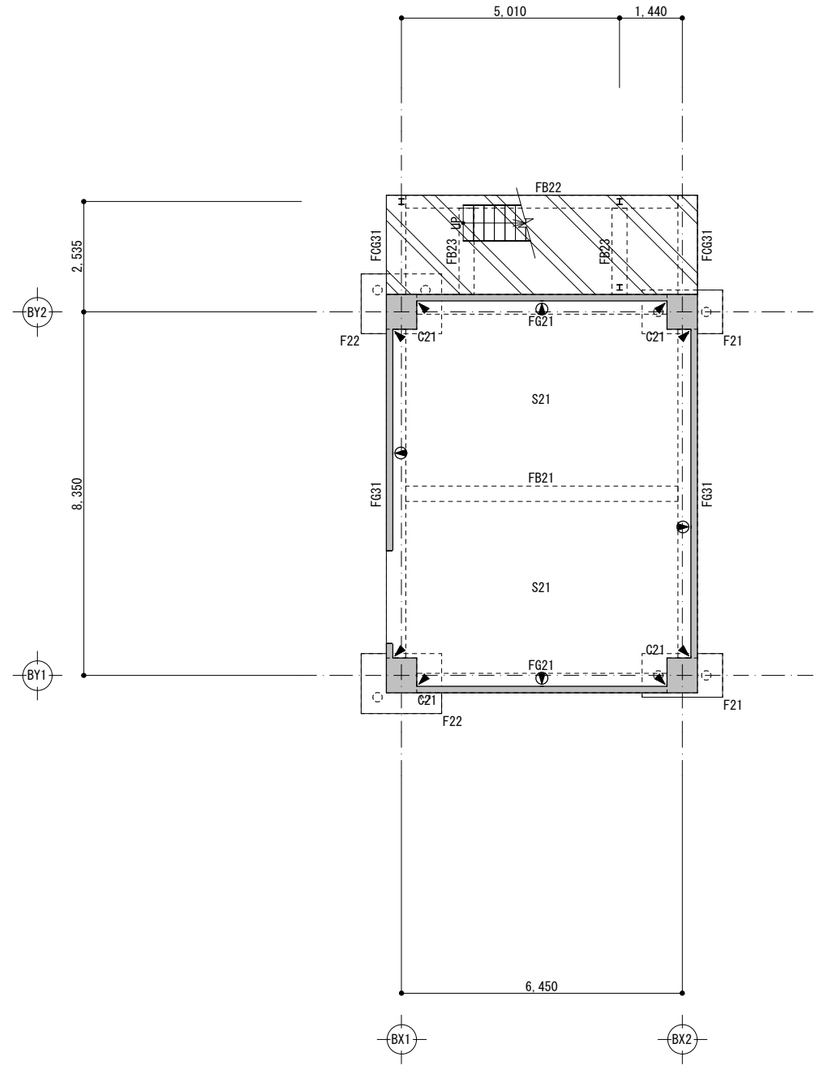
発行 PUBLISHED	2026年 9 月 18 日	設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター
鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUGOU YOKOHAMA 250 TEL.0468(33)7113	一級建築士事務所　第B4287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2175号 鈴木 篤 SUZUKI UMI ARCHIT		訓練塔・補助訓練塔新築工事
企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	図面名称 ITEM OF DRAWING	A塔　軸組図２
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	縮尺 SCALE	A2=1:100-A3=1:141
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	DRAWING NUMBER	S-15
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩	PROJECT NUMBER	
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直	NO	
空調設備担当 MECANICAL ENG	長見　直		



杭伏図	1／100(A2) 1／141(A3)

特記以外

杭天端	１ＦＬ(B棟)－１５００（設計ＧＬ－９５０）
杭施工前に既存杭(杭天端≒GL-3.0m)の位置を測量し、監理者の	
承諾を得ること。	



基礎及び１階床伏図	1／100(A2) 1／141(A3)

特記以外

１ＦＬ(B塔)＝設計ＧＬ＋５５０	
１ＳＬ(B塔)＝１ＦＬ(B塔)±０	
梁天端	１ＦＬ(B塔)－２００（設計ＧＬ＋３５０）
n	１ＦＬ(B塔)からの床レベルを示す。
（ｎ）	１ＦＬ(B塔)からの梁天端レベルを示す。
梁天端とスラブとのアキは増し打ちとする。	
	壁　　Ｗ１５
▲　◮	スリットを示す。（▲壁面　◮　床面）
	土間スラブ　Ｆｃ＝１８Ｎ／ｍｍ
基礎底	１ＦＬ(B棟)－１７００（設計ＧＬ－１１５０）

床レベル　凡例

	床レベルを１ＦＬ(B塔)±0とする。

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUGU YOKOHAMA 236 TEL.0468(820)7113

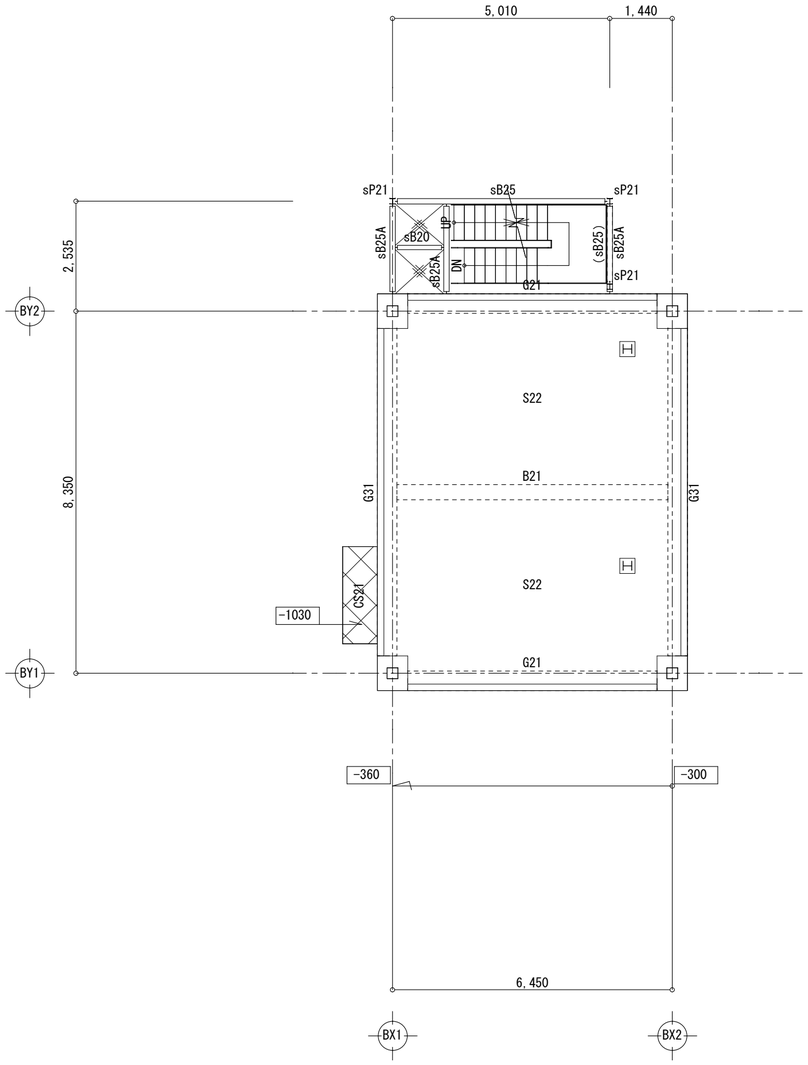
一級建築士登録　第84287号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2370号
鈴木篤 STONE LIKE BY A.SUZUKI

企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECANICAL ENG　長見　直

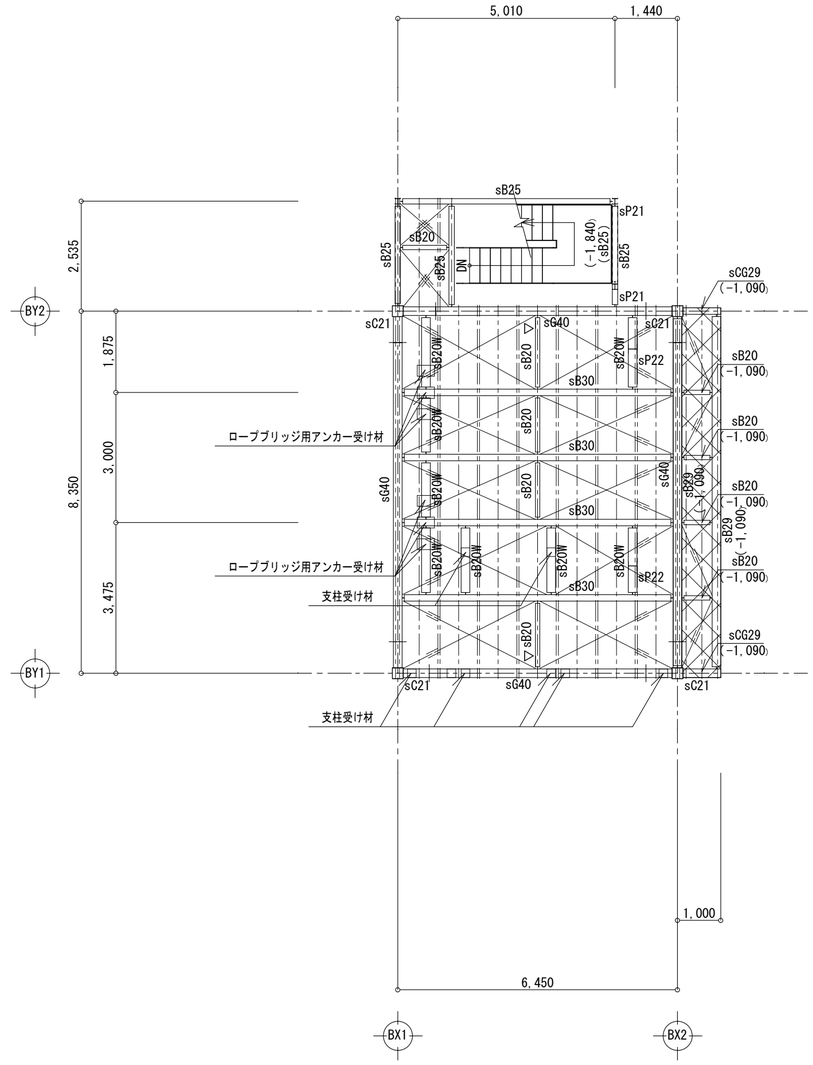
設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NUMBER

図面名称 ITEM OF DRAWING　B塔　基礎伏図・１階床伏図
DRAWING NUMBER
縮尺 SCALE　A2=1:100・A3=1:141

NO　S-16



２階床伏図	１／１００(A2) １／１４１(A3)



R階床伏図	１／１００(A2) １／１４１(A3)

特記以外

２ＦＬ＝設計ＧＬ＋３９７０

ＲＣ梁天端	２ＦＬ－４５０
Ｓ梁天端	２ＦＬ－９０
ｎ	２ＦＬからの床レベルを示す。
（ｎ）	２ＦＬからの梁天端レベルを示す。
ブレース	1-M16　ターンバックル付き（JIS規格品）

床レベル　凡例

	床レベルを２ＦＬ-360～-300とする。
	床レベルを図示とする。

特記以外

ＲＦＬ(B塔)＝設計ＧＬ＋７４７０

Ｓ梁天端	ＲＦＬ(B塔)－９０
（ｎ）	ＲＦＬ(B塔)からの梁天端レベルを示す。
床	縞鋼板　厚み6mm
― － ―	根太　L-75×75×6@455
ブレース	1-M16　ターンバックル付き（JIS規格品）

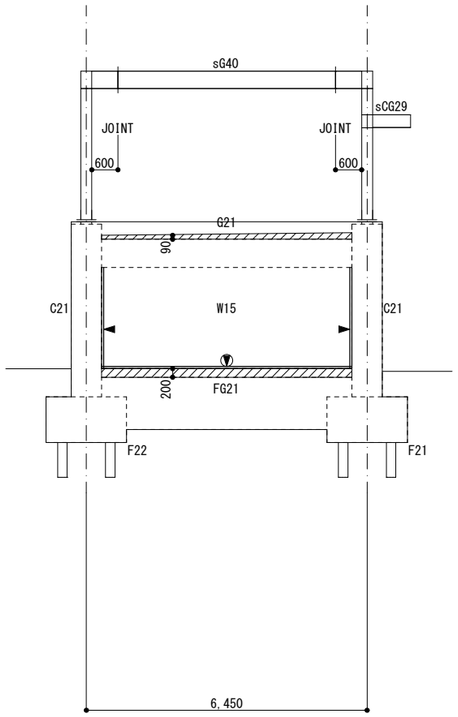
▲ は ボルト 増打 ち部を示す。（S-25　ジョイントリスト　参照）

床レベル　凡例

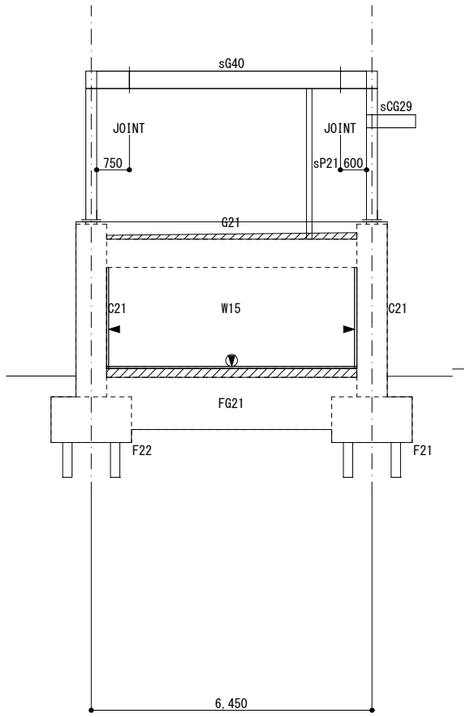
発行 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-1-11 KUDO YOKOHAMA 220 TEL.045(313)7113
一級建築士事務所登録　第842876号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2513号
鈴木 篤
SIGNE UME BY A.SUZUKI

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩	
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直	
空調設備担当 MECANICAL ENG	長見　直	

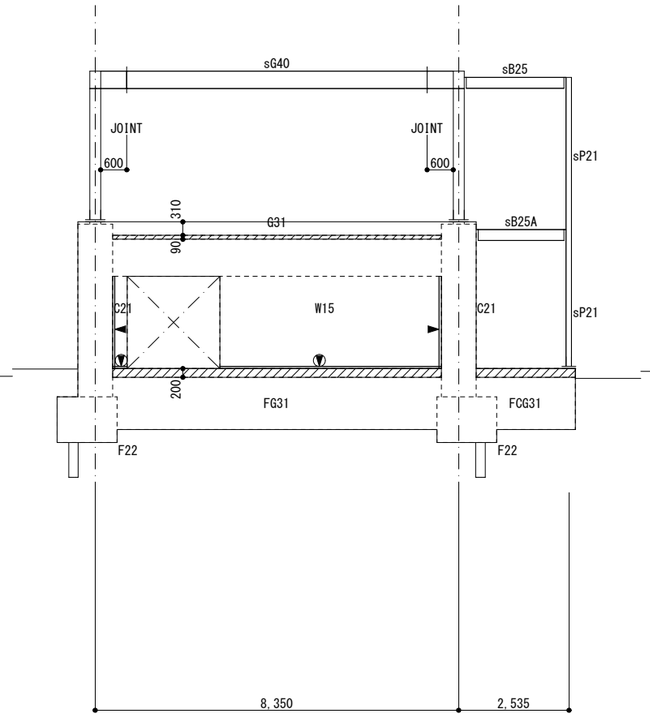
設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING：B塔　２，R階床伏図
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE：A2=1:100-A3=1:141
NO：S-17



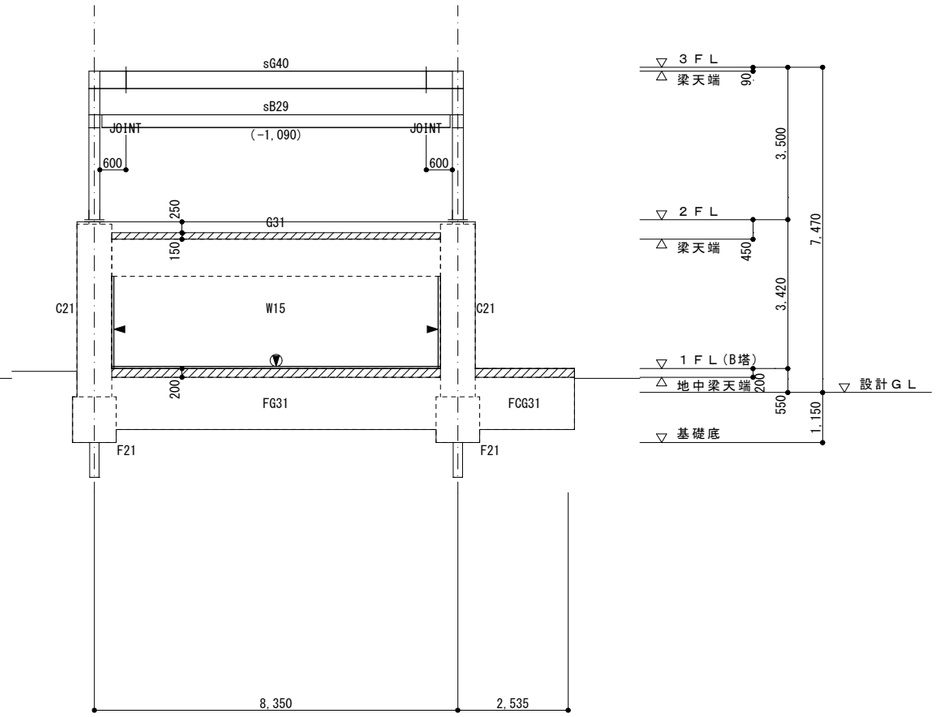
BY1　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



BY2　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



BX1　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)



BX2　通り軸組図　1／100(A2)　1／141(A3)

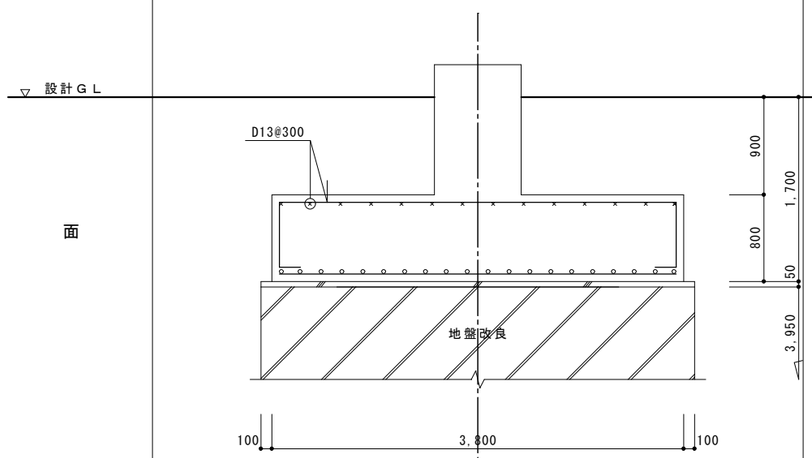
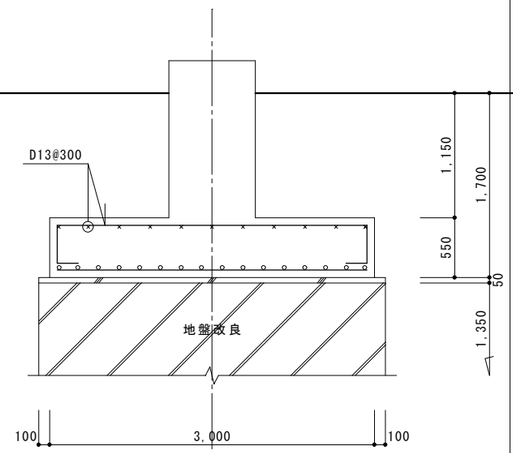
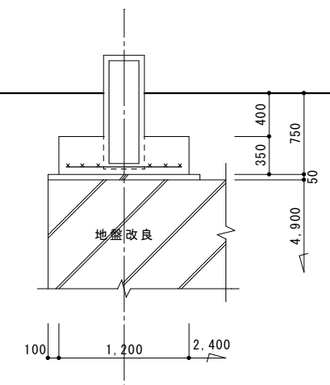
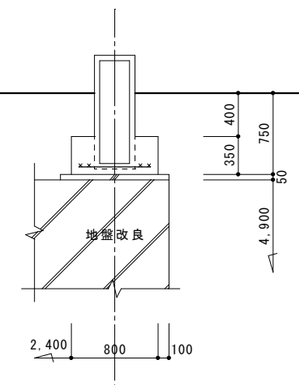
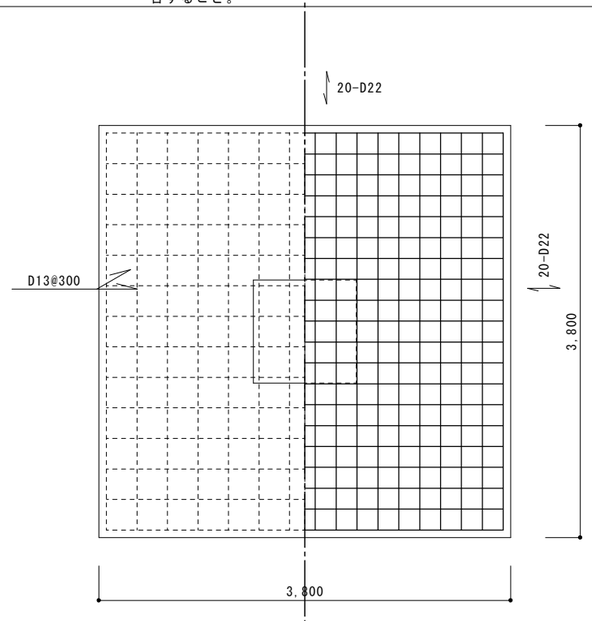
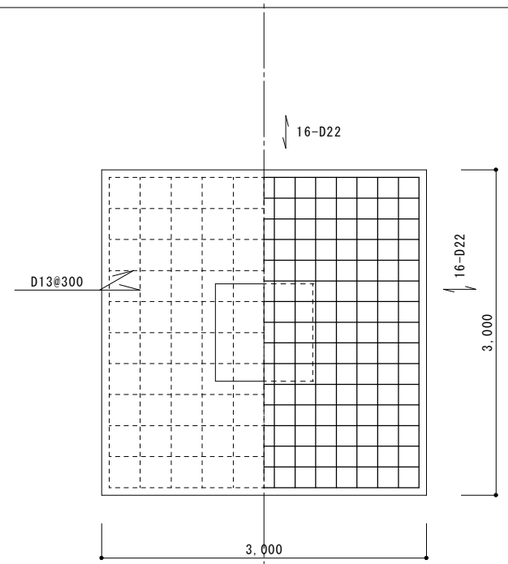
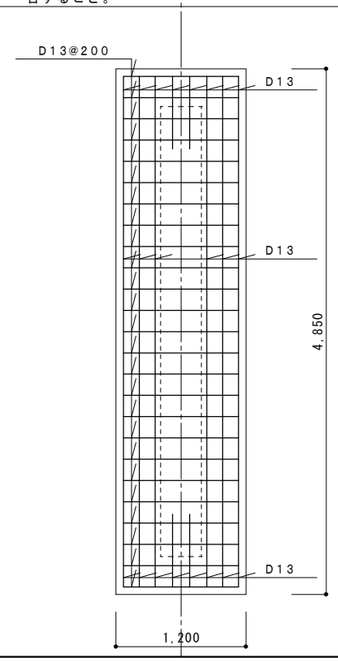
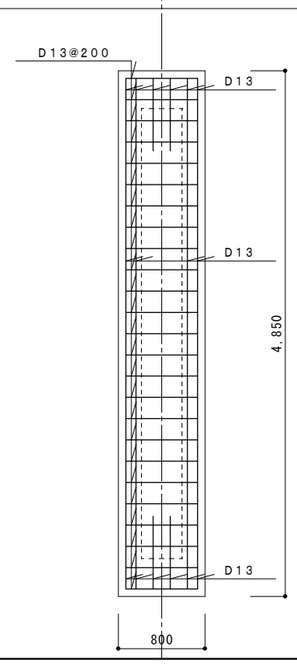
特記以外

（　）内は各ＦＬからの梁天端を示す。

増打ちを示す。

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD. 2-1-11 KAGOU YOKOHAMA 220 TEL.045(320)7113	一級建築士登録 第8428?号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2?1?号 鈴木 篤 SIGNE LIKE MY AUGUST	企画担当 CHIEF PRODUCER: 鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER: 鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG: 秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG: 岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG: 長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG: 長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター PROJECT NAMBER: 訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING: B塔 軸組図 DRAWING NAMBER 縮尺 SCALE: A2=1:100・A3=1:141	NO S-18

基礎リスト１	１／４０(A2) １／５６(A3)

記　　号	F１	F２	F４１	F４２
断　　面	 ※　既存建物解体時に支持層(泥岩)を破損させている部分があるため、支持層の確認を行い監理者に報告すること。		 ※　既存建物解体時に支持層(泥岩)を破損させている部分があるため、支持層の確認を行い監理者に報告すること。	
平　　面				

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUBOU YOKOHAMA 220 TEL.045(313)7113

一級建築士事務所　第H4287号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2517号
鈴　木　篤
SUZUKI MAKOTO

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見　直

設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER

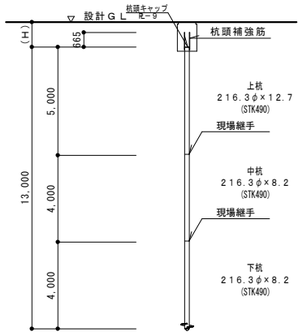
図面名称 ITEM OF DRAWING：基礎リスト１
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE　A2=1:40・A3=1:56

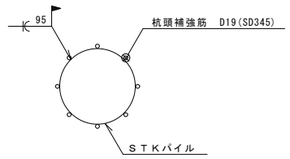
NO　S-19

杭リスト

杭　仕　様	
杭	216.3φ×12.7, 8.2
杭 工 法	鋼管杭回転埋設工法（ＥＡＺＥＴ工法）
	又は同等工法とする。
	（大臣認定品　TACP-0636）
杭　　種	先端羽根付き鋼管杭
杭 材 料	ＪＩＳ　Ｇ　３４４４ 一般構造用炭素鋼鋼管　ＳＴＫ４９０
継　　手	Ａ．Ｋジョイント(無溶接継手)
支 持 層	泥岩層
大臣認定の仕様によること。	
支持層深度によっては基礎の変更を行う。	
支持層への根入れは原則として羽根径以上確保すること。	
杭の施工偏心については偏心量の大小に関わらず設計者に報告の上、	
指示を受けるものとする。	
杭の施工偏心が１００ｍｍ以下の場合は補強なしとする。	
杭頭補強筋は杭に対して均等に配置すること。	
杭施工前に既存杭(杭天端≒GL-3.0m)の位置を調査し、監理者の承諾を得ること。	

杭　仕　様





杭頭補強要領

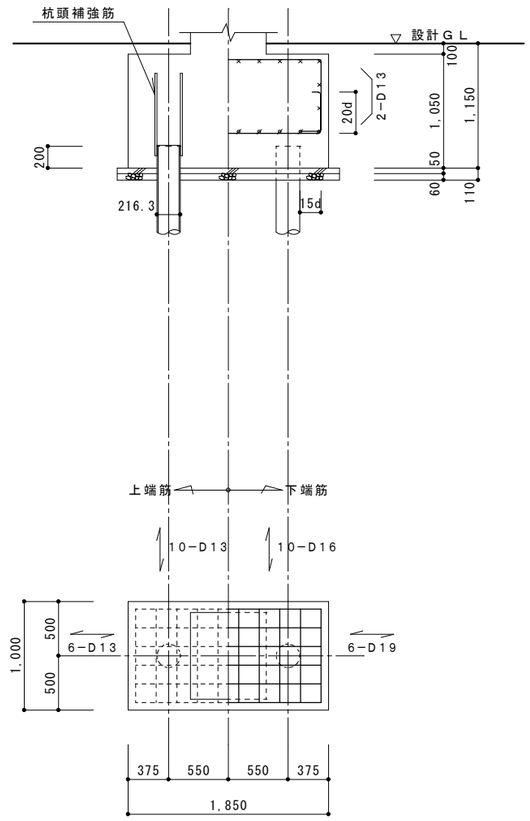
杭リスト

符　号	H	杭　長	杭　径	上　杭 杭材料 杭　長	中　杭 杭材料 杭　長	下　杭 杭材料 杭　長	羽根径	羽根材質	本数	許容支持力 kN/本(長期)	杭頭補強筋
P21	950	13,000	216.3φ	STK490 t=12.7 5,000	STK490 t=8.2 4,000	STK490 t=8.2 4,000	φ550	t_n=25 (SM490A)	8	590	8-D19
									8		

基礎リスト２　　１／４０(A2)　１／５６(A3)

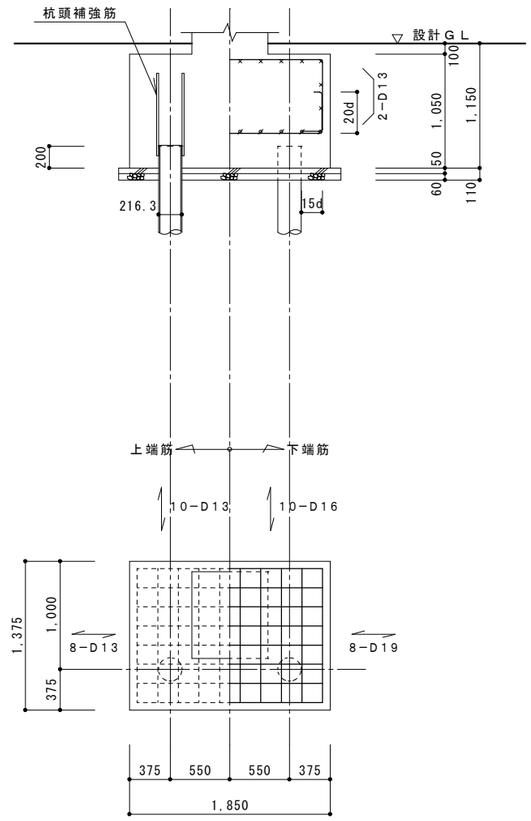
Ｆ２１　（２箇所）

杭 径　２１６．３φ×２



Ｆ２２　（２箇所）

杭 径　２１６．３φ×２

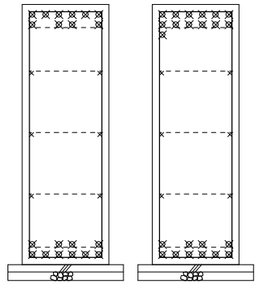
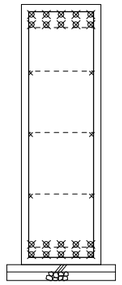
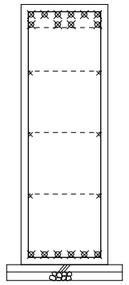
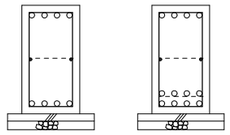
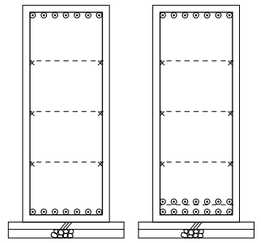
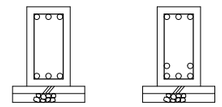


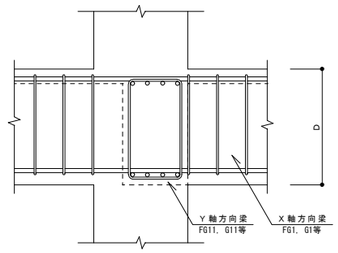
2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUBOU HIROSHIMA 730 TEL.0482(32)7113
一級建築士事務所　第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第25715号
鈴木篤
企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECANITCAL ENG　長見　直
設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター　訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING　杭リスト・基礎リスト２
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE　A2=1:40・A3=1:56
NO　S-19a

地中梁リスト

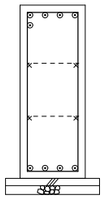
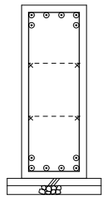
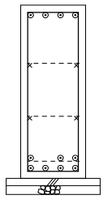
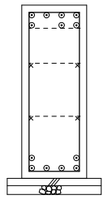
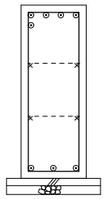
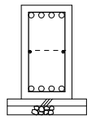
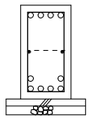
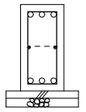
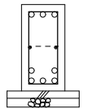
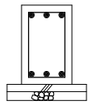
1／30(A2)
1／42(A3)

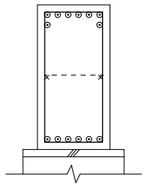
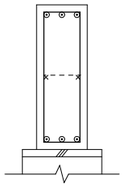
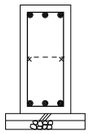
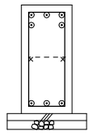
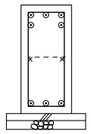
特記以外　腹筋 6-D13　幅止め筋 D10@1000　中吊り筋 D10@1000

記号	FG1		FG11	FCG1	FB1		FB2		FB3	
部位	AX1 端	中央・AX3 端	全断面	全断面	端部	中央	端部	中央	端部	中央
断面図										
断面	600×1800		550×1800	600×1800	400×750		600×1500		300×550	
上端筋	10-D29	13-D29	10-D29	10-D29	4-D22	4-D22	7-D25	7-D25	3-D22	3-D22
下端筋	10-D29	10-D29	10-D29	6-D29	4-D22	8-D22	7-D25	14-D25	3-D22	5-D22
スターラップ	D13@150		D13@150	D13@200	D13@200		D13@200		D10@200	



梁主筋の上下関係は原則として上図による。
（一般階及び地中梁に適用）

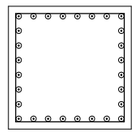
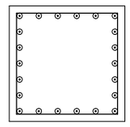
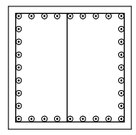
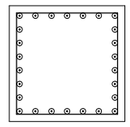
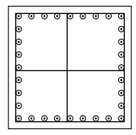
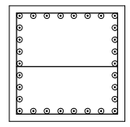
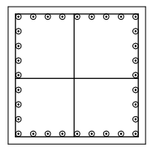
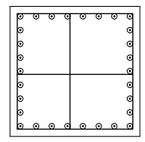
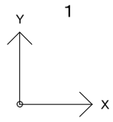
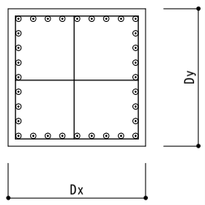
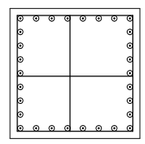
記号	FG21	FG31			FCG31	FB21		FB22		FB23
部位	全断面	BY1 端	中央	BY2 端	全断面	端部	中央	端部	中央	全断面
断面図										
断面	450×1200	450×1200			450×1200	350×650		300×600		350×550
上端筋	5-D25	6-D25	4-D25	7-D25	5-D25	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D19
下端筋	4-D25	6-D25	7-D25	6-D25	3-D25	4-D22	6-D22	3-D22	5-D22	3-D19
スターラップ	D13@200	D13@200			D13@200	D10@200		D10@200		D10@200

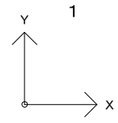
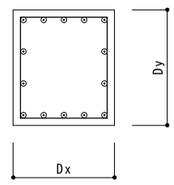
記号	FG41	FG42	FG43	FG51	FCG51
部位	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面図					
断面	550×1000	350×1000	300×750	350×750	350×750
上端筋	8-D25	3-D25	3-D19	5-D25	5-D25
下端筋	6-D25	3-D25	3-D19	3-D25	3-D25
スターラップ	D13@200	D13@200	D10@200	D13@200	D13@200

発行 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
2-11-11 KUBOU YOKOHAMA 220 TEL.045(313)7113
一級建築士事務所 第042877号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2575号
鈴木 篤
KIYOE UME 8F AJIKUSA
企画担当 CHIEF PRODUCER 鈴木 篤
設計担当 CHIEF DESIGNER 鈴木 玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG 秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG 岡 正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG 長見 直
空調設備担当 MECANICAL ENG 長見 直
設計名称 NAME OF PROJECT 消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING 地中梁リスト
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE A2=1:30・A3=1:42
NO S-20

柱リスト	1／30(A2) 1／42(A3)

特記以外　帯筋 MA13 は高強度せん断補強筋（MK685）とする。帯筋は溶接閉鎖型フープとする。

記　号	C1	C2
仕口部フープ	田-D13@100	D13@100
5　階		
Dx × Dy	850×850	800×800
主　筋	28-D25	22-D25
フ ー プ	D13@100	D13@100
仕口部フープ	田-D13@100	D13@100
4　階		
Dx × Dy	850×850	800×800
主　筋	32-D25	26-D25
フ ー プ	田-D13@100	D13@100
仕口部フープ	田-D13@100	D13@100
3　階		
Dx × Dy	850×850	800×800
主　筋	32-D25	30-D25
フ ー プ	田-D13@100	日-D13@100
仕口部フープ	田-MA13@100	田-MA13@100
2　階		
Dx × Dy	950×950	900×900
主　筋	32-D25	30-D25
フ ー プ	田-MA13@100	田-MA13@100
仕口部フープ	田-MA13@100	田-MA13@100
1　階 		
Dx × Dy	950×950	900×900
主　筋	32-D25	30-D25
フ ー プ	田-MA13@100	田-MA13@100
仕口部フープ	田-D13@100	田-D13@100

記　号	C21
仕口部フープ	田-D13@100
1　階 	
Dx × Dy	700×800
主　筋	14-D25
フ ー プ	D13@100
仕口部フープ	D13@100

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
〒111-0051 台東区蔵前1丁目5番6号 TEL.(03)3863-0118

2026年9月18日

一級建築士事務所　鈴木ハ第3179号
一級建築士事務所(構造)　第2019号

鈴木 巌

企画担当 OUTLINE PRODUCER	鈴木 巌
設計担当 DESIGNER	鈴木 持成
構造担当 STRUCTURAL ENG.	秦 伸二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG.	岡 正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG.	長友 直
空調設備担当 MECHANICAL ENG.	長友 直

設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事

PROJECT NUMBER

図面名称 TITLE OF DRAWING: 柱リスト

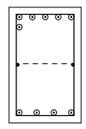
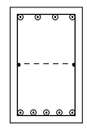
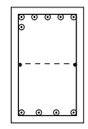
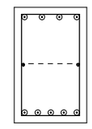
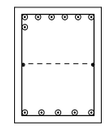
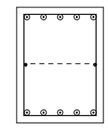
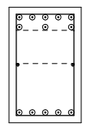
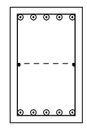
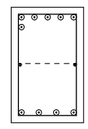
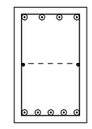
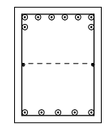
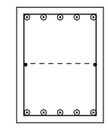
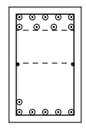
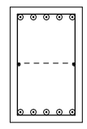
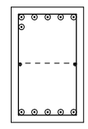
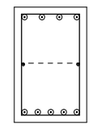
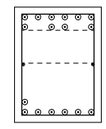
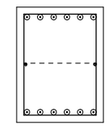
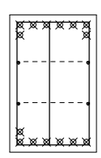
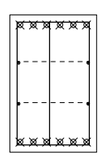
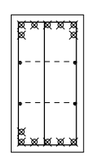
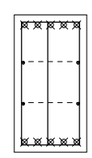
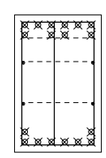
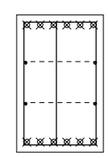
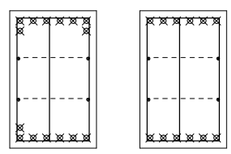
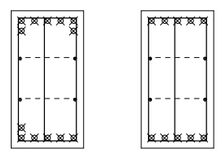
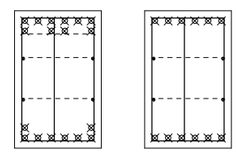
DRAWING NUMBER

縮尺 SCALE: A2:1/30 A3:1/42

NO. S-21

大梁リスト１	１／３０(A2) １／４２(A3)

特記以外　肋筋 MA13 は高強度せん断補強筋（MK785）とする。　腹 筋　2-D10　幅止め筋　D10@1000　中吊り筋　D10@1000
主筋本数後の［　］内L寸法は柱面からのカットオフ位置を示す。特記無き場合は S-04図 6.大梁(1)の切断位置による。

記　号	G1		G11		G12	
部　位	端　部	中　央	端　部	中　央	端　部	中　央
R　階						
断　面	500×800		500×800		600×800	
上　端　筋	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	7-D25[2000]	5-D25
下　端　筋	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25
スターラップ	D13@150		D13@150		D13@150	
5　階						
断　面	500×800		500×800		600×800	
上　端　筋	8-D25	5-D25	6-D25	4-D25	8-D25	5-D25
下　端　筋	5-D25	5-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25
スターラップ	D13@100		D13@100		D13@100	
4　階						
断　面	500×800		500×800		600×800	
上　端　筋	9-D25	5-D25	6-D25	4-D25	10-D25	6-D25
下　端　筋	6-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25	6-D25
スターラップ	D13@100		D13@100		D13@100	
3　階						
断　面	600×950		500×950		600×950	
上　端　筋	8-D29[2500]	6-D29	7-D29[2500]	5-D29	10-D29[2500]	6-D29
下　端　筋	7-D29	6-D29	6-D29	5-D29	8-D29[2100]	6-D29
スターラップ	四-D13@100		四-D13@100		四-MA13@100	
2　階						
断　面	600×950		500×950		600×950	
上　端　筋	8-D29[2500]	6-D29	7-D29[2500]	5-D29	10-D29[2500]	6-D29
下　端　筋	7-D29	6-D29	6-D29	5-D29	8-D29[2100]	6-D29
スターラップ	四-MA13@100		四-D13@100		四-MA13@100	

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2026年9月18日

企画担当 OUTLIP PRODUCER: 鈴木 篤
設計担当 OUTLIP DESIGNER: 鈴木 玲成
構造担当 STRUCTURAL DESIGNER: 秦 伸二

電気設備担当 ELECTRICAL ENGINEER: 岡 正浩
衛生設備担当 SANITARY ENGINEER: 長谷 直
空調設備担当 MECHANICAL ENGINEER: 長谷 直

設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NUMBER:

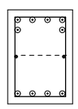
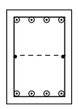
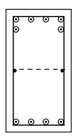
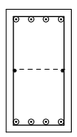
図面名称 TITLE OF DRAWING: 大梁リスト1
DRAWING NUMBER:
縮尺 SCALE: A2:1:30 A3:1:42

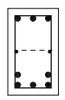
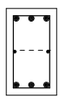
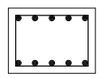
NO. S-22

大梁リスト２

1／３０(A2)
1／４２(A3)

特記以外　　腹 筋　2-D10　　幅止め筋　D10@1000

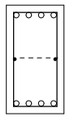
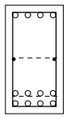
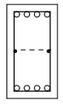
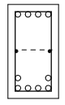
記　　号	G２１		G３１	
部　　位	端　部	中　央	端　部	中　央
２　　階				
断　　面	４５０×６５０		４５０×８５０	
上　端　筋	６−Ｄ２５	４−Ｄ２５	６−Ｄ２５	４−Ｄ２５
下　端　筋	４−Ｄ２５	４−Ｄ２５	４−Ｄ２５	４−Ｄ２５
スターラップ	Ｄ１３@２００		Ｄ１３@２００	

記　　号	G４１	G４２	G４３
部　　位	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断　面　図			
断　　面	３００×６００	３００×６００	６００×４５０
上　端　筋	３−Ｄ１９	３−Ｄ１９	５−Ｄ１９
下　端　筋	５−Ｄ１９	３−Ｄ１９	５−Ｄ１９
スターラップ	Ｄ１０@２００	Ｄ１０@２００	Ｄ１３@２００

小梁・片持ち梁リスト

1／３０(A2)
1／４２(A3)

特記以外　　腹 筋　2-D10　　幅止め筋　D10@1000　　中吊り筋　D10@1000

記　　号	B１		CB１	B２１	
部　　位	端　部	中　央	全 断 面	端　部	中　央
断　面　図					
断　　面	４００×７５０		２５０×６００	３５０×６５０	
上　端　筋	４−Ｄ２２	４−Ｄ２２	３−Ｄ１９	４−Ｄ２２	４−Ｄ２２
下　端　筋	４−Ｄ２２	８−Ｄ２２	２−Ｄ１９	４−Ｄ２２	６−Ｄ２２
スターラップ	Ｄ１３@２００		Ｄ１０@２００	Ｄ１０@２００	

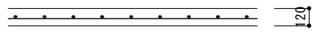
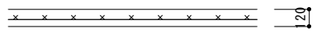
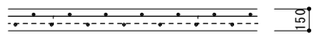
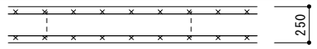
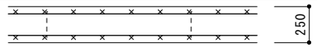
床版，壁リスト　1／30(A2)　1／42(A3)

床版リスト

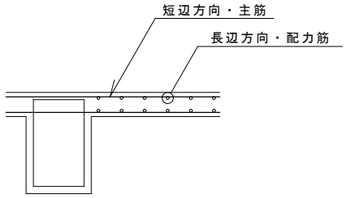
符号 一般床版	符号 片持床版	符号 耐圧版	板厚	位置	短辺方向（主筋方向） 全域	長辺方向（配力筋方向） 全域	備考
S1 S21			150	上端筋	D13@200	D10・D13@200	モチアミ
				下端筋	D10・D13@200	D10@200	
S2 S22			200	上端筋	D13@200	D13@200	モチアミ
				下端筋	D10・D13@200	D10・D13@200	
S3	CS4		150	上端筋	D13@100	D10@200	モチアミ
				下端筋	D10@100	D10@200	
S44	CS1 CS21 CS41		150	上端筋	D10・D13@200	D10@200	モチアミ
				下端筋	D10@200	D10@200	
S5			120	上端筋	D13@200	D13@200	モチアミ
				下端筋	－	－	
	CS2		200	上端筋	D13@150	D10@200	モチアミ
				下端筋	D10@150	D10@200	
	CS3		200	上端筋	D10@200	D10@200	モチアミ
				下端筋	D10@200	D10@200	

壁リスト

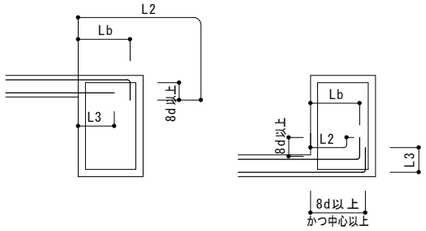
※幅止め筋　D10@1000

符号 一般部	符号 耐力壁	符号 地下外壁	厚さ	配筋（水平断面図）	配筋 縦筋	配筋 横筋	開口補強筋 a，b	開口補強筋 c	備考
W12			120		D10@200シングル	D10@200 シングル	1×2−D13	1×1−D13	
W12A			120		D13@200シングル	D13@200 シングル	1×2−D13	1×1−D13	
W15			150		D10@250 チドリダブル	D10@250 チドリダブル	2×1−D13	1×2−D10	
	W20		200		D10@200 ダブル	D10@200 ダブル	2×2−D13	1×2−D10	
	W25		250		D13@200 ダブル	D13@150 ダブル	2×2−D25	1×2−D13	
	W25A		250		D13@200 ダブル	D13@100 ダブル	4×2−D25	1×2−D13	

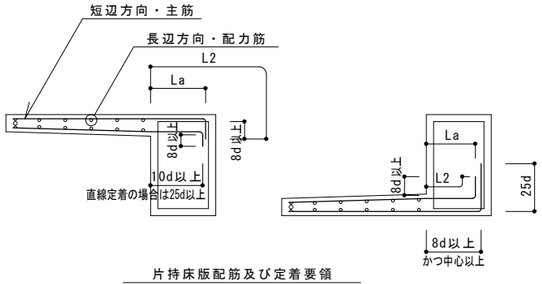
配筋・定着要領



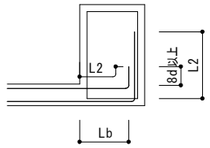
一般床版及び耐圧版配筋要領



一般床版定着要領

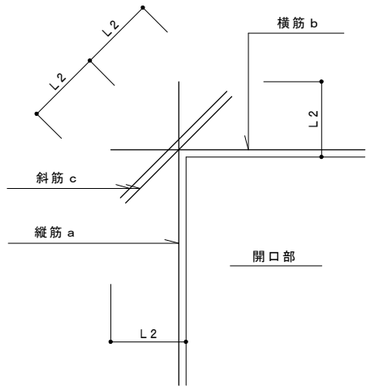


片持床版配筋及び定着要領



耐圧版定着要領

開口部補強筋要領図



鉄骨部材断面リスト　1／30(A2)　1／42(A3)

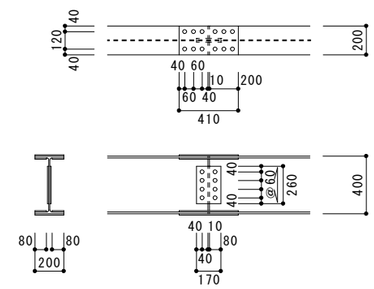
記　号	sC21		sP21	sP2・sP22
断面図	□		I	I
	2F □−250×250×9 (44.1)		H−125×125×6.5×9 (129.1)	H−200×200×8×12 (69.8)
柱　脚	EB250−4−36 二重ナット仕様		BPL−16×175×175(SS400) 2−M16(SS400)　フック付二重ナット　L=400	BPL−16×250×250(SS400) 2−M16(SS400)　フック付二重ナット　L=400

記　号	sG40	sCG29・sB29	sB30	sB25・sB25A
断面図	I	I	I	I
	H−400×200×8×13	H−294×200×8×12	H−300×150×6.5×9	H−250×125×6×9

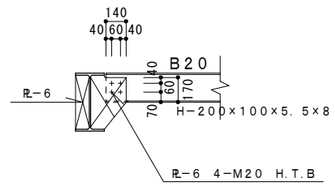
記　号	sB20W・sB20WA	sB20	床面ブレース	根　太
断面図	I	I	○	┌
	H−200×200×8×12	H−200×100×5.5×8	1−M16（JIS規格品）	L−75×75×6
			ターンバックル付	@455(@910　ダブル)

使用材料　　鉄　骨　BCR295,SS400　　ボ ル ト　F8T H.T.B（　）内は各部材の最大有効細長比を示す。

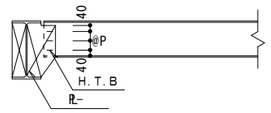
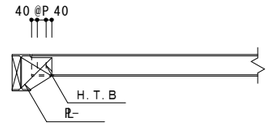
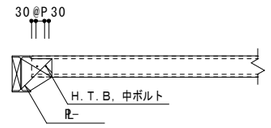
ジョイントリスト　1／30

		J40		
接合部詳細図				
MEMBER		sG40　H−400×200×8×13		
FLANGE	外添板	2PL− 9×200×410	24−M20 H.T.B	L=65
	内添板	4PL− 9× 80×410		
WEB		2PL− 9×260×170	8−M20 H.T.B	L=60

ボルト増打ち部分詳細図



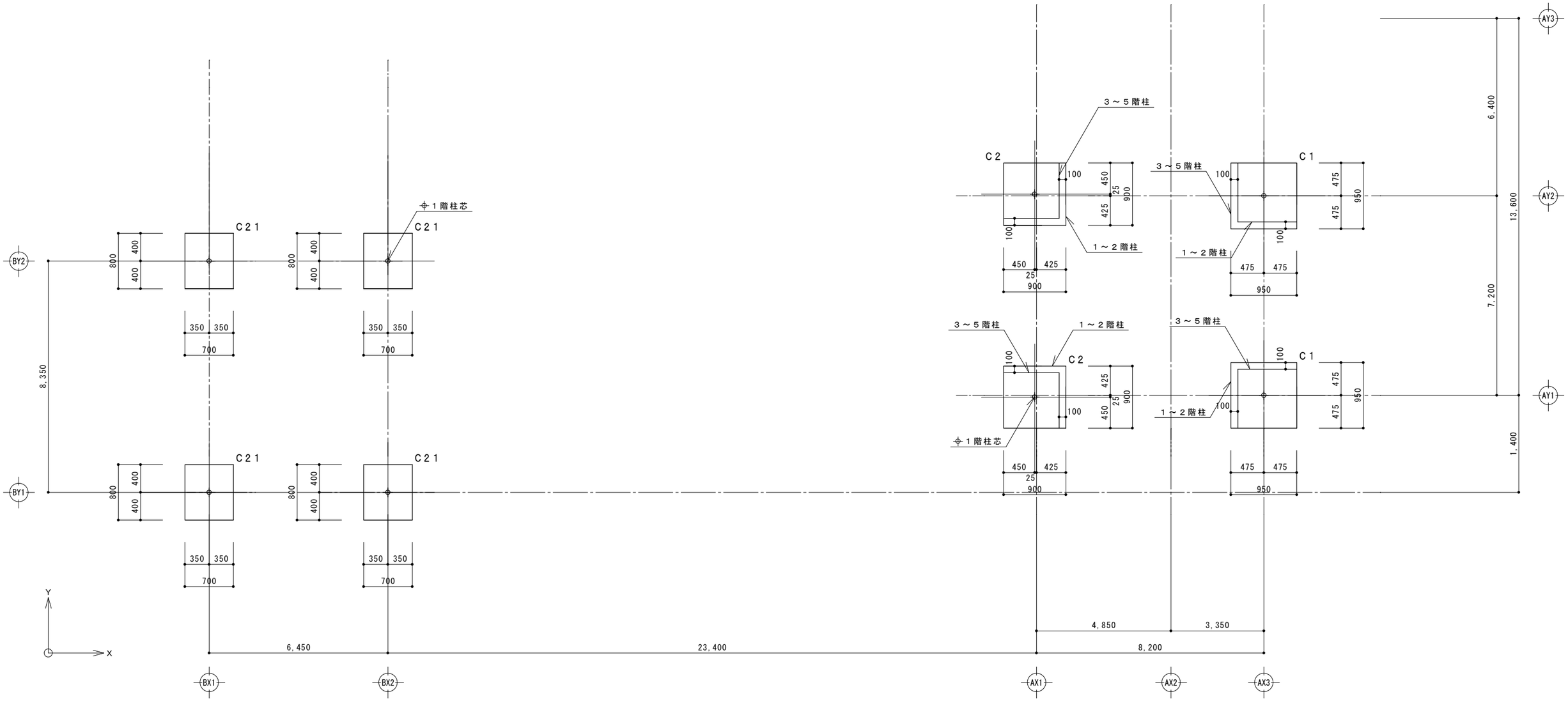
ピンジョイント

TYPE−1	
TYPE−2	
TYPE−3	

記　号	TYPE	鉄　骨	PL− / H.T.B	@P
sB29	1	H−294×200×8×12	PL−9 / 3−M20	60
sB30	1	H−300×150×6.5×9	PL−9 / 3−M20	60
sB25・sB25A	1	H−250×125×6×9	PL−6 / 3−M16	60
sB20W・sB20WA	1	H−200×200×8×12	PL−9 / 2−M20	60
sB20	1	H−200×100×5.5×8	PL−6 / 2−M16	60
根太	3	L−75×75×6	PL−6 / 2−M12 中ボルト	50

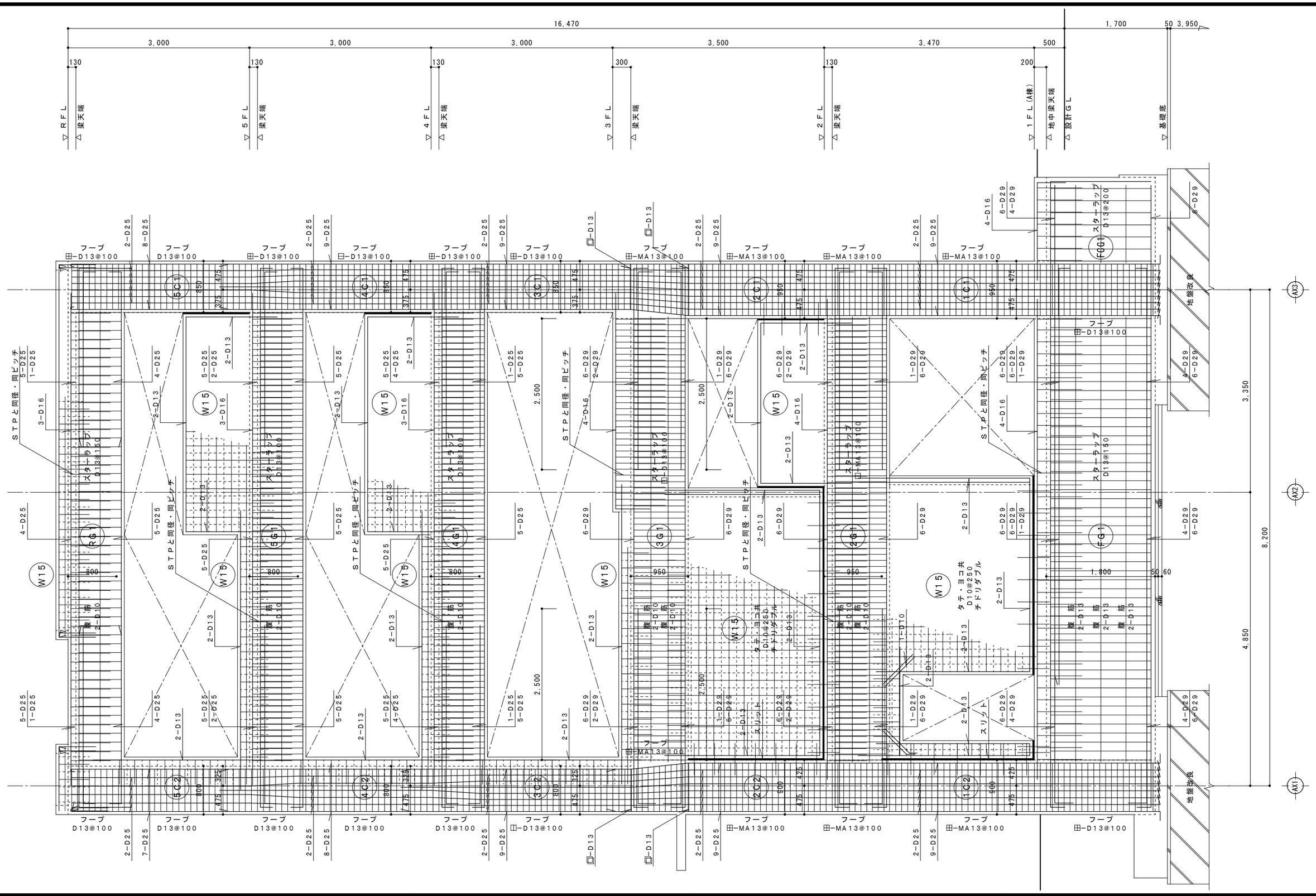
備　考

sB25A及びsB20WAのRC接続部分のジョイントについては雑詳細を参照。



柱芯線図	1／100・40(A2) 1／141・56(A3)

発行 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.	一級建築士事務所 第8428号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2575号 鈴木 篤	企画担当 鈴木 篤 / 設計担当 鈴木 玲成 / 構造担当 秦 陽二
電気設備担当 岡 正浩 / 衛生設備担当 長見 直 / 空調設備担当 長見 直	設計名称 消防総合訓練センター / 訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 柱芯線図	縮尺 A2=1:100・40 A3=1:141・56
			S-26



発行 2026年9月18日

鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-11-11 KUDAN MINAMI CHIYODA-KU TEL.0480(33)7113

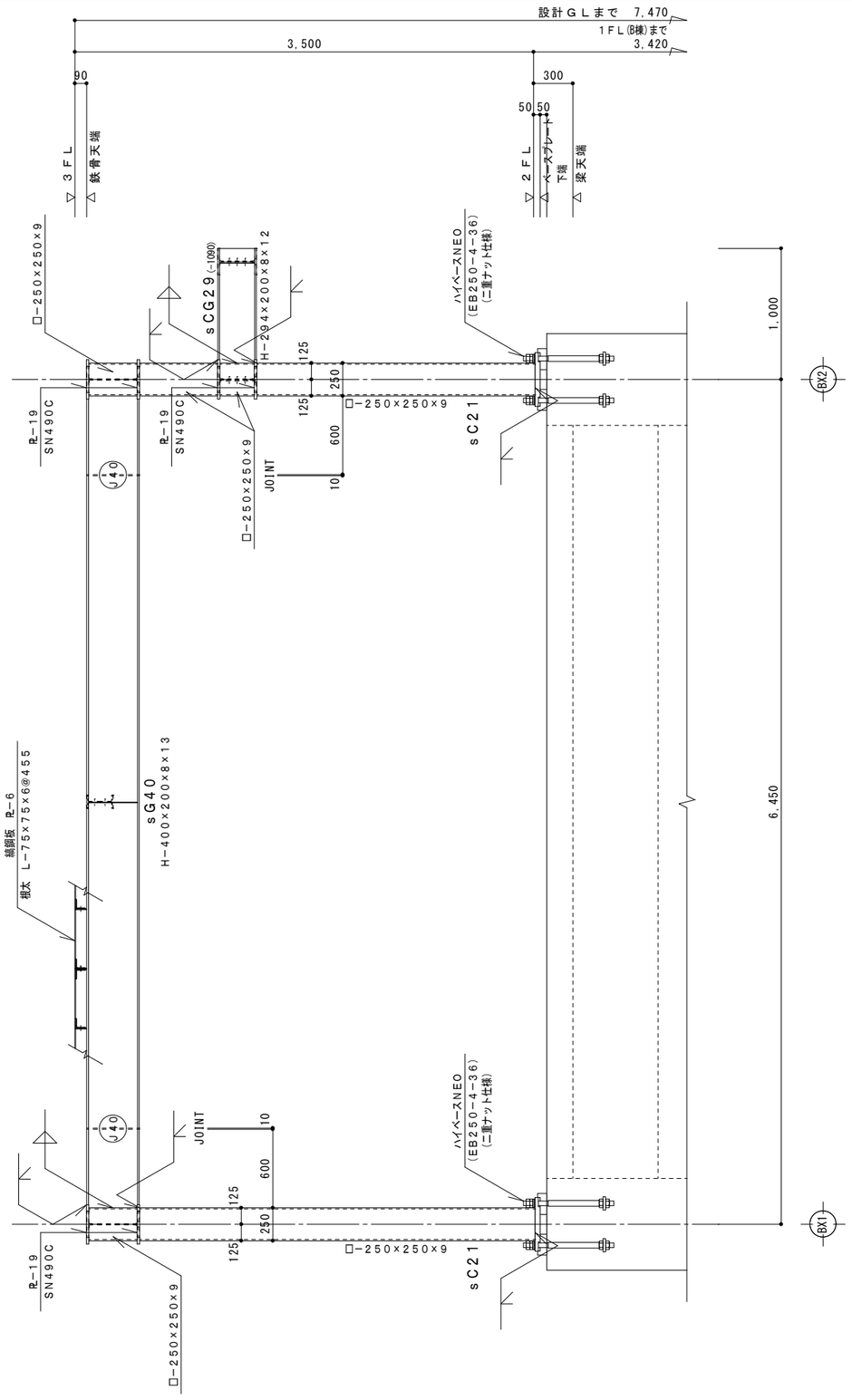
一級建築士事務所 第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2579号
鈴木 篤
KIYOE UMI BY A.SUZUKI

企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	
設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	
構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	
電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	
衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	
空調設備担当 MECANICAL ENG	長見 直	

設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER

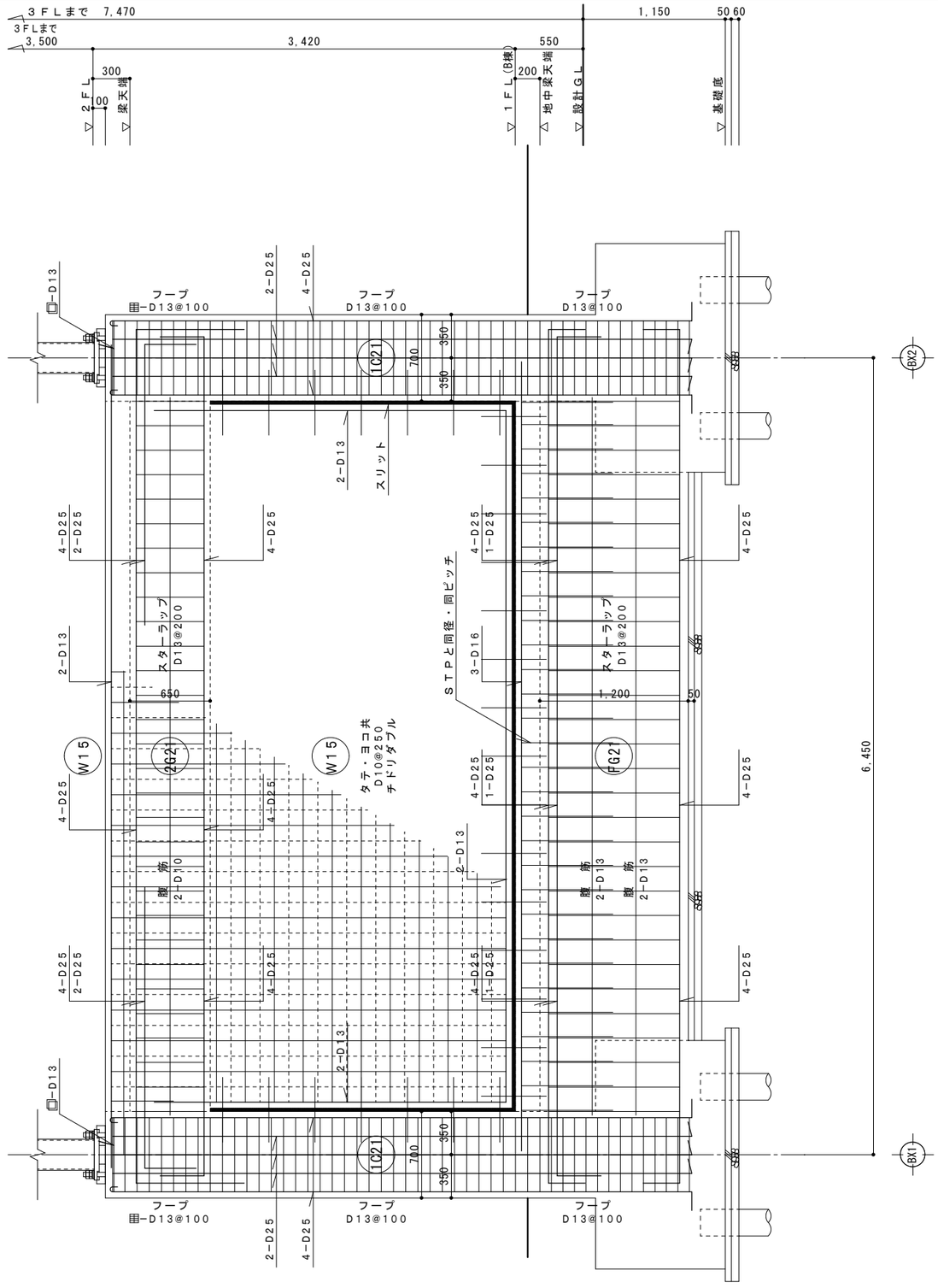
図面名称 ITEM OF DRAWING: AY1 通りラーメン図
DRAWING NUMBER
縮尺 SCALE: A2=1:40-A3=1:56

S-27
NO



BY1　通り鉄骨詳細図

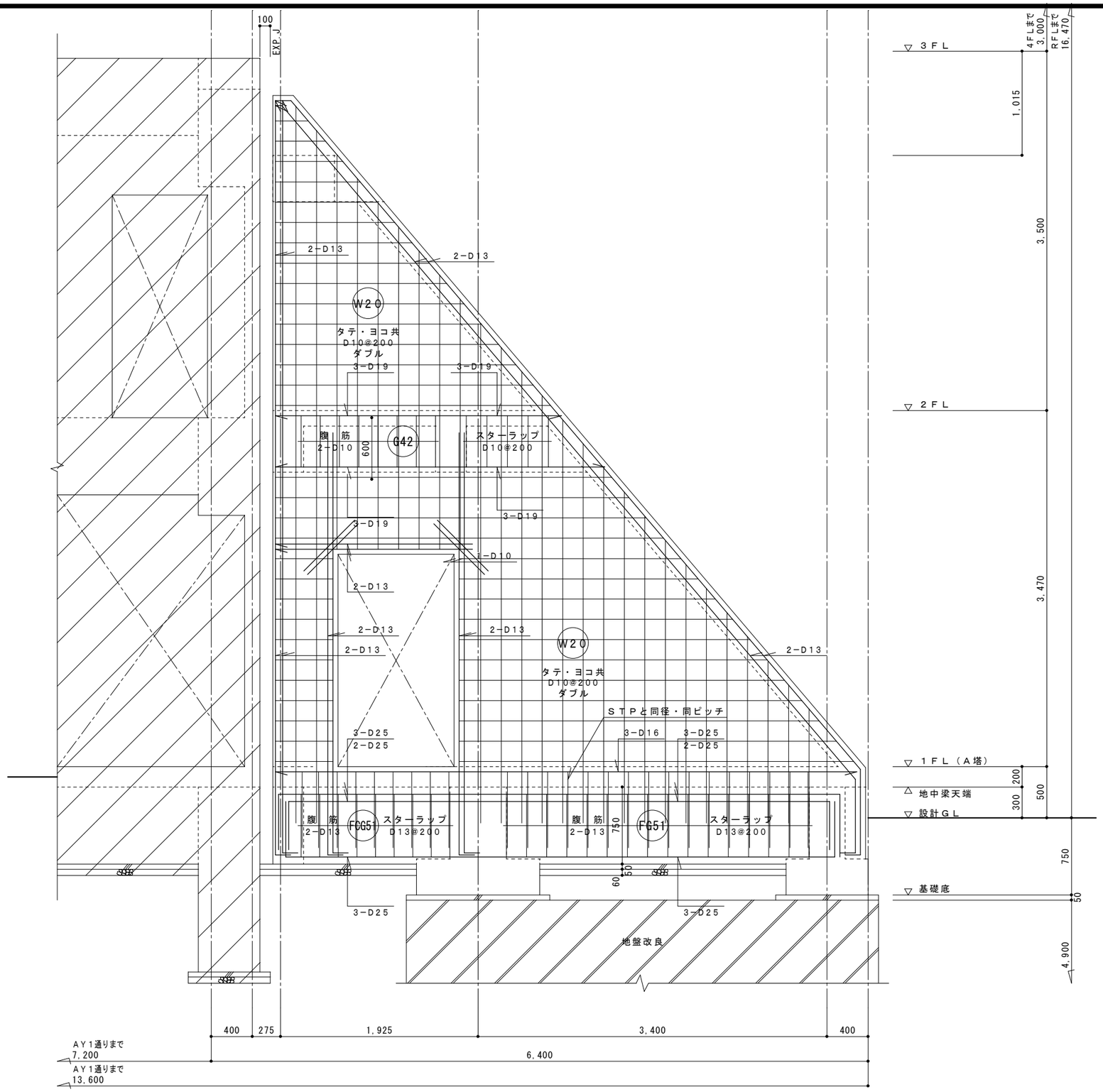
1／30 (A2)
1／42 (A3)



BY1　通りラーメン図

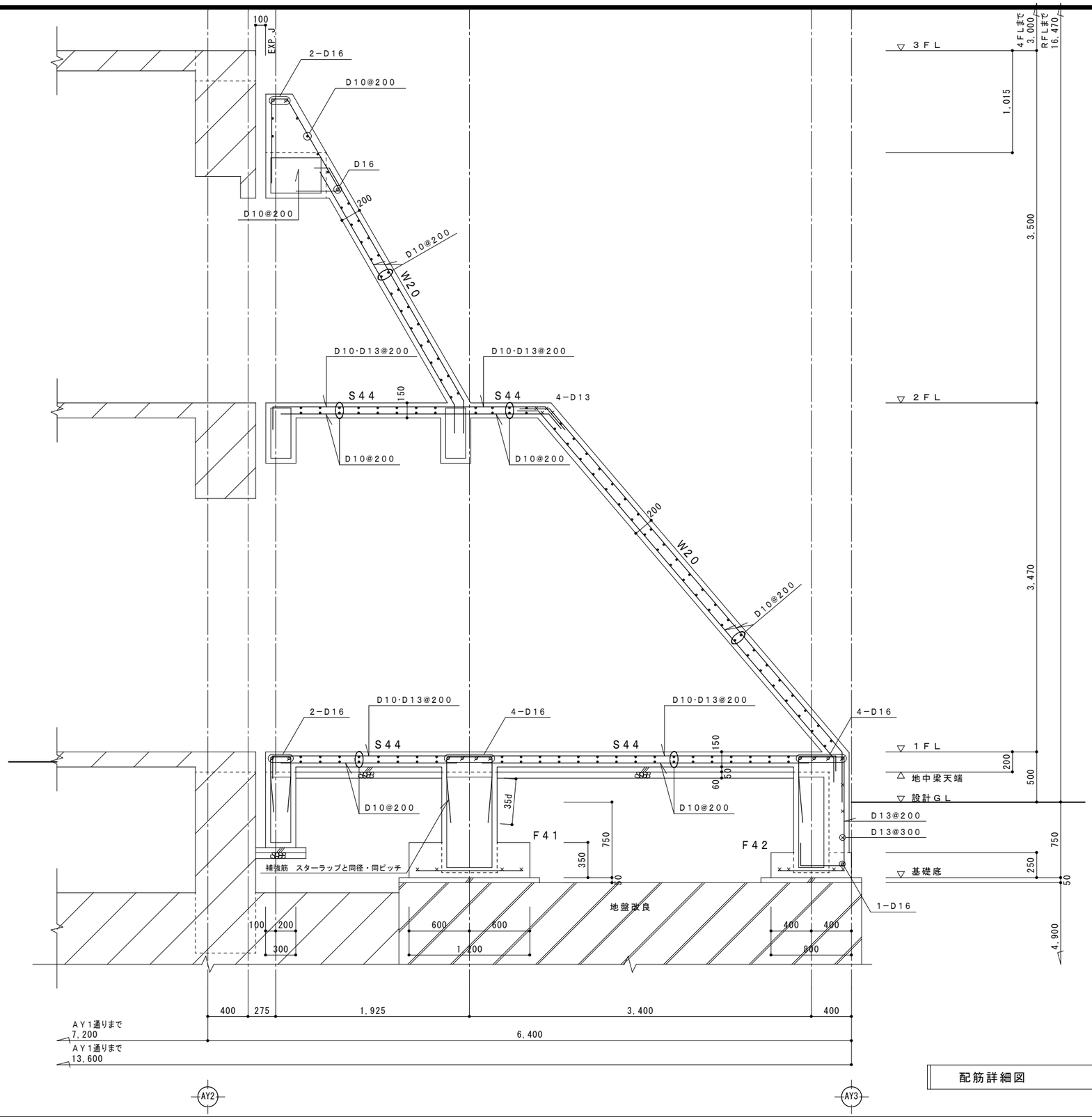
1／30 (A2)
1／42 (A3)

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDO YOKOHAMA 220 TEL.045(313)7113	一級建築士登録　第54287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2512号 鈴木 篤 SIGNE UNE BF A.SUZUKI	企画担当 CHIEF PRODUCER：鈴木 篤 設計担当 CHIEF DESIGNER：鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG：秦 陽二 電気設備担当 ELECTRICAL ENG：岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG：長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG：長見 直
工事名 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事 PROJECT NUMBER	図面名 ITEM OF DRAWING：BY1 通りラーメン図・鉄骨詳細図 DRAWING NUMBER 縮尺 SCALE：A2=1:30・A3=1:42	NO：S-28	



AX2　通りラーメン図　1／30(A2)　1／42(A3)

発行 PUBLISHED 2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN MINAMI CHIYODA-KU TEL.(+81)3-3237-7112	一級建築士登録 第54287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2511号 鈴木 篤 SUZUKI ATSUSHI	企画担当 GROUP PRODUCER：鈴木 篤 設計担当 GROUP DESIGNER：鈴木 玲成 構造担当 STRUCTURAL ENG：秦 陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG：岡 正浩 衛生設備担当 SANITARY ENG：長見 直 空調設備担当 MECANICAL ENG：長見 直	設計名称 NAME OF PROJECT：消防総合訓練センター PROJECT NUMBER：訓練塔・補助訓練塔新築工事	図面名称 ITEM OF DRAWING：Ａ塔ラーメン図２ DRAWING NUMBER 縮尺 SCALE：A2=1:30・A3=1:42	NO S-29



配筋詳細図	1／30(A2) 1／42(A3)

鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD. 2-11-11 KUDAN MINAMI CHIYODA-KU 238 TEL.0480(33)7113	2026年 9 月 18 日	一級建築士登録 第84287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2576号 鈴木 篤	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木 篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡 正浩	設計名称 NAME OF PROJECT: 消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事
			設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木 玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見 直	図面名称 ITEM OF DRAWING: 配筋詳細図
			構造担当 STRUCTURAL ENG	秦 陽二	空調設備担当 MECHANICAL ENG	長見 直	DRAWING NUMBER / SCALE: 縮尺 A2=1:30・A3=1:42

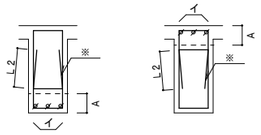
S-30

雑詳細図１	１／３０(A2) １／４２(A3)

各部増打ち要領

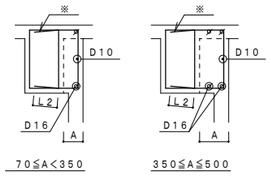
（1）梁

1）増し打ちについては、上端・下端増し打ち共に、A≧70のとき下図のようにする。



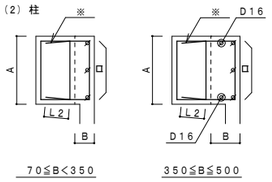
梁 幅 b	イ
b＜350	2−D16
350≦b≦500	3−D16
500＜b	D16@200

2）梁横増し打ち



※補強筋は、ＳＴＰ と同径、同ピッチ

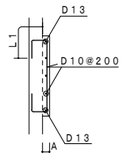
（2）柱



柱 幅 A	ロ
350≦A＜650	3−D16
650≦A≦900	4−D16
900＜A	D16@200

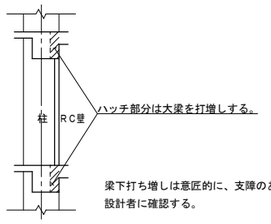
※補強筋は、Ｈ００Ｐ と同径、同ピッチ

（3）壁



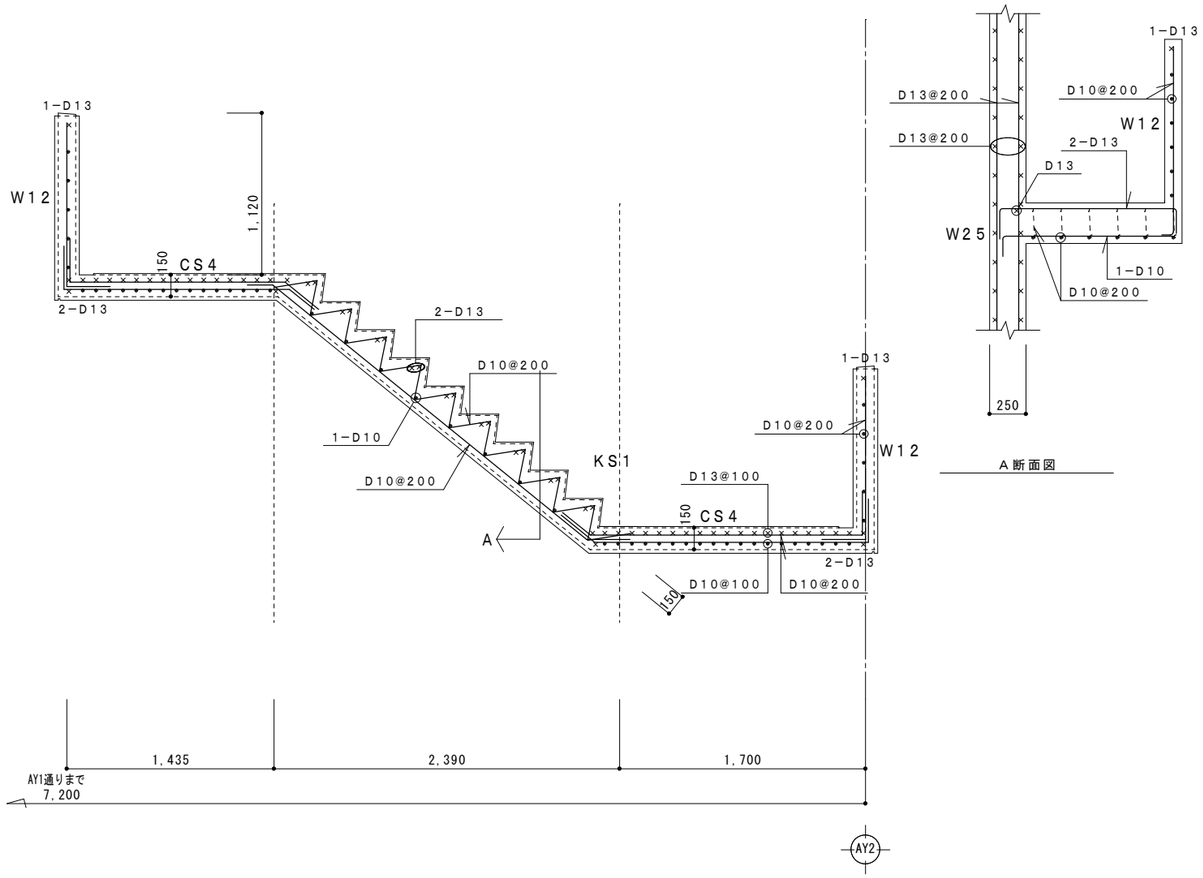
５０≦Ａ≦１２０ のとき上図のように
補強を行う。

（4）柱付きの壁が大梁からはずれる場合

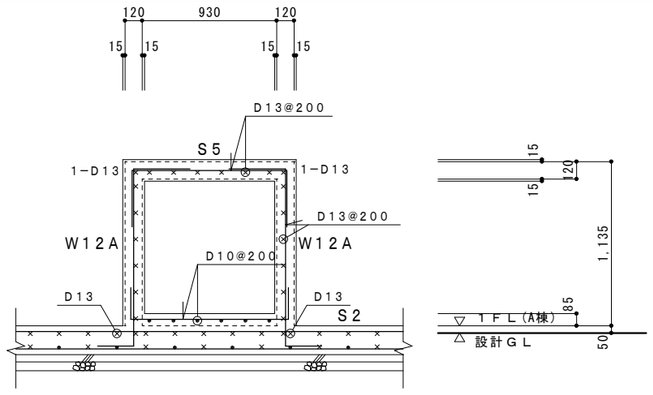


梁下打ち増しは意匠的に、支障のある場合は、
設計者に確認する。

ＫＳ１・ＣＳ４　詳細図



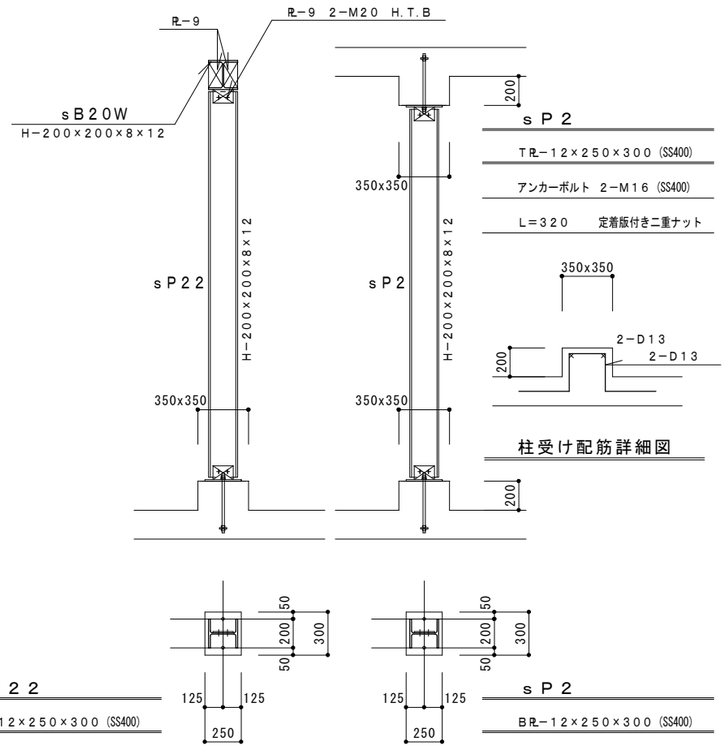
Ｓ５・Ｗ１２Ａ　詳細図



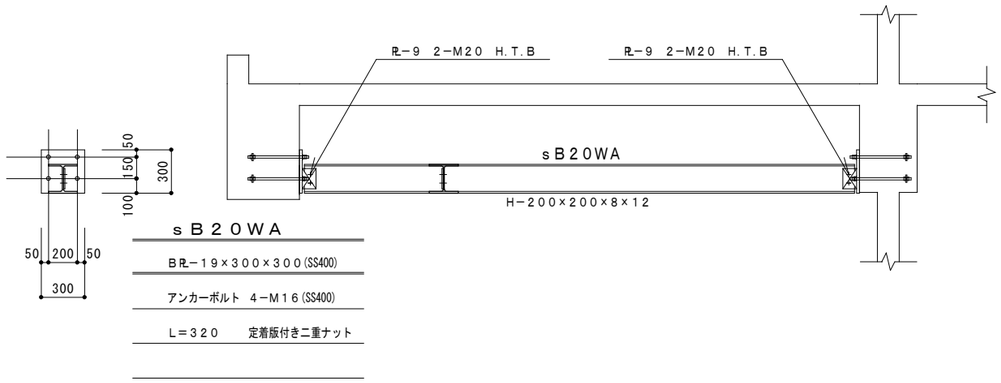
令和 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.
一級建築士事務所 第8428号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2579号
鈴木 篤
企画担当 鈴木 篤
設計担当 鈴木 玲成
構造担当 秦 陽二
電気設備担当 岡 正浩
衛生設備担当 長見 直
空調設備担当 長見 直
設計名称 消防総合訓練センター
訓練塔・補助訓練塔新築工事
図面名称 雑詳細図１
縮尺 A2=1:30-A3=1:42
S-31

雑詳細図２	１／３０(A2) １／４２(A3)

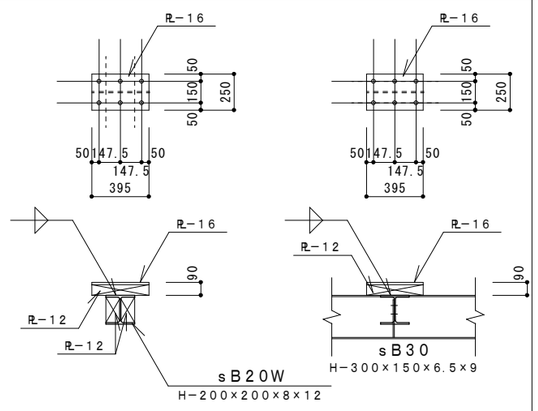
ｓＰ２・ｓＰ２２　詳細図



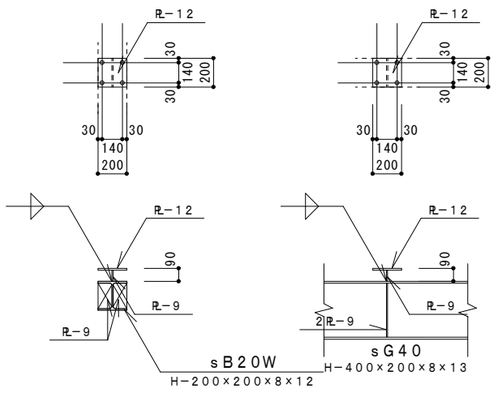
ｓＢ２０ＷＡ　詳細図



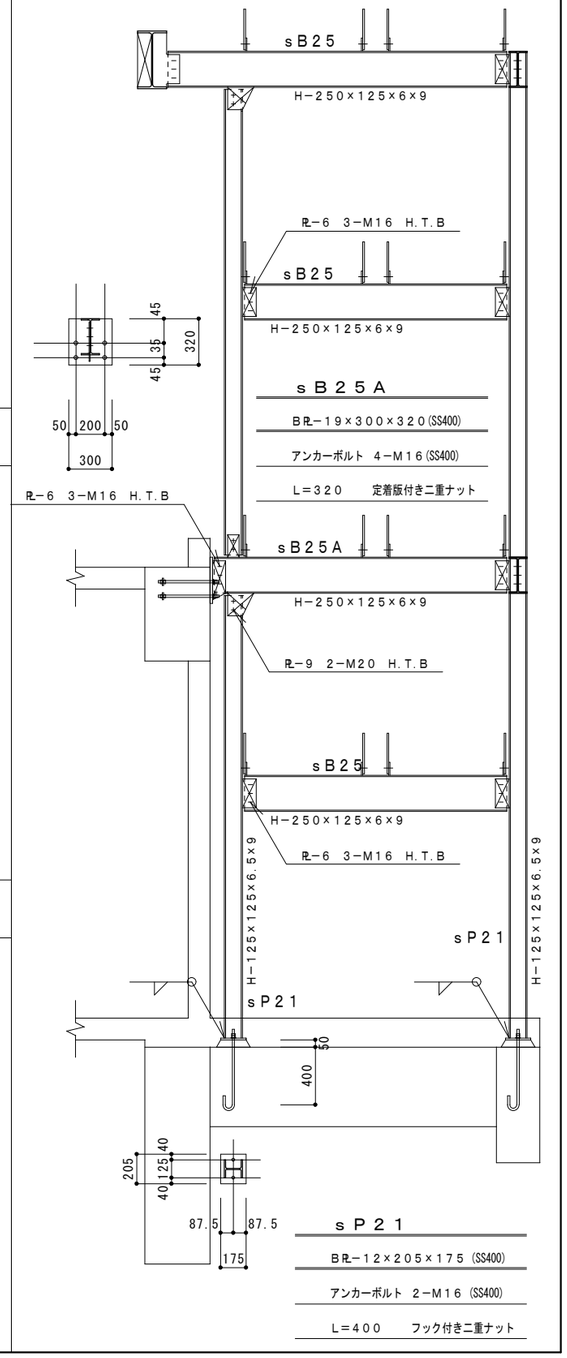
ロープブリッジ用アンカー受け材



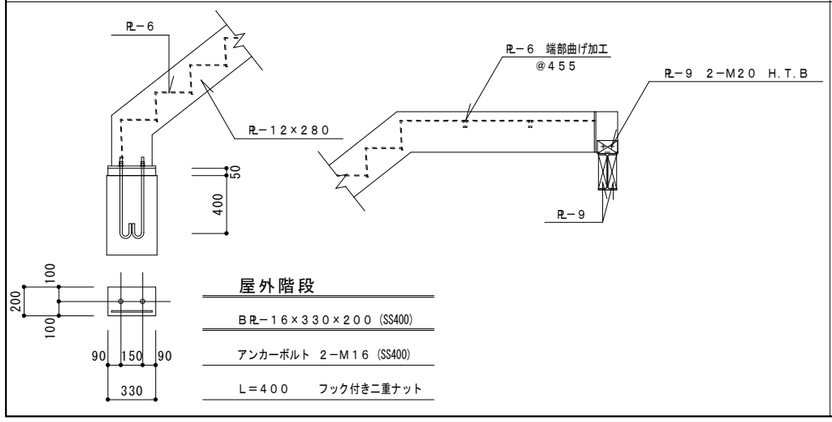
支柱受け材



ｓＰ２１・ｓＢ２５Ａ　詳細図



鉄骨階段　詳細図



2026年 9 月 18 日	鈴木設計株式会社 SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO., LTD.	一級建築士事務所　第B4287号 一級建築士事務所登録（神奈川）第2515号 鈴木 篤	企画担当 CHIEF PRODUCER	鈴木　篤	電気設備担当 ELECTRICAL ENG	岡　正浩	設計名称 NAME OF PROJECT	消防総合訓練センター 訓練塔・補助訓練塔新築工事
			設計担当 CHIEF DESIGNER	鈴木　玲成	衛生設備担当 SANITARY ENG	長見　直	図面名称 ITEM OF DRAWING	雑詳細図２
			構造担当 STRUCTURAL ENG	秦　陽二	空調設備担当 MECANITCAL ENG	長見　直	DRAWING NUMBER	縮尺 A2=1:30・A3=1:42 SCALE

NO S−32

梁貫通孔補強材　ダイヤレンＮＳ設計・施工標準仕様書

（一財）日本建築センター　ＢＣＪ評定-RC0124-08

１．一般事項

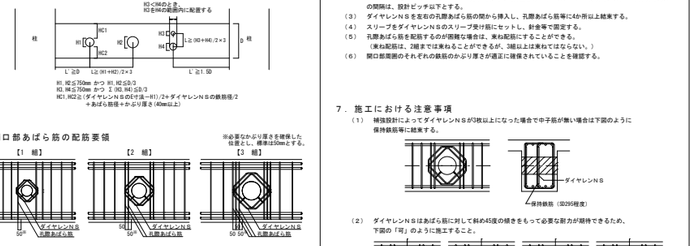
（１）　本仕様書は、ダイヤレンＮＳの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
（２）　本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、（一財）日本建築センター及び（一社）日本建築学会の関連する諸指針や技術書、ダイヤレンＮＳ技術マニュアルによる。

２．使用材料の適用範囲

（１）　コンクリート
Fc=21～100N/mm²
（２）　鉄筋
・主筋　：　基準強度295～490N/mm²のJIS鉄筋、490を超え685N/mm²以下の大臣認定品
・あばら筋　：　基準強度295～490N/mm²のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm²以下の大臣認定品
・ダイヤレンＮＳ：KS3785-K（MSRB-0004）、MK785（MSRB-0007）

３．貫通孔適用範囲

（１）　開口の形状は円形または多角形とし、多角形の場合はその外接円を開口とみなす。
（２）　開口径（H）は開口外径とし、750mm以下かつ梁せいの1/3以下とする。ただし、上下に複数の開口を設ける場合は、当該複数孔の開口径の合計は梁せいの1/3以下とする。
（３）　隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離（L）は開口径の3倍以上とし、隣接する開口の径が異なる場合は、両開口径の平均値の3倍以上とする。また、上下に複数の開口を設ける場合には、最大径の範囲内にその他の開口を配置することとする。
（４）　へりあき（HC1,HC2）の最小寸法は下記による。
へりあきさ(ダイヤレンＮＳのｽﾘｰﾌﾞ間口径H)/2＋ダイヤレンＮＳの鉄筋径/2
＋あばら筋径＋かぶり厚さ(40mm以上)
ただし、ダイヤレンＮＳをあばら筋の内側に施工することとする。
（５）　水平方向の開口中心間までの距離（L'）を梁せいは上とする。
（６）　上下に複数の開口を設ける場合の水平方向の開口位置は、L'を梁せいの1.5倍以上とする。



４．開口部あばら筋の配筋要領

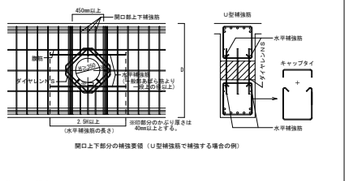
（１）　開口部あばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。
（２）　孔隙あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

【開口に対して片側に配置する孔隙あばら筋の標準組数】

開口径	一般部あばら筋比（p_a）	
	1%未満	1%以上
H≦150	1組	2組
150≦H＜300	2組	3組
300≦H	3組	3組

５．開口部上下補強要領（350 φ以上の場合）

（１）　開口の左右に配筋する1組目の孔隙あばら筋の開隙が変せいの1/2以上または450mm以上（開口径で350mm以上）になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。
（２）　開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同隙間とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。（丸鋼及びインデントは不可）
（３）　梁幅が400mm未満もしくは コ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d（d は鉄筋の呼び径）以下の場合は、U型または口型の形状で補強を行う。
（４）　水平補強筋は、一般部あばら筋より1段上の位置以上とし（SD295程度）、開口径の2.5倍以上の長さとする。



開口上下部分の補強要領（U型補強筋で補強する場合の例）

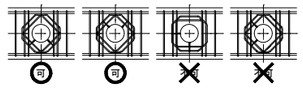
６．施工要領例

（１）　型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。
（２）　補強筋計上の要領は、一般部あばら筋と同径、同間隔とし、孔隙あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔隙あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。
（３）　ダイヤレンＮＳをＣ形の孔隙あばら筋の間から挿入し、孔隙あばら筋等に干渉が所以上結束する。
（４）　スリーブをダイヤレンＮＳのスリーブ間口にセットし、針金等で固定する。
（５）　孔隙あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋することができる。
（束ね配筋は、2組までは束ねることができるが、3組以上は束ねてはならない。）
（６）　開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

７．施工における注意事項

（１）　補強設計によってダイヤレンＮＳが1枚以上になった場合で中子筋が無い場合は下図のように保持鉄筋等に結束する。

（２）　ダイヤレンＮＳはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」のように施工すること。



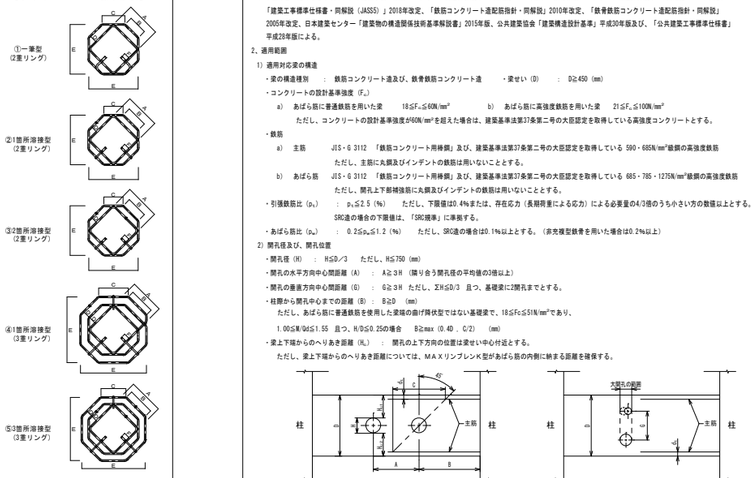
８．ダイヤレンＮＳ標準製品寸法表

（特記外単位：mm）

スリーブ呼び径(H)寸法	型	サイズ	A	B	C	E	L	L'	形状	質量 kg/1.5m	個
190 φ (H≦115)	Ⅰ	4	205	115	127	45	289	45	Ⅰ	0.55	204
	Ⅱ	10	205	95	155	55	289	45	Ⅱ	1.14	209
	Ⅲ	13	210	80	183	65	298	45	Ⅲ	2.01	211
	Ⅳ	16	210	55	183	65	335	55	Ⅳ	3.46	217
	N'-3R	16	230	154	183	65	455	55	Ⅳ	6.14	292
125 φ (H≦140)	Ⅰ	4	230	145	127	45	325	45	Ⅰ	0.60	222
	Ⅱ	10	230	125	155	55	325	45	Ⅱ	0.94	222
	Ⅲ	13	235	125	155	55	332	45	Ⅲ	1.22	227
	Ⅳ	16	240	110	183	65	339	55	Ⅳ	2.29	232
	Ⅳ	14	240	114	127	45	339	55	Ⅳ	3.51	234
	N'-3R	16	240	154	227	45	449	45	Ⅳ	6.31	299
150 φ (H≦165)	Ⅰ	4	255	165	127	45	360	45	Ⅰ	0.66	228
	Ⅱ	10	260	155	127	45	367	45	Ⅰ	1.03	236
	Ⅲ	10	260	155	155	55	367	47	Ⅱ	1.38	240
	Ⅲ	13	260	130	183	65	367	47	Ⅱ	2.41	245
	Ⅳ	16	260	135	183	65	374	55	Ⅲ	3.88	251
	N'-3R	16	265	189	227	65	504	45	Ⅲ	6.78	318
175 φ (H≦191)	Ⅰ	4	280	195	127	45	395	45	Ⅰ	0.71	257
	Ⅱ	10	280	190	127	45	395	45	Ⅰ	1.12	257
	Ⅲ	10	280	175	155	55	403	47	Ⅱ	1.50	264
	Ⅲ'	13	285	155	183	65	403	47	Ⅱ	2.59	272
	Ⅳ	16	290	160	183	65	410	55	Ⅲ	4.19	279
	N'-3R	16	290	214	227	65	541	45	Ⅲ	7.32	344
200 φ (H≦216)	Ⅰ	4	310	215	127	45	430	45	Ⅰ	0.77	284
	Ⅱ	10	310	205	155	55	438	47	Ⅰ	1.20	289
	Ⅲ	10	310	190	183	65	438	47	Ⅱ	1.61	298
	Ⅲ'	13	315	180	183	65	445	47	Ⅱ	2.77	302
	Ⅳ	16	320	185	183	65	452	55	Ⅲ	4.48	311
	N'-3R	16	320	244	227	65	582	45	Ⅲ	7.92	370
250 φ (H≦270)	Ⅱ	10	360	255	155	55	508	47	Ⅰ	1.39	315
	Ⅱ	8	360	270	127	45	508	45	Ⅰ	1.40	315
	Ⅲ	13	365	230	183	65	515	47	Ⅱ	3.21	325
	Ⅳ	13	370	240	183	65	523	55	Ⅱ	3.28	324
	Ⅳ	16	370	245	183	65	523	55	Ⅱ	5.31	324
	N'-3R	16	370	276	292	80	683	55	Ⅲ	9.11	406
300 φ (H≦320)	Ⅱ	8	410	320	127	45	579	45	Ⅰ	1.57	348
	Ⅱ	10	410	320	155	55	579	45	Ⅰ	1.57	348
	Ⅲ	13	420	290	183	65	586	55	Ⅱ	2.05	355
	Ⅳ	13	420	290	183	65	593	55	Ⅱ	3.69	359
	Ⅳ	16	420	295	183	65	593	55	Ⅱ	5.91	359
	N'-3R	16	430	315	292	80	753	55	Ⅲ	10.04	441
350 φ (H≦370)	Ⅱ	8	460	370	127	45	650	45	Ⅰ	1.75	385
	Ⅱ	10	460	370	155	55	650	45	Ⅰ	1.76	385
	Ⅲ	13	470	340	183	65	664	55	Ⅱ	2.29	395
	Ⅳ	13	470	340	183	65	664	55	Ⅱ	4.09	395
	Ⅳ	16	470	345	183	65	664	55	Ⅱ	6.59	395
	N'-3R	16	470	376	292	80	824	55	Ⅲ	10.98	476
400 φ (H≦430)	Ⅰ	8	510	420	127	45	721	45	Ⅰ	1.92	421
	Ⅱ	10	510	400	155	55	721	45	Ⅰ	2.50	422
	Ⅲ	13	520	390	183	65	735	55	Ⅱ	2.88	430
	Ⅳ	16	530	375	226	80	749	55	Ⅱ	7.31	439
	N'-3R	16	530	446	292	80	899	55	Ⅲ	11.11	513
450 φ (H≦470)	Ⅰ	8	560	470	127	45	791	45	Ⅰ	2.10	458
	Ⅱ	10	560	450	155	55	791	45	Ⅰ	2.72	463
	Ⅲ	13	570	440	183	65	806	55	Ⅱ	4.98	466
	Ⅳ	16	580	420	226	80	820	55	Ⅱ	7.94	474
	N'-3R	16	580	488	292	80	980	55	Ⅲ	13.04	554
500 φ (H≦530)	Ⅱ	8	610	520	155	55	863	45	Ⅰ	2.90	493
	Ⅲ	13	620	490	183	65	876	55	Ⅱ	5.28	501
	Ⅳ	16	630	470	226	80	890	55	Ⅱ	8.56	509
	N'-3R	16	630	538	292	80	1050	55	Ⅲ	13.98	589
550 φ (H≦570)	Ⅱ	8	660	570	155	55	933	45	Ⅰ	3.17	533
	Ⅲ	13	670	540	183	65	947	55	Ⅱ	5.68	536
	Ⅳ	16	680	520	226	80	961	55	Ⅱ	9.18	545
	N'-3R	16	680	588	292	80	1121	55	Ⅲ	14.92	625
600 φ (H≦630)	Ⅱ	8	710	610	155	55	1018	45	Ⅰ	3.44	573
	Ⅲ	13	720	602	183	65	1032	55	Ⅱ	6.16	579
	Ⅳ	16	730	570	226	80	1050	55	Ⅱ	9.80	586
	N'-3R	16	730	664	292	80	1220	60	Ⅲ	16.24	674
650 φ (H≦680)	Ⅱ	8	760	660	155	55	1104	45	Ⅰ	3.67	613
	Ⅲ	13	780	652	183	65	1120	55	Ⅱ	6.55	614
	Ⅳ	16	790	640	226	80	1140	55	Ⅱ	10.42	623
	N'-3R	16	800	706	292	80	1291	60	Ⅲ	17.17	710
700 φ (H≦730)	Ⅱ	8	820	710	155	55	1189	45	Ⅰ	3.89	653
	Ⅲ	13	830	700	183	65	1173	55	Ⅱ	6.95	649
	Ⅳ	16	840	690	226	80	1202	55	Ⅱ	11.33	665
	N'-3R	16	850	754	292	80	1352	60	Ⅲ	18.11	745
750 φ (H≦760)	Ⅱ	8	870	760	155	55	1236	45	Ⅰ	4.11	675
	Ⅲ	13	880	750	183	65	1244	55	Ⅱ	7.35	685
	Ⅳ	16	890	740	226	80	1264	55	Ⅱ	11.97	693
	N'-3R	16	900	804	292	80	1410	60	Ⅲ	19.05	780

※対応径は、スリーブ底とダイヤレンＮＳ内リブ間の内側表示でのかぶり厚さを40mmとした場合の開口外径
※各H毎は、かぶり厚さ40mm、あばら筋16mmとした場合のコンクリート面から開口中心までの距離
※寸法は、鉄筋のＣ-Ｃ間です。

【ダイヤレンＮＳ　標準形状】



※へりあきの最小寸法

ダイヤレンＮＳを使用した場合のコンクリート面から開口中心までの距離（Ho）を定義に伸す。
（かぶり厚さ40mm、あばら筋径を16mmと仮定した数値）

梁貫通孔補強材　ＭＡＸウエブレン標準仕様書

テイエム技研株式会社
本社 〒893-0032 鹿児島県鹿屋市川西町3849　TEL:0994-43-4341 FAX:0994-43-4471
東京支店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-11-4 ティエムビル1階　TEL:03-6661-2621 FAX:03-6661-2622　E-mail:tmgtkyo@tmgiken.com
大阪支店 〒536-0013 大阪市城東区鴫野東3-5-14　TEL:06-6965-1171 FAX:06-6965-1181　E-mail:tmosaka@tmgiken.com
福岡支店 〒810-0041 福岡市中央区大名1-9-27　TEL:092-711-7744 FAX:092-741-3343　E-mail:tmgfukuoka@tmgiken.com

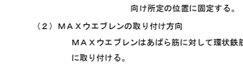
１．一般事項

（１）本仕様書は、(財)日本建築センターの一般評定「BCJ評定-RC0097-07」に適合するように標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
（２）本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説（JASSS）鉄筋コンクリート工事」による。

２．適用範囲

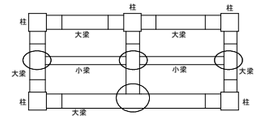
（１）使用材料
a）コンクリート設計基準強度
21≦Fc≦80N/mm²
b）主筋
普通鉄筋のうち以下の種類
SD295、SD345、SD390、SD490
高強度鉄筋のうち以下の種類
SD590、SD685 ただし、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品
c）あばら筋
普通鉄筋のうち以下の種類
SD295、SD345、SD390
高強度鉄筋のうち以下の種類
685N/mm²、785N/mm²級または1275N/mm²級高強度鉄筋のうち、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品
d）開孔補強筋
785N/mm²級せん断補強筋ストラングフープ用棒鋼【認定番号 MSRB-0005】
785N/mm²級せん断補強筋ストラングフープ用棒鋼（インデント付）【認定番号 MSRB-0124】
785N/mm²級せん断補強筋ストラングフープ用棒鋼（インデント無）【認定番号 MSRB-0125】

（２）開孔径および位置
a）開孔径　H
あばら筋に普通強度鉄筋を用いる梁　100mm≦H≦750mm
あばら筋に高強度鉄筋を用いる梁　100mm≦H≦450mm
開孔の形状は円形または多角形とし、梁成の1/3以下とする。
（多角形の場合は外接する円形とみなす。）
b）開孔中心間距離　L
開孔中心間距離は、開孔径の3倍以上とする。また、隣り合う開孔径が異なる場合には、双方の開孔径の平均値の3倍以上とする。
c）柱際から開孔中心までの距離　L'
柱面から梁せいは以上離すこととする。



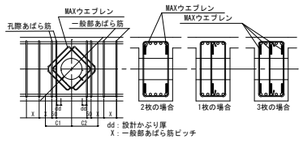
d）へりあきの最小寸法
梁せい　450mm≦D＜700mm　へりあき 175mm
梁せい　700mm≦D＜900mm　へりあき 200mm
梁せい　900mm≦D　へりあき 250mm

e）梁が交差する場合の梁面から開孔中心までの距離
開孔補強筋が直交する梁の配筋と干渉しない範囲で開孔を設けることができる。



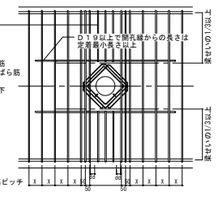
３．標準配筋図

（１）ＭＡＸウエブレンの取り付け位置
ＭＡＸウエブレンはあばら筋の内側に取り付ける。
3枚以上施工する場合は中子筋へ取り付けるか、開孔補強筋を連続固定できるＪ筋（ジョイントクロス）により施工する。
（２）孔隙あばら筋
孔隙あばら筋は、原則として一般部あばら筋と同種、同径、同本数とし、開孔部の両側に1組以上配筋する。位置は開孔縁から設計かぶり厚さを確保した位置に1組目を配筋し、複数組配筋する場合は、その間隔を50mmとする。



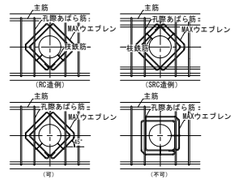
４．大開孔時の補強方法

開孔径が400mm以上で主筋とＭＡＸウエブレンの最外位置との間隔が梁せいの1/3以上となる場合は右図に示す補強を行う。なお、この補強が必要となる条件は(財)日本建築センターの評定時に指導された最低基準であるので、開孔位置等の状況によっては図に示す数値以下であっても補強が必要となる場合がある。従って開孔部の上下補強については設計担当者と協議検討のうえ決定する。



５．施工要領

（１）標準的な施工順序
a）ＲＣ造　1）開孔位置の芯出しを行う。
（例）　2）ＭＡＸウエブレンをあばら筋内に挿入し、鉄筋筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。
b）ＳＲＣ造　1）あばら筋の配筋前に、鋼管スリーブにＭＡＸウエブレンを掛け、仮置きする。
（例）　2）あばら筋を配筋後、鉄筋筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。



（２）ＭＡＸウエブレンの取り付け方向
ＭＡＸウエブレンはあばら筋に対して環状鉄筋が45°になるように取り付ける。

梁貫通孔補強材　ＭＡＸリンブレンK型　設計・施工標準仕様書

ＢＣＪ評定－ＲＣ０１８４－０６　㈱丸井産業株式会社

◎適用範囲

1．一般事項
1) 本仕様書は、ＭＡＸリンブレンK型の標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
2) 本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」2018年版、「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」2014年改定、「建築工事標準仕様書・同解説（JASSS）」2018年改定、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」2010年改定、「鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」2005年改定、日本建築センター「建築物の構造関係技術基準解説書」2015年版、公共建築協会「建築構造設計基準」平成30年版及び、「公共建築工事標準仕様書」平成28年版による。

2．適用範囲
1) 適用対応梁の構造
・梁の構造種別　：　鉄筋コンクリート造及び、鉄骨鉄筋コンクリート造　・梁せい（D）　：　D≧450（mm）
・コンクリートの設計基準強度（F_c）
a）　あばら筋に普通鉄筋を用いた梁　18≦F_c≦60N/mm²　b）　あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁　21≦F_c≦100N/mm²
ただし、コンクリートの設計基準強度が60N/mm²を超えた場合は、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している高強度コンクリートとする。
・鉄筋
a）　主筋　：JIS-G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している 590・685N/mm²級鋼の高強度鉄筋
ただし、主筋に丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。
b）　あばら筋　：JIS-G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法第37条第二号の大臣認定を取得している 685・785・1275N/mm²級鋼の高強度鉄筋
ただし、開孔上下部補強筋に丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。
・引張鉄筋比（p_t）　：　p_t≦2.5（%）　ただし、下限値は0.4%とは、存在応力（長期荷重による応力）による必要量の4/3倍のうち小さい方の数値以上とする。
SRC造の場合の下限値は、「SRC規準」に準拠する。
・あばら筋比（p_a）　：　0.2≦p_a≦1.2（%）　ただし、SRC造の場合は0.1%以上とする。（非充填型鉄骨を用いた場合は0.2%以上）
2) 開孔径及び、開孔位置
・開孔径（H）　：H≦D/3　ただし、H≦750（mm）
・開孔の水平方向中心間距離（A）　：A≧3H（隣り合う開孔径の平均値の3倍以上）
・開孔の垂直方向中心間距離（G）　：G≧3H ただし、2H≦G≦D/3 且つ、基礎梁に2開孔までとする。
・柱際から開孔中心までの距離（B）　：B≧D（mm）
ただし、あばら筋に普通鉄筋を使用した梁端の曲げ降伏型ではない基礎梁で、1.95F_c≦G≦1N/mm²であり、
1.05≦M/Qd≦1.55　且つ、H/D≦0.25の場合　B≧max（0.40 、C/2）　（mm）
・梁上下端からのへりあき距離（H_L）：　開孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とする。
ただし、梁上下端からのへりあき距離については、ＭＡＸリンブレンK型があばら筋内側に納まる距離を確保する。

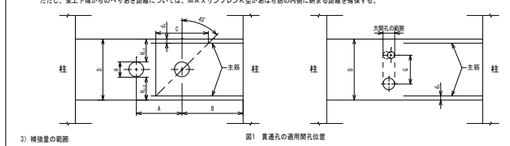


図1　貫通孔の適用開孔位置

3) 補強量の範囲
・ＭＡＸリンブレンK型の補強筋比（p_s）
あばら筋に普通鉄筋を用いた梁　p_s≦1.0　（%）
あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁　p_s≦1.2　（%）
基礎梁で開孔位置B≦max（0.40 、C/2）≦8Cひとした梁　p_s≦0.38　（%）
・有効補強範囲内のあばら筋比（p_w）
あばら筋に普通鉄筋を用いた梁　p_w≦1.2　（%）
あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁　p_w≦1.0　（%）
・有効補強範囲内のせん断補強筋比（Σp_{wx}=p_x+p_y）
あばら筋に普通鉄筋を用いた梁　0.2≦Σp_{wx}≦1.8　（%）
あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁　0.2≦Σp_{wx}≦2.2　（%）

3．補強筋比の算定方法
開孔周囲補強に有効な有効補強範囲（C）は開孔中心部より45度方向に発生するせん断ひび割れを想定して、図に示す様に開孔中心部から45度に引いた線と上下の主筋重心位置の交点の水平距離と、C=C_1+C_2とする。
また、基礎梁の梁端部に開孔を設け、有効補強範囲（C）が梁内に確保できない開孔位置の場合の有効補強範囲内のあばら筋比（p_a）は、図に示す様に、梁内の有効補強範囲内に配置される開孔隙補強あばら筋と一般部あばら筋の補強筋比とする。
ＭＡＸリンブレンK型の有効断面積（a_e）の算定については、ＭＡＸリンブレンK型の開孔中心部から45度方向に対して所在する鉄筋が、せん断抵抗するものを仮定する。
また、広式式の扱いによって有効断面積は分断断面積の2倍とする。

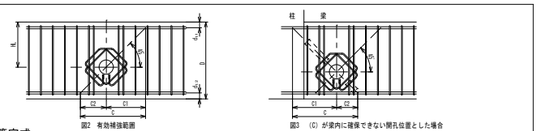


図2　有効補強範囲　　図3　C が梁内に確保できない開孔位置とした場合

◎補強算定式

ＭＡＸリンブレンK型補強の有孔梁のせん断終局強度式（修正広沢式）

$$Q_{su1}=\alpha\left\{\frac{0.053p_t^{0.23}(18+F_c)}{M/Qd+0.12}(1-1.61\frac{H}{D})+0.85\sqrt{p_w\cdot{}_wσ_y}+p_a\cdot{}_aσ_y\right\}bj$$

α：低減係数　α=1.00　p_t：引張鉄筋比　F_c：コンクリートの設計基準強度（N/m²）　M/Qd：せん断スパン比で、3以上のときは3とする。　H：開孔径（mm）
D：梁せい（mm）　p_a：ＭＡＸリンブレンK型の補強筋比　${}_aσ_y$：ＭＡＸリンブレンK型の規格降伏点（785N/m²）ただし、${}_aσ_y$=min(785,$2F_c$)　p_w：有効補強範囲内のあばら筋比
${}_wσ_y$：有効補強範囲内のあばら筋の規格降伏点（N/m²）　ただし　${}_wσ_y$=min(${}_wσ_y$,$2F_c$)　b：梁幅（mm）　j：応力中心間距離で、j=7d/8(mm) とする。　d：梁の有効せい(mm)

◎施工管理要領

1．施工に先立ち、設計図書又は、配筋図に基づき有孔梁の補強計算を行ない、補強筋量及び開孔位置を確認する。次にＭＡＸリンブレンK型の枚数及び、必要あばら筋組数を確認する。
2．ＭＡＸリンブレンK型には製品の型式が記載されたラベルが取付けてあるので、　適当な製品であるか、変形や傷がないか、スペーサー部にキャップが付いているか必ず確認する。
キャップは使用鉄筋径別に色分けし、適用開孔径を表示している。
3．ＭＡＸリンブレンK型を直接地面に置くことは避け、各サイズ毎に整理し、雨・泥・油等で汚さないように保管する。

◎標準配筋図

1．ＭＡＸリンブレンK型の取付け
1) ＭＡＸリンブレンK型の取付けは、開孔部1ヶ所に対して2枚以上用いて必ずあばら筋の内側へ取り付ける。ＭＡＸリンブレンK型を3枚以上必要とする場合は、図4に示すように施工順を取付け、ＭＡＸリンブレンK型を接合部に組集積等で取付け保持する。ＭＡＸリンブレンK型の配置は、コンクリートが十分に回る空きを確保することと、バランスよく配置する。
2．ＭＡＸリンブレンK型の使用
1) ＭＡＸリンブレンK型は、必ずつの部が上下方向になるように取り付ける。（図5）

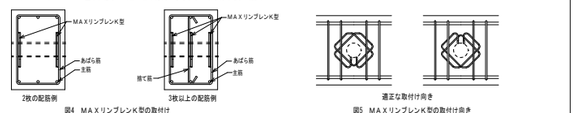
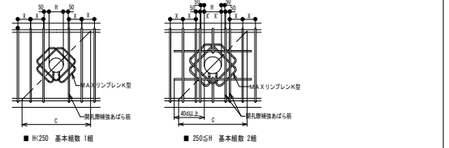


図4　ＭＡＸリンブレンK型の取付け　　図5　ＭＡＸリンブレンK型の取付け向き

3．開孔隙補強あばら筋の基本配筋（図3参照）
1) 開孔隙補強あばら筋は、一般部あばら筋と同種同形状とし、基本組数を開孔径が、H≦250のとき開孔隙に1組、250≦H0のとき開孔隙に2組とする。
2) 開孔隙補強あばら筋は、開孔際から50mmのかぶり厚さとし、2組目以降は50mmピッチとする。



■ H≦250　基本組数 1組　　■ 250≦H　基本組数 2組

図6　開孔径別のあばら筋基本配筋図

◎標準配筋図

3) 垂直方向に並列する2開孔が異径の場合、図7に示す様に、小開孔の開孔縁から開孔隙補強あばら筋までの距離が100mmを超える場合は、大開孔の小開孔側とする直上または直下に補筋を配置し、小開孔の開孔縁から50mmのかぶり厚さを確保した位置に開孔隙補強筋を配筋する。開孔隙補強筋は大開孔の開孔縁から50mm以上かぶり厚さを確保することと、形状は図9を参考に決定する。
開孔隙補強筋は一般部あばら筋と同径とする。ただし、開孔隙補強筋に丸鋼およびインデントの鉄筋は用いないこととする。補筋は一般部あばら筋と同径以上とし、定着長さは大開孔の開孔縁から40d以上または、開孔中心から45度の線との交点から「RC配筋指針」6章に規定されるL2又はL2hは上とする。

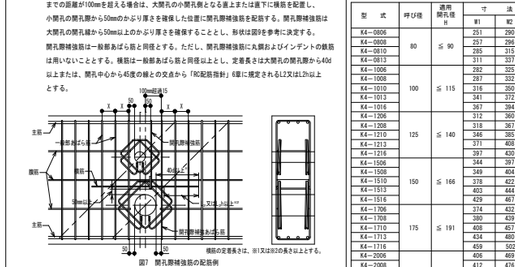
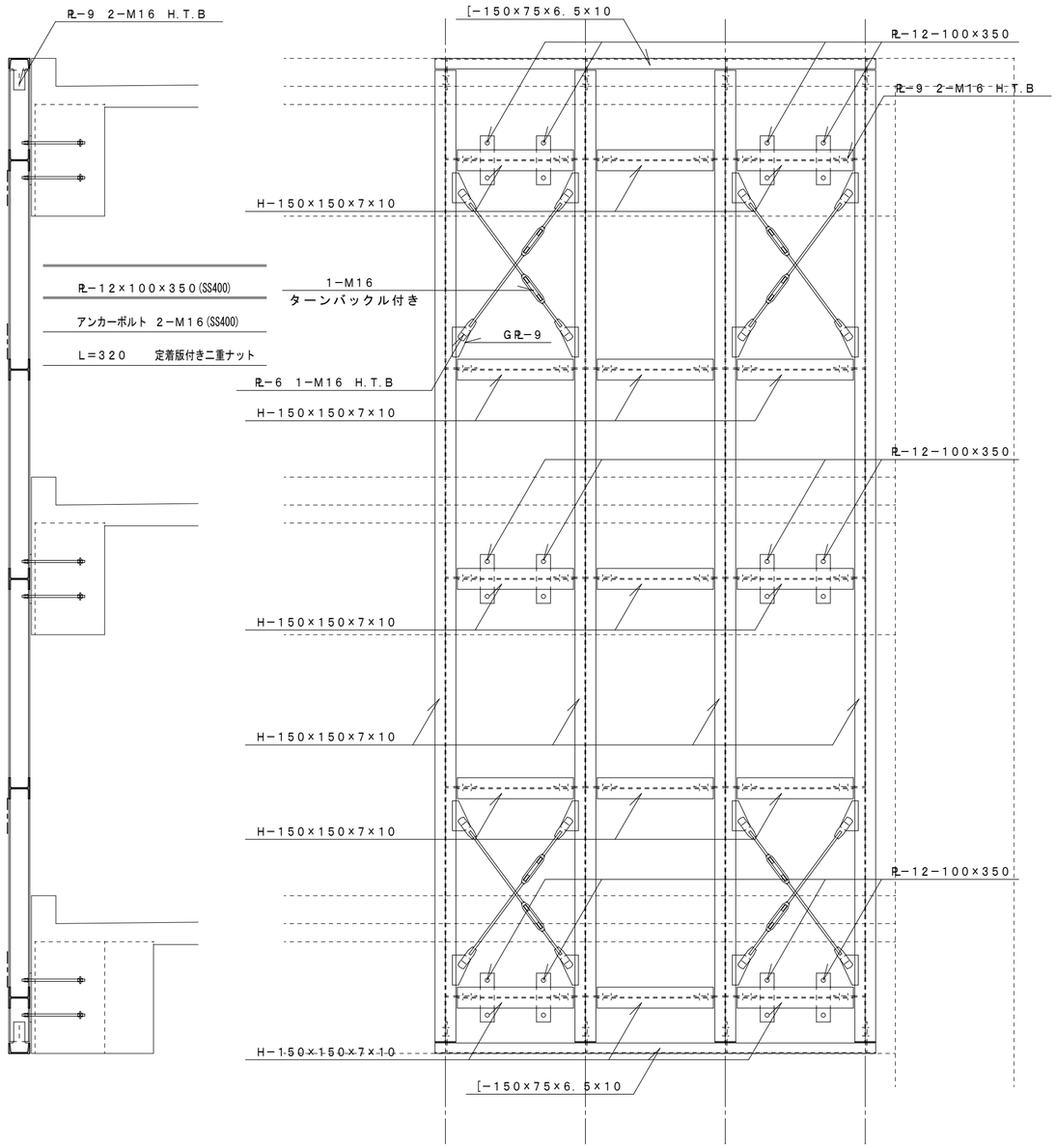


図7　開孔隙補強筋の配筋

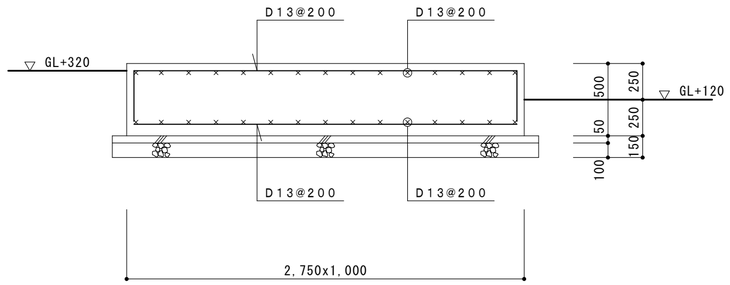
4．開孔上下部の補強（図8、9参照）
1) 開孔径が250≦H0のとき は開孔上下部補強を設計ピッチ以内（X'）で設ける。
2) 開孔上下部補強筋は一般部あばら筋と同径とする。ただし、丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。補筋は一般部あばら筋径と同径以上とし、定着長さは開孔際から40d以上または、開孔中心から45度の線との交点から「RC配筋指針」6章に規定されるL2又はL2hは上とする。
3) 開孔上下部補強筋は開孔の上下縁から50mm以上のかぶり厚を確保し、形状は図9を参考に決定する。Hc が300mm未満の場合、(c)の形状としてもよい。また、(c)のように梁の両側からコの字形状の補強筋を配筋する場合の重ね長さは、「JASSS」の直線重ね継手長さ以上を確保することとする。
4) 垂直方向に開孔径が250mm以上の同

雑詳細図３　　１／３０(A2)　１／４２(A3)

ＦＲＰ製垂直壁訓練施設　下地鉄骨図

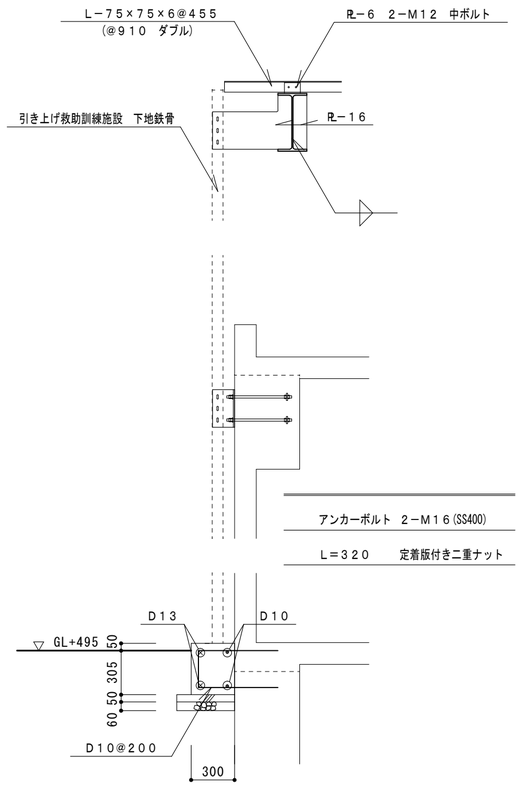


ホースリフター基礎詳細図

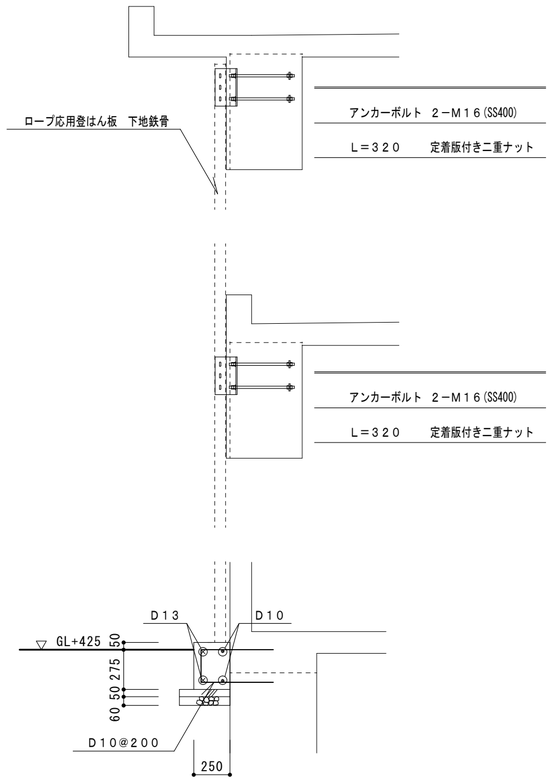


ｺﾝｸﾘｰﾄ仕様；18N/mm2、S=18

引き上げ救助訓練施設　接合部詳細図



ロープ応用登はん板　接合部詳細図



発行 2026年 9 月 18 日
鈴木設計株式会社
SUZUKI ARCHITECTS & ENGINEERS ASSOCIATED CO.,LTD.
2-1-11 KUDO YOKOHAMA 220 TEL:045(313)7113
一級建築士登録　第8428?号
一級建築士事務所登録（神奈川）第2?15号
鈴木 篤
RIGHT LINE BY A.SUZUKI
企画担当 CHIEF PRODUCER　鈴木　篤
設計担当 CHIEF DESIGNER　鈴木　玲成
構造担当 STRUCTURAL ENG　秦　陽二
電気設備担当 ELECTRICAL ENG　岡　正浩
衛生設備担当 SANITARY ENG　長見　直
空調設備担当 MECANICAL ENG　長見　直
設計名称 NAME OF PROJECT　消防総合訓練センター　訓練塔・補助訓練塔新築工事
PROJECT NAMBER
図面名称 ITEM OF DRAWING　雑詳細図３
DRAWING NAMBER
縮尺 SCALE　A2=1:30-A3=1:42
NO　S-34